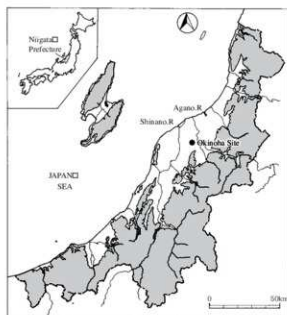


おきの は 沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査

— 県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書 —



2008

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区古田ノ内大野 開字山王浦 1051 番地他に所在する沖ノ羽遺跡の発掘調査記録である。書名は既刊の旧新潟市教育委員会刊行の発掘調査報告書〔細野ほか 2002、北村・菊池ほか 2004、立木・澤野ほか 2005〕に続く 4 冊目の報告書であることから『沖ノ羽遺跡Ⅳ』とした。
- 2 調査は県営園場整備事業（担い手育成型）満日地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託した。調査は新潟市教育委員会（以下、市教委という）が調査主体となり、新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター（以下、市埋蔵文化財センターという）が補助執行した。
- 3 平成 16 年度に発掘調査と整理作業、平成 17・19 年度に整理作業、平成 20 年度に報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 4 出土遺物及び調査・整理作業にかかわる記録類は、一括して市埋蔵文化財センターが保管・管理している。
- 5 本書の編集は立木宏明（市埋蔵文化財センター主査）が行い、澤野慶子（市埋蔵文化財センター専門臨時職員）が補佐した。図版レイアウトは遺構図版を立木、土器・土製品図版を澤野・八藤後智人（市埋蔵文化財センター専門臨時職員）、石製品・金属製品図版を立木、遺構・遺物写真図版を立木・澤野が行った。執筆分担は以下の通りである。
第 V 章第 1・3 節と第 VII 章第 3 節を澤野、第 V 章第 2 節と第 VII 章第 2 節を八藤後、第 VI 章を除くその他の執筆を立木が行った。なお、第 VI 章については（株）古環境研究所に委託し、第 1 節を杉山真二、第 2 節を金原正子、第 3 節を金原明が執筆した。
- 6 第 II 章第 2 節を『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』〔渡邊ほか 2002〕から引用した。
- 7 本書で用いた写真は、遺跡写真は立木・澤野・八藤後が撮影し、遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影を委託した。ただし、写真図版 1 は国土地理院が、写真図版 2 は（株）オリスが撮影したものを使用した。
- 8 遺構図のトレースと各種図版作成・編集に関しては、（株）セビアスに委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 9 調査から本書の作成に至るまで下記の方々、機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。
阿部泰之・石川智紀・石沢 進・伊藤秀和・小黒博史・尾崎高宏・尾野善裕・春日真実・加藤 学・坂上有紀・笹澤正史・澤田 敦・関根章義・高橋 保・高橋保雄・田中 靖・寺崎裕助・田海義正・土橋由理子・中山俊道・古澤安史・山中雄志・吉井雅勇
新潟県教育庁文化行政課・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県新潟地域振興局新潟農業振興部・新潟県東土地改良区

（所属・敬称略、五十音順）

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原因の作成者・作成年を示した。
- 3 図版2は「新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現形図」1922年（新津東土地改良区所蔵）、「新津郷耕地整理組合現形図」1940年頃（新津郷土地改良区所蔵）を縮小し、「新津市都市計画図」1995年（旧新津市）と重ね合わせたものである。
- 4 本文中の注は各章の末尾に記した。引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 5 遺構番号は現場で付したものを用了。番号は遺構の種別ごとに付さず、通し番号とした。
- 6 土層の土色観察は『新版 標準土色帖』（小山・竹原1967）を用了。
- 7 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、灰軸・緑釉陶器を網点、それ以外を白抜きとした。また、土器に付着する炭化物は、不定形の濃い網目で表し、砥石の研磨面も同様とした。
- 8 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 9 遺物の注記は沖ノ羽遺跡の略記号「沖ノ羽」とし、出土地点や層位を続けて記した。平成16年度出土遺物は略記号の前に「04」を付した。
- 10 遺物番号は種別（土器・土製品、石製品、金属製品）ごとに通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 11 図面図版中の「P」は土器、「S」は石を表す。

目 次

第I章 序 章

第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	4
第2節 周辺の遺跡	4
第3節 歴史的環境	15

第III章 調査の概要

第1節 確認調査	17
第2節 本発掘調査	17
A 調査方法	17
1) グリッドの設定	17
2) 調査方法	18
B 調査経過	18
C 調査体制	19
第3節 整理作業	19
A 整理方法	19
1) 遺物	19
2) 遺構	19
B 整理経過	19
C 整理体制	20

第IV章 遺 跡

第1節 概 要	21
第2節 層 序	21
第3節 遺 構	22
A 遺構の概要	22
B 1区の遺構	22
1) 1区の概要	22
2) 1区遺構各説	22
C 2区の遺構	29
1) 2区の概要	29
2) 2区遺構各説	29
D 4区の遺構	29
1) 4区の概要	29
2) 4区遺構各説	30
E 3区の遺構	30
1) 3区の概要	30
2) 3区遺構各説	30
F 5区下層の遺構	32
1) 5区下層の概要	32
2) 5区下層遺構各説	32
G 5区上層の遺構	33
1) 5区上層の概要	33
2) 5区上層遺構各説	33

H 6区の遺構	36
1) 6区の概要	36
2) 6区遺構各説	36
第V章 遺 物	
第1節 概 要	37
第2節 古墳時代の遺物	37
A 土器の分類と記述	37
B 出土土器等各説	38
1) 2区出土土器	38
2) 5区出土土器	38
第3節 平安時代の遺物	39
A 土器の分類と記述	40
B 出土土器等各説	44
1) 1区出土土器	44
2) 2区出土土器	49
3) 4区出土土器	49
4) 3区出土土器	50
5) 5区出土土器	50
6) 6区出土土器	51
第4節 鎌倉・室町時代の遺物	52
A 出土土器等各説	52
1) 1区出土土器	52
2) 5区出土土器	52
第5節 石製品、銭貨・金属製品・鍛冶関連遺物	52
A 石 製 品	52
B 銭貨・金属製品・鍛冶関連遺物	53
第VI章 自然科学分析	
第1節 植物珪酸体（プラント・オパール）分析	54
第2節 花粉分析	59
第3節 樹種同定	65
第VII章 総 括	
第1節 沖ノ羽遺跡の遺構について	68
第2節 沖ノ羽遺跡の古墳時代の土器について	69
第3節 沖ノ羽遺跡の平安時代の土器について	70
第4節 沖ノ羽遺跡出土の土師器平底長甕について	72
第5節 沖ノ羽遺跡の性格	75
引用・参考文献	77
別 表	81
報告書抄録・奥付	巻末
附 図 沖ノ羽遺跡発掘調査範囲図	

挿図目次

第1図 新津丘陵周辺地形分類図 (1/150,000) …… 5	第13図 沖ノ羽遺跡、1区基本土層 (21AB7グリッド) における花粉ダイアグラム …… 62
第2図 新潟市周辺の旧石器・縄文時代遺跡分布図 (1/150,000) …… 9	第14図 沖ノ羽遺跡、1区SD2における花粉ダイアグラム …… 62
第3図 新潟市周辺の弥生・古墳時代遺跡分布図 (1/150,000) …… 10	第15図 沖ノ羽遺跡、5区SD78における花粉ダイアグラム …… 62
第4図 新潟市周辺の古代遺跡分布図 (1/150,000) …… 11	第16図 沖ノ羽遺跡の花粉・胞子1 …… 63
第5図 新潟市周辺の中世遺跡分布図 (1/150,000) …… 12	第17図 沖ノ羽遺跡の花粉・胞子2 …… 64
第6図 沖ノ羽遺跡の古墳時代土器分類図 (1/6) …… 38	第18図 沖ノ羽遺跡の本材及び炭化材 …… 67
第7図 タタキメ・当て具痕の細分類図 …… 41	第19図 沖ノ羽遺跡1区遺構構成図 (1/800) …… 68
第8図 沖ノ羽遺跡土師器・黒色土器分類図 (1/6) …… 42	第20図 沖ノ羽遺跡主要遺構別の器種組成図 …… 70
第9図 沖ノ羽遺跡須恵器・施軸陶器分類図 (1/6) …… 43	第21図 沖ノ羽遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図 …… 71
第10図 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析結果1 …… 57	第22図 沖ノ羽遺跡出土の土師器平底長袋底部写真 …… 74
第11図 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析結果2 …… 57	第23図 土師器平底長袋の出土例 …… 74
第12図 植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真 …… 58	第24図 新潟県内出土の大戸窯産須恵器 …… 74

表目次

第1表 沖ノ羽遺跡調査履歴 …… 3	第6表 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析結果1 …… 56
第2表 新潟市およびその周辺の旧石器・縄文時代遺跡 …… 8	第7表 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析結果2 …… 56
第3表 新潟市およびその周辺の弥生・古墳時代遺跡 …… 8	第8表 沖ノ羽遺跡における花粉分析結果1 …… 61
第4表 新潟市およびその周辺の古代遺跡 …… 13	第9表 沖ノ羽遺跡における花粉分析結果2 …… 61
第5表 新潟市およびその周辺の中世遺跡 …… 14	第10表 沖ノ羽遺跡における樹種同定結果 …… 67

別表目次

別表1 沖ノ羽遺跡遺構計測表 …… 81	別表4 沖ノ羽遺跡銭貨・金属製品・鍛冶関連遺物観察表 …… 91
別表2 沖ノ羽遺跡古墳時代・古代・中世土器・土製品観察表 …… 85	別表5 沖ノ羽遺跡遺構出土古代土器器種構成率 …… 92
別表3 沖ノ羽遺跡石製品観察表 …… 91	別表6 沖ノ羽遺跡遺構出土古墳時代土器器種構成率 …… 99

図版目次

- 図版1 周辺の旧地形図 (1/25,000)
- 図版2 遺跡周辺の旧地割図 (1/10,000)
- 図版3 沖ノ羽遺跡と周辺遺跡 (1/20,000)
- 図版4 遺跡周辺の微地形 (1/12,500)
- 図版5 沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図 (1/5,000)
- 図版6 沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図 (2) (1/2,500)
- 図版7 沖ノ羽遺跡1区遺構平面図 (1/250)
- 図版8 沖ノ羽遺跡1区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/400)
- 図版9 沖ノ羽遺跡1区基本層序実測図 (1/40)
- 図版10 沖ノ羽遺跡1区遺構全体平面図割付図 (1/400)
- 図版11 沖ノ羽遺跡1区遺構平面部分図1 (1/100)
- 図版12 沖ノ羽遺跡1区遺構平面部分図2 (1/100)
- 図版13 沖ノ羽遺跡1区遺構平面部分図3 (1/100)
- 図版14 沖ノ羽遺跡1区遺構平面部分図4 (1/100)
- 図版15 沖ノ羽遺跡1区遺構平面部分図5 (1/100)
- 図版16 沖ノ羽遺跡1区遺構平面部分図6 (1/100)
- 図版17 沖ノ羽遺跡1区SK3・33・35・36・37・38、SD2・32、Pit49実測図 (1/40)
- 図版18 沖ノ羽遺跡1区SK39・51・86・88・98、SD4実測図 (1/40)
- 図版19 沖ノ羽遺跡1区SK60・107・151・179・180・182、SX106・161、SD2・4実測図 (1/40)
- 図版20 沖ノ羽遺跡1区SK87・89・92・150・193・194・200・201、SD2・191実測図 (1/40)
- 図版21 沖ノ羽遺跡1区SK185・188・189・195・196、SX187実測図 (1/40)
- 図版22 沖ノ羽遺跡1区SX183、SD1・2・2-b・4・25実測図 (1/40)
- 図版23 沖ノ羽遺跡1区SD32・90・95・96・97・109・176・181・186・190・191・192・218実測図 (1/40)
- 図版24 沖ノ羽遺跡1区SB377・378・379実測図 (1/80)
- 図版25 沖ノ羽遺跡1区SB380・381・382実測図 (1/80)
- 図版26 沖ノ羽遺跡1区SB383・384実測図 (1/80)
- 図版27 沖ノ羽遺跡2区・4区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/400)
- 図版28 沖ノ羽遺跡2区・4区遺構全体平面図割付図 (1/400)
- 図版29 沖ノ羽遺跡2区・4区遺構平面図 (1/250)
- 図版30 沖ノ羽遺跡2区遺構平面部分図 (1/100)
- 図版31 沖ノ羽遺跡2区基本層序実測図 (1/40)
沖ノ羽遺跡2区SK18、SX1実測図 (1/40)
- 図版32 沖ノ羽遺跡2区河2土層断面図 (1/100)
沖ノ羽遺跡4区遺構平面部分図 (1/100)
- 図版33 沖ノ羽遺跡4区基本層序実測図 (1/40)
沖ノ羽遺跡4区SD1実測図 (1/40)
- 図版34 沖ノ羽遺跡3区遺構平面図 (1/250)
- 図版35 沖ノ羽遺跡3区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/400)
沖ノ羽遺跡3区遺構全体平面図割付図 (1/400)
- 図版36 沖ノ羽遺跡3区遺構平面部分図1 (1/100)
- 図版37 沖ノ羽遺跡3区遺構平面部分図2 (1/100)
- 図版38 沖ノ羽遺跡3区基本層序実測図 (1/40)
沖ノ羽遺跡3区SK6・7・8・9・18実測図 (1/40)
- 図版39 沖ノ羽遺跡3区SD1・10・11・12・14・15・16・17・20・21・22、SK19実測図 (1/40)
- 図版40 沖ノ羽遺跡5区上・下層包含層の小グリッド別古墳時代・古代土器出土重量分布図 (1/400)
- 図版41 沖ノ羽遺跡3区SD13実測図 (1/40)
沖ノ羽遺跡3区欽状遺構61実測図 (1/40)
- 図版42 沖ノ羽遺跡5区下層遺構平面図 (1/250)
- 図版43 沖ノ羽遺跡5区下層遺構平面部分図 (1/100)
沖ノ羽遺跡5区下層SX81・82実測図 (1/40)
- 図版44 沖ノ羽遺跡5区上層遺構平面図 (1/250)
- 図版45 沖ノ羽遺跡5区上層遺構全体平面図割付図 (1/400)
- 図版46 沖ノ羽遺跡5区上層遺構平面部分図1 (1/100)
- 図版47 沖ノ羽遺跡5区上層遺構平面部分図2 (1/100)
- 図版48 沖ノ羽遺跡5区上層遺構平面部分図3 (1/100)
- 図版49 沖ノ羽遺跡5区上層遺構平面部分図4 (1/100)
- 図版50 沖ノ羽遺跡5区基本層序実測図 (1/40)
沖ノ羽遺跡5区上層SK23・31・44・45・49・60・69・71・86・87・88、Pit22・72実測図 (1/40)
- 図版51 沖ノ羽遺跡5区上層SK7・10・13・14・41・61・70、SX39・40・67、SD37・46・75実測図 (1/40)
- 図版52 沖ノ羽遺跡5区上層SD1・1-a・1-b・1-c・2・76実測図 (1/40)
- 図版53 沖ノ羽遺跡5区上層SD75・76・77・78・79、

	SX80実測図 (1/40) (1/80)
図版54	沖ノ羽遺跡6区遺構平面図 (1/250)
	沖ノ羽遺跡6区基本層序、SD1実測図 (1/40)
図版55	出土遺物 1 1区SK3・33・36・37・38・39 (1)
図版56	出土遺物 2 1区SK39 (2)
図版57	出土遺物 3 1区SK39 (3)・51 (1)
図版58	出土遺物 4 1区SK51 (2)
図版59	出土遺物 5 1区SK86・88・107・179・180・182
図版60	出土遺物 6 1区SK87・89・92・189・194・200・SX106・161・183 (1)
図版61	出土遺物 7 1区SX183 (2)・SD1・2・2-b・25
図版62	出土遺物 8 1区SD4・32・90・96・109・181・Pit46・82・93・99・100・101・184 (1)
図版63	出土遺物 9 1区Pit184 (2)・198・199・203・206・207・210・212・213・216。

	包含層 (1)
図版64	出土遺物10 1区包含層 (2)
図版65	出土遺物11 1区包含層 (3)。
	2区河20。包含層 (1)
図版66	出土遺物12 2区包含層 (2)。
	4区包含層。
	3区SK6・7。SD12・13。包含層
図版67	出土遺物13 5区SX80・81・82。SD77下層・78下層・79下層。包含層下層。SK23・41 (1)・45・49
図版68	出土遺物14 5区SK41 (2)・61。SX39。SD1-a・1-b・37・79。包含層上層 (1)
図版69	出土遺物15 5区包含層上層 (2)。
図版70	出土遺物16 石製品 (1)
図版71	出土遺物17 石製品 (2)
図版72	出土遺物18 銭貨、金属製品、鍛冶関連遺物 (1)
図版73	出土遺物19 鍛冶関連遺物 (2)

写真図版目次

写真図版1	沖ノ羽遺跡周辺空中写真 (国土地理院1952年撮影)	写真図版19	3区SK7・8・9・18
写真図版2	沖ノ羽遺跡空中写真	写真図版20	3区SK19。SD1・10 (1)・11
写真図版3	空中写真。1区空中写真	写真図版21	3区SD10 (2)・12・13・14・15・17・20・21・22
写真図版4	3区空中写真	写真図版22	3区畝状遺構61。3区完掘状況。5区基本層序A・B。5区下層SX81 (1)・82 (1)
写真図版5	4・5区空中写真	写真図版23	5区下層SK81 (2)・82 (2)。
写真図版6	1区基本層序A・B。1区SK3・35・38。SD2 (1)		5区下層完掘状況。5区上層SK31・86・87・88
写真図版7	1区SK33・36・37・39。SD4 (1)・32	写真図版24	5区上層SK23・60・69・71。Pit22・72
写真図版8	1区SK51・86・88・98・107。SX106・161 (1)。	写真図版25	5区上層SK44・45・49・70
	SD2 (2)・4 (2)	写真図版26	5区上層SK13・14・41・61
写真図版9	1区SK60 (1)・151・179・180・182。SX161 (2)。	写真図版27	5区上層SK7・10。SX39・40
	SD2 (3)	写真図版28	5区上層SX67。SD37・46・75
写真図版10	1区SK60 (2)・87・89・92・150。SD2 (4)	写真図版29	5区上層SD1・76・77 (1)・78 (1)・79 (1)
写真図版11	1区SK193・194・200・201	写真図版30	5区下層SX80。5区上層SD77 (2)・78 (2)・79 (2)。
写真図版12	1区SK185・189・195・196		5区調査区西・西側完掘状況。6区SD1。6区全景
写真図版13	1区SK188。SX183・187。SD1・2 (5)	写真図版31	沖ノ羽遺跡出土土師器・須恵器・灰軸陶器・緑軸陶器
写真図版14	1区SD2 (6)・4 (3)・181	写真図版32	出土遺物1区SK39・51・88。5区SK23・41
写真図版15	1区SD96。SB377・378・379・380・381・382・383・384。1区完掘状況	写真図版33	出土遺物1区SK39・87。SX183。Pit213。包含層。3区SK6。5区SX81。SD78下層・1-a。包含層上層
写真図版16	2区完掘状況。2区基本層序B・D。2区SX1	写真図版34	出土遺物1区SK3・33・36・37・38・39 (1)
写真図版17	2区SK18。河20。2区完掘状況。4区基本層序A・C。4区SD1		
写真図版18	4区完掘状況。3区基本層序A・B。3区SK6		

- 写真図版35 出土遺物1区SK39 (2)・51 (1)
- 写真図版36 出土遺物1区SK51 (2)・86・88 (1)
- 写真図版37 出土遺物1区SK87・88 (2)・89・92・
107・179・180・182・189・194・200。
SX106・161
- 写真図版38 出土遺物1区SX183。SD1・2・2-b・4・25・
32・90・96・109・181。Pit46・82・93・
99・100・101・184・198 (1)・199・203
- 写真図版39 出土遺物1区Pit198 (2)・206・207・210・
212・216。包含層 (1)
- 写真図版40 出土遺物1区包含層 (2)。2区河20。包含層
(1)
- 写真図版41 出土遺物2区包含層 (2)、4区包含層、3区
SK6・7。SD12・13。包含層。5区SK23 (1)。
SX80・81・82。SD77下層・78下層・79下
層。包含層下層
- 写真図版42 出土遺物5区SK23 (2)・41・45・49・61。
SX39。SD1-a・1-b・37・79。包含層上層
(1)
- 写真図版43 出土遺物5区包含層上層 (2)。6区包含層。
石製品 (1)
- 写真図版44 出土遺物石製品 (2)。銭貨、金屬製品。鍛冶
関連遺物。金屬製品X線写真

第I章 序 章

第1節 遺跡概観(第1表)

沖ノ羽遺跡は昭和60年8月に行われた新潟県教育委員会(以下、県教委という)主催の遺跡詳細分布調査の折に、古代・中世の遺跡として周知化された。その後、発掘調査は本発掘調査および確認調査を含め、23回行われている(第1表)。昭和62年・63年に行われた「磐越自動車道建設」に伴う県教委が行った試掘・確認調査により、遺跡範囲が一部拡大した。平成元年に刊行された『新津市史資料編第1巻 原始・古代・中世編』では寺島遺跡別名「沖ノ羽遺跡」と記載され、平安時代の須恵器が紹介されている(川上・木村・鈴木1989)。また、同書によると新発田藩の朱子学者、丹羽憲が記述した道中日記『隨徳録二』には、文化14年(1816)に七日町村の屋敷内を掘削中、古井戸を発見したとの記述がある。発見物は2尺5・6寸の井戸輪用の曲物と曲物の釣瓶、その下に薄鼠色径4寸3分、深1寸1分のかわけ肌の古皿を5枚掘り出したとされる。井戸輪用と釣瓶用の曲物は、当時の曲物と違い内側に鋸目を入れて曲げたものだとし、江戸時代から数百年前のものであるとその特徴が詳細に記載されている。これらの遺物は現代の観点から見ると、おそらく古代・中世に相当するものと考えられる。江戸時代には沖ノ羽遺跡の大部分は七日町村に所属するが、出土地点の詳細は不明であるため、遺跡名は特定できないものの、考古前史として貴重な記載である。

平成10年10月には第1回の満日地区園場整備に伴う確認調査が行われ、遺跡範囲はさらに拡大した。その後の平成11年以降に後述(第三章第1節)する確認調査(図版4)が行われ、遺跡の詳細な範囲が明らかになった。

沖ノ羽遺跡における既存の本発掘調査は、平成2～4年度にかけて県教委が磐越自動車道建設に伴い計96,069㎡を調査している。その結果、微高地上に古墳時代から中世に至る集落跡・園場跡などが検出されている(石川ほか1994、星野ほか1996、春日ほか2003a)。特筆されるものとしては、古墳時代中期の土器および古代の集落跡、さらに中世の園場跡などである。平成13年度に「鮭川排水機場建設」に伴う本発掘調査が旧新津市教育委員会が主体となって行われ、2,332㎡が調査された。平安時代(9世紀後半)の集落域が確認され(細野ほか2002)、短期間に営まれた集落跡で遺物の出土状況も良好であり、編年研究に重要な調査例となった。

平成15年度には、園場整備事業を対象とした沖ノ羽遺跡の本発掘調査(立木・澤野ほか2005)が行われ、古代の旧河道や集落の一部などが確認されている。

同年度には東北電力(株)の「平成15年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事」に伴う本発掘調査を園場整備事業対象外範囲で実施し、沖ノ羽遺跡の一部121.36㎡を調査した結果、古代の溝と少量の土器が出土している(北村・菊池ほか2004)。

第2節 発掘調査に至る経緯

平成7年度に、新潟市秋葉区満日地区における県営園場整備事業の計画が旧新津市生涯学習課に知らされた。旧新津市生涯学習課は、新津東土地改良区および旧新津市農産業振興課と協議を重ね、平成7年度から平成8年度にかけて対象面積440haの分布調査を実施した。その結果、遺物が多量に採集され、県教委が平成2～4年度に磐越自動車道建設に伴い本発掘調査を実施した沖ノ羽遺跡(石川ほか1994、星野ほか1996、春日ほか2003a)の範囲と合わせて多くの遺跡の存在が予想された。

平成11年度に入り、事業計画が見直され、県営園場整備事業(担い手育成型)満日地区として約170haが対

象になり、新潟県新津農地事務所（以下、新津農地という）と協議を行い、全区域を対象とした確認・試掘調査を平成11～13年度に実施した。その結果、圃場整備事業範囲内に中谷内遺跡、内野遺跡、沖ノ羽遺跡、山王浦遺跡の4遺跡が確認された。

そのうち、山王浦遺跡については平成14年度に本発掘調査を終了している〔立木・澤野^{2004b}〕。中谷内・内野遺跡については、圃場整備本工事が遺跡範囲まで至っていない。沖ノ羽遺跡については、平成15年度から圃場面工事に伴う本発掘調査が行われ〔立木・澤野²⁰⁰⁵〕、平成16年度調査が2年目の本発掘調査となる。

本発掘調査対象範囲の設定は、平成15年度に、新津農地・新津東土地改良区・新潟県教育庁文化行政課・旧新津市生涯学習課の4者で遺跡の取り扱いを巡って協議を重ねた結果、平成11年9月10日付け教文第578号で新潟県教育委員会教育長から通知された「発掘調査の要否の判断基準について（通知）」の基準により、遺物包含層から保護層（工事の施工に際して埋蔵文化財を保護するために設ける一定の厚さの土層、樹脂等による緩衝層）を確保できない場合には本発掘調査を実施するとし、保護層が確保できない用・排水路管部分および畑部分の約5,275㎡（下層面積795㎡を含む）の本発掘調査を実施することで一層合意した。

新津農地から平成16年4月20日付け新農第49号で文化財保護法第57条の3第1項の通知が出され、新潟県教育委員会教育長から新津農地事務所長へ、平成16年5月6日付け教文第137号の2で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新津市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成16年6月17日付け教生第77-7号文化財保護法第58条の2による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。なお、本発掘調査面積は年度途中で新津農地・新津東土地改良区・新潟県教育庁文化行政課・旧新津市生涯学習課の4者で断片的に協議を重ね、一部地点は埋蔵文化財に工事の影響がおよばないと判断され、この時点での最終的な本発掘調査面積は約3,700㎡（下層面積795㎡を含む）となった。発掘区が複数にまたがるため1～5区（図版4）とした。

6区（図版4）は当初発掘調査範囲でなかった地区である。確認調査で古代の包含層が検出されたため「盛土保存で畑とする」ことで協議済みであったが、圃場工事関係者が「水田耕土をできるだけ転用するため」として包含層を掘削してしまった。そのため、急遽調査範囲に加えたが、工事を行った後は畑として利用され、掘削をこれ以上行わないとしたため、露出遺構の確認と遺物の採取にとどめた。調査後は砂で約30cm程度埋め戻し、その上に耕土を戻すことで旧新津市教育委員会と新津農地の両者が合意した。さらに調査成果については、本発掘調査範囲1～5区に付随する内容であることから、本発掘調査報告書に掲載することを確認した。

文書は新津農地から新潟県教育委員会教育長へ平成16年11月29日付け新農第369-1号で文化財保護法第57条の3第1項の通知が出され、新潟県教育委員会教育長から新津農地事務所長へ平成16年12月22日付け教文第1092号の2で遺跡破壊に対する勧告文が提出された。それを受けて、新津市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ平成16年11月30日付け教生第471-6号で文化財保護法第58条の2による発掘調査の通知を提出して、11月30日に調査を実施した。なお、新津農地は平成20年度より新潟県新潟地域振興局新津農業振興部に改組されている。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境 (第1図、図版1・2)

新潟市は平成17年に行われた周辺市町村(新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・西川町・巻町・味方村・湯東村・月潟村・中之口村)との合併により、海岸部を含む新潟平野の大部分と信濃川を挟んで対峙する角田山塊と新津丘陵が含まれる総面積726.1km²の広大な面積を有する市となった。

遺跡のある新潟市秋葉区(以下、秋葉区という)満日・両新地区(旧新津市域)は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。享保年間には加治川が阿賀野川に、阿賀野川が新潟港で信濃川に合流する状況で、度々水害に見舞われていたため、享保15年(1730)に新発田藩が松ヶ崎放水路を開削し、現阿賀野川の河口となった。秋葉区満日・両新地区では下新付近で、五泉市域を北流してきた早出川が阿賀野川に合流し、現阿賀野川の河口となった。また、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し、覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は、太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより五泉市千原～秋葉区大間間の蛇行部分が直線化し、秋葉区新津地区の市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られ、現在の新津川・能代川となっている。この能代川と新津川は下興野付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

秋葉区付近の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地から成っている。南南西～北北東に走る新津丘陵は加茂川を南縁に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げて北端で70～80mとなり、その周囲には段丘が標高10～70m間に4段見られる。沖積地は信濃川・阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角洲などの地形が見られる。阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、秋葉区域では新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在起伏の極少ない微高地として断続的に存在している。遺跡は能代川の東、約0.5kmに位置し、この微高地上に存在する。

遺跡現景は周辺に水田・畑地帯が広がり、地形の起伏はほとんど認められない。この景観は大正末期から昭和20年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものである。耕地整理以前の地図(図版2)からは微高地の多くは畑として、微高地周辺は水田として利用されている。いわゆる「堀田」として利用されたようである。遺跡は河川が形成した自然堤防・微高地上または、微高地の周縁部に立地しており、今回の調査成果と合致する。

第2節 周辺の遺跡(第2～5図、第2～5表、図版3)

時代別の遺跡の分布は旧石器時代では丘陵部に限定される。縄文・弥生時代では丘陵・段丘上および砂丘地に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部や平野部微高地・砂丘地、奈良・平安時代になるとさらに平野部微高地に多くの分布が見られるようになる。具体的には古代までは丘陵上に弥生後期の環壕集落・円墳などが展開し、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄・須恵器(土師器)窯などの生産遺跡が集中している。そして沖ノ羽遺跡は、近接する中谷内・内野・山王浦・無頭遺跡とともに古代・中世の遺跡として周知されている。

合併後の遺跡数は市域で現在約706か所である。以下に時代ごとに解説を加える。

旧石器時代の遺跡 市内で3遺跡確認されている。新津丘陵に2か所、角田山麓に1か所ある。当該期の遺跡は、風化火山灰層(ローム層)を上部に包含される場合が多い。新津丘陵沿いでは八幡山遺跡(渡邊・立木ほか



新津丘陵周辺地形分類図

2001・2004) や、草水町2丁目竪跡でナイフ形石器・石刃などが散発的に出土している。角田山麓ではケカチ堂遺跡(小野1994a)から尖頭器(旧石器～縄文時代・草創期)などの出土が確認されている。

縄文時代の遺跡 市内で166遺跡が確認されている。時期としては草創期～後期の遺跡が確認されているが、土器の出土が確認されるのは早期後半以降である。市内の代表的な遺跡を網羅的に紹介すると、草創期の遺跡としては新津丘陵にある愛宕澤遺跡で縄文時代草創期前半の石器(神子柴型の局部磨製石斧・石核)が検出された[立木・澤野ほか2004a]。角田山麓には御手洗遺跡、福井遺跡、新谷遺跡(小野1994b)などで同期の石斧が出土している。遺跡は丘陵沿いに確認されている。続く、早期の確実な遺跡は確認されていない。前期以降になると山麓や砂丘上に多くの遺跡が残されている。砂丘上の遺跡として旧亀田町の砂崩遺跡(酒井・廣野2002)と角田山麓の布目遺跡(小野・小黒1987)は前期前半の遺跡である。それに続く前期後半の新谷遺跡(前山1994a)、重船場遺跡群(前山1994b)などが代表例である。中・後期には新津丘陵の丘陵平坦面に平遺跡(川上・遠藤1983)、原遺跡(中～晩期)、秋葉遺跡(中～後期)などが存在する。角田山麓には縄文時代の遺跡密度が高く、豊原遺跡(小野・前山ほか1988)、大沢遺跡(甘粕・古川ほか1981、小野ほか1982、前山1990)、上原遺跡(上原1971)などが代表例である。砂丘地・沖積地の遺跡には、大規模な集落を形成するような遺跡は確認されていない。出土状況が目される例として、味方排水機場遺跡(高浜・卜部・寺崎2000)の現地地表下19～20mから確認された中期後葉・後期前葉土器片がある。沖積地での縄文時代遺跡のあり方を考える上で非常に重要な例である。晩期の遺跡としては砂丘上や沖積地に立地する遺跡が多い。代表例として鳥屋遺跡(間ほか1980)、緒立遺跡(金子ほか1983)、御井戸遺跡(前山1994c)など県内を代表する遺跡が存在する。

弥生時代の遺跡 市内で48遺跡が確認されている。弥生時代前期の遺跡としては前述した緒立遺跡(金子ほか1983)が代表例である。そのほか、砂丘上や沖積地に多くの遺跡が存在する。中期の遺跡としては旧横越町小丸山遺跡(家田1987、酒井2000a)、山ん家遺跡(川上1993、酒井2000b)などで出土している。秋葉区新津地区では平成15年度の立会調査で秋葉遺跡から中期前半、塩辛遺跡から中期後半の土器が出土している(渡邊・立木ほか2004)。特に塩辛遺跡では、現地地表から2m下の地点から出土しており、今後も台地と沖積地の境界から遺跡が検出される可能性があり、注意を要する。後期の遺跡としては新津丘陵沿いの古津八幡山遺跡(川上1994、渡邊1994a)とその周辺の居村C遺跡(D・E地点)(川上1996、渡邊ほか1997)があり、いずれも弥生時代後期に属する。古津八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落と見られる高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・炉跡・方形溝溝墓が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器が出土しており、当該地域の弥生時代を考える上で重要な遺跡である。砂丘上の遺跡としては六地山遺跡(寺村1960、中村1960)、石動遺跡(廣野1996)がある。近年、江南区(旧亀田町)の砂丘および砂丘間低地に養海山遺跡(新潟市2007)や西郷遺跡(土橋2007)などの前・中期の遺跡が確認されている。また角田山麓には山谷遺跡(山谷古墳下層)(甘粕・小野ほか1993)、大沢遺跡(甘粕・古川ほか1981、小野ほか1982)、御井戸遺跡(前山・相田2004・2005)などがある。

古墳時代の遺跡 市内で69遺跡が確認されている。市内最古の古墳は古墳時代初期の古津八幡山遺跡前方後方墳である。前期の古墳としては、角田山麓の前方後方墳である山谷古墳(甘粕・小野ほか1993)、前方後円墳である菖蒲塚古墳(相田・前山2003・2005)がある。それに隣接して同期の南赤坂遺跡(前山・相田2002)、御井戸遺跡(前山・相田2003・2004)がある。砂丘上や沖積地には緒立C遺跡(渡邊1994)や東開遺跡(朝岡・鎌山2003)、正尺C遺跡(土橋2006)などがある。新津丘陵の古津八幡山遺跡の北西端に古津八幡山古墳が造営される(墳丘約60m・造り出し付き円墳)(甘粕・川村ほか1992)。古墳に隣接する舟戸遺跡(川上1995)・高矢C遺跡は中期の遺跡であり、丘陵縁辺や端部に立地する。舟戸遺跡では中期頃の竪穴住居跡が検出され、古墳との関連が注目されている。平野部の沖ノ羽遺跡(星野ほか1996)・上浦A遺跡(坂上2003)・結七島遺跡(田中・丹下ほか2004)では古代の生活面より下から古墳時代前・中期の遺構・遺物が検出されている。近年沖積地の微高地から古墳時代の遺跡が多く見つかり、平野部への遺跡進出の様相が明らかになりつつある。

古代の遺跡 古代(飛鳥～平安時代)の遺跡は市内で343遺跡確認されている。平野部には集落遺跡が多く立

地し、丘陵裾部には製鉄遺跡、須惠器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中している。海岸近くの砂丘上には製塩遺跡もある。古代の遺跡については遺跡周辺の秋葉区に限定して記述する。新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡〔中川・倉田1956〕・草水町2丁目窯跡・滝谷窯跡〔川上・木村・鈴木1989〕などがある。平成18年度の下水道工事に伴う立会調査で七本松窯跡に隣接する地点で、新たに秋葉2丁目窯跡（9世紀前半）が新発見された。昭和27年に出版された『新津市誌』では新津丘陵に18か所の窯跡が存在すると記載されており〔小林1952〕、近隣に未知の窯跡がまだ多数存在すると考えられる。製鉄遺跡は新津丘陵西斜面に居村遺跡・大入C遺跡などがあり、9世紀第2四半期以降とされる〔渡邊ほか1997〕。平野部に位置する長沼遺跡は、非ロクロの土師器やかえりのある須惠器蓋が定量出土した。7世紀末～8世紀の遺跡である〔渡邊1991〕。7世紀中葉の647年に造営されたとされる「淳足柵」と年代が近く、注目される。その北西の上浦A遺跡では堀立柱建物が発見され〔川上1997、坂上2003〕、円面硯や多量の墨書土器が出土している。上浦A遺跡の年代は出土遺物の年代観から7世紀末～10世紀と考えられ存続時期の長い遺跡である。隣接する上浦B遺跡〔新潟市2007〕からは、周囲を溝で囲まれた総柱建物跡1基と堀立柱建物2基が方向を描いて検出された。周辺には井戸や畑跡も検出されている。遺跡の年代は9世紀後半の短期間に営まれている。希少なものとしては奈良三彩の小壺が1点出土している。また、神ノ羽遺跡〔石川ほか1994、星野ほか1996、細野ほか2002、春日2003a、北村・菊池ほか2004、立木・澤野ほか2005〕を含む秋葉区満日地区には山王浦遺跡〔立木・澤野ほか2004b〕、中谷内遺跡〔立木ほか1999、渡邊ほか2002〕、内野遺跡〔立木・高野ほか2002〕、無頭遺跡〔長澤ほか2002〕、大下遺跡、久保遺跡など9世紀後半を中心とする遺跡が多く確認されている。山王浦遺跡からは9世紀後半の雨落溝を伴う堀立柱建物が3基検出されており、井戸や土坑など周辺施設が併設する建物小群がいくつか並存する「住耕一体型」の集落の一部と考えられる。中谷内遺跡からは平安時代に流れた旧流路に沿って、集落の一部が確認された。旧河道の覆土中からは多くの祭祀に伴う墨書土器が出土した。土器は上層と下層で様相を異にし、9世紀第3四半世紀～と第4四半世紀の概ね2～3時期に分けられる。緑軸陶器無台碗など希少品も出土している。内野遺跡からは溝・土坑などが検出され、9世紀後半の集落の一部が確認された。無頭遺跡は狭小な調査区で不明な部分が多いが、9世紀後半の土器が少量出土している。

中世の遺跡 市内で212遺跡が確認されているが、秋葉区に限定して記述する。城館跡が10か所、山城として東島城・金津城〔横山・竹田ほか1987〕の2か所があり、館跡とされるものが5か所ある。集落跡は平野部微高地に立地する。自然堤防上の遺跡の実態がよく分からなかったが、平成4年に調査された江内遺跡〔春日ほか1996〕の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。また細池遺跡（現、細池寺道遺跡）〔小池ほか1994〕では中世以降の圃場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。神ノ羽遺跡では12～13世紀の集落および圃場の一部が確認された〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日2003a〕。出土遺物の中には県内初出土となる烏帽子が出土している。神ノ羽遺跡の北東にある内野遺跡の調査では14～15世紀の自然堤防上の集落の様相が明らかとなった。遺構としては堀立柱建物・井戸・溝があり、遺物は珠洲焼甕・壺類、青磁、白磁、瀬戸・美濃焼などが確認された。さらにそれらの陶磁器とともに井戸内より鉄鍋が出土した。リサイクルを基本とする当時の社会で金属製品が残ったということは、祭祀行為等で埋納されたと考えられる例である。そのほかに井戸底から大形犬の骨の一部が検出され、食用の可能性が指摘されており、中世の食文化を考える上で貴重である。

近世の遺跡 市内で50遺跡が確認されている。集落跡は中世と同じ平野部微高地に立地しており、現在の住宅地が存続して立地することが多く実態は不明な点が多い。発掘調査例も少ないが、秋葉区新津地区では江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている。近年、湊町新潟の「近世新潟跡跡」〔佐藤2007〕が調査され、幾層も重なる生活面を確認した。備前系を中心とする各地の陶磁器が多量に出土した。部分的な調査ではあるが、17～19世紀の町屋の実態に迫る重要な調査例である。

第3節 歴史的環境

古墳時代の越後国については文献史料では不明な点が多い。越後平野に立地する古墳は秋葉区の新津八幡山古墳をはじめ、西蒲区の菟浦塚古墳・山谷古墳、西区の緒立神社古墳や三条市の保内三王山古墳群などいずれも前期のもので、5世紀代には越後平野で古墳の実態は不明瞭である。5世紀後半以降は高田平野・魚野川流域に造営されるようになる。

越後の領域については第1段階（3～4世紀）は旧越前国（越前・加賀・能登）、第2段階（5～6世紀）は旧越中国（頸城・古志・魚沼・蒲原4郡まで含む）まで、第3段階（7世紀中～）は淳足・磐舟欄までとし、次第に北上していく様か伺える（米沢1965・1980）。『続日本紀』大宝2年（702）3月条には、越中国4郡を割いて越後国に編入するとあり、頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡がこれに当たるとされ、これにより越中国の領域が確定した。最終的に越後国の領域が確定するのは、和銅5年（712）にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。

古代の秋葉区域は蒲原郡に属し、その郡域は概ね三条市以北阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝に蒲原郡の郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは大幅な変更はないと思われる。7世紀段階には旧越中国の淳足欄に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したと見られる。蒲原郡内には10世紀成立の『和名類聚抄』に桜井・勇礼・青海・小伏・日置の5郷が見られ、桜井・勇礼・青海・小伏の4郷については所在地が比定できることから、秋葉区域は日置郷に当たると考えられていた。郷域は新津丘陵の北端部を中心に阿賀野川以西信濃川以東、概ね現在の秋葉区・五泉市・田上町の範囲と推定される。

宝亀11年（780）の『西大寺資財流記帳』（『寧楽遺文』中巻）には、西大寺の荘園として蒲原郡に鶴橋庄・柳田庄が見られる。同史料に「越後国水田井壠田地帳景雲三年」とあることから、成立はいずれもそれ以前の8世紀中葉と見られる。所在地については式内社名から、鶴橋庄は五泉市橋田、柳田庄は三条市周辺とされている。これらの荘園に秋葉区域が含まれていたのかは不明である。

新津丘陵における須恵器生産は、早ければ7世紀後半には始まり、8世紀前半～9世紀中頃が主な操業時期である。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致しており、いわゆる「一部一窯体制」であった。しかし9世紀前半～中葉には、佐渡小泊窯の製品が越後国全域に流通するという画期的変化が生じる（坂井1996）。一方、金津丘陵製鉄遺跡群は新津丘陵北西側の金津地区にあり、窯跡と近接するのは燃料が薪や木炭と共通するためである。古代の秋葉区域の産業は新津丘陵の製鉄・窯跡群が中心で、低湿地や潟湖が大部分を占めていた越後平野の中で新津丘陵は重要な位置にあったと思われる。文献史料上は確認できないが、沼垂欄や国府津である蒲原津とも何らかの関係があった可能性がある。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領のひとつである金津保は、秋葉区域に所在したとされる。金津保の初見は建武3年（1336）11月18日「羽黒義成軍忠状写」で、「同二日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到致々合戦畢」（『新潟県史』資料編4-1935）とあり、北朝方である三浦和田（羽黒）義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光と戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたことがわかり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれであろうとされる（木村1989）。また天正5年（1577）「三条業給分帳」に「金津保之内遊川」（『新潟県史』資料編5-2704）とあり、遊川は田上町濁川と見られ、さらに天文13年（1544）10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」（『新潟県史』資料編4-1495・1496）に「金津保下桑村」とあるのは、五泉市下桑村に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、秋葉区～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までを含む範囲であったと推定する。

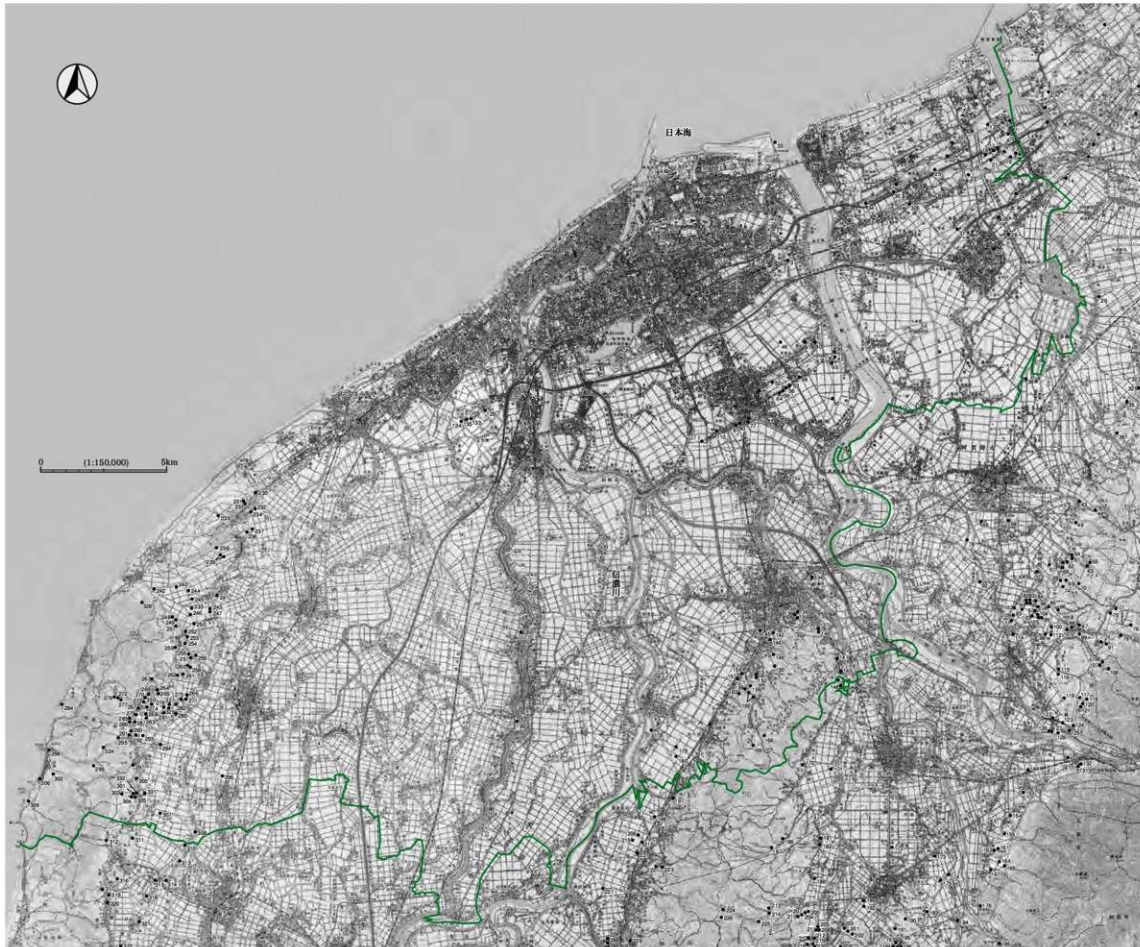
院政期～鎌倉初期には建仁元年（1203）3月4日に「城四部長茂并伴頼新津四部已下、於吉野奥被誅罪」（『吾

表鏡)とあり、新津四部はおそらく金津保に何らかの関連をもつ人物と見られるが、阿賀野川以北に勢力を持ち国衙勢力と対峙する城長茂と行動をともにしている。このことから公領である金津保は国衙勢力と城氏との間で不安定な状況であったことが予想される。また南北朝動乱期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、羽羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らの蒲原津をめぐっての攻防が続き、阿賀野川流域である金津保(つまり秋葉区域)は、その中で拠点の一つとして注目されていた。その後も越後守護となった上杉氏・守護代長尾氏にとって、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層や本庄・色部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であった。そのため金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなる。

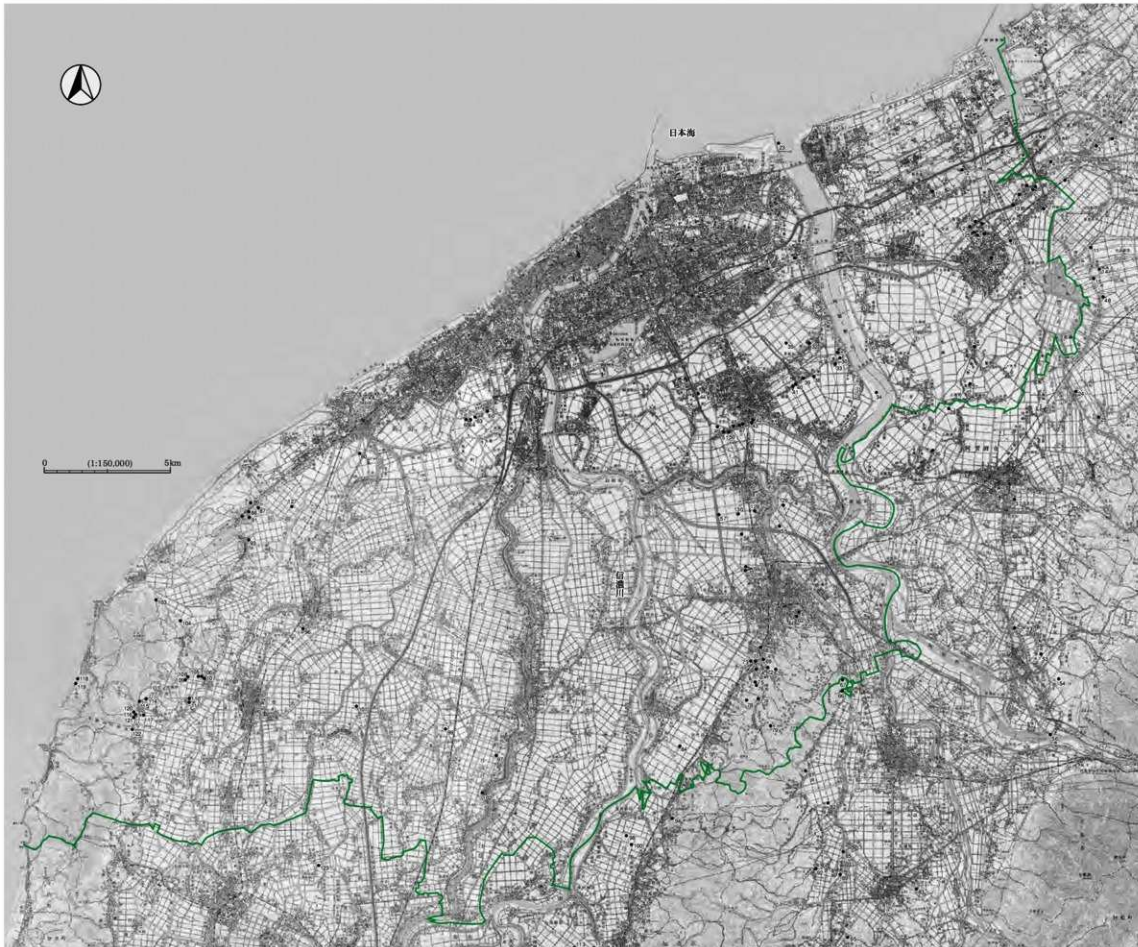
天正6年(1578)3月に上杉謙信が死去し、養子である景勝・景虎の間で後継争い「御館の乱」がおこる。この乱に景勝方として参戦した新津氏は、以後それまで金津保の勢力であった平賀氏に替わり領主となった。そして慶長3年(1598)景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を中心に発展することとなった。

中世における金津保を中心とした秋葉区域は、阿賀野川流域であり、蒲原津に近いという地理的環境や越後平野を一望することができるという新津丘陵の存在から、常に不安定な政治状況に置かれていた。先に金津保の領域に推定した範囲に、新津丘陵を中心に中世城館が常に置かれていたのはそのことを示しているのだろう。

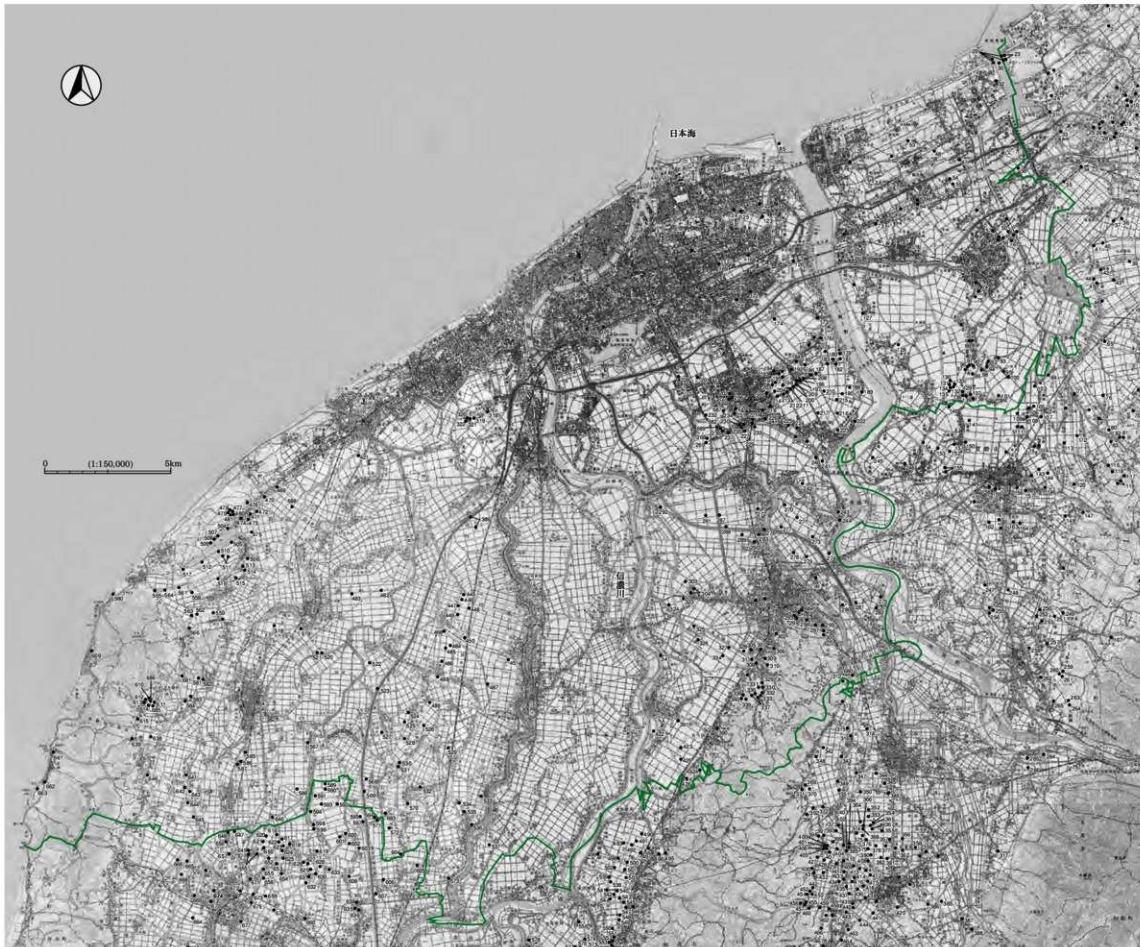
近世に入り、越後平野では新発田藩によって新田開発に伴う治水工事が行われるようになった。また近世後期には町人請負による新田開発が盛んになり、潟の干拓が行われた。阿賀野川などの河川も水害対策のために掘削を掘削するなどの普請がなされた。沖ノ羽遺跡の所在する古田ノ内大野間は、江戸時代に新発田藩により開発された古田新田の枝郷である。享保3年(1718)の新発田藩「御領分郷村鑑」によれば、「高149石余、田23町部、畑2町余、無民戸」とあり、江戸時代以来、無住の地であったことが伺える。現在の遺跡周辺の景観はこの開発に基づいて形成されているが、古代から中世にかけての遺跡周辺は広大な潟湖や湿地が存在し、その中で微高地上の遺跡は当時の生活を知る上で非常に重要である。



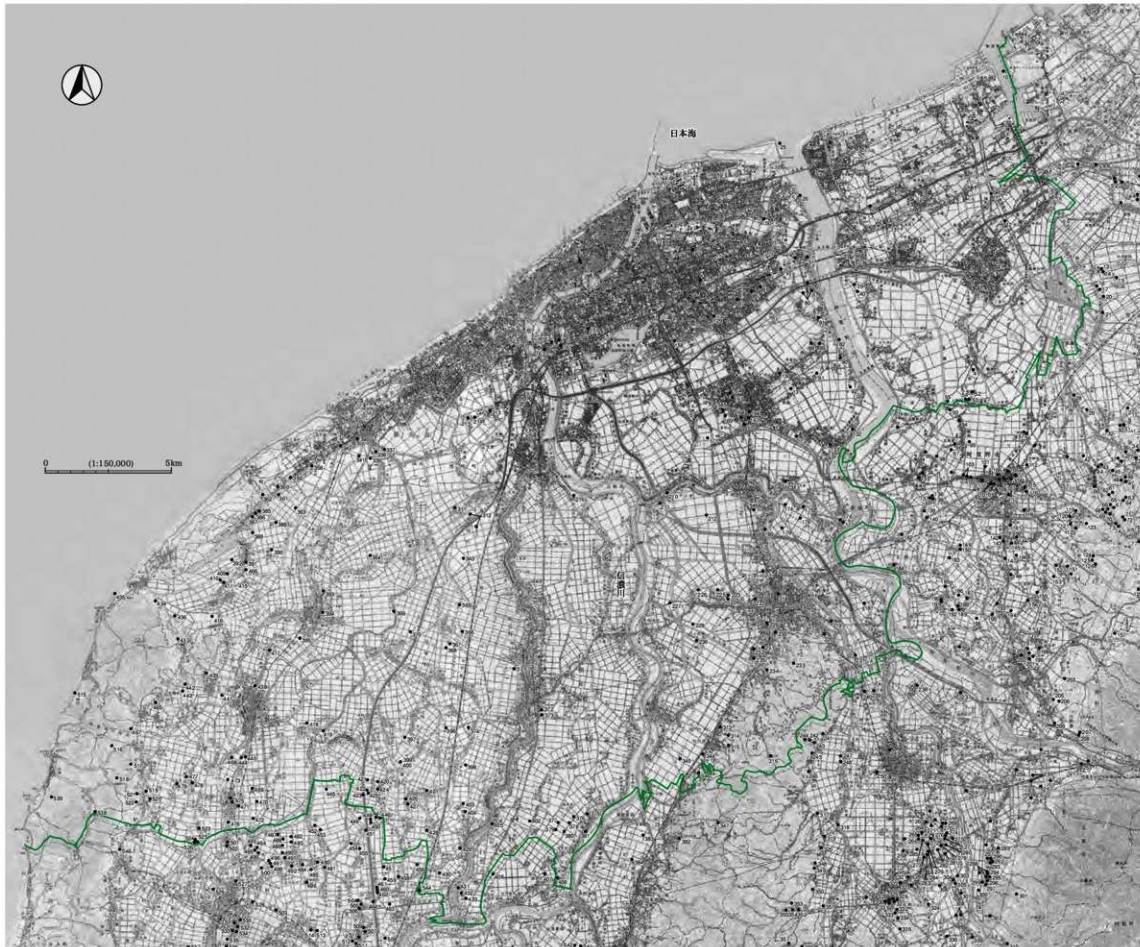
第2図 新潟市周辺の旧石器・縄文時代遺跡分布図



第3図 新潟市周辺の弥生・古墳時代遺跡分布図



第4図 新潟市周辺の古代遺跡分布図



第5図 新潟市周辺の中世道路分布図

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 確認調査(図版4～6)

満日地区園場整備事業に伴う試掘・確認調査は、平成11・12年度に試掘・確認調査として園場整備事業区域全域の田部分を、平成13年度には畑部分と田部分を行っている。平成11年度には869.4㎡(1.4m×3m×207トレンチ)、平成12年度に659.4㎡(1.4m×3m×157トレンチ)を行い、平成13年度には823.2㎡(1.4m×3m×196トレンチ)を調査した。その後の協議結果で用・排水路部分および未調査地の調査を行うこととなり、平成14～16年度、平成18・19年度(平成20年度以降継続予定)に確認調査を行い、現在、園場全体面積の約2/3の範囲の調査が終了している。

今回の調査地点は、平成13年度の畑および平成14・15年度に行った用排水路の確認調査で見つかった範囲となっている。1区(図版6)とした畑部分の239・240トレンチでは、現地表面(G・L)から0.35～0.45mで黒茶褐色～茶褐色土層の古代包含層および相当層が確認され、畑部分を中心に包含層の広がりが予想された。2区(図版6)とした用・排水路部分は現農道部分にあたり、303～306・353トレンチでは、現地表面(G・L)から0.60～1.10mで黒茶褐色～茶褐色土層の古代包含層および相当層が確認されている。3区(図版6)とした畑部分の243トレンチでは、現地表面(G・L)から0.35m前後で黒茶褐色～茶褐色土層の古代包含層および相当層が確認されている。4区(図版6)とした用・排水路部分は現農道部分にあたり、334～336トレンチでは、現地表面(G・L)から1.10～1.60mで黒茶褐色～茶褐色土層の古代包含層および相当層が確認されている。5区(図版6)とした畑部分(一部用・排水路含む)の255・256トレンチでは、現地表面(G・L)から0.40～0.50mで黒茶褐色～茶褐色土層の奈良以前と古代包含層および相当層が確認され、畑部分を中心に包含層の広がりが予想された。また、5区は隣接する磐越自動車道での調査(星野ほか1996)で古墳時代の遺構・遺物が古代遺構確認面より0.20～0.30mの間層を挟んで確認されており、その広がりが確認されたため2面調査とした。

以上の結果から、保護層が確保されない本発掘調査範囲は前述の通り約3,700㎡(下層面積795㎡を含む)となった。

第2節 本発掘調査

A 調査方法

1) グリッドの設定(図版5・6)

グリッドを設定するにあたっては、平成15年度に沖ノ羽遺跡発掘調査を行った時点で設定した基準点を用いた。その基準点は国土座標(世界測地系)X座標:201970.000、Y座標:54820.000、緯度:37°49'17"9226、経度:139°07'10"1837を1A1杭とした。基準点に対し国土地理院の第8系座標軸を用いて10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として短軸方向をアラビア数字、長軸方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。しかし、平成15年度調査区よりも東側に調査区が伸びたため、短軸方向のアラビア数字、長軸方向のアルファベットがともに足りない状況となった。そのため、アラビア数字の北側の延長を「01 02 03…」とし、アルファベットの東側の延長を「AA AB AC…」とした。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、

「17AC15」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区5点の座標（新座標）は次のとおりである。

1区 19AD1 (X座標：201790.000, Y座標：55110.000, 緯度：37°49′00″ 6250, 経度：139°07′33″ 4220 杭頭高3,786m)・2区 23AS1 (X座標：201750.000, Y座標：55260.000, 緯度：37°48′59″ 2949, 経度：139°07′39″ 5441 杭頭高3,620m)・3区 17AO1 (X座標：201810.000, Y座標：55220.000, 緯度：37°49′01″ 2498, 経度：139°07′37″ 9251 杭頭高3,925m)・4区 03BA1 (X座標：202000.000, Y座標：55340.000, 緯度：37°49′07″ 3864, 経度：139°07′42″ 8838)・5区 06AW1 (X座標：202030.000, Y座標：55300.000, 緯度：37°49′08″ 3682, 経度：139°07′41″ 2566 杭頭高4,152m)。

19AD1 杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分02秒東偏し、磁北は真北に対し7度45分00秒西偏する。

2) 調査方法

①表土剥ぎ 確認調査によって遺物の出土が多量であることから、遺物包含層（VI層）上面まで、遺物の出土に注意しながら重機（バックホウ）により除去した。排土は横置きした。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2時のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅20cm、深さ20cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝を掘削した。土側溝により遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

②包含層掘削・遺構検出・発掘 重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③実測・写真 実測図は平・断面図を1/20で作成した。平・断面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、併せて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35mm版、6×7版のカメラを用い、白黒フィルムとカラーポジフィルムを適宜併用した。

④遺物取り上げ 包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は点数が少ない地点が多く、層位・小グリッド単位ごと一括で取り上げた。

⑤自然科学分析 植物珪酸体分析・花粉分析・樹種同定を行った。

B 調査経過

平成16年6月15日から諸準備を開始し、6月23日に機材搬入した。圃場工事の工程上の問題で、用・排水管が入る部分を先行して発掘調査を行うよう新津農地側から要請があり、2・4区の線的調査区を優先して行った。6月29日～7月30日まで、2区→4区→1区→5区→3区の順番で重機によってI～V層を除去した。表土剥ぎと並行して作業員約5名で排水路掘削、法面仕上げを行った。さらに7月2日より表土機械掘削班と2班に分かれ、作業員5名で2区から順番に人力包含層掘削および遺構検出作業を行い、徐々に人員を増やしながら7月3日から遺構精査を開始した。7月12日には2区のローリングタワーでの撮影を行った。13日に新潟県中・下越地方を襲った「7・13水害」で2区が完全に水没し、復旧に2日を要した。19日より4区的人力包含層掘削および遺構検出作業を行った。遺構・遺物が少なく、22日には4区のローリングタワーでの写真撮影を行った。26日からは1区にベルトコンベアーを搬入し、人力包含層掘削を開始した。27日には1区と同時に、5区的人力包含層掘削を開始した。機械掘削終了後の8月2日からは、作業員全員（約30名）で1・5区に分かれて人力遺構掘削を開始した。9月9日は新津市民大学（生涯学習講座）で市民30名の見学があった。15日に1・5区（上層）をほぼ全掘し、16日にローリングタワーから写真撮影を行い、18日にラジコンヘリコプターによる1・5区（上層）の空中写真撮影を行った。28日より3区・5区（下層）的人力包含層掘削を開始した。10月13日に（株）古環境研究所の早田勉氏に来跡頂き、自然科学分析を行った。23日に3区

をほぼ完掘し、ローリングタワーでの写真撮影を行った。同日夕刻の午後5時58分に新潟県中越地方を震源とする『新潟県中越地震』が発生し、ローリングタワーの倒壊などの被害はなかったが、その後の余震でローリングタワーの撤去が出来ない事態が生じた。28日に5区（下層）をほぼ完掘し、ローリングタワーでの写真撮影を行った。29日にラジコンヘリコプターによる3・5区（下層）の空中写真撮影を行った。11月1日に機材撤去を行い調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、1区上端面積1521.317㎡、1区下端面積1481.075㎡、2区上端面積195.093㎡、2区下端面積155.646㎡、3区上端面積493.841㎡、3区下端面積472.398㎡、4区上端面積97.424㎡、4区下端面積64.632㎡、5区上層上端面積634.728㎡、5区上層下端面積608.233㎡、5区下層上端面積150.220㎡、5区下層下端面積126.181㎡である。合計面積は上端面積3092.623㎡、下端面積2908.165㎡である。なお、前述（第1章第2節参照）の理由で完掘調査していない6区の最終調査面積は、上端面積262.652㎡、下端面積245.112㎡である。

C 調査体制

【平成16年度】

調査期間	平成16年6月15日～平成16年11月24日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 松井 弘）
所管課	生涯学習課（課長 羽生隆夫、課長補佐 目黒 正） 生涯学習課文化財係（係長 荒木政幸）
事務担当	生涯学習課文化財係（主任 田中茂男、主任 渡邊朋和、技士 阿達哲二、嘱託 高野裕子、白井利夫）
調査担当	立本宏明（主査）
調査員	浮野慶子 八藤後智人（嘱託）
整理補助員	青野満穂子 五十嵐智子 伊藤操子 小柳勢伊子 小菅和子 斎藤明子 須貝律子 遠山直美 広瀬智子 真木千寿子 森岡綾子 四柳成美 上杉裕美 山田弘美 帆苅奈緒子 波多野裕美 田村由実子 中村寿子 笑喜正子 渡辺絵理 丸山久美子（パート職員）

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）にして190箱である。古墳時代・平安時代の土器・石製品など各種におよぶ遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①水洗、②注記、③包含層：グリッド別の種別の重量計測、④遺構：遺物の器種別の重量・個体数計測、⑤接合、⑥報告書掲載遺物の抽出、⑦実測図作成・観察表作成、⑧トレーズ図作成、⑨板別付作成、トレーズは整理補助員が原寸で作成し、2倍図版を基本に行った。

2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した1/40の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の1/80と1/40の遺構平面図は測量業者が作成し、デジタルデータとした。

B 整理経過

平成16年度は発掘調査終了後、引き続き整理作業を開始した。出土遺物の水洗・注記・接合と、写真・図面整理を行い、併せて測量作業に委託した遺構平面図の校正作業を行った。平成17年度は遺物の接合作業および

実測図作成を平成17年度の現場作業の直前まで行い、現場終了後に再開した。遺物実測・トレースには、6名で約6か月を要した。遺構平面図は測量業者作成のデジタルデータを用いた。職員は、遺物写真の撮影、図版のレイアウト・報告書の編集にあたった。平成19年度は主に職員の原稿執筆、報告書編集作業を行い、平成20年度に報告書を刊行した。

C 整理体制

【平成17年度】

整理期間	平成17年4月1日～6月30日、平成18年1月4日～3月31日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満夫）
所管課	生涯学習課（課長 渡辺ユキ子、課長補佐 倉地一則） 歴史文化課文化財係（係長 倉地副参事事務取扱）
事務担当	埋蔵文化財センター（所長 手島勇平）
整理担当	立木宏明（副主査）
調査員	澤野慶子 八藤後智人（専門臨時職員）
整理補助員	青野満穂子 五十嵐智子 小柳勢伊子 小菅和子 斎藤明子 須貝律子 遠山直美 広瀬智子 森岡綾子 上杉裕美 帆苅奈緒子 波多野裕美 田村由実子 笑喜正子 渡辺絵理 長谷川幸子（臨時職員）

【平成19年度】

整理期間	平成20年1月4日～平成20年2月29日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満夫）
所管課	生涯学習課（課長 倉地一則、課長補佐 山田一雄） 歴史文化課埋蔵文化財係（係長 渡邊明和）
事務担当	埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
整理担当	立木宏明（主査）
調査員	澤野慶子 八藤後智人（専門臨時職員）
整理補助員	五十嵐智子 斎藤明子 須貝律子 遠山直美 上杉裕美 帆苅奈緒子 田村由実子 笑喜正子 西部大輔 岩瀬真由美 小倉幸子 熊野敦子 須田秀樹（臨時職員）



発掘調査風景



現地説明会（新潟市民大学）風景

第IV章 遺 跡

第1節 概 要

沖ノ羽遺跡では古墳時代、平安時代（古代）、室町時代（中世）の遺物が出土し、同時代の遺構が検出された。遺構としては、掘立柱建物を中心として集落跡や圃場跡などが検出された。

遺物量は発掘調査終了時では遺物収納コンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）にして190箱である。そのうち古墳時代の土器が5箱、平安時代の土器が174箱、室町時代の土器が1箱、搬入礫を含む石製品・金属製品等が10箱である。

遺構数は1～6区を含めて土坑（SK）55基、溝（SD）45基、掘立柱建物（SB）8基、性格不明遺構（SX）11基、小土坑（Pt）437基、旧河道1基、畝状遺構1基である。1～4区については遺構確認面が1層だけであったが、5区については上層から古代・中世の遺構が、下層から古墳時代の遺物が出土しているため2層確認面があった。6区については遺構確認面の検出のみで調査を終了している。

第2節 層 序（図版9・31・33・38・50・54）

沖ノ羽遺跡の基本層序は、1区の成果を基準として調査区全体に対応する。遺構確認面は3.5～4.0mの標高で推移している。遺跡の基本層序は大きく6層に分けられ、12層に細分される。以下に基本層序を記す。

- I 層 いぶい黄褐色土（10YR4/3）シルト層 粘性あり、しまりややあり、畑・水田耕作土。
- II 層 褐色土（10YR4/4）シルト層 粘性ややあり、しまりややあり、畑耕作土・水田床土。
- III 層 オリーブ褐色土（2.5Y4/3）シルト層 粘性ややあり、しまりあり。褐鉄鉱少量付着する。
- IV 層 灰褐色土（7.5YR5/2）シルト層 粘性ややあり、しまりあり。黒色粒子混じる。
- V a 層 黒褐色土（7.5YR3/1）シルト層 粘性ややあり、しまりややあり。
中世・古代遺物包含層。黒色炭化物が多く含まれる。
- V b 層 暗灰黄色土（2.5Y4/2）シルト層 粘性あり、しまりややあり。
古代遺物包含層。黒色炭化物が多く含まれる。
- V c 層 黄灰色土（2.5Y4/2）シルト層 粘性あり、しまりややあり。無遺物間層。
- V d 層 褐灰色土（10YR4/1）シルト層 粘性あり、しまりややあり。炭化物混じる。古代遺物包含層。
- V e 層 暗灰黄色土（2.5Y5/2）シルト層 粘性あり、しまりあり。
- V f 層 黄灰色土（2.5Y4/1）シルト層 粘性あり、しまりあり。古代遺物包含層。下面は中世・古代遺構確認面。
- VI a 層 黄灰色土（2.5Y5/1）シルト層 粘性あり、しまりややあり。
古墳時代包含層。下面は古墳時代遺構確認面。
- VI b 層 褐灰色土（7.5YR5/2）砂質シルト層 粘性弱い、しまりややあり。無遺物層。

I・II層は畑耕作土および水田床土面である。III・IV層は遺物の出土はほとんどない。V層は、2区低湿地状の部分については8層に細分された部分があるが、遺構が密集する1区などの微高地では1層にしか分けられ

ない場所が大部分であるため、V層としてアルファベットで細分せず一括した部分がある。V層中から古代の遺物が出土する。古代遺構検出面はV層下面中およびVI層上面である。現地表面から0.7～1.0m程で古代遺構確認面に達する。VI層以下は古代地山とした層であるが、5区ではVI a層中から古墳時代中期の土器が出土しており、VI a層下面からは該期の遺構も確認されている。VI層は地点によって粘性土の部分と砂質土の部分があり、土質も粘性の強弱が認められる。VI層の下層に行くに従って砂質土が多く含まれる傾向がある。5区では中世の遺構が確認されているが、包含層中から遺物が出土していないため中世の包含層が明確ではないが、おそらくV層上面が相当すると考えられる。隣接する勢越自動車道建設に伴う沖ノ羽遺跡本発掘調査区13区（星野ほか1996）との基本層序対比を記すと、県調査地点（以下、県とする）I層→市調査地点（以下、市とする）I・II層、県II層→市III・IV層、県III a・III b層→市V層、県III c層→市VI a層、県IV・V層→市VI b層である。出土遺物と記載された土層の特徴から区別したため、市V層との区別が不明瞭な部分があるが概ねの対比は首肯されよう。

第3節 遺 構 (図版5～54)

A 遺構の概要

遺構番号は、区ごとに遺構の種類にかかわらず通し番号を付した。1～4区については上層・下層の区別はない。説明は1区→2区→4区→3区→5区下層→5区上層→6区の順に行い、さらに遺構の各説を土坑（以下、SKとする）・性格不明遺構（以下、SXとする）、溝（以下、SDとする）、小土坑（以下、Pitとする）、掘立柱建物（以下、SBとする）の順に記す。

詳しい遺構の計測値等は別表1に示した。遺構出土土器の詳細は別表5・6に詳細に示しており、遺構の記述では石製品と合わせて一部省略した。遺跡全体から検出された遺構総数は558基あり、SK55基、SX11基、SD45基、畝状遺構1基、Pit437基、SB8基、旧河道1基である。遺構の形態分類はSK、SX、SD、Pitについては大まかに、平面形は円形・楕円形・長方形・方形・不定形の5種類に、断面形は皿形・半円形・台形・箱形の4種類に分類した。

遺構の所属時期は、平安時代と考えられるV層～VI層上面を切って掘り込まれている遺構より、古代の土器が出土していることから、大部分は古代の遺構である。ただし、5区上層の遺構は一部が中世に含まれる。

B 1区の遺構

1) 1区の概要

1区では、調査区中心近くの標高3.50～3.75m前後の微高地状の高まりに遺構が集中して存在する。遺構総数は384基あり、SK30基、SX4基、SD17基、Pit325基、SB8基である。そのうちSX161が近世以降の遺構と考えられるほかは、すべて平安時代の遺構と考えられる。1区での遺構の展開は、調査区中央部で掘立柱建物を中心とする遺構群と、調査区北東の16AD・16AE・17AD・17AEに性格不明な一辺10m前後の方形の溝区画があり、その周辺に掘立柱建物群が存在する。一部重複する遺構については、それぞれ後述する土器の様相から所属時期を特定した結果、同一時期であると考えられる。調査面積は上端面積1521.317㎡、下端面積1481.075㎡である。

2) 1区遺構各説

a 土坑 (SK)・性格不明遺構 (SX)

SK3 (図版7・12・14・17、写真図版6)

17ACに位置する平安時代の遺構である。SD25を切る。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長

軸 0.65m、短軸 0.58m、深さ 0.11m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗が出土している (図版 55)。

SK35 (図版 7・12・14・17, 写真図版 6)

17AC に位置する平安時代の遺構である。Pit57 に切られる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.92m、短軸 0.81m、深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕が出土している。

SK38 (図版 7・12・14・17, 写真図版 6)

17AC に位置する平安時代の遺構である。SD2 に隣接する。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.93m、短軸 0.79m、深さ 0.08m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・小甕、須恵器長頸壺が出土している (図版 55)。

SK36 (図版 7・12・14・17・24, 写真図版 7)

17AD に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.21m、短軸 1.09m、深さ 0.30m を測る。覆土は 4 層に分かれる。未検出であるが、SB378 の柱跡となる Pit がその中に構成する可能性が高い。土師器無台碗・小甕、須恵器無台杯が出土している (図版 55)。

SK37 (図版 7・12・14・17, 写真図版 7)

17AD に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.25m、短軸 1.08m、深さ 0.09m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕が出土している (図版 55)。

SK33 (図版 7・14・16・17, 写真図版 7)

17AE に位置する平安時代の遺構である。SD32 を切る。平面形は不定形、断面形は皿形である。確認面で長軸 2.12m、短軸 1.70m、深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器大甕が出土している (図版 55)。

SK39 (図版 7・14・16・18, 写真図版 7)

17AD・17AE に位置する平安時代の遺構である。SD4 に切られる。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.90m、現存短軸 2.60m、深さ 0.43m を測る。覆土は 4 層に分かれ、下層 (3・4 層) には多量に炭化物が含まれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕・長頸壺、黒色土器無台碗が出土し、さらに搬入跡が 23 点検出された。おもに下層 (3・4 層) から多く出土しており、遺物の完形度も高く、極めて一括性の高い資料である (図版 55～57)。

SK51 (図版 7・14・16・18, 写真図版 8)

17AD・17AE に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 3.20m、短軸 2.64m、深さ 0.27m を測る。覆土は 4 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕・短頸壺・長胴壺・横瓶、黒色土器無台碗が出土している。遺物は SK39 と同じく下層 (3・4 層) を中心に出土しており、一括性の高い遺物群である (図版 57・58)。

SK86 (図版 7・14・16・18, 写真図版 8)

17AE に位置する平安時代の遺構である。SK39 と SK51 に切られて全体像が不明であるため、平面形は不定形、断面形は半円形とした。確認面で長軸 0.76m、深さ 0.27m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が少量出土している (図版 59)。

SK88 (図版 7・14・16・18, 写真図版 8)

17AD に位置する平安時代の遺構である。SD4 に切られる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 0.97m、現存短軸 0.81m、深さ 0.13m を測る。覆土は 1 層である。土師器無台碗・有台皿・長甕・小甕・鍋、須恵器有台杯・大甕・黒色土器無台碗などが出土しており、中には略完形の土師器無台碗など、一括性の高い遺物が確認された (図版 59)。

SK98 (図版 7・14・16・18, 写真図版 8)

17AD に位置する平安時代の遺構である。SD4 に切られる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面

で長軸 0.60m、現存短軸 0.47m、深さ 0.10m を測る。覆土は 3 層に分かれる。土師器無台碗・長甕が少量出土している。

SK107 (図版 7・14・16・19、写真図版 8)

17AE に位置する平安時代の遺構である。SD4 と SX106 に切られる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 1.19m、現存短軸 0.90m、深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕、須恵器有台杯が出土している (図版 59)。

SK151 (図版 7・14～16・19、写真図版 9)

17AE に位置する平安時代の遺構である。SX106 に隣接するが、切り合い関係は不明である。平面形は方形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.70m、短軸 0.66m、深さ 0.09m を測る。覆土は 1 層である。土師器無台碗が少量出土している。

SK182 (図版 7・16・19、写真図版 9)

18AE・18AF に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.21m、現存短軸 1.00m、深さ 0.23m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕が少量出土している (図版 59)。

SK179 (図版 7・16・19、写真図版 9)

18AE・18AF に位置する平安時代の遺構である。SK180 に隣接するが、切り合い関係は不明である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.87m、短軸 1.18m、深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯、黒色土器無台碗が出土している (図版 59)。

SK180 (図版 7・16・19、写真図版 9)

18AF に位置する平安時代の遺構である。SK179 に隣接するが、切り合い関係は不明である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.48m、短軸 1.35m、深さ 0.09m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕が出土している (図版 59)。

SK60 (図版 7・12・14・19、写真図版 9・10)

17AD に位置する平安時代の遺構である。SD2 に切られる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.63m、現存短軸 0.30m、深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK89 (図版 7・12・14・15・20、写真図版 10)

18AD に位置する平安時代の遺構である。平面形は不定形、断面形は凹凸のある皿形である。確認面で長軸 1.04m、短軸 0.80m、深さ 0.21m を測る。土師器無台碗・長甕・小甕が出土している (図版 60)。

SK87 (図版 7・12・14・15・20、写真図版 10)

17AD・18AD に位置する平安時代の遺構である。SD2 に切れ、平面形は不明だが、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.21m、現存短軸 0.44m、深さ 0.25m を測る。土師器無台碗・鍋、須恵器無台杯が出土している (図版 60)。

SK92 (図版 7・14～16・20、写真図版 10)

18AD に位置する平安時代の遺構である。SD2 に切れ、平面形は不明だが、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 1.60m、現存短軸 0.80m、深さ 0.21m を測る。覆土は 3 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器大甕・長頸壺・横瓶が出土している (図版 60)。

SK150 (図版 7・14～16・20、写真図版 10)

18AD に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.44m、短軸 0.31m、深さ 0.08m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK201 (図版 7・12・13・20、写真図版 11)

18AC・19AC に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は凹凸のある皿形である。確認面

で長軸 0.61m、短軸 0.39m、深さ 0.12m を測る。覆土は 1 層である。土師器無台碗・鍋が少量出土している。

SK193 (図版 7・12・13・20, 写真図版 11)

18AC・19AC に位置する平安時代の遺構である。平面形は長方形、断面形は皿形である。確認面で長軸 2.73m、短軸 0.73m、深さ 0.09m を測る。覆土は 1 層である。SD として分類することも可能であるが、単独で存在し、延びる可能性が低いため SK とした。土師器無台碗・長甕・小甕、須恵器横瓶が出土している。

SK194 (図版 7・12・13・20, 写真図版 11)

19AC に位置する平安時代の遺構である。平面形は不定形、断面形は半円形である。確認面で長軸 1.98m、短軸 0.52m、深さ 0.21m を測る。覆土は 2 層に分かれる。SD として分類することも可能であるが、単独で存在し、延びる可能性が低いため SK とした。土師器無台碗・長甕・鍋、黒色土器無台碗が出土している (図版 60)。

SK200 (図版 7・12・13・15・20, 写真図版 11)

19AC に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 1.47m、短軸 0.50m、深さ 0.18m を測る。覆土は 4 層に分かれる。土師器無台碗・小甕が出土している (図版 60)。

SK185 (図版 7・13・21, 写真図版 12)

20AB に位置する平安時代の遺構である。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.76m、短軸 0.70m、深さ 0.14m を測る。覆土は 3 層に分かれ、下層の 2・3 層はほぼ全体が炭化物層であるが、壁には被熱の影響での硬化等は認められなかった。一部の炭化材を樹種同定した結果、クルミ属であった (第 VI 章第 3 節参照)。黒色土器無台碗が出土している。

SK189 (図版 7・12・13・15・21, 写真図版 12)

19AC に位置する平安時代の遺構である。平面形は長方形、断面形は凹凸のある皿形である。確認面で長軸 1.23m、短軸 0.72m、深さ 0.12m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器大甕・横瓶が出土している (図版 60)。

SK195 (図版 7・12・13・15・21, 写真図版 12)

19AC に位置する平安時代の遺構である。平面形は方形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.50m、短軸 0.48m、深さ 0.09m を測る。覆土は 1 層である。遺物は出土していない。

SK196 (図版 7・15・21, 写真図版 12)

19AD に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 0.68m、短軸 0.46m、深さ 0.06m を測る。覆土は 1 層である。土師器小甕が出土している。

SK188 (図版 7・13・21, 写真図版 13)

20AB・20AC に位置する平安時代の遺構である。一部調査区外に延びるが平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 2.32m (未調査区まで)、短軸 2.27m、深さ 0.28m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していないが、埋土の状況と確認面の高さから平安時代の遺構と判断した。

SX106 (図版 7・14・16・19, 写真図版 8)

17AD・17AE に位置する平安時代の遺構である。SK107 を切り、SD4 に切られる。確認面で現存長軸 3.86m、短軸 0.60m、深さ 0.12m を測る。平面形は不定形、断面形は台形状である。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗、須恵器大甕が出土している (図版 60)。

SX161 (図版 7・14～16・19, 写真図版 8・9)

17AE・18AE に位置する近世以降の遺構である。SD2・176・181 を切る。平面形は不正方形、断面形は台形状である。確認面で長軸 6.28m、短軸 5.10m、深さ 0.23m を測る。一見、方形の住居状遺構であるが、正確な調査結果を得られず、ここでは SX とした。底面は凹凸が激しく、表土剥ぎの時点での所見では II 層から掘り込まれている。覆土については、平安時代の遺構確認面である VI a 層では 4 層に分かれるが、砂質土と粘質土が互層に重なる状況で、明らかに平安時代の覆土と異なるため近世以降の遺構とした。土師器無台碗・長

甕・小甕、須恵器無台杯・大甕・長頸壺、黒色土器無台碗が出土している（図版60）。

SX187（図版7・13・21、写真図版13）

20ABに位置する平安時代の遺構である。平面形は長方形、断面形は台形状である。確認面で長軸2.95m、短軸2.74m、深さ0.34mを測る。覆土は不明。遺物は出土していない。

SX183（図版7・12・13・15・16・22、写真図版13）

18AE・18AF・19AC・19AD・19AE・20ACに位置する平安時代の遺構である。平面形は不定形、断面形は底部に激しい凹凸のある台形状である。確認面で現存短軸3.50m（未調査区まで）、深さ0.31mを測る。北東から南西に向かって一部溝状に捉えられる部分もあるが、底面の状況から圃場である可能性が高い。覆土は3層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕・長頸壺・長胴壺が出土している（図版60・61）。

b 溝 (SD)

SD1（図版7・14・22、写真図版13）

16AC・17AC・17ADに位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延び（ $N-87^{\circ}-W$ ）、西端は調査区外におよぶ。SD25を切り、SD4に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.36m、深さは0.13m前後である。覆土は2層に分かれる。土師器無台碗・有台皿・長甕・小甕、須恵器大甕・短頸壺、黒色土器無台碗が出土している（図版61）。

SD2（図版7・12・14～17・19・20・22、写真図版6・8～10・13・14）

17AC・17AD・17AE・18AD・18AE・18AFに位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延び（ $N-81^{\circ}-W$ ）、17ACで北上する。SD1・SX161に切られ、SK60・87・92に切られる。切り合い関係は不明であるが、SD2-bと同時存在する一連の遺構の可能性もある。断面形は半円形である。確認面で最大幅1.40m、深さは0.38m前後と比較的深い。両端は遺構外に延びる。覆土は7層に分かれる。下層の5・6層は黒色炭化物層（薪土層）を多く含み、流路として機能していた可能性が高い。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺・長胴壺・横瓶、黒色土器無台碗、椀形滓が出土している（図版61・72）。

SD2-b（図版7・14・15・22）

18ADに位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延び（ $N-10^{\circ}-E$ ）、北端でSD2に接する。SD2との切り合い関係は不明であるが、覆土の注記はSD2と共通し、層位は3層に分かれる。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.05m、深さは0.28m前後である。土師器無台碗・長甕・小甕、須恵器大甕・長頸壺、黒色土器無台碗が出土している（図版61）。

SD25（図版7・12・14・22）

16AC・16AD・17AC・17ADに位置する平安時代の遺構である。軸方向は南西～北東に延び（ $N-53^{\circ}-E$ ）、さらに折れ曲がるような形で南東に至る。SK3、SD1に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.40m、深さは0.09m前後と浅く、覆土は1層である。後述するSD90・95と規模が類似し、平面的には途中に途切れる部分が生じるが、20×30m前後の区画溝となる。土師器無台碗が少量出土している（図版61）。

SD4（図版7・14・16・18・19・22、写真図版7・8・14）

16AD・16AE・17AD・17AEに位置する平安時代の遺構である。南北と東西に三方を区画する形で延びるが、東側については調査区外となり不明である。そのため北～南に、ほぼ真っすぐ（ $N-1^{\circ}-W$ ）に延びた部分を主軸とした。SK39・88・98、SD32を切り、近世以降の遺構であるSX161に東側を破壊されている。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.00m、深さは0.25m前後、覆土は5層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕・長頸壺・長胴壺、黒色土器無台碗が出土している（図版62）。

SD32 (図版7・14・16・17・23, 写真図版7)

16AE・17AEに位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に湾曲しながら延び(N-23°-W)、SK33・SD4に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.40m、深さは0.29m前後、覆土は3層に分かれる。軸方向と規模から、SD4・SX161を挟んで南側にあるSD176と一連の遺構である可能性が高い。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕、黒色土器無台碗が出土している(図版62)。

SD176 (図版7・14～16・23)

18AEに位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延び(N-20°-W)、SX161・183、SD181に切られる。断面形は半円形である。確認面で最大幅0.21m、深さは0.13m前後と浅い。覆土は2層に分かれる。前述したとおりSD32と一連の遺構の可能性が高い。土師器無台碗・長甕が少量出土している。

SD181 (図版7・14・16・23, 写真図版14)

18AEに位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延び(N-10°-E)。SD176を切り、SX161に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.14m、深さは0.10m前後と浅い。覆土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗が出土している(図版62)。

SD95 (図版7・12・14・15・23)

18ADに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に延び(N-52°-W)、SD2-bに切られる。SD90と南東側で接するが、切り合い関係は不明である。前述したSD25と区画溝を構成する可能性がある。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.40m、深さは0.09m前後、覆土は1層である。土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗が出土している。

SD90 (図版7・12・14～16・23)

18ADに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延び(N-49°-E)、SD2-bに切られる。SD95と南西側で接するが、切り合い関係は不明である。SD95と同じく、前述したSD25と区画溝を構成する可能性がある。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.28m、深さは0.08m前後と浅い。覆土は1層である。土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗が出土している(図版62)。

SD109 (図版7・14～16・23)

18AD・18AEに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延び(N-43°-E)。長軸が非常に短いのは、確認面の掘り過ぎのためである。Pit93に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.14m、深さは0.06m前後と浅い。土師器無台碗が出土している(図版62)。

SD96 (図版7・12・15・23, 写真図版15)

18AC・18ADに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に延び(N-62°-W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.35m、深さは0.11m前後と浅い。覆土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕・鍋が出土している(図版62)。

SD97 (図版7・12・14・15・23)

18ACに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延び(N-49°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.22m、深さは0.07m前後と浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD191 (図版7・12・13・20・23)

19AB・19ACに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延び(N-64°-E)。SK193に切れ、SD192を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅0.58m、深さは0.19m前後。覆土は1層である。土師器長甕が出土している。

SD192 (図版7・12・13・23)

19AB・19ACに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延び(N-47°-E)、SD191に切られる。断面形は半円形である。確認面で最大幅0.32m、深さは0.09m前後と浅い。覆土は1層である。遺物

は出土していない。

SD218 (図版7・12・13・15・23)

19ACに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる($N-66^{\circ}-E$)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.25m、深さは0.05m前後と浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD186 (図版7・11・13・23)

20AA・20AB・20ACに位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延び($N-90^{\circ}-E$)、西端は調査区外に至る。断面形は皿形である。確認面で最大幅1.36m、深さは0.14m前後で底面には凹凸がある。覆土は1層である。SX183と同じ方向に延びており、圃場の一部の可能性がある。遺物は出土していない。

SD190 (図版7・13・23)

20ABに位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延び($N-86^{\circ}-E$)、SD186に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.26m、深さは0.07m前後である。覆土は1層である。遺物は出土していない。

c 小土坑 (Pit)

325基確認されている。遺物が出土したのもや掘立柱建物の遺構規模は別表1に、出土遺物は別表2・4・5に示した。それ以外については省略した。平面形は大半が円形あるいは楕円形である。柱痕等の残存する木質遺物は確認されなかった。

図版7に示すとおり、Pitは中央部～北東側に偏る形で分布している。中央部は等高線の分布からも微高地状に高くなっており、SBなども集中している。

d 掘立柱建物 (SB)

SB377 (図版7・14・16・24, 写真図版15)

17AD・17AEに位置する平安時代の1間×2間の掘立柱建物である。若干、間の柱穴との距離が異なるため、1間×1間の可能性もある。主軸は $N-87^{\circ}-W$ で、長軸は北西～南東方向である。柱掘方は円形あるいは楕円形である。雨落溝等は確認されなかった。

SB378 (図版7・12・14・24, 写真図版15)

17ADに位置する平安時代の1間×2間の掘立柱建物である。主軸は $N-41^{\circ}-W$ で、長軸は北西～南東方向である。後述するSB379と方位・規模ともに同等であるため前後関係は不明であるが、どちらかが立て直した可能性がある。柱掘方は円形あるいは楕円形である。雨落溝等は確認されなかった。

SB379 (図版7・12・14・24, 写真図版15)

17ADに位置する平安時代の1間×2間の掘立柱建物である。主軸は $N-41^{\circ}-W$ で、長軸は北西～南東方向である。柱掘方は円形あるいは楕円形である。北西隅のPitや雨落溝等は確認されなかった。

SB380 (図版7・12・14・15・25, 写真図版15)

17AD・18ADに位置する平安時代の1間×2間の掘立柱建物である。主軸は $N-35^{\circ}-W$ で、長軸は北西～南東方向である。柱掘方は円形あるいは楕円形である。雨落溝等は確認されなかった。

SB381 (図版7・12・15・25, 写真図版15)

18ADに位置する平安時代の1間×2間の掘立柱建物である。主軸は $N-86^{\circ}-W$ で、長軸は西～東方向である。柱掘方は円形あるいは楕円形である。雨落溝等は確認されなかった。

SB382 (図版7・12・13・15・25, 写真図版15)

18AC・18AD・19AC・19ADに位置する平安時代の1間×1間の掘立柱建物である。主軸は $N-25^{\circ}-E$ で、長軸は北東～南西方向である。柱掘方は円形あるいは楕円形である。雨落溝等は確認されなかった。

SB383 (図版 7・12・14・26, 写真図版 15)

18AB・18ACに位置する平安時代の1間×2間の掘立柱建物である。主軸はN-53°-Wで、長軸は北西～南東方向である。柱掘方は円形あるいは楕円形である。雨落溝等は確認されなかった。

SB384 (図版 7・12・13・26, 写真図版 15)

18AB・18AC・19AB・19ACに位置する平安時代の2間×3間の掘立柱建物である。主軸はN-40°-Wで、長軸は北西～南東方向である。柱掘方は円形あるいは楕円形である。雨落溝等は確認されなかった。比較的大形の建物跡で、南東端の延長線上にPitが2～3基あり、付属施設が存在する可能性がある。

C 2 区 の 遺 構**1) 2 区 の 概 要**

2区は1区東側、道路部分の約2m幅で長さ約80mの調査区である。遺構総数は20基あり、その内訳はSK1基、SX1基、Pit17基、旧河道1基がある。出土遺物から平安時代の遺構がほとんどと考えられるが、1基ある河跡から古墳時代の土器が出土しており、上限は古墳時代にあたると思われる。遺構は南西側に集中して存在する。Pit群が23AQ・24AQに多数存在するが、建物の構成は確認できなかった。Pitについての説明は省略するが、遺物出土遺構のみ別表1・5に示した。調査面積は上端面積195.093㎡、下端面積155.646㎡である。

2) 2 区 遺 構 各 説**a 土 坑 (SK)・性 格 不 明 遺 構 (SX)****SK18** (図版 29～31, 写真図版 17)

23AQに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸0.51m、短軸0.21m、深さ0.11mを測る。覆土は1層である。周辺のPitより若干大きいのでSKとしたが、Pitが複数連結している可能性もある。遺物は出土していない。

SX1 (図版 29～31, 写真図版 16)

25AOに位置する平安時代の遺構である。平面形は不定形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸2.57m(未調査区まで)、短軸0.96m、深さ0.15mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

b 旧 河 道**河 20** (図版 29・32, 写真図版 17)

22AS・21AT・22ATに位置する古墳時代～平安時代の遺構である。川幅は17m前後である。調査中に壁面が崩落し、調査不能となったため完掘は行っていないが、深さは1m以上ある。覆土は崩落前の層序で7層に分かれる。断面の観察から、河幅が複数回にわたって変更していることが分かったが、最終的には当初の半分程度(7～8m)の幅となり、その後埋没したものと考えられる。古墳時代の土師器甕・小形壺、平安時代の土師器小甕、軽石製石製品が少量出土している(図版65・71)。

D 4 区 の 遺 構**1) 4 区 の 概 要**

4区は5区南側、道路部分の約2m幅で長さ約45mの調査区である。遺構総数は2基で、その内訳はSD1基、Pit1基である。所属時期については、包含層からの出土遺物が平安時代の土師器であることや、遺構の層位的な点からみて、平安時代だと考えられる。遺構は2基とも北西側に存在するが、Pitについては建物等を構築するものが確認できなかったため、記載を省略する。調査面積は上端面積97.424㎡、下端面積64.632㎡である。

2) 4区遺構各説

a 溝 (SD)

SD1 (図版29・32・33, 写真図版17)

05AY・06AYに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に延びる(N-48°-W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.22m、深さは0.12m前後、覆土は1層である。土師器無台碗が少量出土している。

E 3区 の 遺 構

1) 3区 の 概 要

3区は1区東側、約20×25mの範囲の調査区である。遺構総数は61基あり、その内訳はSK6基、SD17基、Pit37基、畝状遺構1基である。畝状遺構の溝のうち、遺物が出土したものについては遺構通し番号を付した。出土遺物と層位的な所見から、平安時代の遺構であると考えられる。西側には畝状遺構が集中して存在し、東側にはSDを中心とした遺構群が存在する。なお、Pitについては、建物等を構築するものが確認できなかったため記載を省略する。調査面積は上端面積493.841㎡、下端面積472.398㎡である。

2) 3区遺構各説

a 土坑 (SK)

SK6 (図版34・37・38, 写真図版18)

16AN・17ANに位置する平安時代の遺構である。畝状遺構61に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸2.03m、短軸0.65m、深さ0.32mを測る。覆土は5層に分かれる。土師器無台碗・長褒・小褒・鍋、須恵器大甕が出土している(図版66)。

SK7 (図版34・36～38, 写真図版19)

18ANに位置する平安時代の遺構である。南西隅が土側溝により破壊されている。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸2.80m、短軸1.46m、深さ0.09mを測る。覆土は2層である。土師器長褒が少量出土している(図版66)。

SK9 (図版34・36・38, 写真図版19)

17AOに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸4.33m、短軸1.20m、深さ0.06mを測る。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SK8 (図版34・37・38・41, 写真図版19)

18ANに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸1.41m(未調査区まで)、短軸1.23m、深さ0.07mを測る。覆土は2層である。南西隅が調査区外に延びる。遺物は出土していない。

SK18 (図版34・36・38, 写真図版19)

17APに位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.32m、短軸0.31m、深さ0.09mを測る。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SK19 (図版34・36・39, 写真図版20)

17APに位置する平安時代の遺構である。平面形は方形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.42m、短軸0.38m、深さ0.10mを測る。覆土は1層である。遺物は出土していない。

b 溝 (SD)

SD1 (図版34・36・37・39, 写真図版20)

17AO・18AOに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延び(N-32°-E)、90度南東方向に曲がって調査区外におよぶ。断面形は皿形である。確認面で最大幅1.82m、深さは0.11m前後と浅い。覆

土は1層である。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している。

SD11 (図版34・36・39, 写真図版20)

17AO・17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延び($N-38^{\circ}-E$)、SD10に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.56m、深さは0.03m前後と浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD10 (図版34・36・39, 写真図版20・21)

16AP・17AO・17AP・18AOに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延び($N-16^{\circ}-E$)、SD12・14・15・20・22を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅1.62m、深さは0.31m前後である。覆土は3層に分かれる。西側に段を持ち、別のSDが複合する可能性もある。土師器長甕、黒色土器無台碗、砥石が出土している(図版71)。

SD20 (図版34・36・39, 写真図版21)

16AP・17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北～南に延び($N-12^{\circ}-W$)、SD10に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.18m、深さは0.03m前後と非常に浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD21 (図版34・36・39, 写真図版21)

16AP・17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は湾曲しながら北東～南西に向い($N-16^{\circ}-E$)、北東側で調査区外に延びる。SD22に隣接するが、切り合い関係は不明で、後述するSD14とつながる可能性がある。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.46m、深さは0.10m前後である。覆土は3層に分かれる。土師器無台碗が少量出土している。

SD22 (図版34・36・39, 写真図版21)

16AP・17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は湾曲しながら北東～南西に向い($N-13^{\circ}-E$)、北東側で調査区外に延びる。SD10に切られ、SD21に隣接するが、切り合い関係は不明である。後述するSD14とつながる可能性がある。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.45m、深さは0.11m前後である。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD12 (図版34・36・39, 写真図版21)

17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に向い($N-37^{\circ}-W$)、南東側で調査区外に延びる。SD10に切られ、SD14と隣接するが切り合い関係は不明である。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.73m、深さは0.13m前後である。覆土は1層である。土師器小甕が出土している(図版66)。

SD14 (図版34・36・39, 写真図版21)

17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に向い($N-37^{\circ}-W$)、南東側で調査区外に延びる。SD10に切られ、SD12と隣接するが、切り合い関係は不明である。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.38m、深さは0.04m前後と非常に浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD15 (図版34・36・39, 写真図版21)

17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に延び($N-43^{\circ}-W$)、SD10に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.14m、深さは0.05m前後と浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD16 (図版34・36・39)

17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に向い($N-27^{\circ}-W$)、南東側で調査区外に延びる。SK19と隣接するが切り合い関係は不明である。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.46m、深さは0.05m前後と浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD17 (図版34・36・39, 写真図版21)

17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に延び($N-27^{\circ}-W$)、SD10に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.30m、深さは0.06m前後と浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD13 (図版34・36・41, 写真図版21)

17APに位置する平安時代の遺構である。軸方向は湾曲しながら北西～南東に向い($N-59^{\circ}-W$)、南東側で調査区外に延びる。SD12に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.50m、深さは0.04m前後と浅い。覆土は1層である。土師器無台椀・長甕が出土している(図版66)。

c 畝状遺構

畝状遺構61 (図版34・36・37・41, 写真図版22)

16AN・17AN・17AO・18ANに位置する平安時代の遺構である。調査区西側の 12×12 m四方程度の範囲に $N-33^{\circ}-E$ 方向に73条以上の溝が走る。西側隅の試掘構付付近では、表土掘削段階での畝状遺構検出の認識不足や攪乱等もあり、掘り過ぎて遺構の検出が出来ていない部分がある。後の断面観察によって、西側隅まで畝状遺構が延びていたと推定されたが、正確な畝溝の数は不明である。覆土は1層である。1条の幅は0.04～0.10m前後で、深さは確認面で0.03～0.04m前後ある。若干、異方向を向いている溝もあり、2単位以上に分かれる可能性もある。また、遺物が出土した遺構のみ番号を付し(SD2・4・5・23)、遺構規模と出土遺物は別表1・5に示した。これらの遺構から土師器無台椀・長甕・小甕の小破片が出土している。花粉分析(第VI章第2節参照)の結果、周辺でアブラナ科の作物の栽培が推定されている。

F 5区下層の遺構

1) 5区下層の概要

5区は磐越自動車道に隣接する調査区である。古墳時代の遺物が出土した県調査区5・13区(星野ほか1996)に隣接する。確認面はVI層下面である。遺構総数は3基あり、その内訳はSX3基である。出土遺物と層位的所見から古墳時代の遺構と考えられる。遺構は西側の調査区のみで検出された。調査面積は上端面積150.220㎡、下端面積126.181㎡である。

ここで下層遺構検出の経緯について若干記述する。5区西側の調査区で上層遺構の覆土掘り下げの際、底面、つまり古代・中世の地山面と考えていたVI層から古墳時代の土器が確認された。よってVI層上面を古墳時代の包含層とし、遺構確認を行った。しかし、古墳時代の包含層と遺構覆土が極めて似ていたため、遺構の検出は困難であった。そこで、調査区西側を全体的に掘り下げたところ、土器が集中して出土する地点が確認され、これらの地点を古墳時代の遺構として認定した。また、上層遺構底面から出土した古墳時代の土器については、古墳時代の包含層の遺物が遺構底面に表出した、あるいは当時の掘削により混入したと考えられる。

2) 5区下層遺構各説

a 性格不明遺構(SX)

SX80 (図版42～44・48・49・53, 写真図版30)

07ARに位置する古墳時代の遺構である。5区上層のSD78・79に切られる。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面で現存長軸2.36m(未調査区まで)、短軸2.32mを測る。古墳時代の土器の出土と確認面の層位がVIa層下層であるため、古墳時代の遺構と判断した。また、隣接する場所から自然木の枯木根(径0.30～0.40m)が検出されている(第VI章第3節参照)。土師器杯・高杯が出土している(図版67)。

SX81 (図版42・43, 写真図版22・23)

07AQ・07AR・08AQ・08ARに位置する古墳時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。

確認面で長軸 2.48m、短軸 1.68m、深さ 0.17m を測る。覆土中の黄灰色粘土質シルト土とVI層地山の黄灰色シルト土の区別が非常に難しく、わずかな炭化物の混入と土器の分布などから平面状況を確認した。土師器高杯・甕・小形壺が出土している（図版 67）。

SX82（図版 42・43、写真図版 22・23）

07AR に位置する古墳時代の遺構である。平面形は不定形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.34m、現存短軸 0.90m、深さ 0.11m を測る。覆土は 1 層である。土師器壺・小形壺、軽石製石製品が出土している（図版 67・71）。

G 5 区上層の遺構

1) 5 区上層の概要

5 区上層の標高は 3.5 ～ 4.0m 前後を推移している。遺構総数は 87 基あり、その内訳は SK18 基、SX3 基、SD9 基、Pit57 基である。Pit 群については掘立柱建物などが形成されなかったため、記載を省略する。出土遺物と層位的所見から古代～中世の遺構と考えられ、東側の調査区の包含層出土遺物は、古代がほとんどである。溝などの大形の遺構の中には県調査地点 5・13 区〔星野ほか 1996〕につながる遺構が存在し、県遺構番号との対応は個別に記載する。調査面積は上端面積 634.728 m²、下端面積 608.233 m² である。

2) 5 区上層遺構各説

a 土坑 (SK)・性格不明遺構 (SX)

SK86（図版 44・46・50、写真図版 23）

07AU・07AV に位置する平安時代の遺構である。北側の一部が調査区外に延びる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.55m、現存短軸 0.35m（未調査区まで）、深さ 0.07m を測る。覆土は 1 層である。遺物は出土していない。

SK87（図版 44・46・50、写真図版 23）

07AU・07AV に位置する平安時代の遺構である。一部が土側溝掘削の際に破壊されている。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.45m、現存短軸 0.40m、深さ 0.08m を測る。覆土は 1 層である。遺物は出土していない。

SK88（図版 44・46・47・50、写真図版 23）

07AV に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.98m、短軸 0.83m、深さ 0.23m を測る。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK31（図版 44・46・50、写真図版 23）

07AU に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.41m、短軸 0.37m、深さ 0.03m を測る。覆土は 1 層である。遺物は出土していない。

SK23（図版 44・46・47・50、写真図版 24）

07AV に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.62m、短軸 0.61m、深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・小甕が出土している（図版 67）。

SK71（図版 44・46・47・50、写真図版 24）

07AV に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.65m、短軸 0.40m、深さ 0.05m を測る。覆土は 1 層である。遺物は出土していない。

SK60（図版 44・46・50、写真図版 24）

06AV に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.42m、短軸 0.37m、深さ 0.03m を測る。覆土は 1 層である。遺物は出土していない。

SK69 (図版44・46・50, 写真図版24)

06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.62m、短軸0.44m、深さ0.17mを測る。覆土は3層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

SK49 (図版44・46・47・50, 写真図版25)

06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸0.52m、短軸0.44m、深さ0.21mを測る。覆土は5層に分かれる。土師器無台碗が出土している(図版67)。

SK45 (図版44・46・47・50, 写真図版25)

06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.46m、短軸0.40m、深さ0.04mを測る。覆土は1層である。土師器小甕が出土している(図版67)。

SK44 (図版44・46・47・50, 写真図版25)

06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.28m、短軸0.25m、深さ0.08mを測る。覆土は1層である。土師器無台碗が出土している。

SK70 (図版44・46・47・51, 写真図版25)

06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.65m、短軸0.59m、深さ0.07mを測る。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SK13 (図版44・47・51, 写真図版26)

06AWに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.39m、短軸0.27m、深さ0.11mを測る。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SK14 (図版44・47・51, 写真図版26)

06AWに位置する平安時代の遺構である。平面形は不定形、断面形は半円形である。確認面で長軸0.38m、短軸0.19m、深さ0.07mを測る。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SK41 (図版44・46・47・51, 写真図版26)

06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.00m、短軸0.70m、深さ0.18mを測る。覆土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗が出土している(図版67・68)。

SK61 (図版44・47・51, 写真図版26)

06AWに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.35m、短軸0.51m、深さ0.19mを測る。覆土は2層に分かれる。土師器無台碗が出土している(図版68)。

SK10 (図版44・47・51, 写真図版27)

06AWに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.35m、短軸0.18m、深さ0.06mを測る。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SK7 (図版44・47・51, 写真図版27)

06AWに位置する平安時代の遺構である。平面形は長方形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.37m、短軸0.23m、深さ0.05mを測る。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SX39 (図版44・46・47・51, 写真図版27)

06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は不定形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.57m、短軸0.37m、深さ0.03mを測る。覆土は1層である。土師器無台碗・小甕が出土している(図版68)。

SX40 (図版44・46・47・51, 写真図版27)

06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.93m、短軸0.39m、深さ0.06mを測る。覆土は1層である。土師器無台碗が出土している。

SX67 (図版44・46・51, 写真図版28)

05AV・06AU・06AVに位置する平安時代の遺構である。平面形は不定形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸3.90m(未調査区まで)、短軸3.40m、深さ0.16mを測る。覆土は2層に分かれる。4～5m範囲で窪地状になっており、自然傾斜による窪地地形の可能性もある。土師器無台椀が出土している。

b 溝 (SD)

SD37 (図版44・46・47・51, 写真図版28)

06AV・06AWに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に延びる(N-39°-W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.45m、深さは0.09m前後と浅い。覆土は1層である。土師器無台椀・小甕が出土している(図版68)。

SD46 (図版44・46・47・51, 写真図版28)

06AVに位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に延びる(N-46°-W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.56m、深さは0.04m前後と浅い。覆土は1層である。遺物は出土していない。

SD75 (図版44・48・49・51・53, 写真図版28)

07AR・07AS・08AR・08ASに位置する中世の可能性のある遺構である。軸方向は北西～南東に延びる(N-29°-W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.32m、深さは0.21m前後である。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していないが、後述するSD77・78・79と軸方向が一致するため、一連の遺構の可能性が高い。

SD1-a・1-b (図版44・47・52, 写真図版29)

05AW・05AX・06AW・06AXに位置する中世の可能性のある遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-60～72°-E)。断面形は半円形である。確認面で最大幅1.00～1.05m、深さは0.20～0.61m前後である。覆土は1-aが4層に分かれ、1-bが1層である。遺構名をSD1-a、1-bさらに1-cに分離したが、分層の結果、一連の遺構と判明した。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、軽石製石製品などが出土しており(図版68・71)、平安時代の遺構と思われたが、県調査地点13区〔星野ほか1996〕SD57・71と同一遺構であることが判明した(附図)。県教委の調査では白磁・青磁などの中世遺物が出土している。

SD2 (図版44・47・52)

05AWに位置する中世の可能性のある遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-57°-E)。SD1と隣接するが、切り合い関係は不明である。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.00m、深さは0.29m前後である。覆土は1層である。遺物は出土していないが、SD1と類似した覆土をもつため中世遺構と判断した。

SD76 (図版44・48・52・53, 写真図版29)

08AQに位置する中世の可能性のある遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-36°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.98m、深さは0.10m前後である。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していないが、県調査区13区〔星野ほか1996〕SD136と同一遺構の可能性もあり(附図)、県教委の調査では珠洲焼などの中世遺物が出土している。

SD77 (図版44・48・53, 写真図版29・30)

07AQ・07AR・08AQ・08ARに位置する中世の可能性のある遺構である。軸方向は北西～南東に延びる(N-17°-W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅7.90m、深さは0.43m前後と深い。覆土は10層に分かれ、多段状の段を持つ。銭貨(景祐元寶)・土師器無台椀・高杯・甕・小形壺、須恵器無台杯、軽石製石製品が出土している(図版67・71・72)。県調査地点13区〔星野ほか1996〕SD120と一連の遺構と考えられ(附図)、県教委の調査では珠洲焼・中世土師器などの中世遺物が出土している。

SD78・79 (図版44・48・49・53, 写真図版29・30)

07AR・08ARに位置する中世の可能性のある遺構である。軸方向は北西～南東に延びる(N-19°-W)。

SD79がSD78を切っており、SD79が同一場所に構築されたことによる掘り直した溝であろう。断面形は台形状である。確認面で最大幅3.45m、深さは0.40～0.76m前後と深い。覆土はSD78が4層、SD79が3層に分かれ、多段状の段を持つ。土師器杯・高杯・甕・小形壺・鍋、須恵器無台杯・長胴壺、珠洲焼播鉢、軽石製石製品が出土している（図版67・68・71）。県調査地点13区（星野ほか1996）SD120と一連の遺構と考えられ（附図）、県の調査では珠洲焼・中世土師器などの中世遺物が出土している。

H 6 区 の 遺 構

1) 6 区 の 概 要

6区は磐越自動車道に隣接する調査区で、前述したとおり、遺跡破壊により急遽調査を行った地点である。確認面はVI a層で、それ以降は埋め戻されているため、SD1基の平面確認で調査は終わっている。包含層から土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している（図版69）。調査面積は上端面積262.652㎡、下端面積245.112㎡である。

2) 6 区 遺 構 各 説

a 溝 (SD)

SD1（図版54、写真図版30）

04BA・05AZ・05BA・06AZ・06BAに位置する時期不明の遺構である。軸方向は北西～南東に延び（N-53°-W）、北側には不定形状に溝が構成されている。確認面で最大幅2.00m、覆土は2層に分かれており、遺物は出土していない。県調査地点13区（星野ほか1996）SD76と一連の遺構と考えられる（附図）。当時の調査でも遺物が出土していないため、時期の特定には至っていないが、覆土状況から、中世の遺構の可能性が指摘されている。

第V章 遺 物

第1節 概 要

沖ノ羽遺跡からは、古墳時代、古代（平安時代）、中世（室町時代）の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）に190箱出土した。遺物の内容は古墳時代の土器が5箱、平安時代の土器が174箱、中世の土器が1箱、石製品と金属製品・銭貨・鍛冶関連遺物10箱（搬入碑を含む）である。

第2節 古墳時代の遺物

古墳時代の土師器が2区と5区から出土した。2区では河20から9点出土し、重量80gであった。5区では調査区西側から出土し、遺構出土土器の総点数は1,061点、総重量は5,374gである。包含層からは総点数147点、重量で1,072g出土した。5区包含層から出土した土器の重量を小グリッドごとに合計し、図版40に示した。07AR1周辺で遺物量が多くなっており、遺構もその周辺で検出している。5区上層遺構（SD77等）からも古墳時代の土器が出土しているが、これは下層にあった古墳時代の包含層の土器が表出したものと考えられる。

A 土器の分類と記述（第6図）

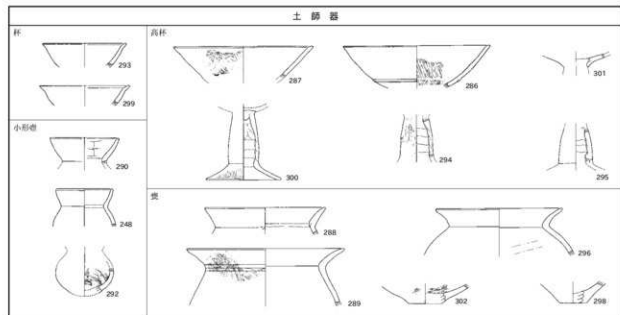
記述は最初に土器分類を行い、次に遺構別・包含層出土の順に記した。出土量が少ないため、細分類は行っていない。

成形・調整の表現・名称は次のように記述した。

1. 「ナデ」は指などにより器面をなでたもので、「ヨコナデ」は回転を用いてなでたものとした。
2. 「ミガキ」は幅の狭い工具で器面を磨くものである。
3. 「ハケメ」は板の小口面を使い土器の表面を調整するもので、器面には平行する条線が残される〔横山1978〕。これは調整具の使用頻度が高いためと考えられている。あるいは、櫛歯状工具を使用したとも考えられる。
4. 板状工具の幅のみ残り、ハケメのような条線は認められないものを「ヘラナデ」とした。ハケメと同じ工具で使用頻度が少なく木目の凹凸が明瞭でないもの、または作業面を木目に平行で切ったものを想定している〔春日1994〕。

次に器種分類を行う。器種は杯、高杯、甕、小形壺がある。詳細な計測値は別表2に示した。

- 杯 いずれも破片資料である。口縁に向かい内湾ぎみに伸び、口縁端部付近で外反する。
- 高 杯 完形のものはなく、いずれも杯部破片か脚部の破片である。杯部は杯底部と口縁部の境に稜を持つ。脚部は中位がややふくらみ、裾部は屈折して広がる。
- 甕 完形のものはなく、破片資料である。口縁部は「く」の字を呈する。体部はやや肩の張るものと、なで肩になるものがある。底部は体部にかけて立ち上がりか緩やかなものと急なものがある。
- 小形壺 完形のものはなく、いずれも破片資料である。口縁部は内湾ぎみに伸びる。体部は1点のみである。



第6図 沖ノ羽遺跡の古墳時代土器分類図 (S-1/6)

B 出土土器等各説

1) 2区出土土器

a 遺構出土土器

河20 (図版65, 写真図版40)

甕・小形壺(248)が出土している。小形壺248は口縁部から体部上半にかけての破片である。口縁部は内湾ぎみに伸びる。器面調整は磨耗しているが、口縁部内面にヨコナデを観察でき、そのほかはナデで調整している。

2) 5区出土土器

a 遺構出土土器

SX81 (図版67, 写真図版33・41)

高杯(286・287)・甕(288・289)・小形壺(290・291)が出土している。高杯286は杯部の破片資料である。杯底部と口縁部の境に突帯を貼り付けて稜を形成している。口縁部は内湾ぎみに開き、口縁端部で緩く外反する。外面調整は磨耗により不明瞭であるが、ミガキがわずかに確認できる。内面も不明瞭であるが、ミガキがかすかに観察できる。SD77出土の遺物と接合関係にある。287も高杯杯部の口縁部破片である。杯底部と口縁部の境に稜が形成されていたと思われる。口縁部は直線的に開き、口縁端部で緩く外反する。内面調整は磨耗により不明であるが、外面は口縁端部がヨコナデ、杯部はハケメ後にミガキが施されている。

甕288は口縁部から体部にかけての破片である。口縁部は「く」の字に外反し、端部は丸く収まる。内面に粘土紐痕があり、器面調整は口縁部が内外面ともヨコナデで、頸部外面の一部にハケメが確認できる。289は口縁部から体部上半にかけての破片である。口縁部は288よりも長く、「く」の字に外反し端部は丸く収まる。体部は肩の張りが弱い。内面調整は磨耗により不明であるが、外面は口縁部がヨコナデ、頸部がハケメである。SX82と接合関係にある。小形壺290・291はともに口縁部の破片であるが、290は体部がわずかに残っている。どちらも口縁部は内湾ぎみに開く。2区の248同様に口縁部は長くなるが、248よりも全体が多少大きくなる。290は口縁部内面にヘラナデが認められ、外面調整は口縁部にヨコナデ、頸部に強いナデが観察できる。291は内面口縁部にヘラナデが観察でき、外面は口縁端部にヨコナデ、頸部にナデが施されている。

SX82 (図版 67, 写真図版 41)

甕・小形壺 (292) が出土している。小形壺 292 は体部の破片である。口縁部から体部上半と底部が欠けているため全形は不明であるが、SX81 や 2 区河 20 出土の小形壺と同様の口縁部が付くと思われる。外面調整は磨耗により不明瞭であるが、ナデを施していると思われる。内面にはハケメが確認できる。

SX80 (図版 67, 写真図版 41)

杯 (293) ・高杯が出土している。杯 293 は口縁部から体部にかけての破片である。底部が欠けているが、口縁に向かい内湾ぎみに伸び、口縁端部付近で外反する。内外面とも磨耗により調整は不明である。

SD77 (図版 67, 写真図版 41)

高杯 (294・295) ・甕 (296～298) ・小形壺が出土している。高杯 294・295 はともに脚上部の破片である。いずれも中位がややふくらむ。294 は脚部が屈折して広がるものと考えられ、295 も似たような形になろう。両者とも、粘土組痕が確認できる。294 は器面が磨耗しているため不明瞭ではあるが、外面にミガキが確認できる。295 も同様な調整であると考えられる。甕 296 は口縁部から体部上半の破片である。口縁部は「く」の字に外反し、口縁部半ば程から少し内湾ぎみになる。端部は丸く収まる。調整は口縁端部の外面にヨコナデが施されている。体部内面には不明瞭だがヘラナデが観察できる。297 は口縁部から体部にかけての破片である。口縁部は「く」の字に外反し、端部でさらに外反する。内外面とも調整観察は困難であるが、体部外面に不明瞭ながらハケメが確認できる。298 は底部のみの破片で、SX82 と接合関係にある。内外面とも調整は磨耗により不明である。中世の可能性のある遺構から出土しているが、これらの遺物は古墳時代の包含層からの混入物と考えられる。

SD78 (図版 67, 写真図版 33・41)

杯 (299)、高杯 (300・301)、甕 (302) ・小形壺が出土している。杯 299 は口縁部から体部にかけての破片である。SX80 の 293 と似たような形であるが、293 より外側に傾く。また、口縁端部付近の外反が強い。内外面とも磨耗により調整は不明である。高杯 300 は脚部のみの破片であるが、脚部まで残っている。中位にふくらみを持ち、裾部にかけて屈折する脚部である。SD77 出土の高杯も似たものになろう。外面調整は磨耗しているが、不明瞭ながら裾部にミガキが確認できる。内面は粘土組痕が確認でき、指頭圧痕・ナデが観察できる。301 は高杯の杯底部の破片である。調整は内外面とも磨耗により観察できない。甕 302 は底部付近の破片である。SD77 出土の 298 に比べ底部がやや大きく、傾きも外側に開くものと思われる。内外面とも調整はハケメである。中世の可能性のある遺構から出土しているが、これらの遺物は古墳時代の包含層からの混入物と考えられる。

SD79 (図版 67, 写真図版 41)

高杯・甕 (303) が出土している。甕 303 は口縁部の破片である。「く」の字に外反し、端部は丸く収まる。内面調整は磨耗により不明であるが、粘土組痕が確認できる。外面調整はヨコナデ後、ハケメが施されている。中世の可能性のある遺構から出土しているが、これらの遺物は古墳時代の包含層からの混入物と考えられる。

b 包含層下層出土土器 (図版 67, 写真図版 41)

甕 1 点 (304) を図化した。口縁部の破片である。「く」の字に外反し、端部は丸く収まる。外面の口縁部にはヨコナデが認められる。内面には不明瞭ながらハケメが確認できる。

第 3 節 平安時代の遺物

平安時代の土器は土師器を主体に、須恵器・黒色土器・施軸陶器がある。遺跡全体の総重量比は土師器 84.88 % (73,263g) ・須恵器 13.09 % (11,302g) ・黒色土器 2.03 % (1,752g)、総点数比は土師器 95.52 % (20,931 点) ・須恵器 2.59 % (568 点) ・黒色土器 1.89 % (413 点) である。施軸陶器は極少量しか出土していな

いため、比率には加えていない。

各区域に見ていくと、1・3・5区では土師器・須恵器・黒色土器が出土しており、2・4区では土師器と須恵器が出土している。6区からは土師器のみが出土した。

1区から出土した土器の重量比は、土師器82.14% (56,469g)・須恵器15.60% (10,724g)・黒色土器2.26% (1,555g)、点数比は土師器94.34% (15,408点)・須恵器3.34% (545点)・黒色土器2.33% (380点)である。

3区から出土した土器の重量比は、土師器97.87% (4,311g)・須恵器2.00% (88g)・黒色土器0.14% (6g)、点数比は土師器99.54% (1,953点)・須恵器0.31% (6点)・黒色土器0.15% (3点)である。

5区から出土した土器の重量比は、土師器94.00% (9,912g)・須恵器4.19% (442g)・黒色土器1.81% (191g)、点数比は土師器98.57% (2,899点)・須恵器0.41% (12点)・黒色土器1.02% (30点)である。なお、2・4・6区は出土量が少なく、土師器・須恵器・黒色土器の3種が揃っていないため、省略する。

各区の比率を見ると、重量比・点数比ともに土師器の量が卓越している。また、後述する遺構別器種構成率(別表5参照)でも土師器食膳具の比率が高く、特徴的である。

包含層出土遺物の出土状況を見ると、平安時代の遺物はV層からの出土が大半を占める。出土した遺物の重量を小グリッドごとに合計し、各区域に提示した。それぞれ1区を図版8に、2・4区を図版27に、3区を図版35に、5区を図版40に示した。

その結果、1区では17AEグリッド周辺、2区では24AQグリッド周辺、3区では18AOグリッド周辺、5区では06AWグリッド周辺で遺物量が多くなっている。その集中的な分布域は、遺構の集中度と相関的である。4・6区は遺物量も少なく、また集中して出土する状況も見られなかった。

本遺跡で出土した平安時代の土器類は後述するが、10世紀代の年代観が想定される。

A 土器の分類と記述 (第7～9図)

記述は最初に土器分類を土師器・黒色土器・須恵器・施軸陶器の順に行い、次に各区の遺構・包含層出土土器について記した。

成形・調整の表現・名称は、山三賀Ⅱ遺跡(坂井ほか1989)の記載に従った。

1. 「ロクロナデ」はロクロ回転を利用したナデで、そのほかのものは「ナデ」とした。
2. 回転を利用した削りを「ケズリ」とし、利用しないものは「ヘラケズリ」とした。
3. 黒色土器無台碗・土師器無台碗などに見られるヘラ磨きは「ミガキ」とした。
4. 須恵器大甕・横瓶、土師器長甕・鍋などの外面に見られる印板工具を用いた成形痕を「タタキメ」とし、内面の当て工具を用いての成形痕を「当て具痕」とした。これらの細分類は、内堀信雄氏の分類(内堀1988)、柿田祐司氏の分類(柿田2001)を基本に第7図のようにした。

このほか、須恵器の胎土分類については山三賀Ⅱ遺跡(坂井ほか1989)、古代阿賀北地域の土器様相(春日ほか2004)などを参考に、次のA～D群に分類した。

A群：胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、小礫が露出する。笹神丘陵の笹神・真木山窯跡群を中心とする阿賀北地方の須恵器と推定される一群である。

B群：胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しが見られる。佐渡の小泊窯跡群の須恵器と推定される一群である。

C群：胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。新津丘陵窯跡群の須恵器と推定される。

D群：A～C群以外のものを一括した。高田平野西部丘陵産と推定されるものも含む。

土師器の胎土分類は多様で分類を行っていない。また、近年の調査成果(渡邊ほか2001)で還元炎焼成の須恵

器と酸化炭焼成の須恵器の区別を行い報告しているが、沖ノ羽遺跡出土の須恵器は全て還元炭焼成である。このほか、詳細な計測値は別表2に示した。

次に本遺跡の特徴を整理するため器種分類を行い、器種ごとに説明を行う。以下、土師器・黒色土器・須恵器・施軸陶器の順で概説する。

土師器 (第8図)

大きく食膳具と煮炊具がある。食膳具には無台碗・有台皿がある。煮炊具には長甕・小甕・鍋がある。

無台碗 出土量が非常に多い。製作手法の違いにより大きく二分した。底部が糸切り後無調整のものを無台碗a、体部・底部に再調整を行うものを無台碗bとした。無台碗bの再調整としては、体部にミガキやケズリが施され、底部には糸切り後ケズリで再調整されるものが多い。なお細分類は比較のため両者共通とした。

分類は口径(A～C)と径高指数(1～3)で細分した。口径は12.5cm未満をA類、12.5～14.5cm未満をB類、14.5cm以上をC類とした。径高指数の分類は30以下が1類、31～35が2類、36以上が3類である。

有台皿 底部資料で口縁部形態は不明である。貼り付け輪高台を持つ。

長甕 体部上半をロクロで成形し、下半はタタキ成形で製作される。口縁部の形態により3種類に大別した。A類は口縁端部が受け口状になる。B類は口縁部が頸部で屈曲し、口縁端部が上方に伸びるものとし、端部の形態によりさらに細分した。口縁部外面が凹みながら上方に伸び、丸く収まるものをB1類、上方に伸びた口縁端部が強く摘まれるものをB2類、端部が上方に伸び、口縁部外面に面を持つものをB3類とした。C類は口縁端部が屈曲せず、そのまま伸びるものとし、さらに口縁端部が丸く収まるものをC1類、端部に面を持つものをC2類とした。

小甕 ロクロで成形され、平底の底部を持つ小形の甕である。長甕と共通の分類を用いた。A類、B1～3類が確認される。

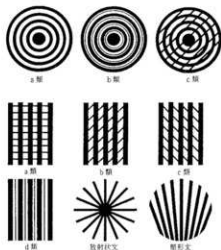
鍋 長甕と同様の成形技法で作られ、大きく開く体部を持つ。長甕と共通の分類を用いた。A類、B1～3類、C1・2類が確認される。また、体部から口縁部にかけて屈曲せずそのまま伸び、口縁端部に面を持つものをD類とした。

黒色土器 (第8図)

食膳具の無台碗・有台皿が出土している。主に内側を黒化処理した「内黒」の土器である。

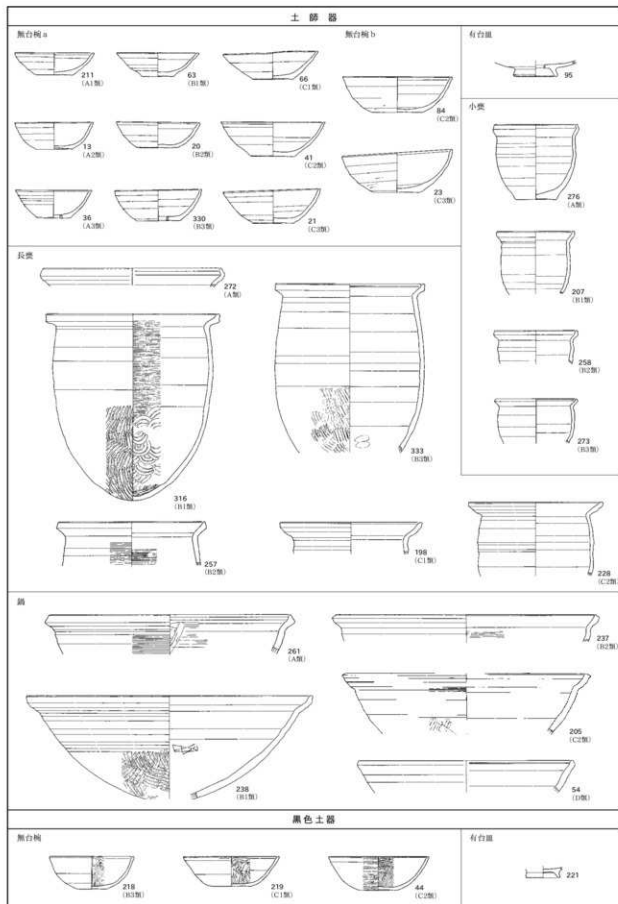
無台碗 主に底部は糸切り後ケズリ、体部外面下半にもケズリが施されている。体部外面にはミガキが施され、口縁端部は外面も磨かれるものが多い。分類は土師器無台碗同様、口径と径高指数により行った。

有台皿 高台部分のみ出土した。貼り付け輪高台で、体部は大きく開くと思われる。

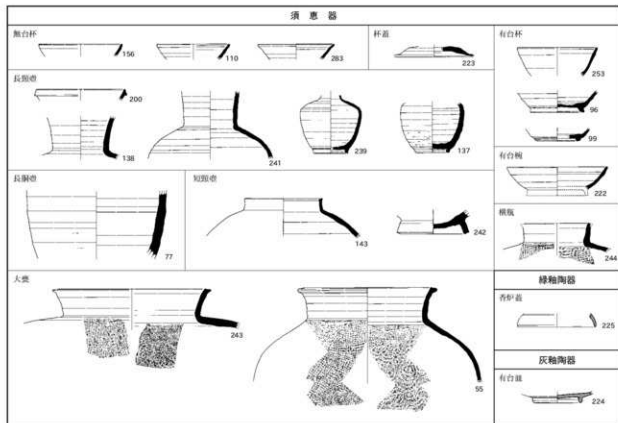


第7図 タタキメ・当て具痕の細分類図(柿田2001をもとに再トレース)

名称	分類基準	番号
同心円文a類	木目のみられないもの	D a
同心円文b類	年輪状の木目のみられるもの	D b
同心円文c類	短目状の木目のみられるもの	D c
平行線文a類	木目が彫り込みに対し直交するもの	H a
平行線文b類	木目が右上がりに斜交するもの	H b
平行線文c類	木目が左上がりに斜交するもの	H c
平行線文d類	木目が平行するもの	H d



第8図 沖ノ羽遺跡土師器・黒色土器分類図 (S-1/6)



第9図 沖ノ羽遺跡須恵器・施釉陶器分類図(S=1/6)

須恵器(第9図)

食膳具と貯蔵具がある。食膳具には無台杯・有台杯・有台椀・杯蓋がある。貯蔵具には大甕・長頸壺・短頸壺・長胴壺・横瓶がある。出土数は少なく、ほとんどが破片資料で全形がわかるものは出土していない。

無台杯 口縁端部と底部の破片が少量出土している。全形がわかる資料がないため、細分は行っていない。

有台杯 少量出土している。高台はすべて貼り付け輪高台である。口縁部破片であっても、傾き等から有台杯とした資料もある。

有台椀 内湾しながら緩やかに立ち上がる口縁部を持つ。体部下端にわずかに高台が見える。

杯蓋 有台杯に伴う蓋である。小破片のみ出土した。紐は欠落している。

大甕 大形で丸底の甕を一括した。破片数は多いが、全形がわかる資料は出土していない。

長頸壺 長い頸部を持つ瓶あるいは壺を一括した。底部には高台が付く。小形品も出土している。

短頸壺 短い口縁が体部から直立して立ち上がり、球胴の体部を持つ。底部には内端接地の高台が付く。

長胴壺 口縁部形態が不明な壺で、長い体部となるものを一括した。すべて体部破片である。

横瓶 依仗の体部に、直立する短い口縁部が付く。破片資料のみ出土した。

施釉陶器(第9図)

灰釉陶器と緑釉陶器が出土した。いずれも包含層からの出土である。

灰釉陶器 器種は有台皿のみである。貼り付け輪高台を持つ。体部は底部から大きく開いて立ち上がると思われるが、底部破片のため全体像は不明である。

緑釉陶器 器種は香炉蓋のみである。口縁端部と体部に沈線がめぐる。天井部に透かしが入る場合もあるが、口縁部破片のため全形は不明である。

B 出土土器等各説

1) 1区出土土器

a 遺構出土土器

SK3 (図版 55、写真図版 34)

土師器無台碗が5点出土した。うち土師器無台碗 a の底部資料1点(1)を図化した。底部系切りの回転方向は右方向である。

SK38 (図版 55、写真図版 34)

土師器無台碗 a (2・3)・小甕(4)、須恵器長頸壺が出土した。土師器無台碗 a は2がA類、3がB類である。4は小甕で、底部から体部にかけての資料である。底部回転系切りは右方向であった。1区 Pit100 と接合関係にある。また、1区包含層出土の233と同一個体だと思われたが、接合点がなかったため別々に図化した。

SK36 (図版 55、写真図版 34)

土師器無台碗・小甕、須恵器無台杯が出土した。うち土師器無台碗 a 1点(5)を図化した。A類に分類される。

SK37 (図版 55、写真図版 34)

土師器無台碗・長甕・小甕が出土した。うち小甕1点(6)を図化した。B2類に分類される。

SK33 (図版 55、写真図版 34)

土師器無台碗 a (7)・小甕(8)・長甕(9)・鍋、須恵器大甕が出土した。土師器無台碗 a 7・小甕8はともに底部資料である。9の長甕はB2類に分類した。

SK39 (図版 55～57、写真図版 32～35)

土師器無台碗 a (10～22・24～38・40～42)・無台碗 b (23・39)・長甕(48～50)・小甕(51～53)・鍋(54)、黒色土器無台碗(43～47)、須恵器無台杯・大甕(55～57)・長頸壺が出土した。土師器無台碗 a は10・12～15・17・22・24・25・28・29・31がA2類、36がA3類、33がB1類、11・20・27・34・37がB2類、30・40・41がC2類、21がC3類である。42は底部のみの資料でSK51と接合関係にある。底部切り離し調整はすべて系切りで、回転方向は右方向であった。また、口縁部のみの資料は26・32をA類、16・18・19・35をB類、38をC類とした。30の体部外面には墨書が見られたが、破片部分に書かれていたため一部しか残っておらず、文字の判読はできなかった。無台碗 b は23がC3類、39は口縁部のみの資料でC類とした。23は底部系切り後、幅広のヘラ状工具で削っている。23と39の体部外面下半にはケズリが施されている。黒色土器無台碗は44がC2類である。44以外は口縁部資料で、46をB類、43・45をC類とした。47も口縁部資料であるが、残存率が低く口径での分類はできなかった。

土師器長甕は48・49がB2類、50がB3類である。50は体部外面に縦方向のヘラケズリが施される。小甕は51がA類、52がB1類、53がB3類である。51はSK88と接合関係を持つ。鍋54は屈曲する頸部がなく、口縁端部に面を持つD類である。端部はやや肥厚する。須恵器大甕55・56は口縁部から体部にかけての資料で、口縁端部は肥厚する形態である。ともに胎土はB群である。55はSK51と接合関係にある。また、接合はしていないが、多くの遺構から55と同一と思われる破片が出土している。55・56ともに外面に平行タタキメa類、内面に同心円当て具痕c類が残る。57は口縁端部の破片資料で、端部外面に断面半円の突帯が2条めぐる。胎土はC群である。

SK51 (図版 57・58、写真図版 32・35・36)

土師器無台碗 a (58～67)・長甕(70・71)・小甕・鍋(72・73)、黒色土器無台碗(68・69)、須恵器無台杯・大甕(74・75)・短頸壺・長胴壺(77)・横瓶(76)が出土した。土師器無台碗 a は59・62がA2類、60・63・67がB1類、58がB2類、66がC1類である。底部切り離し調整は系切りで、回転方向は右方向である。そのほかの口縁部資料は64・65をA類、61をC類とした。59はSD4と接合関係にある。黒色土器無台碗

は口縁部資料で68をB類、69をC類とした。68はSK39と接合関係にある。土師器長甕は70がB1類、71は体部資料である。71は体部外面の調整が平行タタキメa類のほかにヘラケズリも施され、内面には平行当て具痕b類が残る。また、SK33と接合関係にある。鍋は72がB1類、73がB3類である。72は外面に平行タタキメa類がわずかに見られる。須恵器大甕74・75はともに体部資料である。74は外面に平行タタキメc類、内面に同心円当て具痕c類が残る。また、SK33と接合関係にある。75は外面に平行タタキメa類、内面には平行当て具痕d類が見られるが、当て具痕の一部がヘラ状工具でナデ消されている。横瓶76も体部資料である。外面には平行タタキメc類が残る。77は壺の体部資料であるが、口縁部形態等が不明なため、長胴壺の体部とした。体部外面にはケズリが施される。74～76の胎土はすべてB群である。

SK86 (図版59, 写真図版36)

土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土し、うち土師器無台碗a 1点(78)を図化した。B1類に分類される。底部糸切りは左方向である。また、底部外面にヘラ記号「/」が施されている。

SK88 (図版59, 写真図版32・36・37)

土師器無台碗a (79～83・85～90・92)・無台碗b (84・91)・有台皿 (95)・長甕・小甕 (97・98)・鍋、黒色土器無台碗 (93・94)、須恵器有台杯 (96)・大甕が出土した。土師器無台碗aは88がB1類、79・81・83・85・90がB2類、80がC1類、86・89がC2類である。底部切り離し調整は糸切りで、回転方向はすべて右方向である。口縁部資料は82をB類、87・92をC類とした。無台碗bは84がC2類、91は口縁部のみの資料でC類に分類した。84は体部外面下半と底部にケズリを施している。91は外面上半にミガキ、下半にケズリが施される。内面も磨かれている可能性があるが、磨耗していたため確認できなかった。また、SK39と接合関係にある。95は貼り付け輪高台を持つ有台皿で、SD1と接合関係にある。黒色土器無台碗は93がA類、94がB類とした。96は須恵器有台杯で貼り付け輪高台を持つ。胎土はB群である。土師器小甕は97が受け口状口縁を持つA類、98は底部資料である。

SK107 (図版59, 写真図版37)

土師器無台碗・長甕・小甕、須恵器有台杯が出土した。うち、須恵器有台杯1点(99)を図化した。高台は貼り付け輪高台である。胎土はB群である。

SK182 (図版59, 写真図版37)

土師器無台碗a (100)・長甕が少量出土した。土師器無台碗a 100は、B2類に分類される。

SK179 (図版59, 写真図版37)

土師器無台碗a (101～103)・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗 (104)、須恵器無台杯 (105) が出土した。土師器無台碗aは101・102をB類とした。103は底部資料である。黒色土器無台碗104も底部資料である。外面にミガキとケズリが施される。105は胎土B群の須恵器無台杯である。

SK180 (図版59, 写真図版37)

土師器無台碗a (106・107)・長甕が出土した。土師器無台碗a 106・107はどちらもB類に分類される。

SK89 (図版60, 写真図版37)

土師器無台碗・長甕・小甕が少量出土し、このうち土師器無台碗a 1点(108)を図化した。底部資料である。

SK87 (図版60, 写真図版33・37)

土師器無台碗a (109)・鍋 (111)、須恵器無台杯 (110) が出土した。土師器無台碗a 109はB類に分類される。鍋111はB1類である。体部外面には平行タタキメa類が見られ、その上からヘラケズリが施されている。SD2、SK89と接合関係にあり、SK33・86、SD32出土の鍋に同一個体が確認された。須恵器無台杯110は胎土B群の佐渡小泊産であろう。

SK92 (図版60, 写真図版37)

土師器無台碗a (112～115)・長甕・小甕・鍋 (116)、須恵器大甕 (117)・長頸壺・横瓶が出土した。土師器

無台椀 a は 112 が B2 類、113 が口縁部資料で A 類に分類した。114・115 は底部資料である。鍋 116 は破片資料で口径は不明であるが、口縁端部の形態等から B3 類とした。117 は須恵器大甕の体部破片資料である。外面に平行タタキメ c 類、内面に同心円当て具痕 a 類が残る。胎土は B 群である。

SK194 (図版 60, 写真図版 37)

土師器無台椀 a (118・119)・長甕・鍋 (120)、黒色土器無台椀が出土した。土師器無台椀 a はともに口縁部破片で、118 は B 類、119 は A 類に分類される。鍋 120 は B1 類である。

SK200 (図版 60, 写真図版 37)

土師器無台椀 a (122・123)・無台椀 b (121) が出土した。土師器無台椀 a 122・123 は口縁部破片資料で B 類に分類される。無台椀 b 121 は C2 類で、体部外面下半と底部にケズリが施される。このほかに破片資料のため図化はしていないが、小甕が 1 点出土している。

SK189 (図版 60, 写真図版 37)

土師器無台椀 a (124・125)・長甕・小甕 (126)・鍋 (127)、須恵器大甕・横瓶 (128) が出土した。土師器無台椀 a 124・125 はともに口縁部資料で、A 類に分類される。126 は小甕の A 類である。127 は口縁端部のみの破片であるが、口径から鍋とし、B1 類に分類した。128 は須恵器横瓶の体部破片である。体部外面の側端部は平行タタキメ c 類で整形され、内面には閉塞痕も確認できる。胎土は B 群である。

SX106 (図版 60, 写真図版 37)

土師器無台椀、須恵器大甕が少量出土した。うち土師器無台椀 a の口縁部資料 1 点 (129) を図化した。B 類に分類される。

SX161 (図版 60, 写真図版 37)

土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長頸壺が出土しているが、ほとんどが小破片であったため、土師器無台椀 a 1 点のみ (130) を図化した。底部の破片資料である。

SX183 (図版 60・61, 写真図版 33・38)

土師器無台椀 a (131～134)・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯 (135)・大甕 (136)・長頸壺 (137・138)・長胴壺が出土した。土師器無台椀 a は 132 が A2 類、131・134 が口縁部資料で B 類に分類した。133 は底部破片である。135 は須恵器無台杯の口縁端部破片で、胎土 B 群の佐渡小泊産であろう。136 は大甕の体部破片である。外面に平行タタキメ b 類、内面に同心円当て具痕 b 類を残す。胎土は B 群であった。137 は口縁部形態が不明であるが、小形長頸壺の体部資料と考えられる。底径が 5.2cm と非常に小さく、体部外面下半にケズリを施す。底部はヘラ切り後、なでられている。胎土 A 群の阿賀北産と考えられる。138 も長頸壺で、頸部付近の破片資料である。胎土は C 群である。

SD1 (図版 61, 写真図版 38)

土師器無台椀 a (139～141)・有台皿・長甕・小甕 (142)、黒色土器無台椀、須恵器大甕・短頸壺 (143) が出土した。土師器無台椀 a はいずれも口縁部資料で、140・141 を A 類、139 を B 類とした。小甕 142 は体部外面下半にケズリを施す。143 は須恵器短頸壺で肩部の張りが弱く、口縁端部が肥厚する。胎土 C 群の新津丘陵産と考えられる。

SD2 (図版 61, 写真図版 38)

土師器無台椀 a (144～155)・長甕 (158)・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯 (156)・有台杯 (157)・大甕・長頸壺・長胴壺・横瓶 (159・160) が出土した。土師器無台椀 a は 147 が B1 類である。そのほかはすべて口縁部資料で、148・151・153 は A 類、144～146・149・150・152・154・155 は B 類とした。須恵器無台杯 156 は胎土 B 群の佐渡小泊産と考えられる。157 は口縁部のみの破片だが、傾き・形態等から有台杯とした。これも胎土は B 群である。土師器長甕 158 は B1 類とした。159 は須恵器横瓶の口縁部である。端部は外側に肥厚し、外面に段を作る。160 は横瓶の体部破片である。外面に平行タタキメ b 類、内面

は平行当て具痕 a 類を残す。159・160 とともに胎土 B 群の佐渡小泊産であろう。

SD2 - b (図版 61, 写真図版 38)

土師器無台碗 a (161~163)・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器大甕・長頸壺 (164) が出土した。土師器無台碗 a はいずれも口縁部資料で、163 は A 類、161・162 は B 類とした。164 は須恵器長頸壺の頸部の破片である。胎土 B 群の佐渡小泊産と考えられる。

SD25 (図版 61, 写真図版 38)

土師器無台碗が 9 点出土した。うち土師器無台碗 a 2 点 (165・166) を図化した。165 は口縁部破片で B 類とした。166 は底部資料である。

SD4 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗 a (167~172)・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・大甕・長頸壺 (173)・長胴壺が出土した。土師器無台碗 a は 167 が A 類、168・169 が B 類である。170~172 は底部資料である。173 は須恵器長頸壺の破片資料である。高台部分のみの資料であるが、形態等から長頸壺とした。SX161 と接合関係にある。胎土は C 群である。

SD32 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗 a (174~176)・長甕 (178)・小甕・鍋 (179・180)、黒色土器無台碗 (177)、須恵器無台杯・大甕が出土した。土師器無台碗 a は 174・175 が B 類、176 は底部資料である。黒色土器無台碗 177 は口縁部破片で A 類とした。内面のミガキは、削られているため確認できなかった。土師器長甕 178 は口縁部端部のみの資料であるが、形態から B2 類とした。鍋は 179 が B1 類、180 が C2 類である。180 は SK33 と接合関係にある。

SD181 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗が出土し、うち土師器無台碗 a 1 点 (181) を図化した。口縁部資料で、A 類に分類される。

SD90 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗が出土し、うち土師器無台碗 a 1 点 (182) を図化した。底部破片である。

SD109 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗が 4 点出土し、うち土師器無台碗 a の口縁部資料 1 点 (183) を図化した。B 類に分類される。

SD96 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗 a (185)・無台碗 b (184)・長甕 (186)・鍋 (187) が出土した。土師器無台碗 a 185 は口縁部資料で B 類とした。無台碗 b 184 は口縁部外面にミガキ、体部下半と底部にはケズリを施す。C2 類に分類される。長甕 186、鍋 187 はともに B1 類に分類される。鍋 187 は外面に平行タタキメ d 類が残る。

Pit46 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗 2 点、黒色土器無台碗 1 点が出土し、うち黒色土器無台碗 1 点 (188) を図化した。口縁部資料で、B 類に分類される。

Pit82 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗 2 点・長甕 1 点が出土し、うち土師器無台碗 a 1 点 (189) を図化した。底部破片である。

Pit93 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗 1 点・長甕 1 点が出土し、うち土師器無台碗 a 1 点 (190) を図化した。口縁部資料であるが、残存率が低く、分類はできなかった。

Pit99 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗 a 1 点 (191) が出土した。底部資料である。

Pit100 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗・小甕、黒色土器無台碗が出土し、うち黒色土器無台碗 1 点 (192) を図化した。C 類に分類さ

れる。器壁がやや厚く、口縁端部は肥厚する。

Pit101 (図版 62, 写真図版 38)

土師器無台碗、黒色土器無台碗が出土し、うち土師器無台碗 a 1 点 (193) を図化した。B1 類に分類される。

Pit184 (図版 62・63, 写真図版 38)

土師器無台碗・長甕 (194)・鍋 (195)、黒色土器無台碗、須恵器長胴壺 (196) が出土した。土師器長甕 194・鍋 195 はともに B2 類に分類される。196 は須恵器壺の体部資料であるが、口縁部形態等が不明なため長胴壺とした。胎土は B 群である。

Pit198 (図版 63, 写真図版 38・39)

土師器無台碗 a (197)・長甕 (198)、黒色土器無台碗が出土した。土師器無台碗 a 197 は底部資料である。長甕 198 は C1 類とした。

Pit199 (図版 63, 写真図版 38)

土師器無台碗が 4 点出土した。うち土師器無台碗 a の底部破片 1 点 (199) を図化した。底部系切り方向は破片のため不明である。

Pit203 (図版 63, 写真図版 38)

土師器無台碗、須恵器長頸壺 (200) が出土した。200 は須恵器長頸壺の口縁端部破片である。胎土は B 群である。

Pit206 (図版 63, 写真図版 39)

土師器長甕が 1 点 (201) 出土した。B3 類に分類される。

Pit207 (図版 63, 写真図版 39)

土師器無台碗が 2 点出土した。うち土師器無台碗 a の底部破片 1 点 (202) を図化した。底部系切りは右回転である。

Pit210 (図版 63, 写真図版 39)

土師器無台碗 a (203・204)・鍋 (205)、黒色土器無台碗が出土した。土師器無台碗 a 203・204 はいずれも底部破片である。鍋 205 は C2 類に分類される。外面に平行タタキメ a 類が残る。また、SK33・SD32 と接合関係にあり、SD2 に同一個体が存在する。

Pit212 (図版 63, 写真図版 39)

土師器無台碗 a (206) が 1 点出土した。口縁部資料で A 類に分類される。

Pit213 (図版 63, 写真図版 33)

土師器小甕 (207) が出土した。口縁部から体部にかけての資料で、B1 類に分類される。

Pit216 (図版 63, 写真図版 39)

土師器無台碗 a (208)、黒色土器無台碗 (209) が出土した。いずれも口縁部資料で、208 は A 類、209 は B 類とした。

b 包含層出土土器 (図版 63～65, 写真図版 33・39・40)

1 区包含層出土遺物のうち、完形に近い資料や器種的に特筆される資料を中心に選択して図化した。掲載を行った。土師器無台碗 a (210～217)・長甕 (226～232)・小甕 (233～235)・鍋 (236～238)、黒色土器無台碗 (218～220)・有台皿 (221)、須恵器有台碗 (222)・杯蓋 (223)・大甕 (243)・長頸壺 (239～241)・短頸壺 (242)・横瓶 (244)、灰軸陶器有台皿 (224)、緑軸陶器香炉蓋 (225)、中世土師器皿 (245)、羽口 (246)、紡錘車 (247) を図化した。

土師器無台碗 a は 211・213 が A1 類、210・214 が A2 類、215～217 が C2 類、212 が C3 類である。底部の系切りはすべて右回転である。全体的に器壁が厚く、特に底部が厚くなっているものが多い。黒色土器

無台碗は218がB3類、219がC1類である。220は底部資料である。いずれも底部調整は糸切り後ケズリを施していると思われる。221は有台皿の高台部分である。貼り付け輪高台を持つ。須恵器222は大きく開く傾きと、内湾しながら立ち上がる形態等から有台碗とした。体部下端には高台が付く接地部分がわずかに残っている。胎土はB群である。杯蓋223は体部破片で、紐は出土していない。胎土はA群である。224は灰胎陶器有台皿の底部破片で、貼り付け輪高台を持つ。高台接地面はやや尖り気味になる。折戸53号窯式・大原2号窯式〔齊藤1994〕のものと考えられる。225は緑釉陶器の香炉蓋である。外面に沈線が2条めぐり、東海地方の製品と考えられ、時期は折戸53号窯式・大原2号窯式段階〔齊藤1994〕、尾野善裕氏の編年〔尾野2003〕のⅦ期古段階前後が想定される¹⁾。

土師器長甕は226・227・229がB2類、230がB3類、228がC2類である。226は外面に平行タタキメd類が見られる。231・232は体部下半資料である。231は外面を平行タタキメd類で成形し、上からヘラケズリが施される。内面底部付近には指頭圧痕が残る。232は外面を平行タタキメd類で成形しているが、内面はおそらく無文の当て具を使用していると思われる。底部付近には231と同様に指頭圧痕が残る。また、底部が平底を意識しているようにも思えるが、半分以上欠落しているため、詳細は不明である。小甕は233・234がB3類、235がA類である。235は神ノ羽遺跡から出土しているほかの小甕と比べて3分の2程の小形品である。鍋は238がB1類、237がB2類、236がC1類である。238の外面に平行タタキメd類が残る。体部内面にはヘラ記号が施されている。また、内面頸部付近に粉痕と思われる痕が確認された。

239～241は須恵器長頸壺の体部から底部にかけての破片資料である。口縁部は出土していない。胎土はいずれもB群であった。239は肩の張りが強い小形の長頸壺である。240は体部外面にケズリが施され、しっかりと輪高台が付く。241は頸部から肩部にかけての資料である。肩の張りは弱く、なで肩になる。242は須恵器壺の底部破片で口縁部が不明であるが、形態から短頸壺とした。内端接地の輪高台が付く。大甕243は体部外面にカキメがめぐり、口縁部は外側に肥厚する。外面に平行タタキメa類、内面に同心円当て具痕c類を残す。242・243は胎土C群の新津丘陵産であろう。横瓶244は口縁部資料である。体部から口縁部がほぼ直角に立ち上がる。外面に平行タタキメb類、内面に同心円当て具痕c類が見られる。胎土はB群である。246はふいごの羽口である。破片のため全形はわからない。247は土師質の紡錘車である。

2) 2区出土土器

a 包含層出土土器 (図版65・66、写真図版40・41)

2区包含層の土器は出土量が少なかったため、小破片であっても図化した。土師器無台碗a (249～251)・無台碗b (252)・長甕 (254～257・262)・小甕 (258～260)・鍋 (261)、須恵器有台杯 (253)・大甕 (263)を図化した。

土師器無台碗aは249・250がA類、251がB類である。無台碗b 252は底部資料である。体部外面にケズリを施し、底部も糸切り後削られる。253は傾き等から須恵器有台杯とした。胎土はB群である。土師器長甕254・255・257はB2類である。256・262は体部資料である。256は体部外面上半にカキメを施した後、ヘラケズリで再調整している。下半は、平行タタキメa類で成形され、内面に平行当て具痕b類が残る。262は外面に平行タタキメd類、内面に平行当て具痕d類が見られる。小甕は258がB2類で、そのほかは底部資料である。鍋261はA類で内面にヘラケズリが施されている。263は須恵器大甕の体部破片である。外面は平行タタキメb類、内面は同心円当て具痕c類が残る。胎土はB群である。

3) 4区出土土器

a 包含層出土土器 (図版66、写真図版41)

4区から出土した土器はすべて小破片であったため、器種が特定できるものを選択して図化した。土師器長甕 (265)・小甕 (266)、須恵器無台杯 (264)を図化した。3点とも底部付近の資料である。須恵器無台杯264の底部ヘラ切りは左回転である。胎土はB群である。土師器長甕265の外面には平行タタキメc類が見られ、内

面に指頭圧痕が残る。小甕 266 は底部が糸切りで調整されている。

4) 3区出土土器

a 遺構出土土器

SK6 (図版 66, 写真図版 33・41)

土師器無台碗 a (267～269)・長甕 (270～272)・小甕 (273～277)・鍋、須恵器大甕 (278) が出土している。土師器無台碗 a は 267 が A 類、そのほかは底部資料である。長甕は 272 が A 類、270 が B1 類、271 が B2 類に分類される。小甕は 274～276 を A 類、273 を B3 類とした。277 は底部資料である。276 は SD2 に同一個体が確認される。278 は須恵器大甕の体部破片である。外面に平行タタキメ b 類、内面には平行当て具痕 a 類が残る。胎土は C 群である。

SK7 (図版 66, 写真図版 41)

土師器長甕 (279) が出土した。底部付近の破片である。外面に平行タタキメ c 類、内面に平行当て具痕 c 類が見られる。

SD12 (図版 66, 写真図版 41)

土師器小甕 (280) が 1 点出土した。底部破片である。

SD13 (図版 66, 写真図版 41)

土師器無台碗 4 点、長甕 1 点が出土し、土師器長甕 1 点 (281) を図化した。体部破片である。外面に平行タタキメ a 類、内面に平行当て具痕 b 類が見られる。

b 包含層出土土器 (図版 66, 写真図版 41)

土師器無台碗 a (282)・鍋 (284・285)、須恵器無台杯 (283) を図化した。土師器無台碗 a 282 は底部資料で、糸切り無調整である。283 は須恵器無台杯の口縁部資料である。胎土は B 群である。土師器鍋は 285 を A 類、284 を B1 類とした。

5) 5区出土土器

a 遺構出土土器

SK23 (図版 67, 写真図版 32・41・42)

土師器無台碗 a (305・306) が出土した。306 が A2 類、305 が B2 類である。このほかに小甕が 2 点出土している。

SK49 (図版 67, 写真図版 42)

土師器無台碗 a (307) が出土した。A 類に分類される。

SK45 (図版 67, 写真図版 42)

土師器小甕 1 点 (308) が出土した。B1 類に分類される。

SK41 (図版 67・68, 写真図版 32・42)

土師器無台碗 a (309～313)・長甕 (315・316)・小甕 (317～319)・鍋、黒色土器無台碗 (314) が出土した。土師器無台碗 a は 310・312 が A2 類である。309 は口縁部資料で A 類に分類される。311・313 は底部資料である。黒色土器無台碗 314 は C 類に分類される。深い身を持ち、内面に幅の広いミガキが施される。土師器長甕 315・316 はどちらも B1 類である。316 は長甕の中で唯一全形が分かる資料である。砲弾形の底部を持ち、外面にタタキメ、内面に当て具痕を残す典型的な北陸型の長甕である。平行タタキメは a 類、同心円当て具痕は a 類である。SD1-b と接合関係にある。小甕はすべて体部から底部にかけての破片資料である。317 は底部と体部の外面に不定方向のヘラケズリが施されている。318 は体部の中間部分の破片で口縁部・底部とも欠けているが、やや小形のものとなるであろう。319 は底部糸切りが右回転である。

SK61 (図版 68, 写真図版 42)

土師器無台椀 a (320) が1点出土した。口縁部資料でA類に分類される。

SX39 (図版 68, 写真図版 42)

土師器無台椀 3点・小甕 4点が出土した。うち土師器無台椀 a の口縁部破片 1点 (321) を図化した。A類に分類される。

SD37 (図版 68, 写真図版 42)

土師器無台椀 a (322)・小甕 (323) が出土した。土師器無台椀 a 322 はA類、小甕 323 はB3類に分類される。

SD1-a (図版 68, 写真図版 33・42)

土師器無台椀 a (324)・長甕・小甕 (325) が出土した。土師器無台椀 a 324 は口縁部破片で、A類に分類される。小甕 325 はA類に分類した。口径と体部最大径がほぼ同じで、底部は糸切り右回転である。中世の可能性のある遺構から出土しているが、これらの遺物は平安時代の包含層からの混入物と考えられる。

SD1-b (図版 68, 写真図版 42)

土師器無台椀 a (326)・長甕・小甕・鍋 (327) が出土した。土師器無台椀 a 326 は口縁部破片だが、口径は不明である。327 は鍋の体部破片である。外面に平行タタキメ b 類が残る。中世の可能性のある遺構から出土しているが、これらの遺物は平安時代の包含層からの混入物と考えられる。

SD79 (図版 68, 写真図版 42)

土師器鍋 (328)、須恵器無台杯が出土した。328 は土師器鍋の口縁部破片である。口径は不明であるが、口縁端部の形態からC2類に分類される。中世の可能性のある遺構から出土しているが、これらの遺物は平安時代の包含層からの混入物と考えられる。

b 包含層上層出土土器 (図版 68・69, 写真図版 33・42・43)

土師器無台椀 a (330～332)・長甕 (333～336)・小甕 (337～339)、須恵器大甕 (340) を図化した。土師器無台椀 a は331・332がB1類、330がB3類である。長甕は334がB1類、333がB3類に分類される。333は外面に平行タタキメ a 類が残る。335・336は体部から底部にかけての資料である。335は体部外面に縦方向のヘラケズリが施される。体部下平は平行タタキメ d 類で成形される。336は平底の底部を持ちながら外面にタタキメが密に残る。これは会津地方で多く見られる形態である。平行タタキメの分類はc類である。小甕は337がB1類、339がB3類である。339は小形の小甕で、体部外面下半にヘラケズリが施される。338は底部破片である。340は須恵器大甕の頸部から体部にかけての資料である。体部外面は平行タタキメ d 類、内面は同心円当て具痕 a 類が残る。胎土はC群である。

6) 6区出土土器

a 包含層出土土器 (図版 69, 写真図版 43)

6区から出土した土器はすべて小破片であったため、器種が特定できるものを選択し、掲載した。土師器無台椀 b (341)・長甕 (342～344)・小甕 (345)・鍋 (346) を図化した。341は土師器無台椀 b の底部資料で、外面にケズリが施される。342は長甕の口縁部破片で、B2類に分類される。343・344は体部破片である。343の外面には平行タタキメ d 類が残る。344は外面に平行タタキメ a 類、内面に平行当て具痕 c 類が見られる。345は小甕の口縁部破片でA類に分類した。346は鍋の体部破片である。外面に平行タタキメ a 類、内面に平行当て具痕 d 類が残る。

第4節 鎌倉・室町時代の遺物

鎌倉・室町時代の土器が1区と5区から出土した。1区では包含層から1個体9点出土し、重量53.5gである。5区ではSD79から1個体2点が出土し、重量は193.0gである。2個体のみの出土であり、分類等が行っていない。

A 出土土器等各説

1) 1区出土土器

a 包含層出土土器 (図版65、写真図版40)

中世土師器皿(245)が包含層(17AE17)から出土した。器壁が分厚く、体部が直線的に開いて立ち上がる。底部の器壁も厚く、糸切り無調整である。これらの特徴から水澤幸一氏の編年〔水澤2005〕の「12世紀-4」段階に相当する。

2) 5区出土土器

a 遺構出土土器

SD79 (図版68、写真図版42)

珠洲焼播鉢(329)が出土した。内面に7条単位の卸目が付き、口縁端部が内傾する。14世紀代の吉岡編年IV期〔吉岡1994〕の資料である。SD77出土資料と接合する。

第5節 石製品・銭貨・金属製品・鍛冶関連遺物

A 石製品 (図版70・71、写真図版43・44)

沖ノ羽遺跡の古代・中世に所属する石製品の出土点数は32点である。1～3区については、ほぼ古代の遺物である。5区の中世遺構出土の製品は中世とした。内訳は砥石6点、礪器4点、磨石2点、軽石製石製品20点で、それ以外にも、包含層や土坑等に投げ込まれた搬入礪が多数存在する。一部に焼成を受けた礪も見られ、カマド等の施設に用いられた構築物が存在した可能性もあるが、性格を推定できるものは少数である。1～18が1区、19～21が2区、22～24が3区、25～32が5区からの出土である。遺構検出の石製品は20・21が2区河20出土、23が3区SD10出土、25が5区SX82出土、28が5区SD1-a出土、29・31が5区SD79出土、32が5区SD77出土で、それ以外はすべて包含層出土である。石製品の数値観察表は別表3に示した。

砥石 (1・2・4・19・22・23)

6点存在する。砥石には分類上おおまかに仕上げ砥石、中砥石、荒砥石の3種がある。砥石の分類は石材(産地)で分類する場合と、機能を推定して分類する場合、重量による分類、砥石の目の細かさによる分類等に分けられるようであるが、ここでは下記で記述する形状と石材から推察した。その結果、おおまかな区分ではあるが、中砥石と荒砥石とに分けられた。

1は硬砂岩製の荒砥石の破片である。2面が砥面となっている。2は現在も使用される鎌砥石に類似する中砥石破片である。凝灰岩製で、形状は棒状の直方体状である。砥面が湾曲し複数面存在する。4は花崗岩製の大型荒砥石である。表裏面ともに自然面に砥面がある。19は凝灰岩製の中砥石である。5面に砥面が残る。22は凝灰岩製の中砥石である。3面に砥面が残る。23は珪質流紋岩製の荒砥石断片である。礪面に砥面が1面残る。

砥石に使用されている珪質流紋岩・凝灰岩の石材産地については、近隣では阿賀野川あるいは信濃川流域の

第三紀中新世七谷層中に含まれる。

礫器 (3・5～7)

礫の端部に敲打痕が残る石器を一括した。意図的に刃部を作成するかしないかによって、「叩石」などと呼ばれる石器と区別されるが、4点の石器は全て、剥離面が顕著なことから縄文時代以前に使われる「礫器」という形態名称をあてた。

3は背面に礫面を残し、腹面に一次剥離面を残す。刃部は下方からの剥離によって作り出されている。5は自然礫の端部に刃部を持つ。表面左側縁に敲打痕が残る、叩石としての機能も有する。6は楕円形の河原礫の両端に刃部が作出されている。ただし、表面上面の剥離は敲打による可能性もある。7は棒状の礫の両端に刃部を作出している。

磨石 (8・24)

円礫に擦痕が残る石器を一括した。8は円礫の両面に擦痕が残る。約1/3が破損している。24は円形の礫の表裏面に擦痕が残る。剥離痕が端部に3か所ある。

軽石製石製品 (9～18・20・21・25～32)

軽石の円礫の一部に擦痕が残る石器を一括した。磨石、あるいはある種の砥石としての機能が推定される。3～5cmの小形のもの(9・10・12・15・17・18・21・25・31・32)、7～8cmの中形のもの(11・20・27・28)、10cm以上の大形のもの(29)に分けられる。それ以外に破片資料がある(13・14・16・26・30)。

軽石は阿賀野川あるいは小阿賀野川の河川敷で現在でも採取可能である。特に数m地下を工事する際、表出する旧河床中に多く含まれることから、これらの石製品も近隣からの採取品であろう。

B 銭貨・金属製品・鍛冶関連遺物 (図版65・72・73、写真図版40・44)

沖ノ羽遺跡の古代・中世に所属する銭貨・金属製品・鍛冶関連遺物の出土点数は22点である。内訳は銭貨1点、金属製品7点、鍛冶関連遺物13点、羽口1点である。詳しい数値観察表は別表1・4に示した。

銭貨 (図版72-1)

1は5区SD77出土の中世に相当する銭貨である。「景祐元寶」と読め、北宋銭で初鑄年は1034年、書体は「真書」である。

金属製品 (図版72-2～8)

すべて1区包含層から出土した。2は三角形をした板状の金属製品で、中心に穴が穿たれていることから、何らかの製品の留具である可能性が高い。3～6は断面四角形の鉄釘である。3は先端部で4～6は中間部である。7・8は用途不明の金属製品である。

鍛冶関連遺物 (図版72-9～16・73-17～21)

13点出土した。1区から11点(9～19)、2区から2点(20・21)である。1区のSD2から2点(11・13)、Pit26から1点(16)出土しているが、焼土が確認できていないので鍛冶に関連する遺構ではない。それ以外の資料は1区・2区の包含層からの出土である。出土資料は桶形滓などの広義の鉄滓である。全ての資料にメタル度はない。

羽口 (図版65-246)

1区包含層より1点出土した。先端を欠損する。直径が4.9cm、内径が2.4cm程に復元できる。

注

1) 独立法人 奈良国立博物館 尾野善裕氏のご教示による。

第VI章 自然科学分析

第1節 植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている [杉山 2000]。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である [藤原・杉山 1984]。

B 試 料

分析試料は、1区基本土層 (21AB7 グリッド)、5区基本土層 (07AX21 グリッド)、3区 SD2、3区 SD4 から採取された計 13 点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

C 分析 法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 [藤原 1976] を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42kHz・10 分間) による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これは、ほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的に与えることができる。イネの換算係数は 2.94 (種実重は 1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は 8.40、ヨシ属 (ヨシ) は 6.31、ススキ属 (ススキ) は 1.24、チマキザサ節型 (チマキザサ節・チシマザサ節) は 0.75、ミヤコザサ節は 0.30 である [杉山 2000]。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

D 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。なお、1区基本土層と5区基本土層については、水田跡の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、スキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第6表、第7表、および第10図、第11図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、ヒエ属型、キビ族型、ヨシ属、スキ属型（おもにスキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大形）

[イネ科-タケ亜科]

チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

[樹木]

その他

E 考 察

1) 稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

a 1区基本土層（第10図）

1区基本土層では、IV層（試料1）からVIa層（試料6）までの層準について分析を行った。その結果、IV層（試料1）からVd層（試料5）までの各層からイネが検出された。このうち、IV層（試料1）では密度が11,200個/gと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Va層（試料2）～Vd層（試料5）では、密度が800～2,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

b 5区基本土層（第10図）

5区基本土層では、II層（試料1）からVIa層（試料5）までの層準について分析を行った。その結果、II層（試料1）からV層（試料4）までの各層からイネが検出された。このうち、II層（試料1）では密度が5,300個/gと高い値であり、IV層（試料3）とV層（試料4）でも3,800～4,500個/gと比較的高い値である。したがって、これらの各層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。III層（試料2）では、密度が1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

c 3区SD2・3区SD4（第11図）

各遺構の畝作土とされる試料について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出されたが、密度は

2,200 ~ 2,800 個/g と比較的低い値である。なお、イネを畝で栽培する場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休閑期間をおく必要がある。このため、畝跡におけるイネの植物珪酸体密度は水田跡と比較してかなり低くなり、1,000 ~ 2,000 個/g 程度である場合が多い。これらのことから、各遺構では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

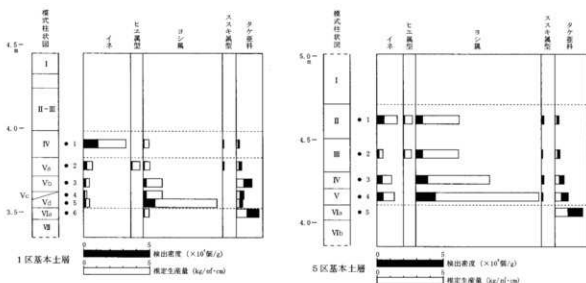
第6表 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析結果 1

検出密度 (単位: ×100個/g)		1区基本土層						5区基本土層				
分類群	学名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	112	23	15	8	15		53	15	38	45	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type		8					8	7			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	7	8	23	23	90	7	53	52	90	150	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7	8					15	7	15	8	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	22	38	113	53	45	165	30	37	68	98	203
推定生産量 (単位: kg/n ² ・cm)												
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	3.30	0.66	0.44	0.22	0.44		1.56	0.44	1.10	1.32	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type		0.63					0.64	0.63			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.47	0.47	1.42	1.42	5.68	0.47	3.36	3.31	5.68	9.47	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09	0.09					0.19	0.09	0.19	0.09	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.11	0.18	0.54	0.25	0.22	0.79	0.15	0.18	0.32	0.47	0.97

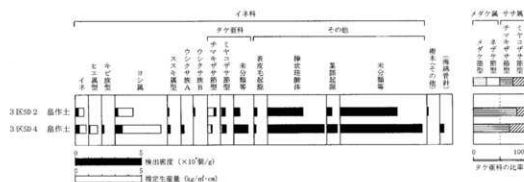
※試料の乾比重を1.0と仮定して算出。

第7表 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析結果 2

検出密度 (単位: ×100個/g)		地点・試料		3区SD2	3区SD4
分類群	学名			畠作土	畠作土
イネ科	Gramineae (Grasses)				
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)			22	28
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type				7
キビ族型	Panicaceae type				14
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)			22	56
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type			7	14
ウシクサ族 A	Andropogoneae A type				21
ウシクサ族 B	Andropogoneae B type			7	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)				
チャマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.			66	35
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>			37	42
未分類等	Others			44	106
その他のイネ科	Others				
表皮毛起源	Husk hair origin			22	14
棒状珪酸体	Rod-shaped			265	423
茎部起源	Stem origin			37	78
未分類等	Others			427	613
樹木起源	Arboreal				
その他	Others			7	
(海綿骨計)	Sponge				28
植物珪酸体総数	Total			965	1452
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/n ² ・cm)					
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)			0.65	0.83
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type				0.59
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)			1.39	3.56
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type			0.09	0.17
チャマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.			0.50	0.26
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>			0.11	0.13
タケ亜科の比率 (%)					
チャマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.			82	68
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>			18	32



第10図 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果1



第11図 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果2

2) イネ科栽培植物の検討

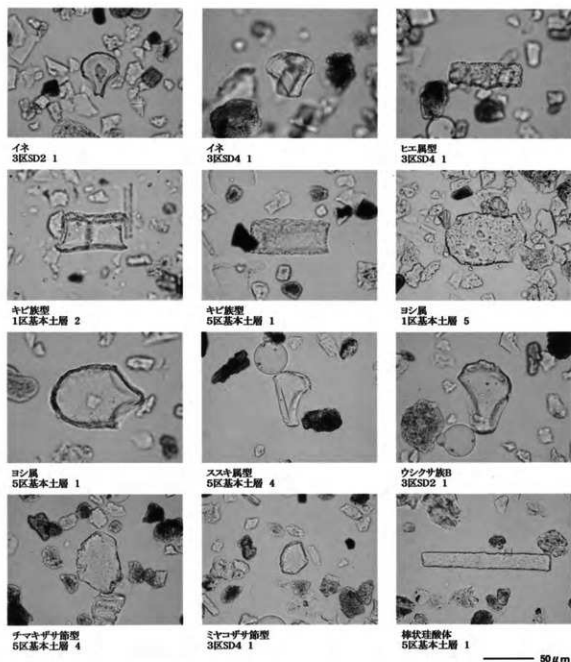
植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、キビ族型（キビが含まれる）、ジューズダマ属（ハトムギが含まれる）などがある。このうち、本遺跡の試料からはヒエ属型が検出された。

ヒエ属型は、1区基本土層のV1層（試料2）、5区基本土層のII層（試料1）とIII層（試料2）、および3区SD4の試料から検出された。密度は700～800個/gと低い値であるが、ヒエ属は葉身中における植物珪酸体の密度が低いことから、植物体量としては過大に評価する必要がある。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山¹⁹⁸⁸）。ただし、ここでは農耕地とみられる土層や遺構から検出されていることから、栽培種に由来するものである可能性が高いと考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

3) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。



第12図 植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真

おもな分類群の推定生産量によると、1区基本土層と5区基本土層では、VIa層ではタケ亜科が優勢でヨシ属はわずかであるが、V層ではヨシ属が優勢となっており、タケ亜科は大幅に減少している。

以上のことから、VIa層の堆積当時はタケ亜科 (おもにササ属) が生育するような比較的乾燥した環境であったと考えられるが、V層 (Vd層) の時期には何らかの原因でヨシ属などが生育する湿地的な環境になり、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。なお、イネとヨシ属が共存していることから、水田雑草としてヨシ属が生育していたこと、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたこと、およびヨシ属の茎葉が施肥などの目的で水田内に持ち込まれたことなどが想定される。

F ま と め

植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析の結果、1区基本土層のIV層、および5区基本土層のII層、IV層、V層

からはイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、1区基本土層のVa層～Vd層、5区基本土層のⅢ層、および島作土とされるSD2とSD4でも、稲作が行われていた可能性が認められた。さらに、1区基本土層のVa層、5区基本土層のⅡ層とⅢ層、および3区SD4では、ヒエ属（ヒエが含まれる）が栽培されていた可能性も認められた。

Va層の堆積当時は、タケ亜科（おもにササ属）が生育するような比較的乾燥した環境であったと考えられるが、V層（Vd層）の時期には何らかの原因でヨシ属などが生育する湿地的な環境になり、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

第2節 花粉分析

A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 試料

試料は、1区基本土層（21AB7グリッド）、1区SD2、5区SD78、3区SD2、3区SD4の5地点から採取された計7点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

C 方法

- (1) 0.5%りん酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
- (2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- (3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- (4) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトリス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す
- (5) 再び水酢酸を加えて水洗処理
- (6) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1,000倍で行った。花粉の同定は、鳥倉および中村をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った（鳥倉1973・中村1980）。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。なお、寄生虫卵および明らかな食物残渣にも注目して分析を行った（中村1974・1977）。

D 結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉25、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉23、シダ植物胞子2形態の計52である。また、寄生虫卵も1分類群が検出された。分析結果を第8表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を

示す。以下に出現した分類群を記す。

[樹木花粉]

モミ属、マツ属複雑管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、サンショウ属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ツツジ科

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科、マメ科、ウコギ科

[草本花粉]

ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、コウホネ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、ゴキツル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

[寄生虫卵]

異形吸虫卵

2) 花粉群集の特徴

a 1区基本土層 (第13図)

Vd層(試料5)とVb層(試料3)では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科が優占し、ヨモギ属、カヤツリグサ科、キク亜科、タンポポ亜科、アブラナ科、ソバ属などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属が低率に出現する。IV層(試料1)では、樹木花粉の占める割合がやや増加している。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が優占し、オモダカ属やミズアオイ属も出現している。樹木花粉ではスギやマツ属複雑管束亜属が増加している。

b 1区SD2 (第14図)

3層(試料1)では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、シダ植物胞子の占める割合が5割を超えるが、花粉密度は低い。草本花粉ではイネ科が優占し、次いでカヤツリグサ科、ヨモギ属が多く出現する。また、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科なども伴われる。樹木花粉ではハンノキ属、クマシデ属-アサダなどが低率に出現する。

c 5区SD78 (第15図)

4層(試料1)では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が優占し、次いでヨモギ属、カヤツリグサ科が多く出現する。また、アブラナ科、オモダカ属、ミズアオイ属なども伴われる。樹木花粉ではスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属などが出現する。また、寄生虫卵の異形吸虫卵が少量検出された。

d 3区SD2

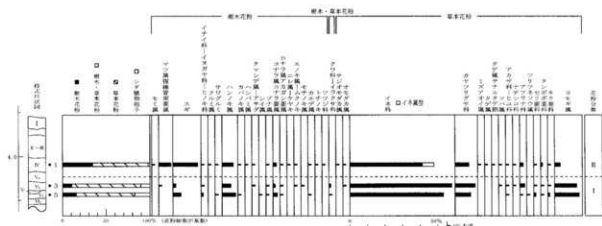
樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属、スギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、サンショウ属、草本花粉ではイネ科、ナデシコ科、アブラナ科、ヨモギ属が検出されたが、いずれも少量である。

第8表 沖ノ羽遺跡における花粉分析結果 1

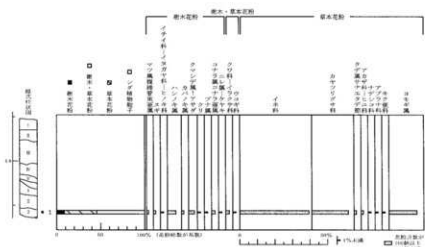
学名	分類群	1区画土層		2区画土層	
		1	2	1	2
Affixed pollen	着生花粉				
<i>Alnus</i>	アヒナ属	1			1
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属の葉面着生属	44	1	2	1
<i>Pinus subgen. Riphaeoides</i>	マツ属の葉面着生属		1		1
<i>Cupressus japonica</i>	スギ	90	4	15	20
<i>Taxus Cupressoides var. Cupressoides</i>	イタドリ科・イタドリ属・ヒノキ科	1	1	4	1
<i>Salix</i>	ヤナギ属				1
<i>Ulmus</i>	アヲシ属	1			1
<i>Persea ryukyuensis</i>	カワノミ	1	1	1	1
<i>Alnus</i>	アヒナ属	41	19	25	7
<i>Betula</i>	コナラ属		1	1	2
<i>Corylus</i>	ハシバミ属	1			1
<i>Carpinus-Corylus japonica</i>	カマツキ属・アザミ	3	1	9	1
<i>Cornus rosata</i>	クナギ			1	1
<i>Compositae</i>	シクン属			1	1
<i>Fagus</i>	ブナ属	6	2	1	1
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属・コナラ属	12	3	9	3
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属・アカカシ属	6	2	1	4
<i>Ilvae-Ilexae sensu lato</i>	ユズリハ科	4			1
<i>Celastraceae sp. aff. acuta</i>	ユズリハ科・ムトクノキ	4	1		1
<i>Ilex</i>	ユズリハ属	1	1		1
<i>Azalea formosensis</i>	トナリノキ	1		2	
<i>Rosa</i>	バラ科属				1
<i>Ericaceae</i>	ツツジ科	1			1
Affixed + Nonaffixed pollen	着生・非着生花粉				
<i>Moraceae-Urticaceae</i>	ナツメ科・イラクサ科		4	2	3
<i>Leguminosae</i>	マメ科				1
<i>Asclepiadaceae</i>	アサガハ科				1
Nonaffixed pollen	非着生花粉				
<i>Typha-Sagittariae</i>	カヤノミ科・シジミ属				2
<i>Alnus</i>	アヒナ属	1			1
<i>Sagittaria</i>	アサガハ属	1	1		1
<i>Quercus</i>	イタドリ	263	223	172	169
<i>Ostrya-type</i>	イタドリ属	42			6
<i>Cyperaceae</i>	カヤノミ科	31	84	29	31
<i>Asteraceae Asterif.</i>	イボクサ	2			2
<i>Melastomaceae</i>	シロバナ属	2			1
<i>Polygonum</i>	オウゴン	1			1
<i>Polygonum sensu lato</i>	オウゴン科				2
<i>Fagopyrum</i>	ソウ属	2	1		2
<i>Chenopodiaceae-Amaranthaceae</i>	アザミ科・ヒル科	2	2	1	2
<i>Caryophyllaceae</i>	カザリノコ	2	1		1
<i>Nyctaginaceae</i>	コウホネ科				1
<i>Chenopodiaceae</i>	アザミ科	13	11	3	5
<i>Rapaceae</i>	ツツジ科				1
<i>Hydrocotylaceae</i>	オウゴン科				1
<i>Agrifoliae</i>	アザミ科	2	2	4	1
<i>Asteraceae-Asterif.</i>	オウゴン				2
<i>Labiatae</i>	カンゾウ科	1	3	2	3
<i>Asteraceae</i>	アザミ科	1	2	4	1
<i>Scrophulariaceae</i>	オウゴン属				1
<i>Araceae</i>	オウゴン	21	49	24	30
Fern spores	シダ植物胞子				
<i>Mosses type spores</i>	蘚植物胞子	7	29	26	14
<i>Trilete type spores</i>	三葉植物胞子	8	15	10	17
Affixed pollen	着生花粉	222	40	59	20
Affixed + Nonaffixed pollen	着生・非着生花粉	9	1	2	4
Nonaffixed pollen	非着生花粉	410	329	262	121
Total pollen	花粉総数	637	369	323	169
Unknown pollen	未知花粉	4	6	2	1
Fern spores	シダ植物胞子	13	44	46	18
Microfossil spores	微細化石群				
<i>Ammonites</i>	アモナイト	0	0	0	1
<i>Forams</i>	放射虫	0	0	0	0
<i>Diatoms</i>	矽藻	0	0	0	0
<i>Diatoms sensu lato</i>	矽藻(広義)	0	0	0	0

第9表 沖ノ羽遺跡における花粉分析結果 2

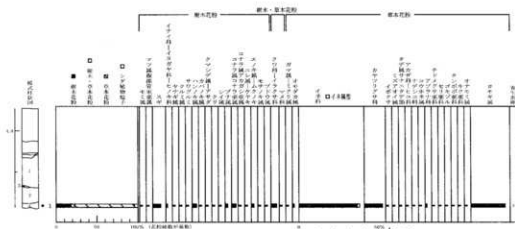
学名	分類群	1区画土層		2区画土層	
		1	2	1	2
Affixed pollen	着生花粉				
<i>Alnus</i>	アヒナ属	2	1		
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属の葉面着生属	2	1		
<i>Cupressus japonica</i>	スギ	2	1		
<i>Alnus</i>	アヒナ属	6			
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属・コナラ属	1	1		
<i>Ulmus</i>	アヲシ属	1			
Nonaffixed pollen	非着生花粉				
<i>Quercus</i>	イタドリ	2	3		
<i>Cyperaceae</i>	カヤノミ科	1			
<i>Caryophyllaceae</i>	カザリノコ	2			
<i>Chenopodiaceae</i>	アザミ科	2	1		
<i>Araceae</i>	オウゴン	2	2		
Fern spores	シダ植物胞子				
<i>Mosses type spores</i>	蘚植物胞子	4	1		
<i>Trilete type spores</i>	三葉植物胞子	2	2		
Affixed pollen	着生花粉	11	2		
Affixed + Nonaffixed pollen	着生・非着生花粉	0	0		
Nonaffixed pollen	非着生花粉	11	13		
Total pollen	花粉総数	22	15		
Unknown pollen	未知花粉	2	1		
Fern spores	シダ植物胞子	6	3		
Microfossil spores	微細化石群	0	0		
<i>Diatoms sensu lato</i>	矽藻(広義)	0	0		



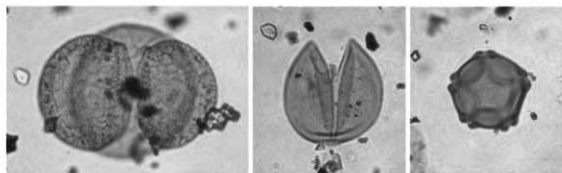
第13図 沖ノ羽遺跡、1区基本土層(21AB7グリッド)における花粉ダイアグラム



第14図 沖ノ羽遺跡、1区SD2における花粉ダイアグラム



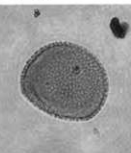
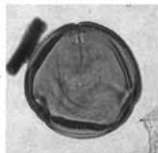
第15図 沖ノ羽遺跡、5区SD78における花粉ダイアグラム



1 松属複維管束亜属

2 スギ

3 ハンノキ属

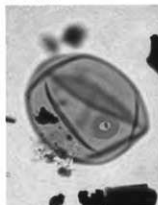


4 ブナ属

5 コナラ属コナラ亜属

6 コナラ属アカガシ亜属

7 ガマ属-ミクリ属

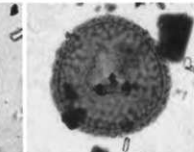
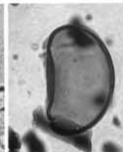
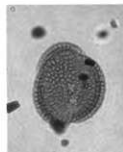


8 イネ属型

9 カヤツリグサ科

10 ソバ属

11 ソバ属



12 アブラナ科

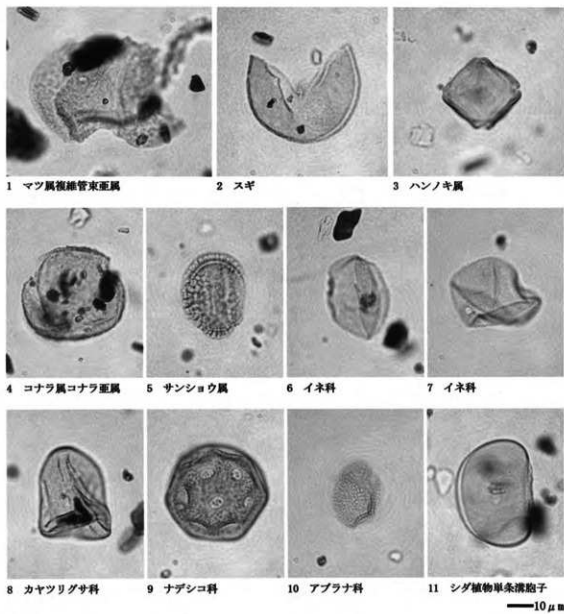
13 ヨモギ属

14 シダ植物単条溝胞子

15 シダ植物三条溝胞子

—10 μ m

第16図 沖ノ羽遺跡の花粉・胞子1



第 17 図 沖ノ羽遺跡の花粉・孢子 2

e 3区SD4

樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属、スギ、コナラ属コナラ亜属、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属が検出されたが、いずれも少量である。

E 花粉分析から推定される植生と環境

1) 1区基本土層

古代とされるVd層やVb層の堆積当時は、イネ科をはじめカヤツリグサ科やヨモギ属などの草本が多く生育する日当たりの良い開かれた環境であり、ソバやアブラナ科などの栽培が行われていた可能性が考えられる。アブラナ科には、アブラナ（ナタネ）、ダイコン、ハクサイ、カブなど多くの栽培植物が含まれている。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、ナラ類（コナラ属コナラ亜属）、スギなどが分布していたと推定される。

IV層の堆積当時は、おもに水田稲作が行われており、水田雑草のオモダカ属やミズアオイ属も生育していたと考えられる。また、周辺ではソバやアブラナ科などの栽培が行われていた可能性が考えられる。この時期には、周辺地域で植林と見られるスギや二次林要素のマツ類（マツ属複雑管束亜属）が増加したと推定される。

2) 1区SD2

SD-2の覆土の堆積当時は、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、およびシダ植物が多く生育する日当たりの良い開かれた環境であり、周辺ではアブラナ科などの栽培が行われていた可能性が考えられる。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、ナラ類、クマシデ属-アサダなどが分布していたと推定される。

3) 5区SD78

SD78の覆土の堆積当時は、イネ科をはじめカヤツリグサ科やヨモギ属などの草本が多く生育する日当たりの良い開かれた環境であったと考えられる。また、周辺では水田稲作が行われており、水田雑草のオモダカ属やミズアオイ属も生育していたと考えられる。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、ナラ類、スギなどが分布していたと推定される。

ここでは異形吸虫卵が検出されたが、低密度であることから、集落周辺における通常の汚染と考えられる。異形吸虫類（横川吸虫を含む）は、沿岸性の魚類やコイ科の魚を捕食することによって感染する。

4) 3区SD2・3区SD4

花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、3区SD2と3区SD4の畝作土の堆積当時は、周辺でアブラナ科などの栽培が行われていた可能性が考えられる。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

第3節 樹種同定

A はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

B 試 料

試料は、5区下層 SX80 から採取された自然木 1 点および 1 区 SK185 から採取された炭化材 3 点の計 4 点である。

C 方 法

木材については、カミソリを用いて試料の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（径目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって 40 ～ 1,000 倍で観察した。炭化材については、試料を剝折して新鮮な基本三断面を作製し、落射顕微鏡によって 50 ～ 1,000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

D 結 果

第 10 表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

クルミ属 *Juglans* クルミ科 (第 18 図-1)

横断面：大形で丸い道管が単独あるいは 2 ～ 数個放射方向に複合して、ややまばらに散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。軸方向柔細胞が多少波打ちながら、短接線状に 1 列に並ぶ。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織はほとんどすべて平伏細胞からなるが、ときおり上下の縁辺にいくぶん大きい方形細胞が見られる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で 1 ～ 4 細胞幅である。

以上の形質からクルミ属に同定される。クルミ属にはオニグルミ、ヒメグルミがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ 15 ～ 30m、径 70 ～ 90cm である。材は耐朽性、保存性は低いが、狂いが少なく靱性に富んでいて、建築、器具、彫刻など広く用いられる。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 (第 18 図-2)

横断面：年輪のはじめに大形の道管が 1 ～ 数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のもの大形の広放射組織からなる複合放射組織である。

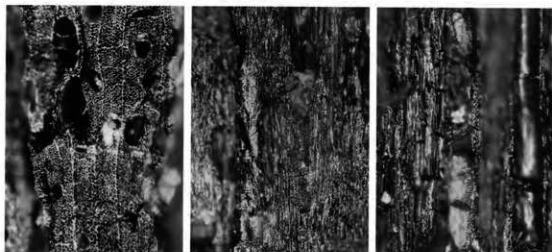
以上の形質からコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ 15m、径 60cm ぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。

E 所 見

分析の結果、5区下層 SX80 から採取された自然木コナラ属コナラ節、1区 SK185 から採取された炭化材はいずれもクルミ属と同定された。コナラ属コナラ節は、温帯に分布する落葉広葉樹で、冷温帯に落葉広葉樹林の主要構成要素を含む。クルミ属は、温帯を中心に広く分布する落葉広葉樹で、沢沿いなどの適潤地に生育する。いずれも当時の遺跡周辺で採取可能な樹種であったと考えられる。

第10表 沖ノ羽遺跡における樹種同定結果

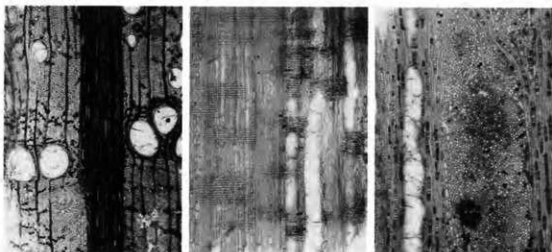
試料	結果(学名/和名)
SX80 自然木	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> コナラ属コナラ節
SK185 炭化材①	<i>Juglans</i> クルミ属
SK185 炭化材②	<i>Juglans</i> クルミ属
SK185 炭化材③	<i>Juglans</i> クルミ属



横断面 : 0.4mm
1. 1区 SK185 炭化材① クルミ属

放射断面 : 0.4mm

接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.5mm

放射断面 : 0.5mm

接線断面 : 0.5mm

2. 5区下層 SX80 自然木 コナラ属コナラ節

第18図 沖ノ羽遺跡の木材及び炭化材

第七章 総 括

第1節 沖ノ羽遺跡の遺構について

沖ノ羽遺跡1区では平安時代に所属する掘立柱建物8基確認されている。そのうち東柱を持つ比較的大形の建物1基を含む。第19図に遺構の構成図を示した。調査区西側のSB383・384は北西～南東に主軸方向を構え、雨落溝を持たない掘立柱建物である。SB384は2間3間の東柱を持つ比較的大形の建物であり、おそらく居住域として機能したものと考えられる。SB383はSB384に比べて小さい建物である。若干、方位が西にずれるが同一時期に機能していた規格性を持つ建物の可能性がある。調査区中央には調査段階で認識したSB380～382の建物群があるが方位に規格性が無く、居住域というより倉庫の類と考えられる。調査区東側のSB378・379は北西～南東に主軸方向を持ち、重複しているのは、おそらく建替えによるものと考えられる。調査区西側のSB377は、約10m四方の方形遺構と考えられるSD4の区画内に取まり、何らかの施設の可能性がある。これらの建物群は、軸方向の相異なることから異なる時期に建てられたものと推定されるが、後述する1区の平安時代出土土器の編年的位置は、10世紀前葉に限定され、遺構の所属年代もおそらくその中の推移であると考えられる。遺跡を構成する中で、一般的に所在する井戸や耕作地などが1区の調査区内には確認されなかったことから、それらは調査区外に所在する可能性が高い。また、包含層から出土した緑釉陶器香炉釜、灰釉陶器有台皿以外には食器類と煮沸器で構成される一般的な土器組成で、特殊な遺物は確認されておらず、遺跡の性格については遺構・遺物の点からも特殊な集落とは言えない。近隣で米栽培なども想定されており、10世紀前葉の「農民層」の集落遺跡として評価される。

2区は旧河道と若干の土坑・小土坑群が確認されたのみで、様相は不明である。

3区の調査区からは北西～南東方向に伸びる畝状遺構が73条以上確認された。耕作地の一部と推定される周辺土の自然科学分析結果から、ヒエ属（ヒエが含まれる）あるいはアブラナ科などの栽培が行われていたと報告されており、当時の耕作地の様相の一部が確認された。

4区は5区・6区に隣接し、溝1基、小土坑1基のみの出土である。遺跡の北側末端部と考えられる。

5区は上層では中世・古代が、下層では古墳時代の遺構が検出された。上層では明瞭な建物群は確認されていないが、附図に示したとおり、調査区北側と南側で県調査区に連続する中世の溝が確認されている。覆土中からは下層に黒色シルト土が堆積しており、遺構の規模から灌漑用の用水の一部と考えられる。下層からは古墳時代中期の遺構が確認されたが、それ以外の遺構は確認できなかった。県調査区5・13区〔星野ほか1996〕では同時期の土坑33基、溝2基、性格不明遺構2基、小土坑7基が確認されており、それより南側にあたる今回の調査区側に古墳時代の遺構範囲が広がることが確認された。地形は4区の成果から南側に標高が下がり低湿地化しており、5区集落の末端部の可能性がある。



第19図 沖ノ羽遺跡1区遺構構成図

第2節 沖ノ羽遺跡の古墳時代の土器について

ここでは沖ノ羽遺跡で出土した古墳時代の土器について、編年の位置付けを検討する。しかし、前述した事実記載のように一括性に乏しい点や、資料が少量のため包含層出土物も加えて検討する点を予め断っておく。

沖ノ羽遺跡では2区と5区から古墳時代の土器が出土した。甕は口縁部が「く」の字を呈し、端部は丸く取まる。体部にかけて肩が張るものと、なで肩のものがある。底部は平底で、底部からの立ち上がりが緩やかなものと、急なものがある。高杯は杯部と体部の境に稜が形成される。脚部は中位にやや膨らみを持ち、裾部は屈折して広がる。調整はそれほど精緻ではない。小形壺は口縁部が内湾ぎみに伸び、体部は丸型か玉葱型になると思われる。調整は粗い。杯は口縁部付近で外反し、黒色処理されたものは確認できなかった。

以上のような特徴や器種の構成から、時期は古墳時代中期と考える。県内での該期の土器編年案は数多く試みられているが、ここでは上越地方を中心に県内の古墳時代の土器編年案を示された、川村浩司氏の編年（川村2000）（以下、川村編年という）を指標とし、本遺跡の編年の位置付けを試みる。

川村編年では古墳時代を16段階に細分している。これに照らし合わせると、本遺跡では器台が見られないことから川村編年8段階を上限とし、黒色処理のされていない杯や小形壺の存在から、下限を川村編年9段階までと想定できる。

同じ沖ノ羽遺跡で、調査区が隣接する沖ノ羽遺跡Ⅱ（B地区）（星野ほか1996）からも古墳時代の土器が出土している。資料を検討すると、やや大形の高杯杯部に僅かに稜を持つ形態や、脚部部の屈折位置などが本遺跡と類似している。また、小形壺も内湾しながら伸びる口縁部を持つなど、同様な特徴が見られる。杯は出土していないが、甕の形態等を見ても、本遺跡と明確な差異は感じられないため、ほぼ同時期と考えてよいだろう。

続いて、沖ノ羽遺跡の所在する下越地方の遺跡との比較を試みる。下越地方で該期に当てはまる遺跡には、川村編年8段階に相当する山三賀Ⅱ遺跡（坂井1989a）のSI1124、反貫目遺跡（寺崎・佐藤ほか2004）の上層土器集中区Ⅰ～Ⅲと、川村編年9段階に相当する六斗葺遺跡（岡安・大谷ほか2005）が挙げられる。

山三賀Ⅱ遺跡SI1124を見ていくと、高杯は杯部に稜があるものが主体となり、断面三角形の赤帯を貼り付けて段を形成するものや、口縁端部が外反するものが見られるなど、本遺跡との類似点が多い。また、調整が不良な点も共通する。小形壺は本遺跡のものより少し大形となるが、調整が粗雑な点は共通している。一方、SI1124では、高杯の口縁端部がまっすぐに伸びる形態のものがあることや、杯が出土していないなどの相違点もある。

同じく川村編年8段階の反貫目遺跡上層出土土器は、高杯杯部外面の稜が粘土紐を貼り付けた手法であることや、脚部の形態など、本遺跡と共通する点が多い。小形壺は器形・調整ともに類似する。しかし、反貫目遺跡からも本遺跡という杯の出土がなく相違する部分が見られる。

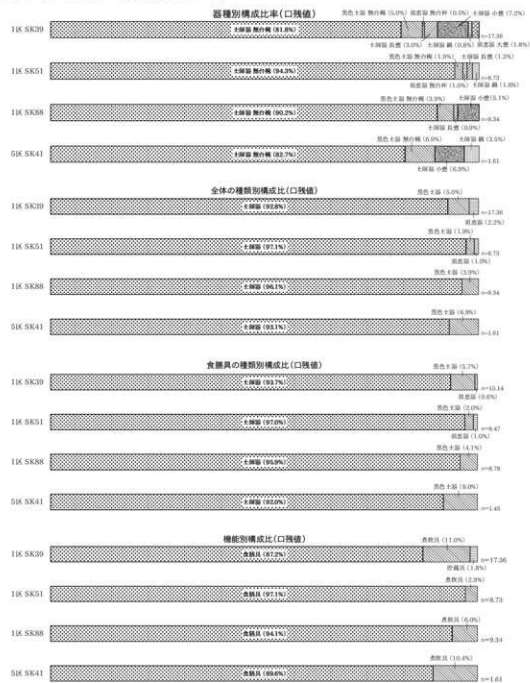
次に、川村編年9段階に相当する六斗葺遺跡を見ていく。六斗葺遺跡では杯・椀類が一定量存在する。高杯は中位に膨らみを持つ脚部の形態は類似しているが、脚屈折部の開きが大きく、より扁平なものも認められる。また、脚部が膨らまずに「ハ」の字に開脚するものや、杯部に2段の稜を持つものなど多様な高杯が認められるようになり、本遺跡とは違った様相となる。

以上のことから、沖ノ羽遺跡の土器群は、概ね川村編年8段階の特徴を有すると考える。しかしここで、杯の存在が問題となる。川村編年によると、9段階は「各種小型埴類が多数出現する段階」（川村2000）としている。本遺跡では「小型埴類」を総称して杯と分類したが、この杯が出土していることをもって本遺跡を川村編年9段階とするには、その出土量は決して多くない。また、高杯に多様性が認められないなど、他器種の様相に食い違いが生じる。少量の杯の存在を定着以前と考えることができるならば、沖ノ羽遺跡出土の土器群は川村編年8段階と並行する、と言えるだろう。いづれにしても推測の域を出ないため資料蓄積を待つことにするが、ひとまずここでは、川村編年8段階と並行し、一部に新しい要素も認められると捉えておく。

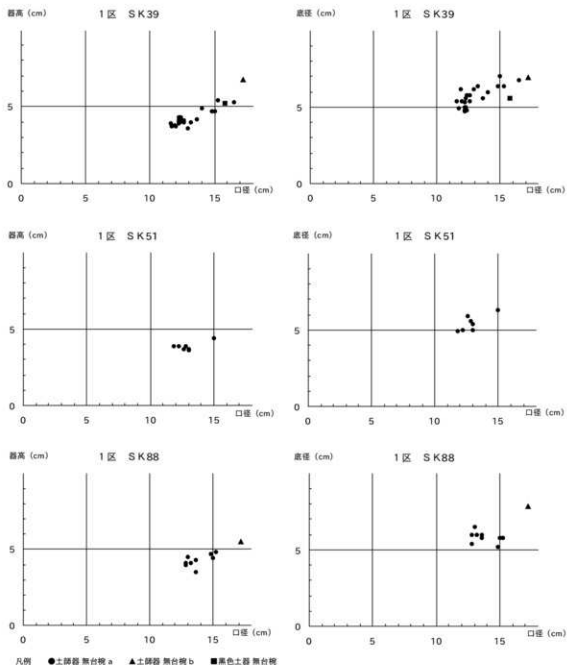
第3節 沖ノ羽遺跡の平安時代の土器について

沖ノ羽遺跡では発掘調査によってある程度まとまった一括資料が遺構から出土した。本稿では周辺地域の土器編年を参考に、沖ノ羽遺跡の編年的位置付けを試みる。主要遺構の器種組成図を第20図に、食膳具の法量分布図を第21図に示した。組成比は口縁部残存率をもとに算出した。

今回の調査ではすべての区から平安時代の土器が出土した。特に1区では複数の遺構から良好な一括資料が検出された。一方、2区と4区は調査区の幅が2m程度しかなく、遺構・遺物ともに極めて少量であった。また、3区と5区では遺物は多く出土したが、遺構からの一括資料には乏しかった。よって、ここでは1区を中心に考察し、沖ノ羽遺跡の年代を検討していく。



第20図 沖ノ羽遺跡主要遺構別の器種組成図



第 21 図 沖ノ羽遺跡主要遺構別食膳具の量量分布図

1区は調査区全体から遺物が出土しており、中でもSK39・SK51・SK88からは平安時代の土器がまとまって出土している。各遺構の構成比を見ていくと、SK39では全体の種類別構成比において土師器が92.8%と、高率を示している。食膳具の構成比でも土師器が93.7%を占めており、器種別に見ても土師器無台碗が81.8%と、他器種を圧倒している。それに比べ、須恵器は全体の2.2%、食膳具では0.6%という低い比率で、黒色土器は全体の5%となっている。SK51でも概ね同様の組成を示しているが、SK88では須恵器の割合がより低く、第20図の口縁部残存率を基準とした比率では0%となっている。ただし、重量比でみると須恵器全体で5.6%、食膳具でも4%と、少量ながら確認できる。

土師器無台碗は底径が小さく、底部が厚くなる形態のものが見られる。量量では口径12～13cmの小形品が主体で、口径15cm前後の大形品も定量出土している。また、SK88の土師器無台碗の中には歪みが著しく、作りが雑になる形態が見られる。須恵器有台杯の高台は幅広く、端部は丸みを帯びている。煮炊具については、

屈曲せずにそのまま伸びる口縁部を持つ鍋がSK39から出土している。これ以外では、すべての遺構で口縁端部が上方に屈曲する形態の長甕・小甕が主流となっている。

土師器が食膳具の主体を占め、土師器無台碗の作りが粗雑になるという様相は、春日真実氏による編年（春日1999・2005）（以下、春日編年という）のⅦ期に相当する。

次に、これまでに調査された同じ沖ノ羽遺跡の土器群の年代観を、本遺跡と比較する。沖ノ羽遺跡は数回にわたって調査されてきたが、中でも新潟県が調査した沖ノ羽遺跡（C地区）（春日2003a）（以下、県沖ノ羽遺跡という）と、旧新潟市が調査を行った沖ノ羽遺跡〔立木・澤野ほか2005〕（以下、市沖ノ羽遺跡という）が本遺跡1区と調査区が隣接している。これらの年代観を見ると、県沖ノ羽遺跡ではⅤ1期からⅥ2期までの資料が確認されており、市沖ノ羽遺跡でもすべての遺構がⅦ期に収まるとされ、本遺跡1区に先行する年代となっている。このほか、新潟市秋葉区（以下、秋葉区という）の中でⅦ期の土器がまとめて出土した遺跡は今までに確認されていない。

秋葉区周辺の遺跡では、新潟市江南区小丸山遺跡SK1〔小池・本間1995〕、同大淵遺跡SK36〔廣野・朝岡1999〕、南蒲原郡田上町道下遺跡SK13〔田畑1994〕などが当該期の遺跡として挙げられる。小丸山遺跡SK1と道下遺跡SK13は春日編年Ⅶ1期、大淵遺跡SK36は春日編年Ⅶ2期にそれぞれ比定されている。これらと比較すると、口径12～13cmの土師器無台碗を主体とする本遺跡の1区主要遺構の様相は、小丸山遺跡SK1、道下遺跡SK13と同様である。また、1区でも前段階から続く内湾して立ち上がる形態の土師器無台碗と、底部が厚く体部の開きが大きい無台碗が共存している様相が確認できる。

一方、大淵遺跡SK36は土師器無台碗の小形化が進み、また、口縁端部が外反する形態のものが主体となっていることから、本遺跡1区の主要遺構出土土器より一段階新しい様相を示していると思われる。本遺跡では1区包含層出土の土師器無台碗がこれに近い。

これらのことから、1区主要遺構出土の土器は、春日編年Ⅶ1期に比定され、実年代としては10世紀前葉に位置付けられると考える。

3区と5区では、遺構出土土器が少なかったため、比率による検討はできなかった。個別の土器の形態を見ると、土師器無台碗は内湾して立ち上がる形態が主体となっており、また、粗雑な作りとなるようなものが見られないことから、1区より古い様相を呈しているといえよう。ただし、須恵器の出土が少ないことから、春日編年Ⅶ期でも新しい段階のⅥ2・3期、実年代で9世紀末から10世紀初頭に比定することができるだろう。

これらのことから、本遺跡の存続時期を全ての区と一部包含層資料も含めて考察すると、主体となる時期が10世紀前葉（Ⅶ1期）で、9世紀末から10世紀初頭（Ⅵ2・3期）にはすでに遺跡が形成され、一部が10世紀中葉（Ⅶ2期）まで継続するという変遷を追うことができる。

第4節 沖ノ羽遺跡出土の土師器平底長甕について

沖ノ羽遺跡から平安時代の土師器平底長甕が2点出土した。1点（図版64-232）は1区包含層（17AC4他）から出土している。その特徴は、底部内面に当て具を当て、外面はタタキにより若干の底面を残して丸底化した後に、底部を平面的に削り出して5cm前後の小さな底部を作出している（第22図写真参照）。底部の器厚は0.4cm程度で、底部近くの体部が0.6～0.8cmあるのに比べて薄い。1点（図版69-336）は5区包含層（07AV22・07AW23）の出土品である。特徴は内面を底部から当て具を当て、外面はタタキにより丸底化した後に底部を削り出しており、ケズリの痕跡が残る。その後、指頭のようなもので底部側から強くしめられている（第22図写真参照）。底径7cm程度で、底部器厚は0.4cm程度である。底径が前者よりも大きいことから底面を削る以前のタタキ段階で平底化するようになり、丸底というより半丸底状にしていた可能性もある。2点とも包含層出土品であるが、前述された遺構一括資料の分析から、概ね1・5区ともに春日編年Ⅵ2・3期～Ⅶ1期（春日

1999・2005)、実年代で9世紀後半から10世紀前半に限定される。5区では一部、古墳と室町時代に所属する時期の遺物が出土しているが、平安時代の春日編年VI期以前の資料は出土しておらず、この2点の包含層資料も概ね前述の年代観の範囲に含まれると考える。その前提に立ち、この2点の資料の位置付けを考える。

新潟県の佐渡を除く越後地方における古代煮炊具の研究史は、近年の春日真実氏の研究に詳しい(春日2007)。その中で重要なものを取り上げると、1980年代後半の坂井秀弥氏による古代煮沸具を対象とした一連の研究が挙げられる。それによると、聖籠町山三賀Ⅱ遺跡の分析を通して、阿賀野川以北の土師器煮沸具の変遷を明らかにしており(坂井1989a)、さらに、北陸地方に分布が特異な「北陸型土師器長甕」の製作技法を明示した(坂井1989b)。また、丸底なる「北陸型土師器長甕」と、平底なる「陸奥型土師器長甕」の底部に着目し、須恵器大甕の底部が北陸では丸底、関東から陸奥国では平底に作られており、それぞれに製作技法が土師器長甕の製作技法に取り入れられたことを推定している(坂井1990b)。坂井氏が示した阿賀野川以北の山三賀Ⅱ遺跡の長甕の変遷の中で、A系を非ロクロ使用の平底、B系をロクロ使用の丸底、C系をロクロ使用の平底に3分類した(以下、山三賀A系等とする)。A系は山三賀Ⅰ期(8世紀第Ⅰ四半期)に主体的で、Ⅱ期(8世紀第2・3・四半期)以降、急速に衰退する。B系はⅠ期から少量存在し、Ⅱ期よりやや増え、Ⅲ期(8世紀第1～9世紀第Ⅰ四半期)以降はほとんどすべてがこれになる。C系はⅡⅠ期にもっとも多く、その時期の主体をなし、この前後にも存在するがⅢ期以降は見られないとし、C系は阿賀野川以北にだけ分布する可能性を指摘している(坂井1990a)。この傾向は、近年行われた前述の春日氏の論考でも大略変更はない。春日氏は長甕(長釜)の分類を体部の調整技法により大別4分類し、A類をハケメ成形、B類を須恵器技法、C類を外面削り、D類を外面ミガキに分類した(以下、春日A類等とする)。さらに底部や口縁の形態等で細分、細細分されている。それによると、山三賀A系は春日A2a類、山三賀B系は春日B1a類、山三賀C系は春日B2類に含まれ細分されている。この両氏の分類に今回の沖ノ羽遺跡出土資料を当てはめると、山三賀分類には当てはまるものが見当たらず、春日分類の春日B2類となるが、細細分では分類に当てはまるものがない。

新潟県以外に目を向けると、福島県会津地方(平安時代は陸奥国会津郡)に似た形態の土師器長甕(第23図)が多数確認されている(山中1998・2003)。平安時代の会津地方の大部分は陸奥国会津郡に所属し、越後国とは隣接する関係にある。会津地方の土師器長甕の類例を集め、考察した山中雄志氏によると、8～9世紀代の土師器長甕を形態と成形技法で4分類し、A類は平底のもの¹⁾、B類は丸底のもの、C類を丸底に近い小径底面のもの²⁾、D類を平底ながら叩き痕が密に施されるものとし、さらにA～C類は底部平坦部の調整と体部の再調整技法により細分されている。A類は陸奥国系の系譜を引くもので、B類は陸奥国系の系譜を引く底部成形技法を用いるが、形態は北陸・日本海側の長甕に共通する器形を持ち、その影響を受けた土器、C類は形状面で北陸・日本海側の影響を受けた派生型、D類は陸奥国系技法をベースにした会津地方独自の型とした。沖ノ羽遺跡の事例は山中氏の分類に当てはめると232がC類、336がCあるいはD類に近似する。C類は会津地方の土器の位置付けでは9世紀前半に出現し、10世紀前半まで残る。D類は9世紀末～10世紀前半頃までの時期幅を示されており、厳密な対比は困難であるが、概ね前述した沖ノ羽遺跡出土土器の年代観と合致する。

また、近年同じ秋葉区の諏訪畑遺跡(潮田2008)で、類似した資料が確認された(第23図)。口径21.6cm、高さ34cm、底径5cm前後の土師器平底長甕である。体部下外面はタタキ痕が残り、内面はハケおよびタタキ押しえ痕が残る。底部はタタキ後に底部の一部を削り出し、その後、指頭等による底部押しえがされている。山中氏のC類にあたる。以上見てきたように、県内には現状では土師器平底長甕は、この2遺跡にのみ確認されている。

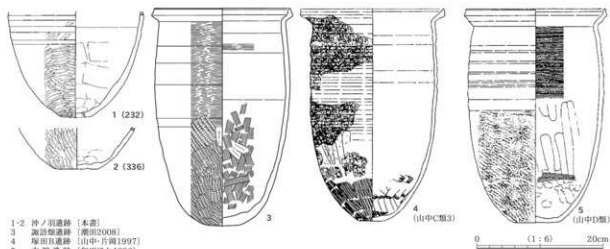
平安時代の会津地方と越後地方との関係を表すものとして、会津盆地南端の会津若松市大戸町に所在する「大戸窯」の製品が越後側に流入していることが挙げられる。大戸窯は平安時代の8～10世紀にかけて連続的に操業され、一部、瓷器系の中世窯を含めて220基程が確認されている(石田1993・1994)。大戸窯製品の特徴は生地の粒子密度が高く、全体的にセメント状の胎土を特徴(石田1993)とし、新潟県内の諸須恵器窯(阿賀



1 (232)

2 (336)

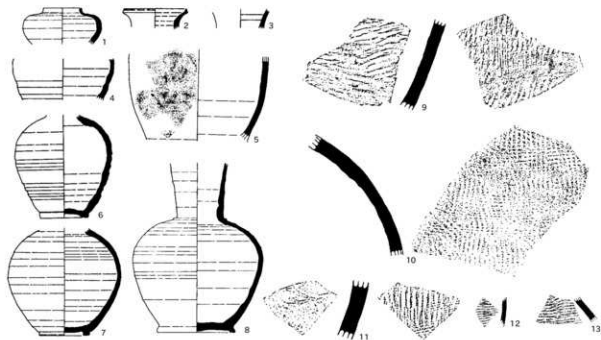
第22図 沖ノ羽遺跡出土の土師器平底長甕底部写真



- 1-2 沖ノ羽遺跡 [本書]
 3 美濃知遺跡 [橋田2008]
 4 塚田知遺跡 [山中・吉岡1997]
 5 古瀬遺跡 [和田ほか1992]

(山中C類3)
 (山中D類)
 0 (1:6) 20cm

第23図 土師器平底長甕の出土例



- 1-12-13 北野遺跡 (上層) [高橋ほか2005]
 2-3-4-6-9-11 大塚上遺跡 [滝沢・北村ほか1995]
 5 上野米遺跡 [高橋ほか2006]
 7 高瀬遺跡 [岡島2006]
 8 牛道遺跡 [土橋ほか1999]

0 (1:6) 20cm

第24図 新潟県内出土の大戸窯産須恵器

北、小泊窯、新津丘陵窯、西古志窯、高田平野東・西丘陵窯)とは異なる特徴的な胎土である。新潟県内で平安時代の大戸窯製品は東蒲原郡阿賀町大坂上道遺跡〔滝沢・北村ほか1995、滝沢2006〕で最初に確認され、それ以降に、同北野遺跡〔上層〕〔高橋ほか2005〕、同上野東遺跡〔高橋ほか2006〕、同高瀬遺跡〔國島2006〕、新潟市江南区牛道遺跡〔土橋ほか1999〕などで確認されている(第24図)。大坂上道遺跡では、9世紀後半の春日編年VI2～3期前後の時期の小泊産須恵器杯とともに、大戸窯産の須恵器長頸壺・大甕などが出土している。須恵器長頸壺は9世紀中葉～末葉の南原19号窯式、ないしは上屋屋107号窯式〔石田1993〕に比定されている〔滝沢2006〕。北野遺跡〔上層〕では、大戸窯産の須恵器短頸壺1点と大甕破片2点が確認されている。上野東遺跡では須恵器長頸壺体部片1点が大戸窯に比定されている。高瀬遺跡では大戸窯産の須恵器長頸壺が1点採集されている。牛道遺跡では土坑中(SK217)から大戸窯産の頸部に凸帯を持つ須恵器長頸壺が出土し、上屋屋107号窯式に比定されている〔土橋ほか1999〕。

遺物の面からは大戸窯産須恵器は長頸・短頸壺と大甕が確認され、貯蔵具に限定されている。大坂上道遺跡の例を見ると伴出した須恵器食膳具の杯は小泊産であり、大戸窯産の食膳具の搬入例は今の所ない。時期的には定量確認された大坂上道遺跡の例などは、須恵器杯の特徴などから春日編年VI2～3期前後、北野遺跡〔上層〕の例などは黒色土器有台碗などが定量あり春日編年VII期まで下る可能性があり、実年代で9世紀後半～10世紀前葉位に搬入されている。

分布の面では、阿賀野川流域の会津と越後の接点となる東蒲原郡に多数確認されている。東蒲原郡域は平安時代に越後国蒲原郡に所属するとされる。平安時代の後期には「小川庄」となる。平安時代後期の承安2年(1171)には越後国守・城資永が小川庄を会津・恵日寺に寄進することになる〔阿部1976〕。これ以降、明治19年(1886)まで東蒲原郡は会津領となる。このような歴史的背景もあり、会津地方と東蒲原郡域は古代から物流の面からも密接な関係にあることは想像に難くない。また、唯一、新潟平野側で確認されている牛道遺跡は大戸窯産須恵器が出土している。現阿賀野川から2km弱の位置にあり、内水面を利用した物流の流れでもたらされた可能性が高い。しかし、残念ながら東蒲原郡の遺跡からは土師器平底長甕は確認されていない³⁾。現状では遺物量の少ない遺跡が多く、土師器平底長甕の判別は難しい現状もあるが、大戸窯の製品の流入状況から東蒲原郡域には将来の出土が予想される。

これらのことから、新潟平野側から出土した、沖ノ羽遺跡と諏訪畑遺跡の土師器平底長甕は、他人の空似的な土器ではなく、会津地方の影響を受けた土器である可能性が指摘できる。また、大戸窯の製品が新潟側に流入する年代とも整合性があり、時期的には9世紀後半からの流入とみることができる。古代の流通の中で佐渡国の小泊窯製品が越後国をはじめ国を超えて、広く流通することが知られている〔坂井1988a〕。会津地方の陸奥国と越後国との物流は、おそらく阿賀野川を介したものであった可能性もある。さらに踏み込めば、阿賀野川と信濃川との河口付近に「蒲原津」が存在し、海運の渾として機能していたことから、会津地方との物流の流れが、阿賀野川を通して内水面を用いた交通路が確立されていたのではと考える。国を超えての物流については意見を持ち合わせないが、今回は少ない事例ではあるものの、それ以外の文物も平安時代に会津地方から流入していると思われ、今後注意を要する。

第5節 沖ノ羽遺跡の性格(附図)

沖ノ羽遺跡の今回の調査地点(1～5区)は、沖ノ羽遺跡の10,600,000㎡におよぶ遺跡推定範囲の南端に位置する(附図参照)。遺跡の調査は、平成3・4年度(1991～1992)に行われた磐越自動車道建設に伴う本発掘調査を皮切りに、平成15年以降は毎年継続的に圃場整備事業に伴う発掘調査が行われている(第1章第1表参照)。平成17・18年度(2005・2006)調査は附図に平面図のみ掲載したが、未報告のため詳細は不明である⁴⁾。したがって、今回は磐越自動車道から南側の調査成果について総括し、まとめたい。

沖ノ羽遺跡では、古墳時代中期～鎌倉・室町時代にいたる時期幅の遺構・遺物が確認されている。古墳時代の遺構は県沖ノ羽遺跡（B地区）〔星野¹⁹⁹⁶〕および隣接する今回の調査地点5区の一部と2区の旧河道から検出されており、層的にも平安時代の直下層にあたり、出土層位を異にする。遺構は土坑が主体で溝、性格不明遺構、小土坑のみで、建物などは確認されていない。古墳時代後期（5世紀末～6世紀）の土器は磐越自動車道の北側の調査地点から確認されている〔立木・澤野²⁰⁰⁵〕。弥生時代以前については調査深度の問題もあるが、現状では確認されていない。古墳時代の明瞭な遺構は確認されておらず、集落を形成し、水田耕作などが行われていたかは不明である。しかし、定量の土器を持つことからその可能性が高い。

平安時代以降には沖ノ羽遺跡は遺構・遺物の量が増加する。特に県沖ノ羽遺跡（C地区）〔春日^{2003a}〕、市沖ノ羽遺跡排水機場建設地点〔細野²⁰⁰²〕、および今回の調査地点1区で定量の土器が出土した。沖ノ羽遺跡全体で7・8世紀代の遺物は現状では確認されていないが、それに続く9世紀中葉以降の春日編年〔春日¹⁹⁹⁹〕V1期～VI2期の遺物が県沖ノ羽遺跡（C地区）から出土している。さらに市沖ノ羽遺跡排水機場地点では9世紀中葉のV1・2期の遺物が、そして今回の調査地点1区では10世紀前葉～中葉のVII1・2期が主体となっている。遺構としては、県沖ノ羽遺跡（C地区）では旧河道の横に掘立柱建物群、井戸、土坑、畝状遺構などが確認されている。畝状遺構は2群に分かれ、畑の可能性がある。市沖ノ羽遺跡排水機場地点では掘立柱建物（住居と倉庫）、井戸・土坑がセットとなる遺構群が確認された。今回の調査地点1区では、掘立柱建物（住居と倉庫）が確認され、3区では畑の可能性のある畝状遺構が確認されている。県沖ノ羽遺跡（A地区）〔石川¹⁹⁹⁴〕では用・排水路の機能を有した溝、「厩田」状の遺構が確認されており、水田跡と推定されている。このように遺物・遺構の面からみても沖ノ羽遺跡では古墳時代以降に一端、無住・無耕地となり9世紀中葉以降に、居住が開始されていると考えられる。さらに、このような9世紀中葉以降の古代集落構造は、新潟市江南区小丸山遺跡〔小池・本間¹⁹⁹⁵〕に代表される、数種の掘立柱建物に井戸や土坑などの周辺施設を併設する「住耕一体型」の集落構造となる〔坂井¹⁹⁹⁴、春日¹⁹⁹⁵〕。沖ノ羽遺跡排水機場地点の集落単位構造はその典型的な例である。各々の地点は存続時期が1あるいは2四半世紀程度の年代幅で、それほど長くない。それは、細野高伯氏が推定するように、有力者層主導の耕地拡大をし、未墾地への移動と開発を繰り返した結果〔細野²⁰⁰²〕であると考える。この問題は、今後さらに磐越自動車道北側の調査地点を含め考察する必要がある。

鎌倉・室町時代には県沖ノ羽遺跡（C地区）で12世紀後半～14世紀の掘立柱建物・井戸・土坑などが確認されている。県沖ノ羽遺跡（B地区）〔星野¹⁹⁹⁶〕と今調査地点の5区から大形の溝が多数確認され、圃場の一部と推定されている。今までの成果では集落域の一部と生産域が確認されており、遺跡が平安時代の生活域と重なるように確認されているのが特徴的である。

以上に今までの成果を概観したが、まとめると、沖ノ羽遺跡では古墳時代中・後期（5世紀中葉～6世紀）に人類の居住がはじまり、奈良時代（7・8世紀）以降には一時的に無住の地となる。その後の平安時代（9世紀中葉）以降に耕地拡大を目的とした開発に伴う集落形成が開始され、鎌倉・室町時代（12～14世紀）にいたると断続的に土地利用をされるのが明らかになった。特に遺跡の規模が大きい平安時代には、1あるいは2四半世紀に一度の居住地の移動を繰り返している様相が遺跡分布から読み取れる。しかし、沖ノ羽遺跡全体では平安時代以降の遺跡規模が大きい磐越自動車道より北側の調査地点の状況が明らかになっておらず、不明な部分が多い。今後の調査の進展により、詳細な土器編年に対応した遺跡の変遷が明らかになることを期待したい。

注

- 1) 平底で体部はヘラケズリあるいは一部ハケメが入り、タタキ痕は体部下平には観察されないもの。
- 2) B・C類は体部外面にタタキ痕が観察されるもの。
- 3) 北野遺跡（上層）出土遺物に平底の「糞」底部（報告図版191-8）が出土している〔高橋²⁰⁰⁵〕。底径7.2cmで、外面は縦ケズリ。内面はナデが確認されている。タタキ等は無く、小形であることから小甕と判断し除外した。
- 4) 附図 沖ノ羽遺跡発掘調査範囲図（1/2,000）のうち、平成18年度（2006）調査の3・4区の一部と5～7区については調査範囲のみ掲載した。

引用・参考文献

- ア 相田泰弘・前山裕明 2003 『高塚原古墳・華人塚古墳—2002年度確認調査の概要』 香町教育委員会
 相田泰弘・前山裕明 2005 『高塚原古墳・華人塚古墳Ⅱ—2003年度確認調査の概要』 香町教育委員会
 相田泰弘・深川入りか 2003 『東西遺跡 跡立市場建設に伴う土壌東8-273建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 阿部 洋輔 1976 『豪族領部の巨国「かみくむし」』 第21号 かみくむし学会
 甘藷 健・小野 昭^{aa} 1993 『越後山古墳群』 香町教育委員会
 甘藷 健 1992 『古津八幡山古墳』 1991年調査報告書 新潟市教育委員会
 甘藷 健・古川知明^{aa} 1981 『人取遺跡B・B地区の調査概報』 香町・湯沢村教育委員会
- イ 飯沢泰典^{aa} 2002 『一畑道7号中東黒川バイパス関係発掘調査報告書 蕨ノ坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡(小丸山遺跡緊急発掘調査報告書)』 横越村教育委員会
 深川入りか 2007 『既設教諭遺跡 第3次調査—泉宮地盤沈下対策事業新潟南部5期地区沢海保水機場建設事業に伴う既設教諭遺跡第3次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
 石川智紀^{aa} 1994 『磐船自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ(A地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 石川智紀^{aa} 2001 『両河内橋整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 石坂 圭介 1997 『宮内庁遺跡 第2次発掘調査報告書』 越後県教育委員会
 石田 明夫 1993 『会津・大ノ宮 大ノ宮宮跡群発掘調査報告書』 会津若松市教育委員会
 石田 明夫 1994 『会津・大ノ宮 大ノ宮宮跡群発掘調査報告書 遺物編』 会津若松市教育委員会
 伊藤 崇 1998 『山田山跡 新潟県北陸地区黒川村大字塩沢町内における古代遺跡の発掘調査報告書』 黒川村教育委員会
 伊藤 秀和 2001 『発掘遺跡—国道403号線道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—』 加茂市教育委員会
 伊藤 秀和 2005 『風越遺跡—国道403号線道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—』 加茂市教育委員会
 今井さやか 2007 『日本遺跡 第3次調査—一畑道7号中東黒川バイパス関係発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- ウ 藤田 英・藤村一樹^{aa} 2003 『越後七馬遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新潟市教育委員会
 上野一久・春日真実 1997 『磐船バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 上野平子 郎 1971 『人取遺跡緊急調査事業報告書』 香町
 上田 達中 2008 『既設教諭遺跡 第3次調査—老人健康保険施設「秋葉の郷」建設に伴う発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
 内堀 信雄 1988 『既設教諭に見られる印き目玉について』 シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題。報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 宇野 隆夫 1989 『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』 真淵社
 宇野 隆夫 1991 『律令社会の考古学研究—北陸を舞台として』 桂野原
 宇野 隆夫 1992 『食糧計量の意義と方法』 『国立歴史民俗博物館研究報告』 第40集 国立歴史民俗博物館
- エ 岡安秀久・大谷研司^{aa} 2005 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅶ—六年森遺跡—』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 小野 昭 1994a 『カチヤ遺跡①』 『香町史』 資料編 1 考古 香町
 小野 昭 1994b 『新谷遺跡』 『香町史』 資料編 1 考古 香町
 小野 昭^{aa} 1982 『大沢遺跡—Ⅱ—第3次調査概報』 新潟大学考古学研究室
 小野 昭・小畑博史 1987 『香町春日遺跡の調査』 『香町史研究』 Ⅲ 香町
 小野 昭・前山裕明^{aa} 1988 『香町菅原遺跡の調査』 香町
 小野 善裕 2002 『平安時代における緑陶器の生産・流通と消費 尾張産を中心に』 『国立歴史民俗博物館研究報告』 第92集 国立歴史民俗博物館
 尾野 善裕 2003 『古代の尾張・美濃における緑陶器生産』 『古代の土器研究会 第7回シンポジウム 古代の土器研究 平安時代の緑陶器—生産地の探求を中心に—』 古代の土器研究会
- カ 柿田 祐二 2001 『国史遺跡の印き目から』 『北陸古代土器研究』 第9号 北陸古代土器研究会
 春日 真実 1991 『古代志摩小浜における緑陶器の生産と流通』 『新潟考古学談話会』 第8号 新潟考古学談話会
 春日 真実 1994 『第Ⅰ章 まとめ 2 墳場時代の後期の土器』 『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之江遺跡地区(本文編)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 春日 真実 1995 『古代集落の展開』 『研究紀要』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 春日 真実 1997a 『越後・佐渡における9世紀中葉の前期』 『北陸古代土器研究』 第6号 北陸古代土器研究会
 春日 真実 1997b 『越後における10-11世紀の土器探求』 『北陸古代土器研究』 第7号 北陸古代土器研究会
 春日 真実 1997c 『第Ⅱ章 まとめ B 平安時代』 『磐船バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 春日 真実 1998a 『中継遺跡出土の緑陶器について』 『町史研究 よしだ』 第2号 吉田町教育委員会
 春日 真実 1998b 『北陸北東部の土器探求』 『第3号北東—関東前後方墳調査会会合(シンポジウム) 前関古墳から中関古墳へ—発表要旨資料』 東北・関東前後方墳調査会
 春日 真実 1999 『第4章古代 第2節土器編年と地域性』 『新潟県の考古学』 高志書院
 春日 真実 2000 『考古編 第5章 まとめ』 『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』 吉田町
 春日 真実 2003a 『磐船自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 春日 真実 2003b 『既設遺跡出土土器小丸山遺跡のロクロ口方向—越後出土土器を中心に』 『研究紀要』 第4号 『研究紀要』 第4号 『埋蔵文化財調査事業団』
 春日 真実 2005 『越後における奈良・平安時代の土器編年の対応関係について—今池編年・下ノ西編年・山二貫編年—の検討を中心に—』 『新潟考古』 第16号 新潟県考古学会
 春日 真実 2007 『越後における古代の意匠について』 『新潟考古』 第18号 新潟県考古学会
 春日真実^{aa} 1996 『磐船自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 春日真実^{aa} 2004 『越後阿賀北地域の古代土器探求』 新潟古代土器研究会
 春日真実・菅澤正史 1999 『越後・佐渡の緑相』 『北陸古代土器研究』 第8号 北陸古代土器研究会
 金子貞男^{aa} 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』 湯沢町教育委員会
 川上 貞雄 1981 『山崎宮遺跡Ⅲ』 五島市教育委員会
 川上 貞雄 1982 『中山道跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
 川上貞雄・藤澤孝司 1983 『平遠跡緊急発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 川上 貞雄 1992 『川口甲遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 川上 貞雄 1993 『山家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会
 川上 貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ』 遺物編 新潟市教育委員会
 川上 貞雄 1995 『舟ノ戸遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 川上 貞雄 1996 『会津川島野遺跡群 居村B・D地区』 新潟市教育委員会
 川上 貞雄 1997 『上湯 A 遺跡 新潟市工業団地第2期工事内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 川上貞雄^{aa} 1983 『馬場原教諭跡等発掘調査報告書』 白根市教育委員会
 川上貞雄^{aa} 1991 『発見久遠発掘調査報告書』 箕神村教育委員会
 川上貞雄・木村宗文 1989 『新潟市史』 資料編第1巻 原始・古代・中世 新潟市
 川村 浩司 2000 『上越市の古墳時代土器の変遷—関川右岸下流域を中心に—』 『上越史研究』 第5号 上越市

- 川村 浩司 2003 『古墳出現期土器の研究』 高志書院
- 川村 尚 2002 『佐藤部羽茂町小浜原跡』『新潟県考古学会第14回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- ★ 北野 博司 1999 『須原遺跡の年代学』『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 北野 博司 2004 『中谷内遺跡Ⅰ・沖ノ尾遺跡Ⅱ・船越寺遺跡Ⅲ』『新潟県立考古学』新潟市教育委員会
- 木村 宗文 1989 『資料解説—古代越後国と蒲原郡』『新潟市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新潟市
- ク 岡島 聡 2006 『高瀬遺跡』『東海原史 資料編 原始』東海原史編さん委員会
- コ 小池 邦明 1999 『山木ノ遺跡第2次発掘調査概要』新潟市教育委員会
- 小池 邦明 1999 『新潟市の埴輪遺跡 埴輪地区発掘整理事業用地区内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池邦明^{as} 1992 『山木ノ遺跡第1次発掘調査概要』新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間正吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直下山田建設事業用地区内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池義人^{as} 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 船越遺跡 寺道土遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人^{as} 1998 『土曜自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 関川谷内遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池治次郎 1999 『茨城遺跡発掘調査報告書』村松町教育委員会
- 小林 存 1952 『新潟市誌』新潟市
- 吉田正志・竹原秀雄 1967 『新取郡土佐松』農林水産技術会議事務局監修
- サ 西澤 孝正 1994 『東海地方の埴輪陶器生産—松原地区を中心に—』『古代の土器研究—総合的土器様式の内—』3 埴輪陶器—』古代の土器研究会
- 酒井 和男 1980 『三上山遺跡発掘調査報告書』亀田教育委員会
- 酒井 和男 2000a 『小丸山遺跡』『櫛越町史』資料編 櫛越町
- 酒井 和男 2000b 『山ノ家遺跡』『櫛越町史』資料編 櫛越町
- 酒井和男・鹿野真道 2002 『新潟砂丘における居住の知恵』『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 酒井和男^{as} 1966 『新潟町遺跡の発掘調査について—第一編砂丘を中心として—』新潟県立新潟工業高等学校学生会
- 坂井 秀孝 1988a 『埴輪、在野における古代土器の生産と流通—8—10世紀を中心として—』『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井 秀孝 1988b 『古代のごはんは誰した「飯」であった』『新潟考古学協議会会報』第2号 新潟考古学協議会
- 坂井 秀孝 1989a 『埴輪、在野—平安時代の土器』『新編ハイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 三日月遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井 秀孝 1989b 『北陸野郎土器展覧会の製作技法』『新潟考古学協議会会報』第3号 新潟考古学協議会
- 坂井 秀孝 1990a 『三日月遺跡からみた阿賀北地方の古代土器』『新潟考古学協議会会報』第4号 新潟考古学協議会
- 坂井 秀孝 1990b 『古代ワケ土器遺跡の二高瀬と須原郡との関係』『新潟考古学協議会会報』第6号 新潟考古学協議会
- 坂井 秀孝 1994 『庁と郡、集落と部族—桑田古代遺跡における部族の形成—』『城と館を繋ぐ—読む—古代から中世へ—』山川出版社
- 坂井 秀孝 1999 『本島の古代官制遺跡—越後平野の内木田、舟越、漁業—』『越と古代の北陸』名著出版
- 坂井秀孝^{as} 1984 『新編ハイパス関係発掘調査報告書Ⅰ』今池遺跡・下野遺跡・寺道遺跡。新潟県教育委員会
- 坂井秀孝^{as} 1986 『土曜自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅱ—一之江遺跡西側—』新潟県教育委員会
- 坂井秀孝^{as} 1989 『新編ハイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 三日月遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井秀孝・鶴岡真司 春日武史 1991 『在野の埴輪器』『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀孝^{as} 1999 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 土曜遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笠原 正史 1998 『亀ノ川 高田平野における平安時代前半期の食器について』『坂越遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会
- 笠原 正史 2001 『埴原遺跡の土器部類総合概観』『北陸古代土器研究』第9号 北陸古代土器研究会
- 笠原正史^{as} 1997 『坂越遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会
- 佐藤 友子 2007 『新潟市野原新町跡の調査について』『新潟県考古学会第19回大会研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- シ 佐藤 高志 1990 『越後における古墳時代土器の流通—越前平野の中期—後期を中心として—』『島崎立博物館 展覧 No.4 船越市立博物館』
- 品田 高志 1992 『越後における古墳時代土器の流通Ⅰ—前期土器編年の現状と編年試案—』『船越市立博物館 展覧 No.6 船越市立博物館』
- 品田高志・伊藤信雄 1997 『総取り—新潟県船越市・船越ノ遺跡発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 品田高志・伊藤信雄 1999 『舟田—新潟県船越市・舟田遺跡発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 清水 正二 1955 『新潟県中蒲原郡川根松本町』『日本考古年報』3 日本考古学協会
- 上越市 2003 『土曜市史』資料編2 考古
- ス 鈴木 俊成 1994 『第Ⅳ章まとめ 1 平安時代の土器』『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之江遺跡東地区(本文編)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木俊成^{as} 1998 『田舎埴輪器事業(神林村)復元埋蔵文化財発掘調査報告書 天王前遺跡・有明の埴輪跡・石川遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木俊成・藤原孝司 1988 『北陸自動車道 糸魚川地区発掘調査報告書Ⅴ 小池遺跡』新潟県教育委員会
- 鈴木俊成・春日真実 高橋一功 1994 『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之江遺跡東地区(本文編)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 藤 原^{as} 1980 『島原遺跡Ⅰ』雲土市教育委員会
- 高野裕子・渡邊朋和 2003 『川ノ乙遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 高橋保雄^{as} 2005 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 北野遺跡Ⅱ(上層)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄^{as} 2006 『磐越自動車道 川ノ乙改良関係発掘調査報告書Ⅰ 上野東遺跡 堀明遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋右石・門 1994 『須原大集あみらるる「放射状状」について』『紀要』Ⅳ (財)岩手県埋蔵文化財センター
- 高橋右石・土原孝志・寺崎裕治 2000 『津水機埴輪跡』『味方村史』味方村
- 滝沢 規周 2006 『大坂上遺跡』『東海原史 資料編 原始』東海原史編さん委員会
- 滝沢規周 2006 『大坂上遺跡』『東海原史 資料編 原始』東海原史編さん委員会
- 滝沢規周・北村 亮^{as} 1995 『磐越自動車道関係発掘調査報告書Ⅲ 大坂上遺跡—船越遺跡・中瀬遺跡—』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋 明人 1986 『考察—磐越自動車道土器の編年の考察』『磐越遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
- 田嶋 明人 1988 『古代土器編年輪の設定』『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田嶋 明人 1995 『土器と「古墳時代」』『北陸古代土器研究』第5号 北陸古代土器研究会
- 田嶋 明人 1998 『土器編年の編年—5 北陸』『古墳時代の研究』第6巻 藤原山
- 田中一廣・月井昌之^{as} 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』新潟市教育委員会
- 田中 祐 1996 『門新遺跡 外野田地区』和島町教育委員会
- 田中 祐^{as} 1999 『門新遺跡』和島町教育委員会
- 田辺 哲二 1966 『阿部古墳群Ⅰ』平安学考古学クラブ
- 田辺 弘 1994 『正正山小規模河川改修事業及び道路新設事業埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 道下・白地遺跡』田上町教育委員会
- ツ 立木宏明・渡邊朋和^{as} 1998 『船越遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 立木宏明^{as} 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 立木宏明^{as} 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子^{as} 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会

- 立木宏明・澤野慶子²⁰⁰³ 『結七鳥遺跡発掘調査報告書1』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子^{2004a} 『愛宕津遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子^{2004b} 『山王山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子²⁰⁰⁵ 『沖ノ引遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 藤巻謙之・若林知美²⁰⁰³ 『森ノ口遺跡発掘調査報告書』 新発田市教育委員会
- ㊦ 寺崎祐典・佐藤敏一²⁰⁰⁴ 『日本海沿岸東北自動車道開通関係発掘調査報告書VI 反鼓山遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ㊧ 東北中世考古学協会 2001 『東北中世考古学叢書2 鶴立と登穴 中世遺構論の課題』 東北中世考古学協会
- 土橋理子¹⁹⁹⁹ 『国語49ノ橋型バイパス関係発掘調査報告書』 牛込遺跡 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋理子²⁰⁰⁴ 『八尾越自動車道関係発掘調査報告書XIII 小野沢内遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋理子²⁰⁰⁶ 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XVII 見取坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋理子²⁰⁰⁷ 『西郷遺跡』『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成18年度 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ㊦ 長岡市 1992 『長岡市史』資料編1 考古
- 中川成大・倉田万部 1956 『新津田家七本松原遺跡発掘調査報告書』 北方文化博物館
- 長澤眞生²⁰⁰² 『無道遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 中村孝二¹⁹⁶⁰ 『西郷原郡中野小塚村曾和旁生穴六地山遺跡』『日本考古学年報』9 日本考古学協会
- 納輪彰一¹⁹⁹⁸ 『日本の三彩と緑釉—天平に成いた準—』愛知県埋蔵資料館・五島美術館
- ㊦ 新潟古代土器研究会 2004 『越後阿賀北地域の古代土器概観』
- 新潟市国際文化歴史文化課 2007 『新潟県史双書2 新潟市の遺跡』新潟市
- 新潟市史編さん原始古代中世史部 1994 『新潟市史』資料編1 原始古代中世 新潟市
- ㊦ 橋本 博文²⁰⁰¹ 『古川町魚崎山古墳群の調査から起る二、三の問題』『新潟県考古学会第13回大会研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- 藤 兼治・中村美恵子 1988 『新潟県上越市四ツ屋遺跡発掘調査報告書』四ツ屋遺跡調査団
- ㊦ 奥野 尚造 1996 『石鳥遺跡平成7年度発掘調査概報』新潟市教育委員会
- 奥野 尚造 2000 『新潟市前田遺跡 岩間かんがへ排水事業に伴う発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 奥野尚造・朝岡政典 1999 『八尾遺跡 宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- ㊦ 藤原 明・小池邦明・渡邊明和 1982 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』新潟市教育委員会
- 古庄浩明²⁰⁰³ 『結七鳥遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- ㊦ 尾野信明¹⁹⁹⁶ 『西郷自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ引遺跡II (B地区)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ㊦ 前山 裕明²⁰⁰² 『沖ノ引遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- ㊦ 前山 裕明 1990 『大沢遺跡—縄文時代中期前半を主とする集落跡の調査』香町教育委員会
- 前山 裕明 1994a 『新谷遺跡』『香町史』資料編1 考古 香町
- 前山 裕明 1994b 『新谷遺跡群』『香町史』資料編1 考古 香町
- 前山 裕明 1994c 『御月川遺跡』『香町史』資料編1 考古 香町
- 前山裕明・相田泰郎 2002 『南毛塚遺跡—縄文時代前期—中期—古墳時代前期を主とする集落跡の調査—』香町教育委員会
- 前山裕明・相田泰郎 2003 『御月川遺跡I—2002年度確認調査の概要—』香町教育委員会
- 前山裕明・相田泰郎 2004 『御月川遺跡II—2003年度確認調査の概要—』香町教育委員会
- 満日郷土史編纂委員会 1977 『満日郷土史』
- ㊦ 水澤 幸一²⁰⁰⁵ 『越後の中世土器』『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- ㊦ 望月 晴司 1997 『第2章各地域の土器生産と土器製造成遺構 第4節北陸』『古代の土器生産と土器製造』西岡社
- ㊦ 山崎 天 1999a 『越前川遺跡』五島市教育委員会
- 山崎 天 1999b 『小丸山遺跡』五島市教育委員会
- 山中 肇志 1998 『福島県津地方の越後・出羽日本海系ロクロ長副聚一そのアウトラインについての研究ノート—』『東国史論』第13号 群馬大学考古学研究所
- 山中 肇志 1999 『ロクロ土器を中心とする会津地方の土器概観(前編)』『福島考古』40 福島県考古学会
- 山中 肇志 2000 『ロクロ土器を中心とする会津地方の土器概観(前編)』『福島考古』41 福島県考古学会
- 山中 肇志 2003 『古代会津地方の長副聚に関する特質について』『行政社会論集 工藤樹生先生追念記念論集』第15巻第3号 福岛大学行政社会学会
- 山中 肇志 2004 『古代の越と会津—九世紀の煮炊き用土器に見る人々の交流—』『越後史論』『古代ロマン—行き交う人々の姿を求めて—』新潟県歴史博物館
- 山中 肇志・片岡 洋 1997 『鎌倉・長尾地区遺跡発掘調査報告書1 塚田A・B遺跡 村田遺跡』喜多方市教育委員会
- 山本 仁 1996 『村松町城下遺跡発掘調査報告書』村松町教育委員会
- ㊦ 横山啓孝・竹田和夫¹⁹⁸⁷ 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』新潟県教育委員会
- 横山 啓一 1978 『縄文日調整器に関する基礎的実験』『九州文化史研究紀要』第23号 九州文化史研究所
- 吉井 雅秀 1994 『古吉地B遺跡・寺田遺跡、赤井遺跡 岩間町整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1』『新潟県教育委員会』
- 吉井 雅秀 2001 『阿賀川遺跡 岩間町整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』『夏川町教育委員会』
- 吉井雅秀¹⁹⁹⁹ 『元山遺跡群 平成9・10年度町内遺跡試掘調査報告書』夏川町教育委員会
- 吉井雅秀²⁰⁰² 『阿賀川遺跡—鉄河川乙田川(川口川) 統合—一統河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』夏川町教育委員会
- 米沢 康 1965 『大化時代における越の史的位階』『信濃』171 信濃史学会
- 米沢 康 1980 『大正二年の越中国四部分別をめぐって』『信濃』32-6 信濃史学会
- ㊦ 若林 知美 2004 『新潟県出土の古代土器陶器』『新潟考古学談話会会報』第28号 新潟考古学談話会
- 和田 聡¹⁹⁹² 『阿賀川川原地区遺跡発掘調査報告書 古瀬遺跡・真如遺跡』会津下町教育委員会
- 渡邊 明和 1991 『長谷遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊 明和 1992 『上瀬遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊 明和 1994a 『八幡山遺跡発掘調査報告書—平成5年度範囲確認調査—』新津市教育委員会
- 渡邊 明和 1994b 『平成5年度 新津市内遺跡確認調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊 明和 1999 『第4章第4節第3項筑紫』『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 渡邊明和¹⁹⁹⁷ 『金津丘陵築込遺跡群発掘調査報告書II 居村遺跡E・A・C地点』新津市教育委員会
- 渡邊明和¹⁹⁹⁸ 『金津丘陵築込遺跡群発掘調査報告書I(分析・考察編)』新津市教育委員会
- 渡邊明和²⁰⁰¹ 『寺道土遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和²⁰⁰² 『中谷内遺跡発掘調査報告書II』新津市教育委員会
- 渡邊明和・立木宏明²⁰⁰¹ 『八幡山遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和・立木宏明²⁰⁰⁴ 『八幡山遺跡群発掘調査報告書—11・12・13・14次調査—』新津市教育委員会
- 渡辺ますみ 1991 『瓦木前遺跡』亀田町教育委員会
- 渡辺ますみ 1994 『鶴立C遺跡発掘調査報告書』黒川町教育委員会
- 渡辺ますみ 1998 『第2章 原始・古代—鶴立遺跡—第3節出土遺物3項 奈良・平安時代の遺物』『黒川町史資料編1』原始・古代・中世 黒川町
- 渡辺寛子¹⁹⁹⁸ 『版ノ沢C遺跡II(平安時代編)』新発田市教育委員会

第VI章 引用・参考文献

- カ 金子清俊・谷口博一 1987 『線形動物・扇形動物、区動物学』『新版臨床検査講座』8 医歯薬出版 p.9-55
 金原正明・金原正子 1992 『花粉分析および寄生虫』『藤原京跡の使所遺構—藤原京7条1坊—』奈良国立文化財研究所 p.14-15
 金原 正明 1993 『花粉分析法による古環境復原』『藤原古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店 p.248-262.
 金原 正明 1999 『寄生虫、考古学と動物学』『考古学と自然科学』2 同成社 p.151-158.
- サ 佐伯 浩・原田 浩 1985 『対象樹材の細胞』『木材の構造』文芸堂出版 p.20-48
 佐伯 浩・原田 浩 1985 『広葉樹材の細胞』『木材の構造』文芸堂出版 p.49-100
- シ 鳥倉巳二郎 1973 『日本植物の花粉形態』『大阪市立自然科学博物館収蔵品録第5集』60p.
 高池 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木質品総覧』華山閣 p.296
- ス 杉山 真二 1987 『タケ亜科植物の細胞組織(細胞体)』『富士竹類植物園報告』第31号 p.70-83
 杉山真二・松田隆二 1988 『細胞組織(細胞体)の形態によるキビ属植物の同定とその応用—古代農耕遺跡のための基礎資料として—』『考古学と自然科学』20 p.81-92
 杉山 真二 2000 『植物(細胞体 (プラント・オパール))』『考古学と植物学』同成社 p.189-213.
- ナ 中村 純 1973 『花粉分析』古今書院 p.82-110
 中村 純 1974 『イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として』『第四紀研究』13 p.187-193
 中村 純 1977 『稲作とイネ花粉』『考古学と自然科学』第10号 p.21-30
 中村 純 1980 『日本産花粉の総論』『大阪自然科学博物館収蔵品録第13集』91p
- フ 藤原 宏志 1976 『プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) —数種イネ科栽培植物の細胞体標本と定量分析法—』『考古学と自然科学』9 p.15-29
 藤原宏志・杉山真二 1984 『プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) —プラント・オパール分析による水田跡の探査—』『考古学と自然科学』17 p.73-85
 Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard 1992 Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils.Journal of Archaeological Science, 19, p.231-245

別表1 沖ノ羽道跡遺構計測表

測量日	測区	遺構	グリップ	時代	構造	工法	埋深 (m)				断面幅 (m)	断面		遺物の種類	遺物の目録	遺物の数	重量 (g)	備考
							上層		下層			厚さ	傾斜					
							北側	南側	北側	南側								
7-12-14-17	1区	SK3	17AC8	平安朝時代	Via	N-86°-W	0.65	0.58	0.38	0.29	0.11	3.59	楕円形	北側	2	55		
7-12-14-17	1区	SK35	17AC15	平安朝時代	Via	N-26°-E	0.92	0.81	0.55	0.45	0.14	3.58	楕円形	北側	2	55		
7-12-14-17	1区	SK38	17AC14-15-19-20	平安朝時代	Via	N-°-E	0.93	0.79	0.70	0.48	0.08	3.66	楕円形	北側	2	55		
7-12-14-17-24	1区	SK36	17AD12-13-17-18	平安朝時代	Via	N-23°-W	1.21	1.09	1.03	0.81	0.30	3.44	楕円形	台形状	4	55		SK378
7-12-14-17	1区	SK37	17AD18-23	平安朝時代	Via	N-35°-W	1.25	1.09	0.67	0.29	0.64	楕円形	北側	2	55			
7-14-16-17	1区	SK23	17AE1-2-6	平安朝時代	Via	N-11°-W	2.12	1.70	1.20	0.15	0.22	3.55	不安定	北側	2	55		
7-14-16-18	1区	SK39	17AD14-9-10,17AB6	平安朝時代	Via	N-11°-W	2.06	(2.00)	1.49	0.78	0.43	3.27	円形	台形状	4	55-57	23	2735.89
7-14-16-18	1区	SK51	17AD15,17AB6-11-12-16-17	平安朝時代	Via	N-15°-W	3.20	2.64	2.17	2.00	0.27	3.51	楕円形	台形状	4	57-68	9	324.82
7-14-16-18	1区	SK86	17AF0	平安朝時代	Via	N-42°-E	0.78	-	0.22	-	0.27	3.50	不安定	円形	2	59	1	7.83
7-14-16-18	1区	SK88	17AD14-15	平安朝時代	Via	N-63°-E	(0.97)	(0.81)	(0.70)	(0.60)	0.13	3.61	楕円形	北側	1	59	1	56.92
7-14-16-18	1区	SK89	17AD20	平安朝時代	Via	N-82°-W	0.66	(0.47)	0.43	0.29	0.10	3.63	楕円形	北側	2	59		
7-14-16-19	1区	SK107	17AE16-21	平安朝時代	Via	N-74°-W	(1.19)	(0.90)	(0.68)	(0.70)	0.16	3.61	楕円形	北側	2	59	3	4.88
7-14-16-19	1区	SK151	17AE21-22	平安朝時代	Via	N-76°-W	0.70	0.68	0.54	0.48	0.09	3.66	円形	北側	1	59		
7-16-19	1区	SK182	18AE13,18AF11	平安朝時代	Via	N-26°-W	1.21	(1.00)	0.83	0.58	0.23	3.51	楕円形	台形状	2	59		
7-16-19	1区	SK179	18AE10,18AF9	平安朝時代	Via	N-60°-W	1.87	1.18	1.29	0.94	0.14	3.65	楕円形	北側	2	59	1	373.24
7-16-19	1区	SK180	18AF9-7-11-12	平安朝時代	Via	N-47°-E	1.48	1.35	1.28	1.04	0.09	3.65	楕円形	北側	2	59	1	182.43
7-12-14-19	1区	SK60	17AD16-17	平安朝時代	Via	N-64°-W	0.63	(0.30)	0.53	(0.25)	0.18	3.56	楕円形	北側	2	X		
7-12-14-15-20	1区	SK89	18AD2-3	平安朝時代	Via	N-74°-E	1.04	0.80	0.96	0.59	0.21	3.50	不安定	北側	-	60		
7-12-14-15-20	1区	SK87	17AD22-23,18AD3	平安朝時代	Via	N-67°-W	1.21	(0.44)	1.03	(0.13)	0.25	3.45	円形	台形状	-	60		
7-14-16-20	1区	SK92	18AD4-5	平安朝時代	Via	N-90°-W	(1.60)	(0.80)	(1.12)	(0.52)	0.21	3.51	不明	北側	3	60	10	2666.00
7-14-16-20	1区	SK150	18AD5	平安朝時代	Via	N-65°-W	0.44	0.31	0.29	0.18	0.08	3.65	楕円形	北側	2	X		
7-12-13-20	1区	SK201	18AC21-22,19AC1-2	平安朝時代	Via	N-20°-W	0.61	0.39	0.53	0.21	0.12	3.60	楕円形	北側	1	60		SK384
7-12-13-20	1区	SK193	18AC22,19AC2-3	平安朝時代	Via	N-45°-W	2.73	0.73	2.56	0.52	0.09	3.65	扇形	北側	1	60		
7-12-13-20	1区	SK194	19AC3	平安朝時代	Via	N-67°-W	1.98	0.52	1.72	0.27	0.21	3.54	不安定	円形	2	60		
7-12-13-15-20	1区	SK200	19AC9-10	平安朝時代	Via	N-74°-W	1.47	0.50	1.16	0.16	0.18	3.62	楕円形	円形	4	60		
7-13-21	1区	SK185	20AR3-4	平安朝時代	Via	N-58°-E	0.76	0.70	0.58	0.59	0.14	3.54	円形	台形状	3	60		
7-12-13-15-21	1区	SK189	19AC15-20	平安朝時代	Via	N-50°-W	1.23	0.72	0.85	0.57	0.12	3.65	扇形	北側	2	60		
7-12-13-19-21	1区	SK196	19AC20	平安朝時代	Via	N-20°-W	0.47	0.46	0.28	0.27	0.09	3.64	円形	北側	1	60		
7-15-21	1区	SK196	19AD22	平安朝時代	Via	N-82°-W	(0.68)	0.46	(0.52)	0.26	0.06	3.50	楕円形	北側	1	60		
7-13-21	1区	SK188	20AR20-25,20AC16-21	平安朝時代	Via	N-39°-W	(3.22)	1.27	(2.30)	(1.43)	0.28	3.20	楕円形	台形状	2	X		
7-14-16-19	1区	SK106	17AD20-25,17AE16-17-21-22	平安朝時代	Via	N-86°-W	(3.86)	0.60	(3.80)	0.35	0.12	3.62	不安定	台形状	2	60		
7-14-16-19	1区	SK161	17AF17-20-22-25,18AE2-5-7-10	源平以降	W	N-78°-W	0.28	0.10	0.66	0.46	0.23	3.57	円形	台形状	4	60	2	435.95
7-13-21	1区	SK387	20AR17-18-22-23	平安朝時代	Via	N-87°-E	2.95	2.74	2.68	1.95	0.34	3.12	不安定	台形状	不明	X		
7-12-13-15-16-22	1区	SK183	18AF15-19-25,18AF11-16,19AC20-24,25,19AD4-5-7-19-21,22,19AE1-3,6-7,20AC2-9-11,12-17	平安朝時代	Via	N-57°-E	-	(0.50)	-	3.10	0.31	3.44	不安定	円形	3	60-61	3	82.48
7-14-22	1区	SK1	18AC22-25,17AC1-5,17AD1-4-9	平安朝時代	Via	N-87°-W	-	1.36	-	1.16	0.13	3.52	-	台形状	2	61		
7-12-14-17-19-20-23	1区	SK2	17AC1-2-6,7-11,12-16-20,17AD16-17-21-25,17AE21-25,18AD2-3,18AE1-3,18AF1-2	平安朝時代	Via	N-81°-W	-	1.40	-	0.45	0.38	3.28	-	円形	7	61-72	15	144.58
7-14-15-22	1区	SK25-6	18AD2-9-9-13-14	平安朝時代	Via	N-10°-E	-	1.05	-	0.80	0.28	0.72	-	台形状	3	61		
7-12-14-22	1区	SK25	18AC25,18AD21-23,17AC4-9-9,17AD3	平安朝時代	Via	N-53°-E	-	0.40	-	0.25	0.09	3.57	-	台形状	1	61		
7-14-16-18-19-22	1区	SK4	18AD19-20-24,18AF16-17,17AD4-9-14-19,20,17AE16-17	平安朝時代	Via	N-1°-W	-	1.00	-	0.65	0.25	3.46	-	台形状	5	62	2	1552.45
7-14-16-17-23	1区	SK32	18AF16-21,17AE1-6-7-12-17	平安朝時代	Via	N-23°-W	-	0.40	-	0.14	0.29	3.50	-	台形状	3	62	1	67.43
7-14-16-23	1区	SK176	18AF7-12-13-18-23	平安朝時代	Via	N-20°-W	-	0.23	-	0.07	0.13	3.50	-	円形	2	62		
7-14-16-23	1区	SK181	18AF8-9-13-14-18	平安朝時代	Via	N-10°-E	-	1.14	-	0.84	0.10	3.64	-	台形状	2	62		
7-12-14-15-23	1区	SK295	18AD1-2-6-8-13	平安朝時代	Via	N-52°-W	-	0.40	-	0.30	0.09	3.53	-	台形状	1	62		
7-12-14-16-23	1区	SK290	18AD4-9-9-9	平安朝時代	Via	N-49°-E	-	0.28	-	0.18	0.06	3.63	-	扇形	1	62	1	180.40
7-14-16-23	1区	SK210	18AD10,18AE8	平安朝時代	Via	N-43°-E	0.84	0.14	0.56	0.08	0.06	3.62	-	台形状	-	62		
7-12-15-23	1区	SK296	18AC15,18AD11-16	平安朝時代	Via	N-62°-W	2.44	0.35	2.28	0.30	0.11	3.64	-	台形状	2	62		
7-12-14-15-23	1区	SK297	18AC9-10	平安朝時代	Via	N-49°-E	2.26	0.22	(1.80)	0.06	0.07	3.61	-	扇形	1	X		
7-12-13-20-23	1区	SK291	19AB5-10,19AC1-2	平安朝時代	Via	N-64°-E	-	0.58	-	0.42	0.19	3.54	-	円形	1	62		
7-12-13-23	1区	SK292	18AD10,19AC1-6	平安朝時代	Via	N-47°-E	-	0.32	-	0.18	0.09	3.64	-	円形	1	X		
7-12-13-15-23	1区	SK215	18AC16-19-22-23	平安朝時代	Via	N-66°-E	5.42	0.25	5.22	0.16	0.05	3.69	-	扇形	1	X		
7-11-13-23	1区	SK180	20AR5-10-14,15,20AB6-13,20AC3-11-16-17	平安朝時代	Via	N-90°-E	-	1.26	-	0.96	0.14	3.47	-	扇形	1	X		
7-13-23	1区	SK190	20AR14-15	平安朝時代	Via	N-86°-E	-	0.26	-	0.13	0.07	3.51	-	台形状	1	X		

図面No	区	遺構	グラッド	時代	傾斜面	主軸方位	縦断 (m)						遺物の 有無	遺物採具	土壌 (%)	重量 (g)	備考		
							上層		下層		深度	底部 径(m)						形質	
							長さ	幅	長さ	幅								平面	断面
7-14	1K	Pi05	38AD11	平安時代	Va	-	0.15	0.10	0.05	0.05	-	-	楕円形	-	-	○			
7-12-14-24	1K	Pi15	37AD7	平安時代	Va	-	0.35	0.30	0.20	0.10	0.18	3.48	楕円形	半円形	-	○	SH379		
7-12-14	1K	Pi16	37AD8	平安時代	Va	-	0.20	0.20	0.10	0.10	-	-	楕円形	-	-	○			
7-12-14-24	1K	Pi17	37AD8	平安時代	Va	-	0.25	0.25	0.15	0.10	0.16	3.50	円形	台形状	-	○	SH378		
7-12-14-24	1K	Pi18	37AD8	平安時代	Va	-	0.25	0.25	0.10	0.05	0.24	3.42	円形	台形状	-	○	SH379		
7-14	1K	Pi24	37AD9-14	平安時代	Va	-	0.30	0.20	0.10	0.10	-	-	-	-	-	○			
7-12-14	1K	Pi28	37AD11	平安時代	Va	-	0.40	0.25	0.13	0.11	-	-	-	-	-	○	72		
7-12-14	1K	Pi42	37AC25	平安時代	Va	-	0.25	0.20	0.10	0.10	-	-	-	-	-	○			
7-12-14	1K	Pi45	37AD16	平安時代	Va	-	0.45	0.35	0.30	0.15	-	-	-	-	-	○			
7-12-14-24	1K	Pi46	37AD12	平安時代	Va	-	0.40	0.35	0.10	0.15	0.30	3.40	楕円形	台形状	-	○	SH378		
7-12-14-24	1K	Pi48	37AD13-18	平安時代	Va	-	0.30	0.25	0.20	0.15	0.12	3.58	不定形	台形状	-	○	SH378		
7-12-14-24	1K	Pi49	37AD18	平安時代	Va	-	0.25	0.20	0.10	0.10	0.10	3.61	不定形	楕形	-	○	SH379		
7-12-14-17	1K	Pi57	37AC15	平安時代	Va	-	0.28	0.22	0.23	0.14	-	-	-	-	-	○			
7-14-16-24	1K	Pi59	37AD15	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.10	0.05	0.08	3.64	楕円形	半円形	-	○	SH377		
7-14-16	1K	Pi62	37AD15	平安時代	Va	-	0.20	0.25	0.15	0.10	-	-	-	-	-	○	62		
7-12-14-15-25	1K	Pi62	37AD21	平安時代	Va	-	0.18	0.16	0.09	0.04	0.08	3.60	楕円形	半円形	-	○	SH380		
7-12-15-25	1K	Pi65	38AD2	平安時代	Va	-	0.18	0.14	0.06	0.04	0.19	3.50	楕円形	台形状	-	○	SH380		
7-14-16	1K	Pi65	38AD10	平安時代	Va	-	0.20	0.25	0.30	0.10	-	-	-	-	-	○	1 129.07		
7-14-16	1K	Pi69	38AC6	平安時代	Va	-	0.25	(0.25)	0.15	0.10	-	-	-	-	-	○	62		
7-12-14-24	1K	Pi69	37AD6	平安時代	Va	-	0.25	0.20	0.15	0.10	0.22	3.46	楕円形	台形状	-	○	SH378		
7-12-14	1K	Pi100	37AC19	平安時代	Va	-	0.18	0.13	0.07	0.05	-	-	-	-	-	○	62		
7-14-24	1K	Pi101	37AD2	平安時代	Va	-	0.25	0.25	0.15	0.10	0.18	3.46	円形	台形状	-	○	SH378		
7-14-16	1K	Pi102	38AD5	平安時代	Va	-	0.30	0.25	0.15	0.15	-	-	-	-	-	○	62		
7-12	1K	Pi105	38AC13	平安時代	Va	-	0.15	0.15	0.05	0.05	-	-	-	-	-	○	3 27.77		
7-12-15-25	1K	Pi115	38AD21	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.10	0.10	0.10	3.68	円形	半円形	-	○	SH382		
7-12-15-25	1K	Pi117	38AD16	平安時代	Va	-	0.25	0.25	0.10	0.05	0.14	3.62	円形	半円形	-	○	SH381		
7-12-15-25	1K	Pi119	38AD1	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.05	0.05	0.10	3.66	楕円形	半円形	-	○	SH382		
7-12-15-25	1K	Pi121	38AD29	平安時代	Va	-	0.25	0.25	0.07	0.05	0.20	3.70	楕円形	楕形	-	○	SH381		
7-12-15-25	1K	Pi122	38AD23	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.05	0.05	0.10	3.64	楕円形	半円形	-	○	SH381		
7-12-14-15-25	1K	Pi129	38AD7	平安時代	Va	-	0.16	0.14	0.07	0.05	0.13	3.54	楕円形	台形状	-	○	SH380		
7-12-14-15-25	1K	Pi133	38AD3	平安時代	Va	-	0.23	0.19	0.12	0.08	0.06	3.64	楕円形	楕形	-	○	SH380		
7-14-16-24	1K	Pi146	37AE2	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.10	0.05	0.10	3.68	楕円形	半円形	-	○	SH377		
7-14-16	1K	Pi147	37AE1	平安時代	Va	-	0.40	0.35	0.15	0.10	-	-	-	-	-	○			
7-14-16	1K	Pi159	37AE16	平安時代	Va	-	0.15	0.15	0.10	0.05	-	-	-	-	-	○			
7-14-16	1K	Pi162	37AE22	平安時代	Va	-	0.35	0.20	0.20	0.10	-	-	-	-	-	○			
7-16	1K	Pi175	37AE18	平安時代	Va	-	0.25	0.15	0.10	0.05	-	-	-	-	-	○			
7-12-26	1K	Pi184	38AC16-17	平安時代	Va	-	0.50	0.30	0.30	0.20	0.36	3.32	不定形	台形状	-	○	SH383		
7-12-26	1K	Pi197	38AC16	平安時代	Va	-	0.60	0.50	0.45	0.25	0.42	3.20	楕円形	台形状	-	○	SH384		
7-12-13-26	1K	Pi198	38AC2-7	平安時代	Va	-	0.60	0.60	0.35	0.25	0.42	3.32	方形	半円形	-	○	SH384		
7-12-14-26	1K	Pi199	38AC6-7-12	平安時代	Va	-	0.45	0.40	0.20	0.10	0.50	3.20	方形	台形状	-	○	SH383		
7-12-15-25	1K	Pi202	38AD18	平安時代	Va	-	0.25	0.25	0.15	0.15	0.16	3.54	楕円形	台形状	-	○	SH381		
7-14-15	1K	Pi203	38AD9	平安時代	Va	-	0.30	0.20	0.20	0.15	-	-	-	-	-	○	63		
7-14-16	1K	Pi204	37AE1	平安時代	Va	-	0.40	0.35	0.20	0.25	-	-	-	-	-	○			
7-12-14-16	1K	Pi205	37AD22	平安時代	Va	-	0.15	0.10	0.05	0.05	-	-	-	-	-	○			
7-12-14	1K	Pi206	37AC20-25,17AD16-21	平安時代	Va	-	0.40	0.35	0.25	0.15	-	-	-	-	-	○	63		
7-14-16	1K	Pi207	37AE16	平安時代	Va	-	0.25	0.20	0.15	0.15	-	-	-	-	-	○	63 1 200.34		
7-14	1K	Pi208	38AE21-22	平安時代	Va	-	0.15	0.10	0.05	0.05	-	-	-	-	-	○			
7-14-16	1K	Pi209	37AE6	平安時代	Va	-	0.35	0.25	0.10	0.05	-	-	-	-	-	○	63		
7-14-16	1K	Pi210	37AD15	平安時代	Va	-	0.35	0.25	0.20	0.15	-	-	-	-	-	○	2 16.18		
7-12-15	1K	Pi212	38AD12	平安時代	Va	-	0.30	0.15	0.05	0.05	-	-	-	-	-	○	63		
7-12-15	1K	Pi213	38AC14	平安時代	Va	-	0.40	0.35	0.25	0.20	-	-	-	-	-	○	63		
7-12-14-15	1K	Pi214	38AD3	平安時代	Va	-	0.25	0.25	0.10	0.10	-	-	-	-	-	○			
7-12-14-24	1K	Pi215	37AD12	平安時代	Va	-	0.40	0.35	0.20	0.15	0.26	3.44	不定形	台形状	-	○	SH379		

図面No.	区	遺構	タリット	時代	遺跡	主軸方位	幅 (m)				正面幅	形状		壁1	遺物の 遺物関係	土器 (点)	重量 (g)	備考	
							上部		下部			厚さ	平面						断面
							長	短	長	短									
7-14	1K	PG216	17AD19-14	平安時代	Va	-	0.25	0.25	0.15	0.15	-	-	円形	-	-	〇	68		
7-12-15-25	1K	PG217	18AD11	平安時代	Va	-	0.25	0.20	0.10	0.10	0.26	3.48	楕円形	円形	-	-	1	65.41	SB381
7-14	1K	PG219	18AE11	平安時代	Va	-	0.19	0.10	0.02	0.02	-	-	円形	-	-	〇			
7-14-16	1K	PG220	17AE16	平安時代	Va	-	0.45	(0.20)	0.25	(0.10)	-	-	不定形	-	-	〇			
7-14-16	1K	PG221	17AD20	平安時代	Va	-	0.20	0.20	0.10	0.08	-	-	円形	-	-	〇			
7-14-24	1K	PG222	17AD12	平安時代	Va	-	0.30	0.20	0.10	0.05	0.26	3.46	円形	円形	-	-		SB378	
7-12-26	1K	PG226	18AD15	平安時代	Va	-	0.25	0.20	0.15	0.15	0.34	3.48	楕円形	円形	-	-		SB383	
7-12-26	1K	PG240	18AB15-20, 18AC11-16	平安時代	Va	-	0.60	0.55	0.30	0.25	0.32	3.32	不定形	円形	-	-		SB384	
7-12-13-26	1K	PG243	19AD4	平安時代	Va	-	0.40	0.35	0.35	0.25	0.26	3.34	楕円形	円形	-	-		SB384	
7-12-13-26	1K	PG245	19AD9-10	平安時代	Va	-	0.50	0.40	0.20	0.15	0.30	3.40	長方形	円形	-	-		SB384	
7-12-26	1K	PG250	18AC12-13	平安時代	Va	-	0.65	0.55	-	-	0.20	3.50	長方形	楕円形	-	-		SB383	
7-12-13-26	1K	PG256	19AD5	平安時代	Va	-	0.60	0.40	0.35	0.15	0.36	3.48	不定形	円形	-	-		SB384	
7-12-13-26	1K	PG265	19AC8-13	平安時代	Va	-	0.40	0.40	0.20	0.20	0.22	3.54	方形	円形	-	-		SB384	
7-12-13-26	1K	PG269	19AC12	平安時代	Va	-	0.35	0.35	0.15	0.15	0.30	3.44	方形	円形	-	-		SB384	
7-12-13-26	1K	PG273	19AC16	平安時代	Va	-	0.40	0.35	0.15	0.15	0.40	3.36	長方形	円形	-	-		SB384	
7-12-13-15-25	1K	PG294	19AC5	平安時代	Va	-	0.35	0.30	0.20	0.15	0.16	3.64	楕円形	円形	-	-		SB382	
7-12-15-25	1K	PG296	19AD6	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.05	0.05	0.10	3.66	楕円形	円形	-	-		SB382	
7-12-14-15-25	1K	PG312	18AD6	平安時代	Va	-	0.20	0.18	0.08	0.08	0.08	3.60	方形	円形	-	-		SB380	
7-12-15-25	1K	PG317	18AD12	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.10	0.05	0.10	3.64	楕円形	円形	-	-		SB381	
7-12-15-25	1K	PG320	19AD1	平安時代	Va	-	0.15	0.15	0.05	0.05	0.12	3.66	円形	円形	-	-		SB382	
7-14-16-24	1K	PG326	17AD5	平安時代	Va	-	0.25	0.20	0.10	0.10	0.24	3.38	楕円形	円形	-	-		SB377	
7-14-16-24	1K	PG348	17AD5	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.05	0.05	0.08	3.72	楕円形	円形	-	-		SB377	
7-14-24	1K	PG355	17AD14	平安時代	Va	-	0.35	0.30	0.15	0.10	0.26	3.48	方形	円形	-	-		SB378	
7-12-14-15-25	1K	PG375	18AD1	平安時代	Va	-	0.49	0.21	0.21	0.11	0.16	3.54	楕円形	円形	-	-		SB380	
7-14-16-24	1K	PG382	17AE13	平安時代	Va	-	0.10	0.10	0.05	0.05	0.10	3.74	楕円形	円形	-	-		SB377	
7-14-16-24	1K	SB377	17AD5-10, 18, 17AE1-3, 6-8-11-13	平安時代	Va	N-87-W	5.30	3.68	-	-	-	-	1階×2階	-	-	-	-	PG59-146-338-348-362	
7-12-14-24	1K	SB378	17AD1-2, 6-8-11-12-17-18	平安時代	Va	N-41-W	4.92	2.38	-	-	-	-	1階×2階	-	-	-	-	PG17-46-48-99-101-222-383	
7-12-14-24	1K	SB379	17AD6-8, 12-14-17-18	平安時代	Va	N-41-W	4.60	2.80	-	-	-	-	1階×2階	-	-	-	-	PG15-18-49-215-356	
7-12-14-15-25	1K	SB380	17AD21, 18AD1-3, 4, 7	平安時代	Va	N-35-W	3.12	1.68	-	-	-	-	1階×2階	-	-	-	-	PG53-85-129-133-312-375	
7-12-15-25	1K	SB381	18AD11-13, 16-18, 21-23	平安時代	Va	N-86-W	3.56	2.40	-	-	-	-	1階×2階	-	-	-	-	PG17-121-122-202-217-317	
7-12-13-15-25	1K	SB382	18AC2, 18AD21, 19AC5-10, 19AD1-6	平安時代	Va	N-25-E	2.96	1.86	-	-	-	-	1階×1階	-	-	-	-	PG115-119-294-296-320	
7-12-14-24	1K	SB383	18AB10-14, 15-20, 18AC6-7, 11-13, 16-17	平安時代	Va	N-53-W	6.18	2.50	-	-	-	-	1階×2階	-	-	-	-	PG184-199-236-240-250	
7-12-13-26	1K	SB384	18AB24-25, 18AC16-21-22, 18AD4-5, 9-10-15, 19AC1-2, 6-8, 11-13	平安時代	Va	N-40-W	7.44	4.72	-	-	-	-	2階×3階	-	-	-	-	PG17-198-242-245-256-265-269-273, 320	
29-31	2K	SK18	23AQ24	平安時代	Va	N-15-E	0.51	0.21	0.41	0.13	0.11	3.50	楕円形	円形	1	X			
29-31	2K	SK1	25AQ12-18-19	平安時代	Va	N-68-W	(2.57)	0.96	(2.57)	0.62	0.15	3.37	不定形	円形	2	X			
29-32	2K	PD0	22SA4-6-8-10-12-14-16-17-21, 21AT17-21, 22, 22AT1	古墳 - 平安時代	Va	-	-	(18.50)	-	(16.50)	-	-	-	-	7	〇	65-71		
29-30	2K	PD4	23AQ2-3	平安時代	Va	-	0.20	0.15	0.15	0.10	-	-	楕円形	-	-	-	-		
29-30	2K	PD5	23AQ23, 24AQ2	平安時代	Va	-	0.35	0.25	0.30	0.14	-	-	不定形	-	-	-	-		
29-30	2K	PD9	23AQ24	平安時代	Va	-	0.25	0.20	0.15	0.15	-	-	楕円形	-	-	-	-		
34-37-38	3K	SK6	16AN22-23, 17AN3	平安時代	Va	N-59-W	2.03	0.65	1.62	0.38	0.32	3.45	楕円形	円形	5	〇	66		
34-36-38	3K	SK7	18AN4-5, 9-10, 14-15	平安時代	Va	N-20-E	(2.80)	1.46	(2.66)	1.36	0.09	3.72	楕円形	楕円形	2	〇	66		
34-36-38	3K	SK9	17AD14-15, 18-20	平安時代	Va	N-47-E	4.33	1.20	4.30	1.09	0.06	3.72	楕円形	楕円形	1	X			
34-37-38-41	3K	SK8	16AN14-15-20	平安時代	Va	N-17-E	(1.41)	1.23	(1.29)	1.13	0.07	3.72	楕円形	楕円形	2	X			
34-36-39	3K	SK18	17AD9-13	平安時代	Va	N-4-E	0.32	0.31	0.16	0.14	0.09	3.56	円形	楕円形	1	X			
34-36-39	3K	SK19	17AD12-13	平安時代	Va	N-68-E	0.42	0.38	0.30	0.12	0.10	3.59	方形	楕円形	1	X			
34-36-37-39	3K	SD1	17AD4-5, 8-9, 13-14, 17-18, 21-23, 18AO1-3, 7-9	平安時代	Va	N-32-E	-	1.82	-	1.64	0.11	3.66	-	楕円形	1	〇			
34-36-39	3K	SD11	17AD15-20, 17AP6-11	平安時代	Va	N-38-E	-	0.56	-	0.46	0.03	3.69	-	楕円形	1	X			
34-36-39	3K	SD10	16AP17-21, 22, 17AD20-25, 17AP1-2, 6-7, 11-12, 16-21, 18AO5	平安時代	Va	N-16-E	-	1.82	-	1.12	0.31	3.41	-	円形	3	〇	71		
34-36-39	3K	SD20	16AP21, 17AP1-6	平安時代	Va	N-12-W	-	0.63	-	0.12	0.03	3.72	-	楕円形	1	X			
34-36-39	3K	SD21	16AP11-12, 16-17, 21, 17AP1	平安時代	Va	N-16-E	-	0.46	-	0.26	0.10	3.63	-	楕円形	3	〇			
34-36-39	3K	SD22	16AP11-12, 16-17, 21, 17AP1-6	平安時代	Va	N-13-E	-	0.45	-	0.32	0.11	3.63	-	楕円形	2	X			

路線No.	区	通稱	グラフ	時代	構造	主軸方位	橋脚 (m)				橋高 (m)	影響		運河の有無	運河内径 (m)	橋	備考
							上部		下部			橋脚	橋脚				
							長	幅	長	幅							
34-30-39	3K	SD12	17AP2-7-8-12	平架時代	Ⅴa	N-37°-W	—	0.73	—	0.50	0.13	3.52	—	台形鉄	1	○	66
34-30-39	3K	SD14	17AP7-12-13	平架時代	Ⅴa	N-37°-W	—	0.38	—	0.22	0.04	3.62	—	矩形	1	X	
34-30-39	3K	SD15	17AP7-12	平架時代	Ⅴa	N-43°-W	—	0.14	—	0.06	0.05	3.63	—	矩形	1	X	
34-30-39	3K	SD16	17AP12-13-18	平架時代	Ⅴa	N-27°-W	—	0.46	—	0.25	0.05	3.65	—	矩形	1	X	
34-30-39	3K	SD17	17AP12-17	平架時代	Ⅴa	N-27°-W	—	0.30	—	0.22	0.06	3.65	—	矩形	1	X	
34-30-41	3K	SD13	17AP2-4-9	平架時代	Ⅴa	N-59°-W	—	0.50	—	0.26	0.04	3.62	—	矩形	1	○	66
34-30-37-41	3K	SD1	17AN23-23-25,17AN2-5-7-10-12-15-17-20-22-25,17AD6-11-12-16-17-21,18AN2-5-8-9	平架時代	Ⅴa	N-33°-E	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
34-30-37-41	3K	SD1	17AN25,17AO12-16-17-21,18AN5	平架時代	Ⅴa	N-37°-E	7.68	0.18	7.62	0.10	0.04	3.78	—	矩形	1	X	
34-30-37-41	3K	SD4	17AN20-24-25,17AO6-11-16,18AN4-8-9	平架時代	Ⅴa	N-33°-E	10.48	0.12	10.40	0.06	0.01	3.79	—	矩形	1	○	
34-37-41	3K	SD5	17AN5-9-10-14-18-19-22-23	平架時代	Ⅴa	N-23°-E	—	0.16	—	0.08	0.02	3.80	—	矩形	1	○	
34-37-41	3K	SD23	17AN19-23-24,18AN3	平架時代	Ⅴa	N-33°-E	0.13	—	0.10	0.03	3.79	—	矩形	1	○		
34-30-37-41	3K	SD2	17AN19-23-24,18AN3	平架時代	Ⅴa	N-32°-E	6.30	0.18	5.18	0.14	0.01	3.80	—	矩形	1	○	
29-22-33	4K	SD1	06AY5,106AX18-19-20-25	平架時代	Ⅴa	N-48°-W	—	1.22	—	0.78	0.12	3.63	—	台形鉄	1	○	
42-44-48-49-53	5K (下層)	SX30	07AR3-4-8-9-14	占領時代	Ⅴa	N-20°-W	(2.36)	2.32	(2.14)	1.56	—	—	橋内側	矩形	—	○	67
42-43	5K (下層)	SX31	07AG5,07AI1,08AQ25,08AR2	占領時代	Ⅴa	N-69°-W	2.46	1.68	2.20	1.37	0.17	3.18	橋内側	矩形	—	○	67
42-43	5K (下層)	SX32	07AI1-2-6-7	占領時代	Ⅴa	N-84°-E	2.34	(0.90)	2.08	0.18	0.11	3.26	不定形	台形鉄	1	○	67-71
44-46-50	5K (上層)	SX36	07AU15	平架時代	Ⅴa	N-77°-E	0.55	(0.20)	0.41	(0.27)	0.07	4.08	橋内側	矩形	1	X	
44-46-50	5K (上層)	SX37	07AU15,20,07AV16	平架時代	Ⅴa	N-83°-W	0.45	(0.40)	0.33	(0.30)	0.08	4.03	橋内側	矩形	1	X	
44-46-47-50	5K (上層)	SX38	07AV18-23	平架時代	Ⅴa	N-19°-W	0.96	0.83	0.66	0.57	0.23	3.88	橋内側	台形鉄	3	X	
44-46-50	5K (上層)	SX31	07AU24	平架時代	Ⅴa	N-86°-W	0.41	0.37	0.31	0.27	0.03	4.10	円形	矩形	1	X	
44-46-47-50	5K (上層)	SX23	07AV24	平架時代	Ⅴa	N-67°-E	0.62	0.61	0.29	0.27	0.16	3.96	橋内側	円形鉄	2	○	67
44-46-47-50	5K (上層)	SX71	07AV25	平架時代	Ⅴa	N-29°-E	0.65	0.40	0.59	0.29	0.05	4.05	橋内側	矩形	1	X	
44-46-50	5K (上層)	SX60	08AV12-13	平架時代	Ⅴa	N-67°-W	0.42	0.37	0.32	0.24	0.03	4.05	橋内側	矩形	1	X	
44-46-50	5K (上層)	SX59	08AV13	平架時代	Ⅴa	N-3°-W	0.62	0.44	0.41	0.18	0.17	3.84	橋内側	矩形	3	○	
44-46-47-50	5K (上層)	SX49	08AV9	平架時代	Ⅴa	N-11°-W	0.52	0.44	0.27	0.23	0.21	3.87	橋内側	円形鉄	3	○	67
44-46-47-50	5K (上層)	SX45	08AV4-9	平架時代	Ⅴa	N-13°-E	0.46	0.40	0.39	0.29	0.04	4.04	橋内側	矩形	1	○	67
44-46-47-50	5K (上層)	SX44	08AV4	平架時代	Ⅴa	N-65°-W	0.28	0.25	0.07	0.06	0.08	3.99	橋内側	矩形	1	○	
44-46-47-51	5K (上層)	SX70	08AV5	平架時代	Ⅴa	N-68°-E	0.65	0.59	0.42	0.33	0.07	4.02	橋内側	矩形	1	X	
44-47-51	5K (上層)	SX13	08AW2	平架時代	Ⅴa	N-76°-W	0.39	0.27	0.24	0.14	0.11	3.95	橋内側	矩形	1	X	
44-47-51	5K (上層)	SX14	08AW2	平架時代	Ⅴa	N-22°-E	0.38	0.19	0.29	0.06	0.07	4.00	不定形	円形鉄	1	○	101,32
44-46-47-51	5K (上層)	SX41	08AV10-15	平架時代	Ⅴa	N-39°-W	1.00	0.70	0.50	0.35	0.18	3.88	橋内側	矩形	2	○	67-68
44-47-51	5K (上層)	SX31	08AW9-10-13-14	平架時代	Ⅴa	N-24°-W	1.95	0.51	0.80	0.55	0.19	3.85	橋内側	矩形	2	○	66
44-47-51	5K (上層)	SX10	08AW4	平架時代	Ⅴa	N-83°-W	0.35	0.18	0.24	0.07	0.06	3.97	橋内側	矩形	1	X	
44-47-51	5K (上層)	SX7	08AW10	平架時代	Ⅴa	N-87°-W	0.37	0.23	0.21	0.12	0.05	3.96	互方形	矩形	1	X	
44-46-47-51	5K (上層)	SX39	08AV15	平架時代	Ⅴa	N-38°-W	0.57	0.37	0.39	0.23	0.03	4.00	不定形	矩形	1	○	68
44-46-47-51	5K (上層)	SX40	08AV15-20	平架時代	Ⅴa	N-29°-E	0.93	0.39	0.87	0.28	0.06	3.97	橋内側	矩形	1	○	
44-46-51	5K (上層)	SX67	08AV1,08AV10-20-25,08AV16-17-21-22	平架時代	Ⅴa	N-78°-E	(3.90)	2.40	(3.64)	3.20	0.16	3.73	不定形	矩形	2	○	
44-46-47-51	5K (上層)	SD37	08AV10,08AW-11	平架時代	Ⅴa	N-29°-W	2.30	0.45	2.00	0.25	0.09	3.97	—	矩形	1	○	68
44-46-47-51	5K (上層)	SD46	08AV12,14-16-19	平架時代	Ⅴa	N-65°-W	2.74	0.56	2.65	0.38	0.04	3.96	—	矩形	1	X	
44-46-49-51 (旧)	5K (上層)	SD75	07AB4,5,07AS1,7-8-12-13,08AR24,25,08AS21,08AW2-5-7-9,08AX1,08AW25,08AX14-15-17-19-21-22	中架	Ⅴa	N-29°-W	—	1.93	—	0.65	0.21	3.65	—	台形鉄	3	X	
44-47-52	5K (上層)	SD16	08AW1-2,08AX1,08AW25,08AX14-15-17-19-21-22	中架	Ⅴa	N-60°-E	—	1.65	—	0.52	0.61	3.31	—	円形鉄	4	○	68-71
44-47-52	5K (上層)	SD13	08AW1-4,08AW23-25,08AX9-12-19-21-22	中架	Ⅴa	N-72°-E	—	1.00	—	0.80	0.20	3.68	—	円形鉄	1	○	68
44-47-52	5K (上層)	SD2	08AW9-10-14	中架	Ⅴa	N-57°-E	—	1.00	—	0.80	0.29	3.64	—	台形鉄	1	X	
44-48-52-53	5K (上層)	SD76	08AQ17-18-22	中架	Ⅴa	N-36°-E	—	0.98	—	0.78	0.10	3.77	—	矩形	2	X	
44-48-53	5K (上層)	SD77	07AD3-5-8-10-14-15-20-25,07AR1-2-6-8-11-13-16-18-19,08AQ18-20-23-25,08AR21-22	中架	Ⅴa	N-17°-W	—	7.90	—	7.15	0.43	3.49	—	台形鉄	10	○	67-71,72
44-48-53	5K (上層)	SD78	07AR3-5-8-10-13,08AR22-24	中架	Ⅴa	N-19°-W	—	3.45	—	1.85	0.76	3.20	—	台形鉄	4	○	67
44-48-49-53	5K (上層)	SD79	07AR3-5-8-10-13,08AR23-24	中架	Ⅴa	N-19°-W	—	—	—	0.40	3.54	—	—	台形鉄	3	○	67-68,71
54	6K	SD1	08KA3,4,05AZ2,14-15-18-20,05BA1-3,6-9-11-14-16-17-22-24,06AZ22,06BA21-22	中架	Ⅴa	N-53°-W	—	2.00	—	—	—	—	—	—	2	X	

製菓材料 品名(国産/産地)	加工品		単位	種類	分類	質量 (g)		標準高湿度		加工			加工 (国産/国産/国産)				備考			
	品名	タイプ				直径	長さ	厚さ	面積	色	味	加工	加工	加工	加工	加工		加工	加工	
00108	SK180	18A02					6.0			右:長角	焼菓	INS(0)	焼化	ロウナナ						
00109	SK07	17A023				B	14.4			右:長角	仁:赤い糖 (7.5Y07/4)	焼化	ロウナナ							4/30
00110	SK07	17A023					(11.4)			右:長角	菓白 (NS0)	焼化	ロウナナ							3/26
00111	SK07	17A023,17A01-6,18A02	J-V			B	40.0			右:長角	菓白 (10Y08/2)	焼化	タタキメ, ヘラナナ	Ha						26/30
00112	SK02	18A04				B2	13.4	5.2	4.3	33	右:長角	焼菓 (7.5Y08/4)	焼化	ロウナナ						
00113	SK02	18A04				A	12.0			右:長角	焼菓 (7.5Y08/4)	焼化	ロウナナ							4/30
00114	SK02	18A04						4.7		右:長角	焼菓 (7.5Y08/3)	焼化	ロウナナ							6/30
00115	SK02	18A04						4.8		右:長角	仁:赤い糖 (7.5Y07/3)	焼化	ロウナナ							18/36
00116	SK02	18A04				B3				右:長角	焼菓 (7.5Y08/4)	焼化	ロウナナ							1/30
00117	SK02	18A04				菓芯糖				右:長角	菓 (2.5Y5/1)	焼化	タタキメ	3Me						1/30
00118	SK194	19A03					(13.0)			右:長角	仁:赤い糖 (7.5Y07/4)	焼化	ロウナナ							3/30
00119	SK194	19A03					(11.3)			右:長角	仁:赤い糖 (10Y07/2)	焼化	ロウナナ							3/30
00120	SK104	19A03				菓	B1	40.0		右:長角	仁:赤い糖 (10Y07/2)	焼化	ロウナナ							2/30
00121	SK200	19A09				C2	15.0	7.0	5.0	34	47	右:長角	焼菓 (7.5Y08/3)	焼化	ロウナナ, 文字					11/30
00122	SK200	19A09					14.0			右:長角	焼菓 (10Y08/3)	焼化	ロウナナ							4/30
00123	SK200	19A09					(13.6)			右:長角	菓白 (10Y08/2)	焼化	ロウナナ							3/30
00124	SK189	19A020				A	12.2			右:長角	焼菓 (10Y08/3)	焼化	ロウナナ							5/30
00125	SK189	19A020					12.4			右:長角	焼菓 (10Y08/3)	焼化	ロウナナ							6/30
00126	SK189	19A020				小菓	A	12.8		右:長角	仁:赤い糖 (10Y07/3)	焼化	ロウナナ							5/30
00127	SK189	19A020				菓	B1	(42.0)		右:長角	仁:赤い糖 (10Y07/3)	焼化	ロウナナ							2/30
00128	SK189	19A020				菓芯糖				右:長角	菓 (7.5Y6/1)	焼化	タタキメ	3Me						ナナ
00129	SK106	17A16				B	(13.2)			右:長角	焼菓 (7.5Y08/6)	焼化	ロウナナ							3/30
00130	SK161	18A10						5.5		右:長角	菓白 (10Y08/2)	焼化	ロウナナ							4/30
00131	SK183	18A20					(13.0)			右:長角	焼菓 (7.5Y08/6)	焼化	ロウナナ							3/30
00132	SK183	18A16				A2	11.9	4.6	3.7	32	39	右:長角	焼菓 (7.5Y08/4)	焼化	ロウナナ					5/30
00133	SK183	18A014						6.0		右:長角	仁:赤い糖 (7.5Y07/3)	焼化	ロウナナ							31/36
00134	SK183	18A02				B	13.0			右:長角	菓 (5Y07/4)	焼化	ロウナナ							4/30
00135	SK183	18A01					(11.3)			右:長角	菓白 (2.5Y7/1)	焼化	ロウナナ							2/30
00136	SK183	18A025				菓芯糖				右:長角	菓 (7.5Y5/1)	焼化	タタキメ	3Me						Da
00137	SK183	18A01-24,18A11				菓芯糖		5.2		右:長角	A (NS0)	焼化	文字							ヘラナナナナ
00138	SK183	18A16				菓芯糖				右:長角	C (NS0)	焼化	ロウナナ							36/36
00139	SD1	17A01				B	12.8			右:長角	仁:赤い糖 (7.5Y07/4)	焼化	ロウナナ							4/30
00140	SD1	17A03					(12.3)			右:長角	焼菓 (7.5Y08/6)	焼化	ロウナナ							2/30
00141	SD1	17A03					(11.8)			右:長角	仁:赤い糖 (10Y07/4)	焼化	ロウナナ							2/30
00142	SD1	16A024,16A00,17A04	V			小菓		8.6		右:長角	菓 (7.5Y06/6)	焼化	ロウナナ, 文字							15/30
00143	SD1	17A01,17A03,17A04-8	V			菓芯糖		12.2		右:長角	菓 (2.5Y6/1)	焼化	ロウナナ							4/30
00144	SD2	17A023				B	14.2			右:長角	菓 (7.5Y07/6)	焼化	ロウナナ							8/30
00145	SD2	17A019					13.0			右:長角	菓 (7.5Y07/6)	焼化	ロウナナ							4/30
00146	SD2	17A024				B	(13.2)			右:長角	菓糖 (10Y08/6)	焼化	ロウナナ							2/30
00147	SD2	17A023				B1	13.0	4.4	3.7	29	34	右:長角	菓 (5Y07/6)	焼化	ロウナナ					5/30
00148	SD2	17A025					A	12.1		右:長角	焼菓 (10Y08/4)	焼化	ロウナナ							4/30
00149	SD2	17A023				B	13.0			右:長角	焼菓 (7.5Y08/4)	焼化	ロウナナ							6/30
00150	SD2	17A023					(13.2)			右:長角	焼菓 (10Y08/3)	焼化	ロウナナ							6/30
00151	SD2	17A023				V	A	12.4		右:長角	焼菓 (7.5Y08/4)	焼化	ロウナナ							5/30
00152	SD2	17A022					(12.8)			右:長角	仁:赤い糖 (7.5Y07/4)	焼化	ロウナナ							2/30
00153	SD2	17A021					(11.0)			右:長角	仁:赤い糖 (10Y07/4)	焼化	ロウナナ							2/30
00154	SD2	18A02					(12.6)			右:長角	焼菓 (7.5Y08/4)	焼化	ロウナナ							3/30
00155	SD2	17A020					(12.6)			右:長角	焼菓 (10Y08/3)	焼化	ロウナナ							3/30
00156	SD2	17A018				菓芯糖		(13.2)		右:長角	菓 (7.5Y0/1)	焼化	ロウナナ							3/30
00157	SD2	17A019				菓芯糖		13.2		右:長角	菓 (NS0)	焼化	ロウナナ							4/30
00158	SD2	17A019				菓芯糖		23.0		右:長角	仁:赤い糖 (10Y07/4)	焼化	タタキメ							5/30
00159	SD2	17A023				菓芯糖		(12.0)		右:長角	菓 (7.5Y6/1)	焼化	ロウナナ							2/30
00160	SD2	17A023				菓芯糖				右:長角	菓白 (5Y7/1)	焼化	タタキメ, 文字	3Me						Da
00161	SD2	18A04					(13.2)			右:長角	焼菓 (10Y08/4)	焼化	ロウナナ							3/30
00162	SD2	18A04					12.8			右:長角	焼菓 (7.5Y08/6)	焼化	ロウナナ							5/30
00163	SD2	18A04					A	12.0		右:長角	菓 (5Y07/6)	焼化	ロウナナ							6/30
00164	SD2	18A04				菓芯糖				右:長角	菓白 (NS0)	焼化	ロウナナ							6/30
00165	SD25	16A022					13.0			右:長角	焼菓 (7.5Y08/6)	焼化	ロウナナ							5/30

種別等 加算等別	種別等 番号	品名	規格	分級	重量 (kg)	種高(種別) 頭数	雌		雄		種名	品種	原簿 (種別方向)		備考
							母	父	母	父			原簿	原簿	
62116	SD325	16AD22	1年級 特別肉		6.4		右-右-右	種 (7.5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	16/30		
62167	SD4	17AD20	1年級 特別肉	A (11.8)			右-右-右	洗炭焼 (10YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62168	SD4	17AD9	1年級 特別肉	B (14.0)			右-右-右	にみ-焼 (7.5YR7/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62169	SD4	16AB16	1年級 特別肉	B (12.8)			右-右	種 (7.5R7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	2/30		
62170	SD4	17AD9	1年級 特別肉		4.9		右-右-焼	洗炭焼 (10YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	20/36		
62171	SD4	17AR16	1年級 特別肉		6.0		右-右	種 (7.5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	9/36		
62172	SD4	17AD4	1年級 特別肉		4.8		右-右	にみ-焼 (10YR7/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	20/36		
62173	SD4	17AR16-24	種化肉 洗炭焼		11.0		右-右	C 洗炭 (7.5YR7/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	5/36	SK161組合	
62174	SD32	17AR7	1年級 特別肉	B (13.0)			右-右	種 (7.5R7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62175	SD32	17AR7	1年級 特別肉	B (13.2)			右-右	洗炭焼 (10YR8/3)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62176	SD32	17AR8	1年級 特別肉	A (11.2)	5.1		右-右	洗炭焼 (10YR8/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	30/36		
62177	SD32	17AR7	種化1年級 特別肉	A (11.2)			右-右	種 (7.5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	2/30		
62178	SD32	17AR7	1年級 長肌	B2 (20.8)			右-右-右	種 (7.5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	2/30		
62179	SD32	17AR12	1年級 種	B1 (35.0)			右-右	にみ-焼 (10YR7/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	5/30		
62180	SD32	16AE21,17AR1-11	1-V 1年級 種	C2 (40.0)			右-右-右	にみ-焼 (7.5YR7/3)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	2/30	SK32組合	
62181	SD181	18AR9	1年級 特別肉	A (12.0)			右-右-右	洗炭焼 (10YR8/3)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	2/30		
62182	SD196	18AD9	1年級 特別肉		4.6		右-右	洗炭焼 (10YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	21/30		
62183	SD199	18AR6	1年級 特別肉	B (13.0)			右-右-右	洗炭焼 (7.5YR8/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62184	SD196	18AD11	V 1年級 特別肉	C2 (5.4)	5.6	5.1	34 37	右-右-右	洗炭焼 (7.5YR8/4)	種化 (ワタナジ) 種化(下子)	種化(下子) 黒肉(黒子)	右	4/30	SK38	
62185	SD196	18AD11	1年級 特別肉	B (12.6)			右-右	洗炭焼 (10YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62186	SD196	18AD11	1年級 長肌	B1 (24.0)			右-右	洗炭 (7.5YR8/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	2/30		
62187	SD196	18AD11-16	右-右-右 1年級 種	B1 (44.0)			右-右-右	洗炭焼 (7.5YR8/2)	種化(下子) 種化(下子) 種化(下子)	種化(下子) 黒肉(黒子) 黒肉(黒子)	黒肉(黒子)	右	1/30		
62188	1P846	17AD12	種化1年級 特別肉	B (13.2)			右-右-右	洗炭 (10YR8/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	2/30		
62189	1P852	17AD14	1年級 特別肉		5.9		右-右	種 (7.5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	11/30		
62190	1P853	17AD9	1年級 特別肉				右-右	洗炭焼 (7.5YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	1/30		
62191	1P859	17AD6	1年級 特別肉		5.8		右-右	にみ-焼 (7.5YR7/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	17/30		
62192	1P8100	17AC12-19-20	V 種化1年級 特別肉	C (5.8)			右-右-焼	洗炭 (10YR8/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	4/30		
62193	1P8101	17AR2	V 1年級 特別肉	B1 (3.0)	6.0	3.4	26 46	右-右-右	洗炭焼 (10YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	11/30 11/36	
62194	1P8184	18AC16	1年級 長肌	B2 (23.0)			右-右-右	にみ-焼 (7.5YR7/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	8/36	内肉黒子	
62195	1P8184	18AC16	1年級 種	B2 (23.0)			右-右	洗炭焼 (7.5YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	1/30		
62196	1P8184	17AR17,18AC16	V 種化肉 洗炭焼				右-右	新 洗炭 (5Y6/1)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62197	1P8198	19AC9	1年級 特別肉		5.4		右-右-焼	洗炭焼 (10YR8/3)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	8/36		
62198	1P8198	19AC9	1年級 長肌	C1 (22.4)			右-右-右	種 (7.5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	4/30		
62199	1P8199	18AC7	1年級 特別肉		4.8		右-右-焼	種 (5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	8/36		
62200	1P8203	18AR8	種化肉 洗炭焼		14.0		右-右	種 (5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	2/30		
62201	1P8206	17AC20	1年級 長肌	B3 (23.5)			右-右-焼	洗炭 (7.5YR8/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	4/30		
62202	1P8207	17AC20	1年級 特別肉		5.6		右-右-右-焼	種 (7.5YR6/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	9/36		
62203	1P8210	17AD15	1年級 特別肉		5.6		右-右-右	洗炭焼 (7.5YR8/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	18/36		
62204	1P8210	17AD15	1年級 種		5.8		右-右-右	種 (7.5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	16/36		
62205	1P8210	17AD15,17AR1-6	1 1年級 種	C2 (36.0)			右-右-右	種 (7.5YR8/4)	種化 (ワタナジ) 種化(下子)	種化(下子) 種化(下子)	種化(下子) 黒肉(黒子) 黒肉(黒子)	右	9/30	SD32-SK32組合, SD32種	
62206	1P8212	18AD17	1年級 特別肉	A (12.0)			右-右	種 (5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62207	1P8213	18AC14	1年級 小肌	B1 (12.2)			右-右-焼	種焼肉 (2.5YR2/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	35/36		
62208	1P8216	17AD14	1年級 特別肉	A (12.0)			右-右-右	洗炭焼 (10YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/30		
62209	1P8216	17AD14	種化1年級 特別肉	B (14.0)			右-右	にみ-焼 (7.5YR7/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	4/36		
62210	-	17AC20	V 1年級 特別肉	A2 (11.8)	3.7	4.1	35 49	右-右	洗炭焼 (7.5YR8/3)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	12/36 32/36 22/36	
62211	-	17AD25	V 1年級 特別肉	A1 (12.4)	6.0	3.5	29 49	右-右	種 (7.5YR8/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/36 33/36 18/36	
62212	-	19AC8	V 1年級 特別肉	C3 (5.8)	6.0	5.7	37 38	右-右-右	種 (5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	1/36 14/36 10/36	
62213	-	17AC20	V 1年級 特別肉	A1 (12.4)	5.6	3.6	30 46	右-右-右	洗炭焼 (7.5YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	14/36 34/36 22/36	
62214	-	17AC7	V 1年級 特別肉	A2 (11.4)	5.6	3.6	32 50	右-右-右	洗炭焼 (10YR8/3)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	6/36 33/36 16/36	
62215	-	19AC8	V 1年級 特別肉	C2 (5.2)	6.6	5.2	35 44	右-右-右	洗炭焼 (7.5YR8/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	12/36 34/36 23/36	
62216	-	17AC19-20-25	V 1年級 特別肉	C2 (5.6)	6.1	5.4	35 40	右-右-右	種 (7.5YR8/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	9/36 36/36 23/36	
62217	-	18AD15,19AC2-22	V 1年級 特別肉	C2 (14.6)	6.7	4.9	34 46	右-右-右	洗炭焼 (7.5YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	11/36 33/36 20/36	
62218	-	17AC6	V 種化1年級 特別肉	B3 (3.2)	4.8	4.1	39 37	右-右	洗炭焼 (7.5YR8/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	4/36 36/36 6/36	
62219	-	17AR2-23	V 種化1年級 特別肉	C1 (5.2)	5.8	4.6	30 38	右-右	にみ-焼 (7.5YR7/4)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/36 7/36 4/36	
64220	-	17AC12	V 種化1年級 特別肉		6.5			右-右-右	にみ-焼 (10YR7/2)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	12/36	
64221	-	17AD18	V 種化1年級 特別肉		5.3			右-右	種 (7.5YR7/6)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	23/36	
64222	-	16AD20	V 種化肉 特別肉		15.8			右-右	新 洗炭 (5Y6/1)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	4/36	
64223	-	18AD7	V 種化肉 種					右-右-右	洗炭 (7.5YR7/1)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	3/36	内肉黒子
64224	-	19AC18-19	V 種化肉 特別肉		7.2			右-右	洗炭 (2.5Y7/1)	種化 (ワタナジ)	ワタナジ	黒肉	右	30/36	内肉黒子

期別	期号	当選番号		種別	種別	形態	分組	基準 (G)		抽当確率		前注	抽籤	賞金		本注 (抽籤) 抽当率	賞状		備考		
		当選	当選					1等	2等	3等	4等			5等	賞状		回数				
		百位	十位					百位	十位	百位	十位			百位	十位						
66281	3SD13	17AF3			1等部	長巻	A	6.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1						
66282	3	17AF11,17A05		V	1等部	短白粉	A	6.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1			兼印		17/36	
66283	3	18AN20			4等部	長白粉	A	12.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					6/36	
66284	3	18AG14		V	1等部	巻	B1	40.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					2/36	
66285	3	07AG7,18AN4		V	1等部	巻	A	144.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					2/36	
66286	3	SXRI 07AR1,08AQ25		V	1等部	高株	V	23.2	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					21/36	
66287	3	SXRI 08AQ25		F	1等部	高株	V	23.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					SD7報告	
66288	3	SXRI 08AQ25,08AR21		F	1等部	巻	V	19.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					6/36	
66289	3	SXRI 07AR1-7,08AQ25		V	1等部	巻	V	25.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					10/36	
66290	3	SXRI 08AQ25		V	1等部	小形態	(10.8)		0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					3/36	
66291	3	SXRI 08AQ25		F	1等部	小形態	(10.6)		0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					2/36	
66292	3	SXRI 07AR7		F	1等部	小形態			0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					6/36	
66293	3	SXRI 07AR9			1等部	株		(13.2)		0.1	0.1			0.1	0.1					3/36	
66294	3	SD77 07AR1,08AQ25		V	1等部	高株	V		0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					6/36	
66295	3	SD77 07AR13		V	1等部	高株	V		0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					4/36	
66296	3	SD77 07AG5,07AR1-12,08AQ24-25		V	1等部	巻	V	20.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					11/36	
66297	3	SD77 08AQ25		V	1等部	巻	(21.8)		0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					1/36	
66298	3	SD77 07AR1-7,08AQ25,08AR21		F	1等部	巻	V	4.2	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					31/36	
66299	3	SD78 07AR3		V	1等部	株		(14.2)		0.1	0.1			0.1	0.1					3/36	
66300	3	SD78 07AR3		V	1等部	高株	V	11.8	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					4/36	
66301	3	SD78 07AR3		V	1等部	高株	V		0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					4/36	
66302	3	SD78 07AR4		V	1等部	巻	V	5.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					6/36	
66303	3	SD79 07AR2-3		F	1等部	巻	V	23.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					5/36	
66304	3	-	07AR1-2		V	1等部	巻	21.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					5/36	
66305	3	SX23 07AX24		V	1等部	短白粉	A2	13.1	0.0	4.1	32.46			0.1	0.1					兼印	
66306	3	SX23 07AX24		V	1等部	短白粉	A2	12.4	0.0	4.2	34.49			0.1	0.1					兼印	
66307	3	SX48 06AV9		V	1等部	短白粉	A	12.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					4/36	
66308	3	SX45 06AV4-9		V	1等部	小巻	B1	(12.0)	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					2/36	
66309	3	SX41 06AV10		V	1等部	短白粉	A	12.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					6/36	
66310	3	SX41 06AV10		V	1等部	短白粉	A2	12.0	4.8	3.9	33.40			0.1	0.1					兼印	
66311	3	SX41 06AV10,06AV22		V	1等部	短白粉	A	12.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					兼印	
66312	3	SX41 06AV10		V	1等部	短白粉	A2	12.4	0.0	4.1	34.41			0.1	0.1						兼印
66313	3	SX41 06AV10		V	1等部	短白粉	A	12.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					兼印	
66314	3	SX41 06AV10		V	1等部	1等部短白粉	C	14.6	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					兼印	
66315	3	SX41 06AV10,06AV11,07AV23		V	1等部	長巻	B1	25.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					15/36	
66316	3	SX41 06AV10,06AV21,07AV24		V	1等部	長巻	B1	25.6	0.1	0.1	115.29,4			0.1	0.1					23/36	
66317	3	SX41 06AV10,06AV7-13,22		V	1等部	小巻	A	12.2	0.5					0.1	0.1					13/36	
66318	3	SX41 06AV10-15,18		V	1等部	小巻	B3	(12.2)	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					2/36	
66319	3	SX41 06AV10		V	1等部	小巻	V	7.0	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					兼印	
66320	3	SX61 06AV9		V	1等部	短白粉	A	(12.0)	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					2/36	
66321	3	SX39 06AV15		V	1等部	短白粉	A	12.2	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					4/36	
66322	3	SD37 06AV9		V	1等部	長巻	A	12.2	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					13/36	
66323	3	SD37 06AV9,06AV16		V	1等部	小巻	B3	(12.2)	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					2/36	
66324	3	SD14 06AV9		V	1等部	短白粉	A	(12.4)	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					3/36	
66325	3	SD19 06AV9-5,13-14,17-18,23,06AV15,07AV23,07AR23		V	1等部	小巻	A	13.6	0.3	12.4	92.47			0.1	0.1					兼印	
66326	3	SD18 06AV2		V	1等部	短白粉	A	0.1	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					1/36	
66327	3	SD18 06AV3		V	1等部	巻	C2		0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					1/36	
66328	3	SD79 07AR3		V	1等部	巻	C2		0.1	0.1	0.1			0.1	0.1					1/36	
66329	3	SD79 07AR1,07AQ17,08AR13-13		V	特別部	短巻	(33.0)	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1						2/36	
66330	3	-	06AV9		V	1等部	短巻	B3	13.8	7.0	4.8	38.52			0.1	0.1					兼印
66331	3	-	06AV19-24		V	1等部	短白粉	B1	13.0	6.2	3.9	30.48			0.1	0.1					兼印

別表5 沖ノ羽遺跡遺構出土古代土器種構成率

- 1 平野時代の遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・磁器類）の構成比率を示した表である。
 2 土器の分類法は「藤原清房方法」(平野1992、春日1994)と、それを応用した低部湾存年率により訂正した。また、併せて目録数・底数も示した。
 3 「土師器」は遺構存年率によって得られた数値は7/36を示し、それぞれ1内層・低部湾に属した。

遺構名	土器別	黒土器					黒色土器			土師器			合計	
		黒白陶	有白陶	黒白陶	黒白片	有白片	片断	小片	断	大破	片断数	片割合		底数
1IK SK3	土師器												0.50	100%
	黒土器	0.30	100%										1	100%
	黒白陶	1	100%										1	100%
	有白陶	1	100%										1	100%
	有白片	0.00	100%										0	0%
1IK SK35	土師器												1	100%
	黒土器	0	0%										0	0%
	黒白陶	0.33	100%										0	0%
	有白陶	0.67	100%										0	0%
	有白片	0.00	100%										0	0%
1IK SK38	土師器												1.35	100%
	黒土器	1.83	100%										1	100%
	黒白陶	17	83.1%										10	100%
	有白陶	1.00	100%										1	100%
	有白片	0.00	100%										0	0%
1IK SK36	土師器												0.00	100%
	黒土器	0.00	100%										0	0%
	黒白陶	0	0%										0	0%
	有白陶	1.8	83.3%										0	0%
	有白片	0.00	100%										0	0%
1IK SK37	土師器												0.00	100%
	黒土器												0	0%
	黒白陶	0	0%										0	0%
	有白陶	1.8	83.3%										0	0%
	有白片	0.00	100%										0	0%
1IK SK33	土師器												0.00	100%
	黒土器	0	0%										0	0%
	黒白陶	0.00	0%										0	0%
	有白陶	0.00	0%										0	0%
	有白片	0.00	0%										0	0%
1IK SK39	土師器												0.00	100%
	黒土器	0.00	0%										0	0%
	黒白陶	0.00	0%										0	0%
	有白陶	0.00	0%										0	0%
	有白片	0.00	0%										0	0%
1IK SK51	土師器												1.00	100%
	黒土器	0.00	0%										0	0%
	黒白陶	0.00	0%										0	0%
	有白陶	0.00	0%										0	0%
	有白片	0.00	0%										0	0%
1IK SK86	土師器												0.00	100%
	黒土器	0.00	0%										0	0%
	黒白陶	0.00	0%										0	0%
	有白陶	0.00	0%										0	0%
	有白片	0.00	0%										0	0%
1IK SK88	土師器												0.00	100%
	黒土器	0.00	0%										0	0%
	黒白陶	0.00	0%										0	0%
	有白陶	0.00	0%										0	0%
	有白片	0.00	0%										0	0%
1IK SK98	土師器												0.00	100%
	黒土器	0.00	0%										0	0%
	黒白陶	0.00	0%										0	0%
	有白陶	0.00	0%										0	0%
	有白片	0.00	0%										0	0%
1IK SK107	土師器												0.50	100%
	黒土器	0.00	0%										0	0%
	黒白陶	0.00	0%										0	0%
	有白陶	0.00	0%										0	0%
	有白片	0.00	0%										0	0%
1IK SK151	土師器												0.00	100%
	黒土器	0	0%										0	0%
	黒白陶	0	0%										0	0%
	有白陶	0	0%										0	0%
	有白片	0	0%										0	0%
1IK SK182	土師器												1.00	100%
	黒土器	0	0%										0	0%
	黒白陶	0	0%										0	0%
	有白陶	0	0%										0	0%
	有白片	0	0%										0	0%
1IK SK179	土師器												0.00	100%
	黒土器	0.00	0%										0	0%
	黒白陶	0.00	0%										0	0%
	有白陶	0.00	0%										0	0%
	有白片	0.00	0%										0	0%

通稱名	種別	上層部		中層部		最下層			野道部				合計		
		既白部	有白部	既白部	有白部	比喙	小喙	喙	大喙	長喙部	短喙部	長喙部		短喙部	
1K	SK180	11種部 (A)	0				101	0	0					101	100%
		11種部 (B)	0	0	0	0	1	0	0					1	100%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK80	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK87	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK92	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK201	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK100	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK194	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK200	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK185	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK189	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK196	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK106	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK161	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SK183	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SD1	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
1K	SD2	11種部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		11種部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (A)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%
		既白部 (B)	0	0	0	0	0	0	0					0	0%

建群名	群别	基础层						数据层			应用层				合计		
		上编部		基层部		基层部		总量	小类	属	人数	长龄组	知能度	长龄组		属度	
		组台组	组台组	组台组	组台组												
1IK	SD2-b	11111111 (A)	0.00%	0.00%				0.11	0.11%							0.11%	
		11111111 (A)	0.12	15.00%				0	0							0	
		11111111 (A)	0	0.00%													0
		11111111 (A)	3	100.00%													3
		11111111 (A)	0	0.00%													0
1IK	SD2-c	11111111 (A)	0.00%	0.00%				0.00	0.00%							0.00%	
		11111111 (A)	0.14	100.00%							1.47	10.43%	10	9.72%		1.47%	
		11111111 (A)	0	0.00%												0	
		11111111 (A)	0	0.00%												0	
		11111111 (A)	0	0.00%												0	
1IK	SD4	11111111 (A)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%		0.00%	0.07%		0.03	1.02%			0	0.07%	
		11111111 (A)	0.1	0.09%				0	0.09%		0.14	0.13%			1	0.98%	
		11111111 (A)	0.40	0.11%	0.11	0.09%										0.51%	
		11111111 (A)	0	0.00%				0.0	14.72%	1	0.14%		0	0.03%	0	0.40%	
		11111111 (A)	0.01	0.01%	0	0.00%		0.00	0.01%	0.0	0.01%	0.0	0.03%	0	0.01%	0.01%	
1IK	SD22	11111111 (A)	0.00%	0.00%				0.00%	0.01%		0.01	1.02%			0	0.01%	
		11111111 (A)	0.1	0.1%												0.1%	
		11111111 (A)	0.01	0.01%				0.00	0.01%	0.0	0.01%	0.0	0.01%			0.01%	
		11111111 (A)	0.01	0.01%				0.00	0.01%	0.0	0.01%	0.0	0.01%			0.01%	
		11111111 (A)	0.01	0.01%				0.00	0.01%	0.0	0.01%	0.0	0.01%			0.01%	
1IK	SD176	11111111 (A)	0.00%	0.00%				0.0	0.00%		0.0	0.00%				0.00%	
		11111111 (A)	0.1	100.00%												0.1%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	SD181	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.14	100.00%												0.14%	
		11111111 (A)	0.0	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.0	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.0	0.00%												0.00%	
1IK	SD95	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	SD90	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	SD109	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	SD96	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	SD191	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	Ph5	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	Ph15	11111111 (A)	0.04	100.00%												0.04%	
		11111111 (A)	0	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	0.00%												0.00%	
1IK	Ph16	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	Ph17	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
1IK	Ph24	11111111 (A)	0.00%	0.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	
		11111111 (A)	0.00	100.00%												0.00%	

總機名	機別	舊機具			新機具			廢機具			貯機具				合計
		上層部		基台1層	新基台		有白粉	上層部		大機	長機油	短機油	長機油	機油	
		黑白粉	有白粉	黑白粉	黑白粉	有白粉	品機	小機	機						
1K	Ph42	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph45	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph46	1機油 (A)			0.08	100.00%									
		機油 (A)	0.17	100.00%											
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph57	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph82	1機油 (A)													
		機油 (A)	0.31	100.00%											
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph85	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph91	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph93	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph99	1機油 (A)													
		機油 (A)	0.41	100.00%											
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph100	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph101	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph102	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph105	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph117	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph147	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													
1K	Ph159	1機油 (A)													
		機油 (A)													
		機油 (B)													
		機油 (C)													

通称名	種別	数量目					数量目				数量目				合計		
		工簿部		製白部		製白部		製		人達		製		製			
		原白部	有白部	原白部	有白部	原白部	有白部	原白部	有白部	原白部	有白部	原白部	有白部	原白部		有白部	
1K Ph162	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph175	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph184	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph198	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph199	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph202	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph203	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph204	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph205	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph206	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph207	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph208	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph209	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph210	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph212	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																
1K Ph213	11種部 (A)																
	11種部 (B)																
	11種部 (C)																
	11種部 (D)																

建群名	楼号	封排法	高层区				高层区			高层区				合计			
			上座部		双座部		双座部		双座部		双座部						
			原台座	有台座	原台座	有台座	原台座	有台座	原台座	有台座	原台座	有台座					
3#	SD10	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
3#	SD21	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
3#	SD12	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
3#	SD13	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
3#	SD4	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
3#	SD5	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
3#	SD23	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
3#	SD2	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
5区 上座	SK23	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
5区 上座	SK80	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
5区 上座	SK49	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
5区 上座	SK45	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
5区 上座	SK44	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
5区 上座	SK41	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
5区 上座	SK01	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															
5区 上座	SX39	11#排 (A)															
		11#排 (B)															
		11#排 (C)															
		11#排 (D)															

遺構名	種別	高麗瓦			唐瓦			葺瓦			野焼瓦			合計		
		片割法	上割法	有白割	片割法	上割法	有白割	片割法	上割法	有白割	片割法	上割法	有白割			
5区 上層	SX40	11種焼 (A)														
		瓦割法 (A)														
		唐瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (B)	1	100.00%											1	100%
5区 上層	SX67	11種焼 (A)														
		瓦割法 (A)														
		唐瓦割法 (A)	4	100.00%											4	100%
		唐瓦割法 (B)	10	100.00%											10	100%
5区 上層	SD37	11種焼 (A)														
		瓦割法 (A)	10	100.00%											10	100%
		唐瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (B)	1	100.00%											1	100%
5区 上層	SD1-a	11種焼 (A)														
		瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (B)	1	100.00%											1	100%
5区 上層	SD1-b	11種焼 (A)														
		瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (B)	1	100.00%											1	100%
5区 上層	SD77	11種焼 (A)														
		瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (B)	1	100.00%											1	100%
5区 上層	SD78	11種焼 (A)														
		瓦割法 (A)														
		唐瓦割法 (A)	1	100.00%											1	100%
		唐瓦割法 (B)	1	100.00%											1	100%
5区 上層	SD79	11種焼 (A)														
		瓦割法 (A)														
		唐瓦割法 (A)														
		唐瓦割法 (B)														

別表6 沖ノ羽遺跡遺構出土古墳時代土器種構成率

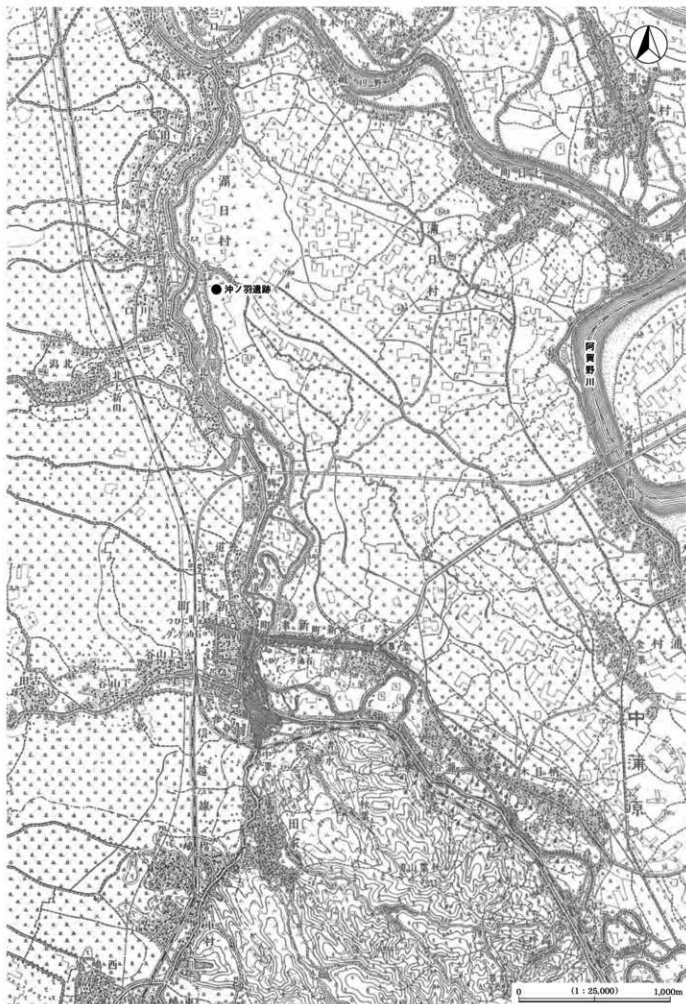
遺構名	種別	高麗瓦		唐瓦		葺瓦		合計
		片	高片	葉	小羽	大羽		
2区 M20	11種焼 (A)							
	瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (B)							
5区 下層	11種焼 (A)							
	瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (B)							
5区 下層	11種焼 (A)							
	瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (B)							
5区 下層	11種焼 (A)							
	瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (B)							
5区 下層	11種焼 (A)							
	瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (B)							
5区 上層	11種焼 (A)							
	瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (B)							
5区 上層	11種焼 (A)							
	瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (A)							
	唐瓦割法 (B)							

1 古墳時代の遺構から出土した土器（土師器）の構成比率を示した表である。

2 土師器の計量は片割法・上割法・有白割法（字野1992・森11994）と、それらを用いた総数割法により計した。また、併せて片割法・唐瓦割法を示した。

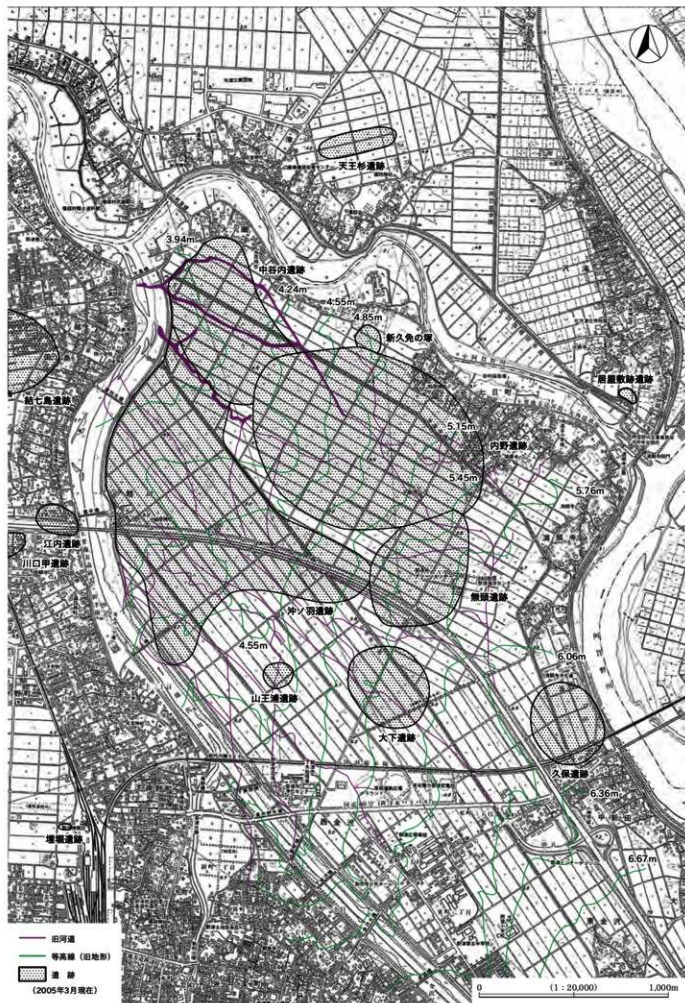
3 片割法・唐瓦割法率によって得られた数値は7/100を示し、それぞれ片割法・唐瓦割法と記した。

图 版





新津町外二ヶ村開田地整理組合発刊図 1922年 1/1,800-1/10,000
 新津町地整理組合発刊図 1940年頃 1/1,800-1/10,000
 新津市都市計画図 1995年 1/2,500-1/10,000

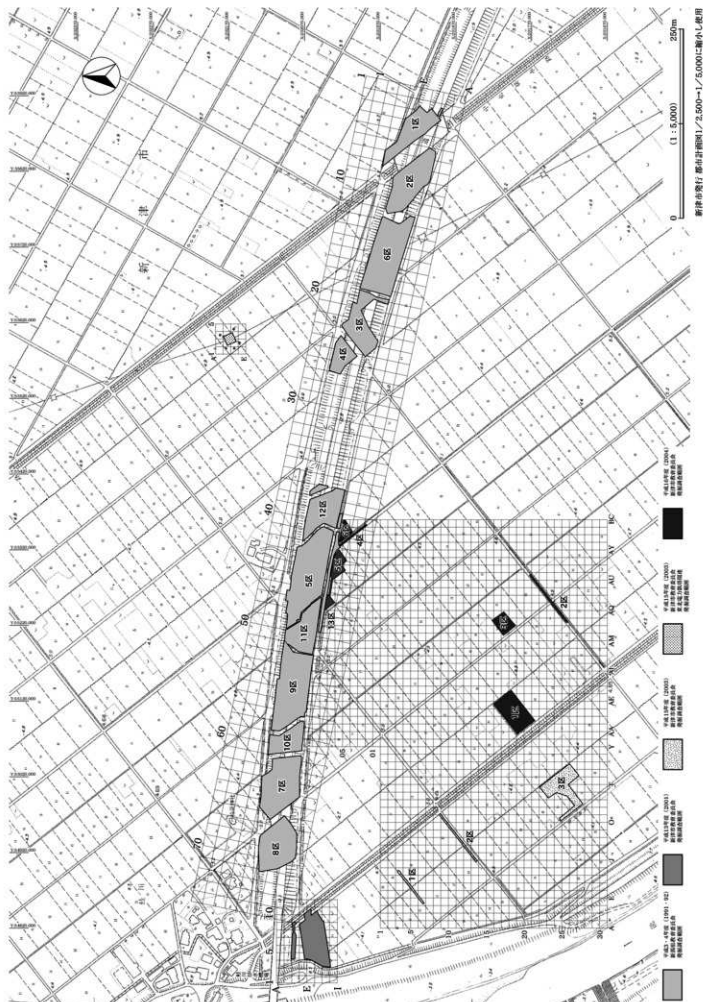


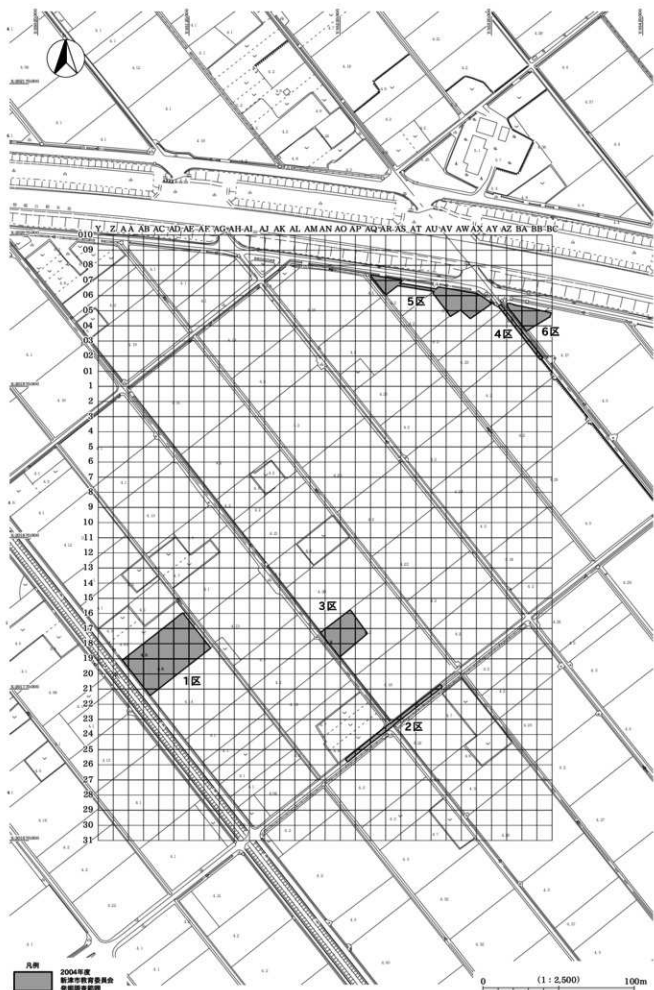


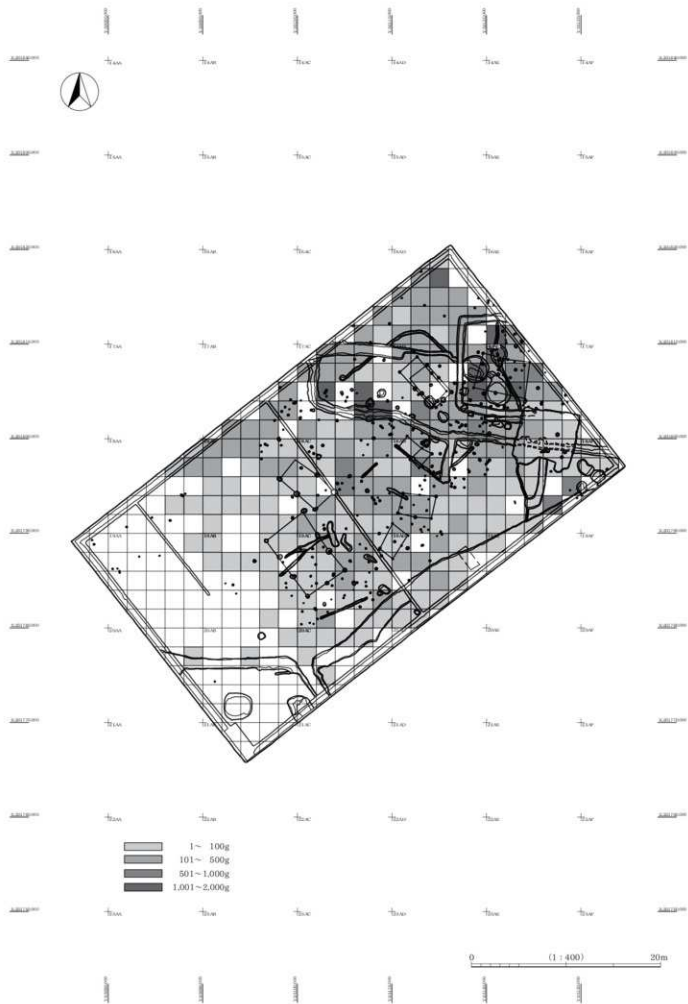
凡 例

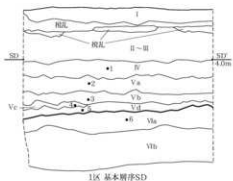
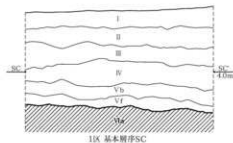
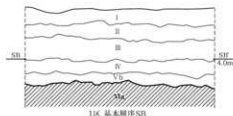
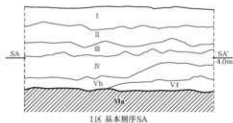
- 遺構、遺物が検出されたトレンチ
- 遺構、遺物が検出されなかったトレンチ
- 掘場範囲

0 (1:12,500) 50m









1区基本層序SA・SB・SC

- I. 2.5m・黄褐色土 (10YR4/3)
- II. 褐色土 (10YR4/4)
- III. 赤褐色土 (2.5YR4/3)
- IV. 褐色土 (7.5YR4/4)
- Vb. 黄褐色土 (7.5YR4/2)
- Vt. 褐色土 (10YR4/4)
- Ma. 灰土層 (5Y5/2)

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、磁、礫作土。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、黄色粘土層に属する。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、黄色ブロッケ層に属し、遊走物中層に属する。磁、礫。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、磁。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、磁。

1区基本層序SD

- I. 2.5m・黄褐色土 (10YR4/3)
- II. 褐色土 (10YR4/4)
- III. 赤褐色土 (2.5YR4/3)
- IV. 黄褐色土 (7.5YR4/2)
- Vb. 黄褐色土 (7.5YR4/2)
- Vd. 黄褐色土 (2.5YR4/2)
- Vt. 褐色土 (10YR4/4)
- Ma. 灰褐色土 (2.5YR4/3)
- Ma. 灰褐色土 (10YR4/2)

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、磁、礫作土。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、黄色粘土層に属する。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり。

シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、磁。

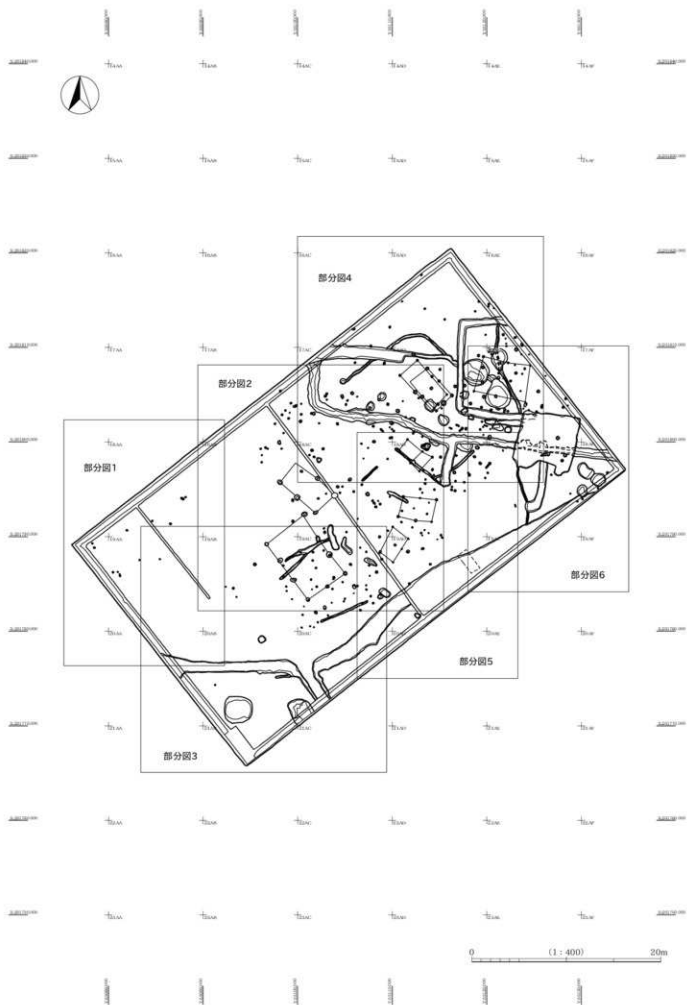
シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、遊走物層に属する。

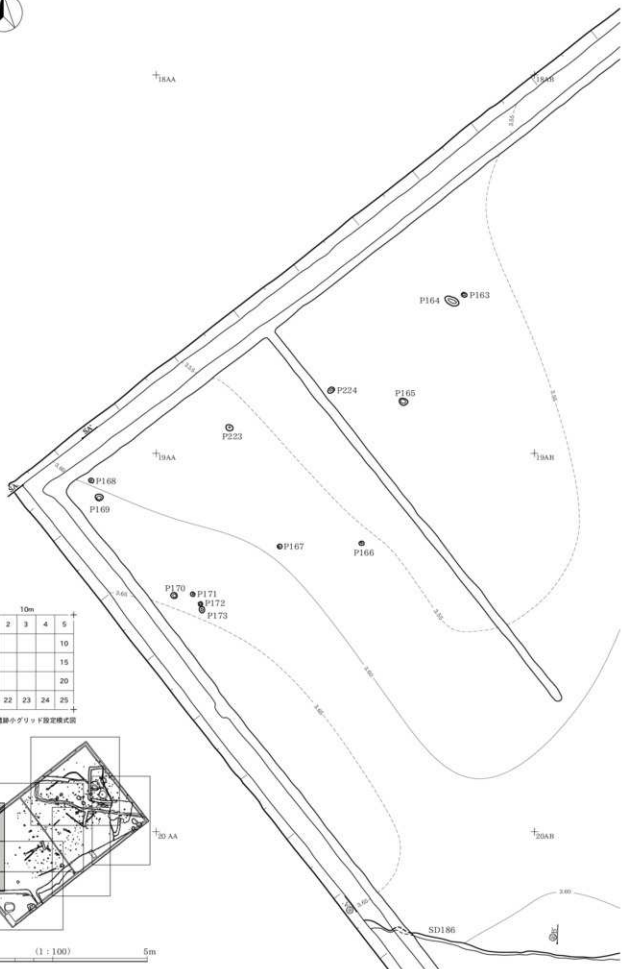
シト層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、磁。

砂層 1層 粘状中砂あり、しまり中砂あり、一部褐色の砂質シト層に属する。

※ 自然科学分析（植物ミクロ体・花粉）サンプリング地点



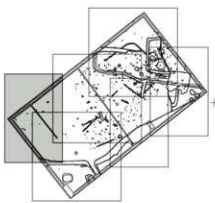


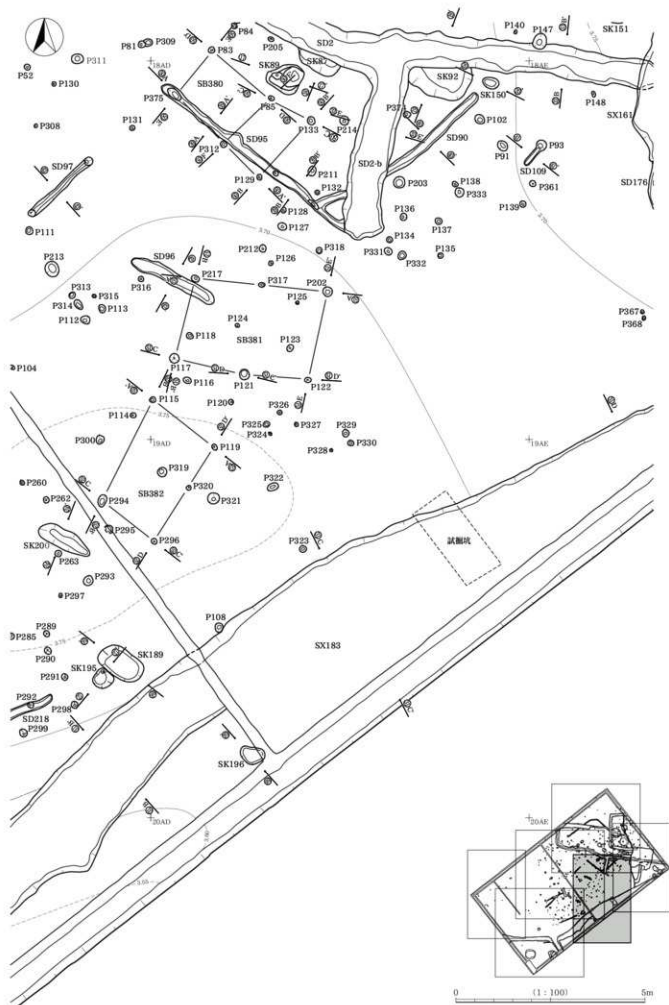


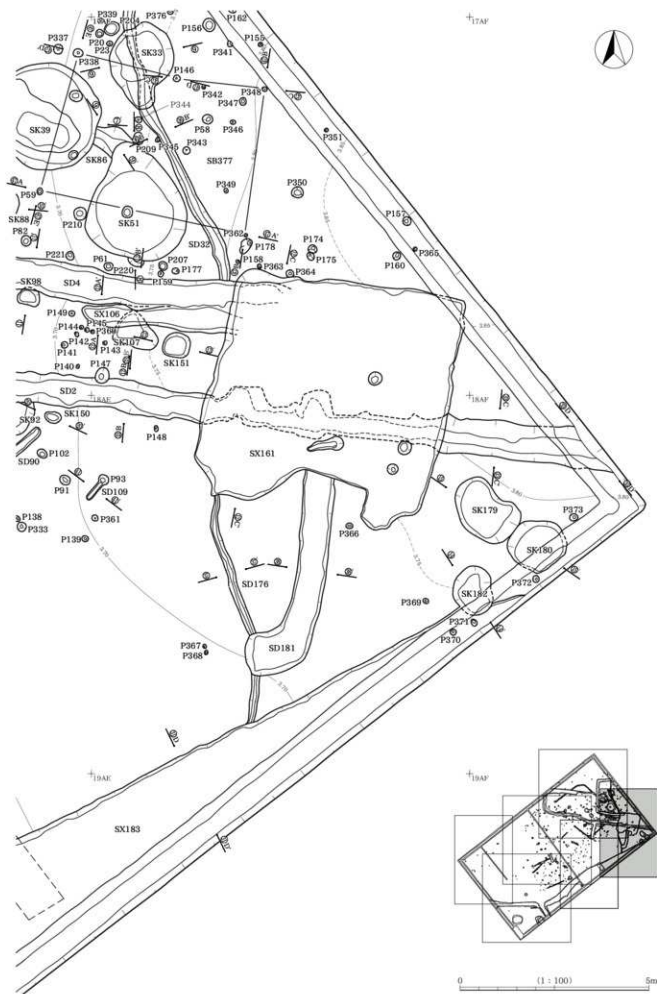
10m

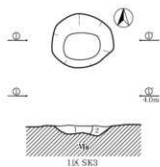
1	2	3	4	5
21	22	23	24	25

沖ノ羽遺跡のグリッド設定様式図

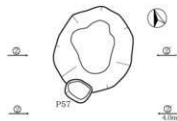








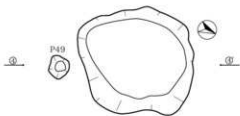
1K SK3



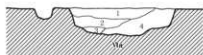
1K SK35

1KSK35壁土
 1.底層土 (2.5V/3/2) シルト層、粘り強、しまりあり、灰色ブロック状になる、炭化物多量混入。
 2.底層土 (2.5V/4/2) シルト層、粘り強、しまりあり。

1KSK35底土
 1.底層土 (1.0V/3/4) シルト層、粘り強中あり、しまりあり、褐色ブロック状になる、炭化物多量混入。
 2.底層土 (2.5V/4/4) シルト層、粘り強、しまりあり。



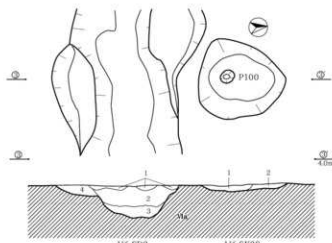
1K Pit49



1K SK36



1K SK37

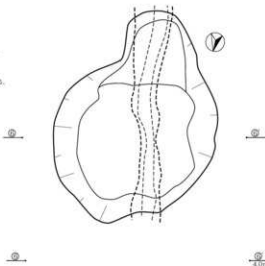


1K SD2

1K SK38

1KSK38壁土
 1.底層土 (1.0V/3/2) シルト層、粘り強中あり、しまりあり、褐色粘土状になる。
 2.底層土 (2.5V/3/2) シルト層、粘り強中あり、しまりあり、褐色粘土状になる。

1KSD2壁土
 1.底層土 (1.0V/3/2) シルト層、粘り強、しまりあり、褐色粘土状になる。
 2.底層土 (1.0V/4/4) シルト層、粘り強、しまりあり。
 3.底層土 (2.5V/3/2) シルト層、粘り強、しまりあり、炭化物多量混入。
 4.底層土 (2.5V/4/3) シルト層、粘り強、しまりあり、褐色ブロック状になる。



1K SD32

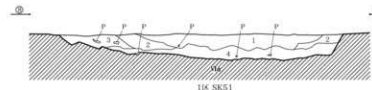
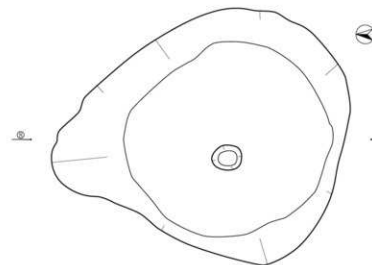
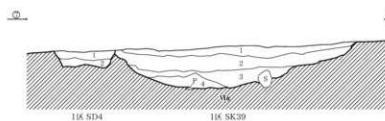
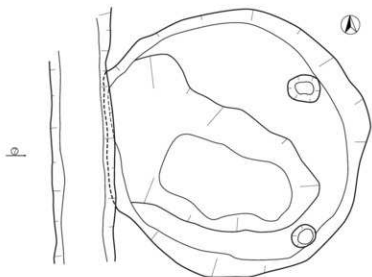


1KSK33壁土
 1.底層土 (1.0V/3/4) シルト層、粘り強中あり、しまりあり。
 2.底層土 (1.0V/4/2) シルト層、粘り強中あり、しまりあり、炭化物多量混入、灰色ブロック状になる。

1KSD32壁土
 1.底層土 (2.5V/3/2) シルト層、粘り強、しまりあり、炭化物多量混入。

1KSK36壁土
 1.底層土 (1.0V/3/4) シルト層、粘り強中あり、しまりあり。
 2.底層土 (2.5V/4/2) シルト層、粘り強、しまりあり。
 3.底層土 (1.0V/4/4) シルト層、粘り強、しまりあり。
 4.底層土 (1.0V/4/2) シルト層、粘り強、しまりあり、褐色ブロック状になる、炭化物多量混入。

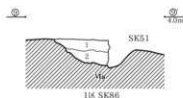
1KSK37壁土
 1.底層土 (1.0V/3/2) シルト層、粘り強中あり、しまりあり、褐色粘土状になる。
 2.底層土 (2.5V/3/2) シルト層、粘り強中あり、しまりあり。



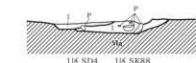
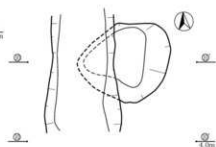
1区SK39層土
 1.原状土 (10YR5/2) シルト層、黏性中やあり、しまりあり、褐色ブロッカー一部認めらる。
 2.原状土 (10YR5/1) シルト層、黏性あり、しまりあり、炭化物多量認めらる。
 3.原状土 (2.5Y 6/1) シルト層、黏性あり、しまりあり、炭化物多量認めらる。褐色ブロッカー認めらる。
 4.原状土 (10YR4/3) シルト層、黏性あり、しまりあり、炭化物多量認めらる。

1区SD4層土
 1.土ロウマ層土 (2.5Y 4/6) シルト層、黏性中やあり、しまりあり、褐色ブロッカー認めらる。
 2.原状土 (10YR5/2) シルト層、黏性あり、しまりあり、褐色ブロッカー認めらる。

1区SK51層土
 1.原状土 (10YR5/2) シルト層、黏性中やあり、しまりあり、褐色ブロッカー一部認めらる。
 2.原状土 (10YR4/2) シルト層、黏性中やあり、しまりあり、炭化物多量認めらる。
 3.原状土 (10YR5/3) シルト層、黏性中やあり、しまりあり、炭化物多量認めらる。
 4.原状土 (2.5Y 6/1) シルト層、黏性あり、しまりあり、炭化物多量認めらる。

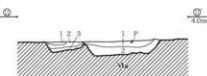


1区SK51層土
 1.土ロウマ層土 (2.5Y 4/6) シルト層、黏性あり、しまりあり、褐色ブロッカー一部認めらる。
 2.原状土 (2.5Y 2/2) シルト層、黏性あり、しまりあり、炭化物多量認めらる。



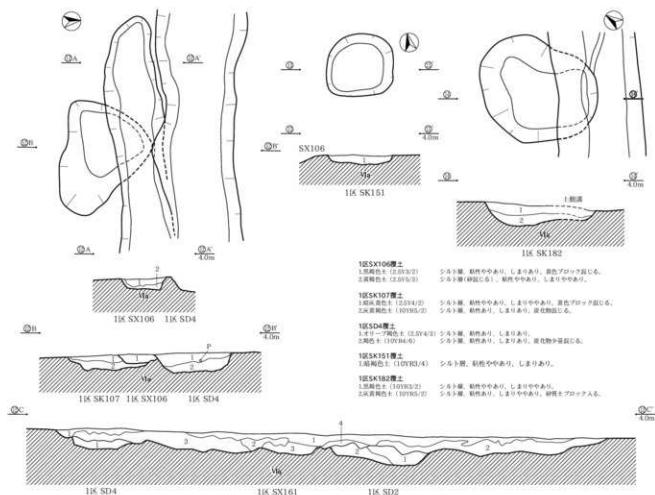
1区SK88層土
 1.原状土 (5YR3/6) シルト層、黏性中やあり、しまりあり、一部、砂質土層入る。

1区SD4層土
 1.原状土 (2.5Y 4/6) シルト層、黏性中やあり、しまりあり、炭化物多量認めらる。



1区SK98層土
 1.原状土 (10YR5/6) シルト層、黏性中やあり、しまり中やあり、炭化物多量認めらる。
 2.原状土 (10YR5/6) シルト層、黏性あり、しまりあり、炭化物多量認めらる。
 3.土ロウマ層土 (2.5Y 4/3) シルト層、黏性あり、しまりあり、褐色ブロッカー認めらる。

1区SD4層土
 1.土ロウマ層土 (2.5Y 4/3) シルト層、黏性あり、しまりあり、炭化物多量認めらる。
 2.原状土 (10YR4/6) シルト層、黏性あり、しまりあり、炭化物多量認めらる。



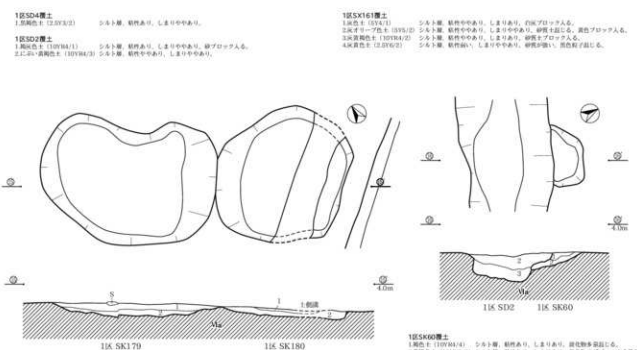
1区SK106遺土
 1.黒褐色土 (2.0V3/2) シルト層, 粘粒中やあり, 黒色ブロッケン状。
 2.黄褐色土 (2.0V5/2) シルト層(砂質になる), 粘粒中やあり, しまり中やあり。

1区SK107遺土
 1.黒褐色土 (2.0V4/2) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり, 黒色ブロッケン状。
 2.灰黄褐色土 (1.0V3/2) シルト層, 粘粒あり, しまりあり, 炭化物少量混入。

1区SD4遺土
 1.オリーブ褐色土 (2.0V4/2) シルト層, 粘粒あり, しまりあり。
 2.黒色土 (1.0V3/4-6) シルト層, 粘粒あり, しまりあり, 炭化物少量混入。

1区SK151遺土
 1.黒褐色土 (1.0V3/2-4) シルト層, 粘粒中やあり, しまりあり。
 2.黒褐色土 (1.0V3/2) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり, 炭化物少量混入。
 3.灰黄褐色土 (1.0V3/2) シルト層, 粘粒あり, しまり中やあり, 粘土ブロッケン入。

1区SK161遺土
 1.黒色土 (2.0V7/2) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり, 石灰ブロッケン入。
 2.灰オリーブ褐色土 (2.0V5/2) シルト層, 粘粒中やあり, 粘土混入になる, 黒色ブロッケン入。
 3.灰黄褐色土 (1.0V3/4) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり, 粘土ブロッケン入。
 4.灰褐色土 (2.0V6/2) シルト層, 粘粒あり, しまり中やあり, 粘土混入, 炭化物少量混入。



1区SK179遺土
 1.黒褐色土 (1.0V3/2) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり。
 2.黒褐色土 (1.0V3/4) シルト層, 粘粒あり, しまり中やあり, 砂ブロッケン入。
 3.正乱色黄褐色土 (1.0V3/4) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり。

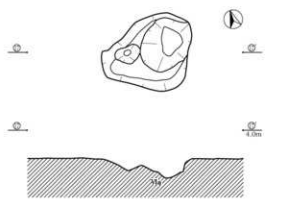
1区SK180遺土
 1.正乱色黄褐色土 (1.0V3/4) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり。
 2.黒オリーブ褐色土 (2.0V5/2) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり, 黒色ブロッケン入。

1区SK170遺土
 1.黒褐色土 (1.0V3/2) シルト層, 粘粒中やあり, しまり中やあり。
 2.黒褐色土 (1.0V3/4) シルト層, 粘粒あり, しまり中やあり, 炭化物少量混入。

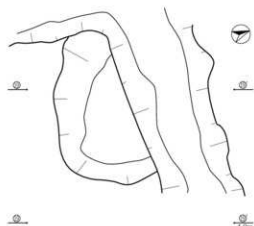
1区SK60遺土
 1.黒褐色土 (1.0V3/4) シルト層, 粘粒あり, しまりあり, 炭化物少量混入。
 2.黒褐色土 (1.0V3/2) シルト層, 粘粒あり, しまりあり, 炭化物ブロッケン多量混入。

1区SD2遺土
 1.黒褐色土 (1.0V3/4) シルト層, 粘粒あり, しまりあり。
 2.黒褐色土 (2.0V2/2) シルト層, 粘粒あり, しまりあり, 炭化物少量混入。



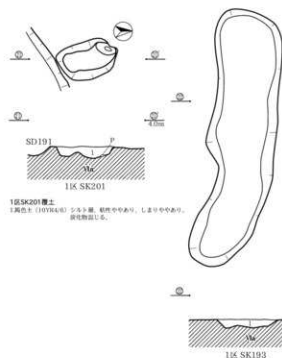


1K SK89



1K SK92

1K SD2

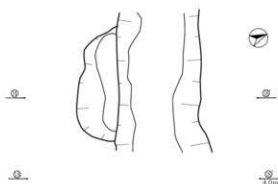


1K SK201 遺土

1.褐色土 (10YR6/4) シルト層、粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が散らばる。

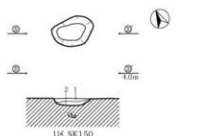
1区SK193遺土

1.平ターフ褐色土 (2.0Y4/4) シルト層、粘粒中であり、しまりあり、炭化物が散らばる。



1K SK87

1K SD2



1K SK150

1区SK92遺土

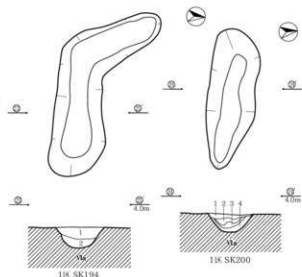
1.褐色土 (2.0Y3/2) シルト層、粘粒あり、しまり中であり、炭色粉子、炭色アロックス散らばる。
2.黒褐色土 (10YR3/1) シルト層、粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が散らばる。

1区SD2遺土

1.褐色土 (10YR6/4) シルト層、粘粒中であり、しまりあり。
2.黒褐色土 (10YR3/2) シルト層、粘粒あり、しまり中であり、炭化物が散らばる。
3.黒褐色土 (2.0Y4/1) シルト層、粘粒あり、しまり中であり、炭化物が散らばる。

1区SK150遺土

1.黒褐色土 (10YR3/2) シルト層、粘粒中であり、しまり中であり。
2.黒褐色土 (10YR5/6) シルト層、粘粒あり、しまりあり、炭化アロックス散らばる。



1K SK194

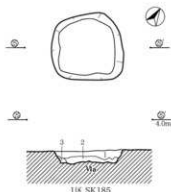
1K SK200

1区SK194遺土

1.褐色土 (2.5Y5/4) シルト層、粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が散らばる。
2.黒褐色土 (10Y5/6) シルト層、粘粒あり、しまり中であり、炭化物が散らばる。

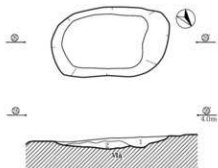
1区SK200遺土

1.褐色土 (2.0Y3/2) シルト層、粘粒あり、しまり中であり、炭色粉子散らばる。
2.黒褐色土 (10YR3/1) シルト層、粘粒あり、しまり中であり、炭化物が散らばる。
3.黒褐色土 (10YR2/1) 粘土層、粘粒あり、しまり中であり、炭化アロックス散らばる。
4.平ターフ褐色土 (2.0Y4/4) シルト層、粘粒あり、しまり中であり、炭化物が散らばる。

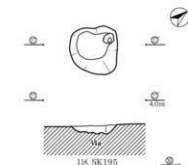


1区 SK185

- 1区SK185遺土
 1.灰褐色土 (10YR5/6) シルト層、粘りあり、しまりややあり、褐色アゾックが入る。炭化物が散在する。
 2.暗灰褐色土 (2.5YR5/2) シルト層、粘りあり、しまりややあり、表面に炭化物が入る。暗灰褐色土がアゾック状に入る。
 3.灰黄色土 (2.5Y6/2) シルト層、粘りあり、しまりややあり、炭化物が散在する。



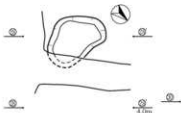
1区 SK189



1区 SK195

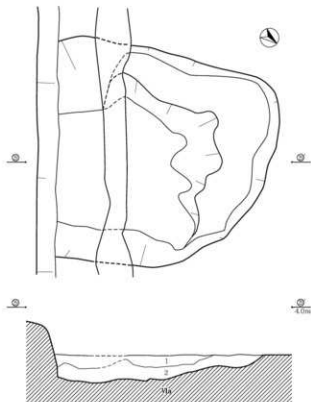
- 1区SK189遺土
 1.暗褐色土 (10YR3/2) シルト層、粘りややあり、しまりややあり、炭化物が多数に散在する。
 2.褐色土 (10YR4/4) シルト層、粘りあり、しまりややあり、炭化物が多数に散在する。

- 1区SK195遺土
 1.暗オリーブ褐色土 (2.5YR3/2) シルト層、粘りややあり、しまりややあり、炭化物、褐色アゾックが散在する。



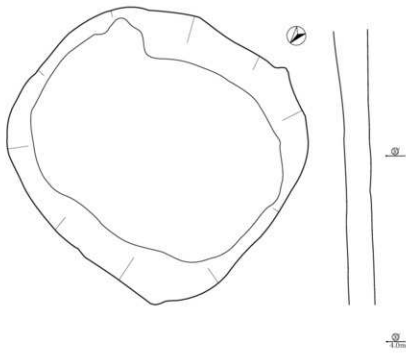
1区SK196

- 1区SK196遺土
 1.灰褐色土 (7.5YR4/1) シルト層、粘りあり、しまりややあり、縦断面に炭化物が多数に散在する。縦断土面は、



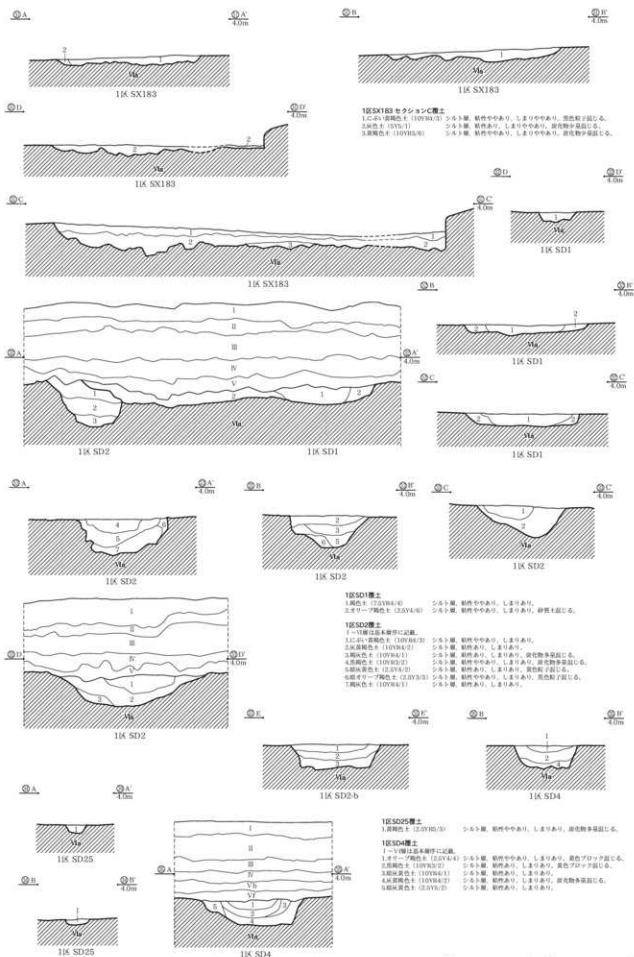
1区 SK188

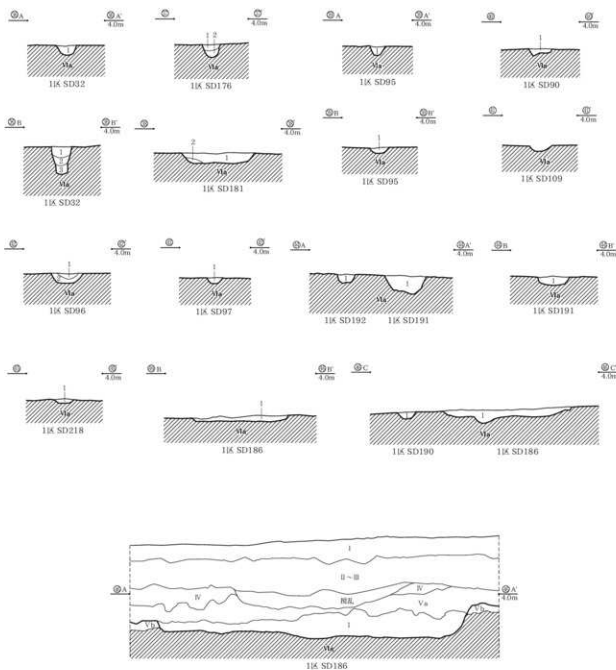
- 1区SK188遺土
 1.灰黄褐色土 (10YR6/2) シルト層、粘りややあり、しまりややあり、縦断土がアゾック状に入る。炭化物が少量に散在する。
 2.暗灰褐色土 (2.5YR5/2) シルト層、粘りややあり、しまりややあり、縦断土がアゾック状に入る。炭化物が少量に散在する。



1区 SX187

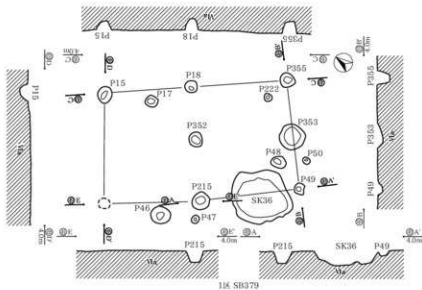
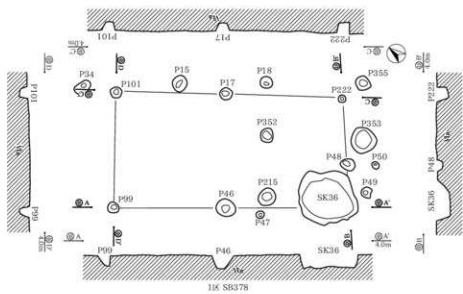
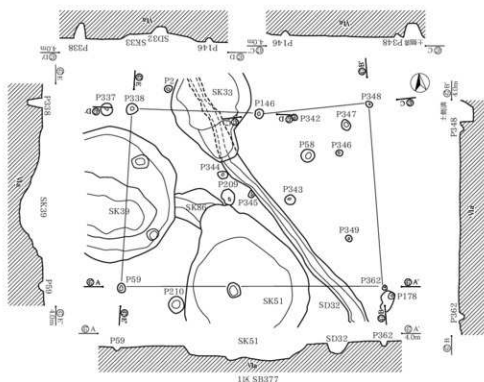
0 (1:40) 2m

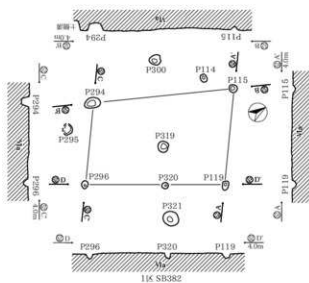
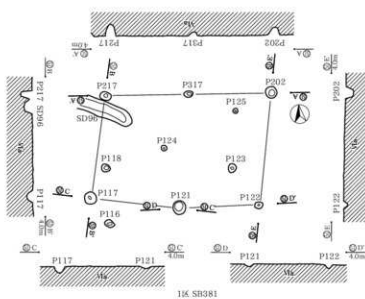
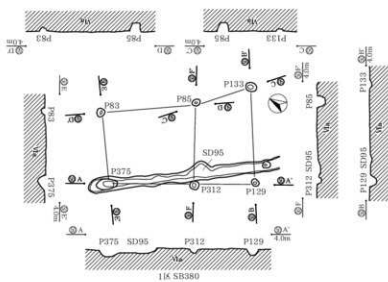


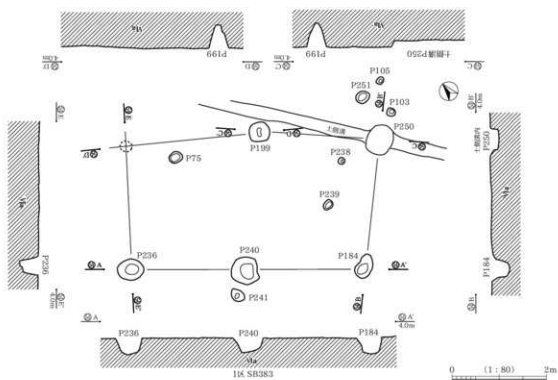
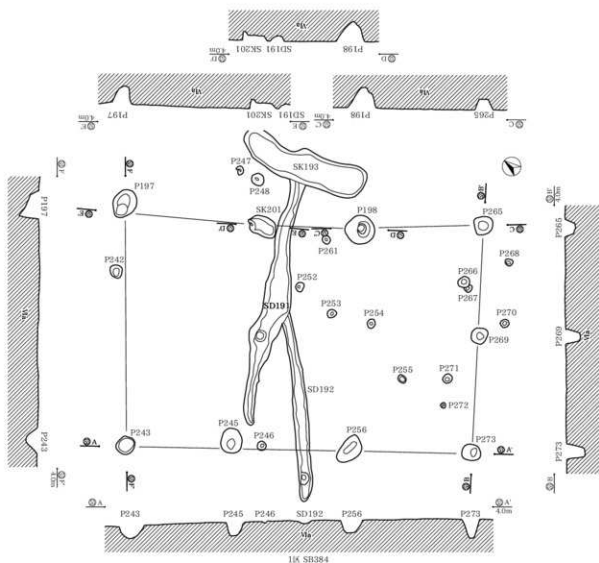


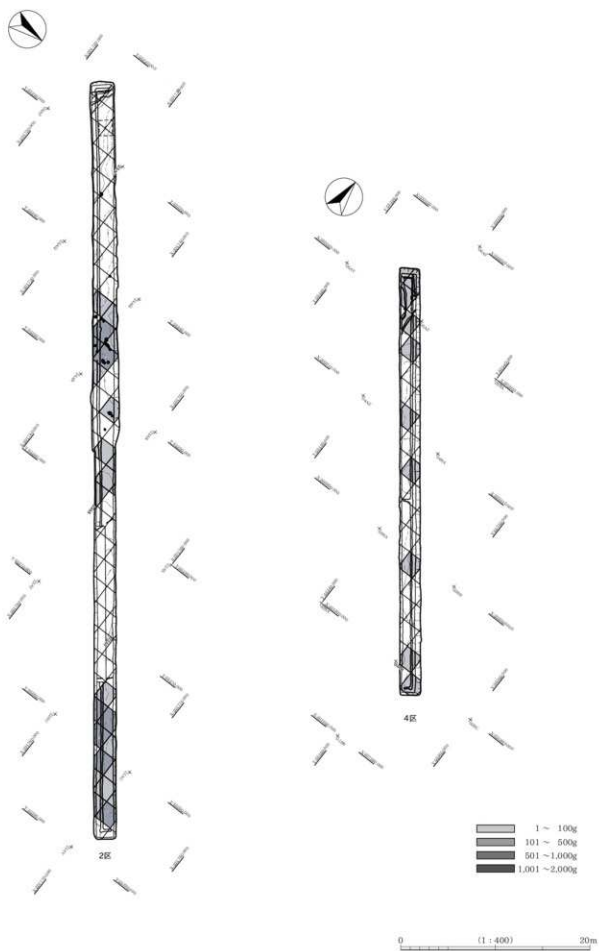
- 1区SD32層土**
 1.黒褐色土 (10YR5/6) シルト質、粘性あり、しまりあり。
 2.黄灰色土 (2.5Y8/1) シルト質、粘性あり、しまりあり。
 3.灰黒褐色土 (10YR4/2) シルト質、粘性あり、しまりあり。炭化物多量混入。
- 1区SD176層土**
 1.黒褐色土 (10YR5/6) シルト質、粘性中あり、しまりあり。
 2.黄灰色土 (2.5Y8/1) シルト質、粘性あり、しまりあり。炭化物多量混入。
- 1区SD181層土**
 1.黒褐色土 (10YR5/6) シルト質、粘性あり、しまりあり。
 2.灰オリーブ色土 (5Y5/2) シルト質、粘性中あり、しまり中あり。磁器土ブロック入る。
- 1区SD95層土**
 1.C-A-1黄褐色土 (10YR4/3) シルト質、粘性あり、しまりあり。
- 1区SD90層土**
 1.C-A-1黄褐色土 (10YR4/3) シルト質、粘性あり、しまり中あり。炭色ブロック混入。
- 1区SD96層土**
 1.黒オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) シルト質、粘性あり、しまり中あり。炭色ブロック混入。
 2.褐色土 (10YR4/6) シルト質、粘性あり、しまりあり。

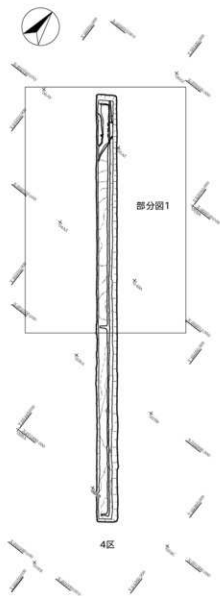
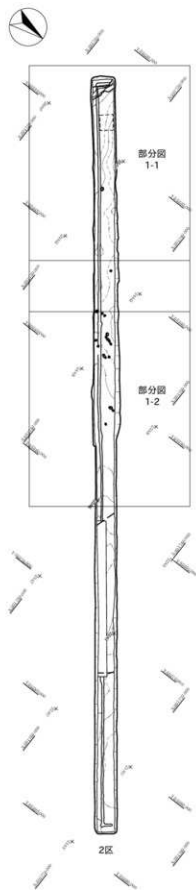
- 1区SD97層土**
 1.黒褐色土 (10YR5/6) シルト質、粘性あり、しまり中あり。炭化物多量混入。
- 1区SD192層土**
 1.灰オリーブ色土 (5Y8/2) シルト質、粘性中あり、しまりあり。炭化物多量混入。
- 1区SD191層土**
 1.オリーブ褐色土 (2.5YR4/2) シルト質、粘性中あり、しまりあり。炭化物混入。
- 1区SD218層土**
 1.褐色土 (10YR4/6) シルト質、粘性中あり、しまり中あり。炭化物多量混入。
- 1区SD186層土**
 1.～5号層土並層土SD181に連続。
 1.黒褐色土 (10YR5/6) シルト質、粘性中あり、しまり中あり。炭色ブロック混入。一部磁器土入る。
- 1区SD190層土**
 1.灰黒褐色土 (10YR4/2) シルト質、粘性あり、しまり中あり。炭化物混入。

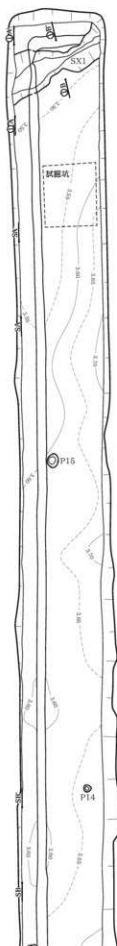






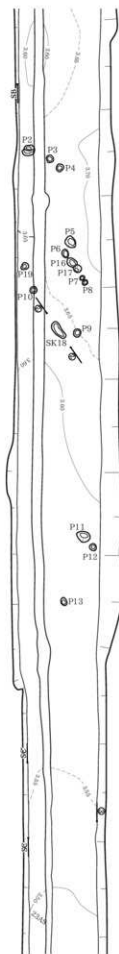






沖ノ羽

沖ノ羽



沖ノ羽

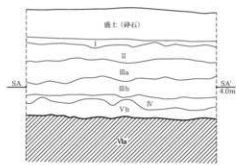
沖ノ羽

10m

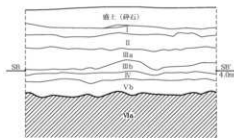
1	2	3	4	5
				10
				15
				20
21	22	23	24	25

沖ノ羽遺跡小グリッド設定様式図

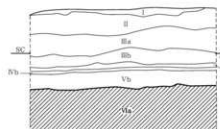




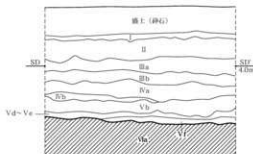
2区基本層序SA



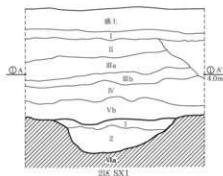
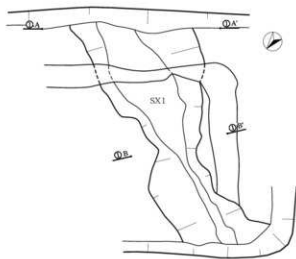
2区基本層序SB



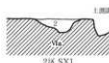
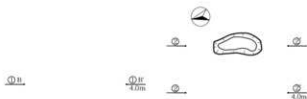
2区基本層序SC



2区基本層序SD



2区 SX1



2区 SB



2区 SF

2区基本層序

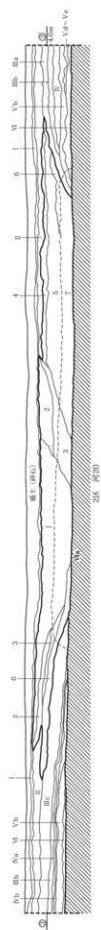
- I. 褐色土 (10YR4/4) 粘状中であり、しまりあり。流土、崩壊層あり。
- II. 灰色土 (10YR4/3) 粘状中であり、しまりあり。
- IIIa. 粘褐色土 (10YR3/3) 粘状中であり、しまりあり。
- IIIb. 褐色土 (10YR4/4) 粘状中であり、しまりあり。炭粒が混入する。
- IV. 灰褐色土 (7.5YR4/2) 粘状中であり、しまりあり。遊離鉄がブロック状に入る。
- IVa. 赤褐色土 (2.5YR4/2) シルト層。粘状中であり、しまりあり。炭粒が混入する。
- IVb. 灰色土 (10YR5/3) シルト層。粘状中であり、しまりあり。炭粒が混入する。
- Vb. 灰褐色土 (10YR3/2) 粘状中であり、しまりあり。炭粒がブロック状に入る。遊離鉄。
- VI. 赤褐色土 (10YR3/2) 粘状中であり、しまりあり。炭粒が混入する。
- Vd-Ve. 褐色土 (10YR4/4) シルト層。粘状中であり、しまりあり。
- Vc. 灰褐色土 (2.5YR3/2) シルト層。粘状中であり、しまりあり。

2区SK1層土

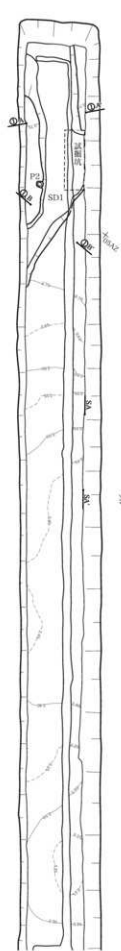
- 1. 褐色土 (10YR4/2) 粘状中であり、しまりあり。炭粒色のブロック状が入る。崩壊層が混入する。
- 2. 灰褐色土 (2.5YR4/1) 粘状中であり、しまりあり。

2区SK1B層土

- 1. 灰褐色土 (10YR3/2) シルト層。粘状中であり、しまりあり。炭粒がブロック状に入る。



20土層断面図
 1. 黒色土 (100002) A 2. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 3. 黒色土 (100003) B 4. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 5. 赤色土 (100004) C 6. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 7. 赤色土 (100005) D 8. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 9. 赤色土 (100006) E 10. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 11. 赤色土 (100007) F 12. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 13. 赤色土 (100008) G 14. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 15. 赤色土 (100009) H 16. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 17. 赤色土 (100010) I 18. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 19. 赤色土 (100011) J 20. 赤色土 粘質砂質土、しまりあり。
 ※ 欄外の下は断面図により、欄外内記に土色が変更している。



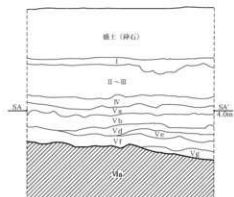
10m

1	2	3	4	5
				10
				15
				20
21	22	23	24	25

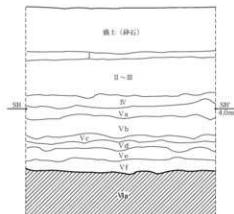
沖ノ羽遺跡グリッド設定模式図

0 (1:100) 5m

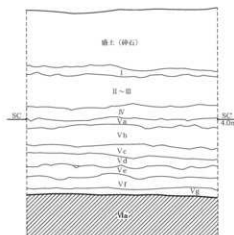




4区 基本層序SA



4区 基本層序SB



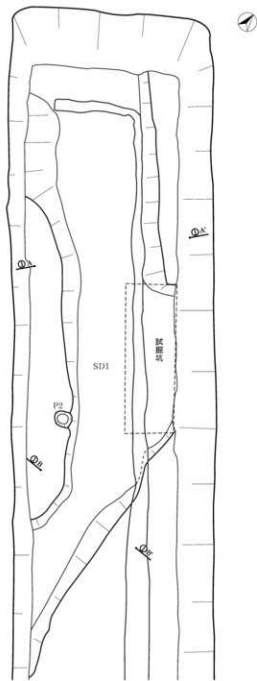
4区 基本層序SC

4区基本層序

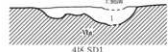
- I 礫土(砂石) (2.574/2) シロト層、礫物混じり、土量多あり。(表出部分4)
- II-III 礫土(砂石) (1.019/4) シロト層、礫物混じり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- IV 灰土(砂石) (1.019/2) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- Va 礫土(砂石) (2.574/1) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- Vb 礫土(砂石) (1.019/4) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- Vc 礫土(砂石) (2.574/1) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- Vd 灰土(砂石) (1.019/2) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- Ve 礫土(砂石) (2.574/2) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- Vf 礫土(砂石) (2.574/1) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- Vg 礫土(砂石) (1.019/4) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。
- Vh 礫土(砂石) (2.574/1) シロト層、礫物中多あり、土量多あり。炭酸石灰混じり。

4区SD1層土

- I 礫土(砂石) (2.574/2) シロト層、礫物混じり、土量多あり。炭酸石灰混じり。

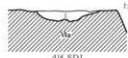


④A ④C
4.0m

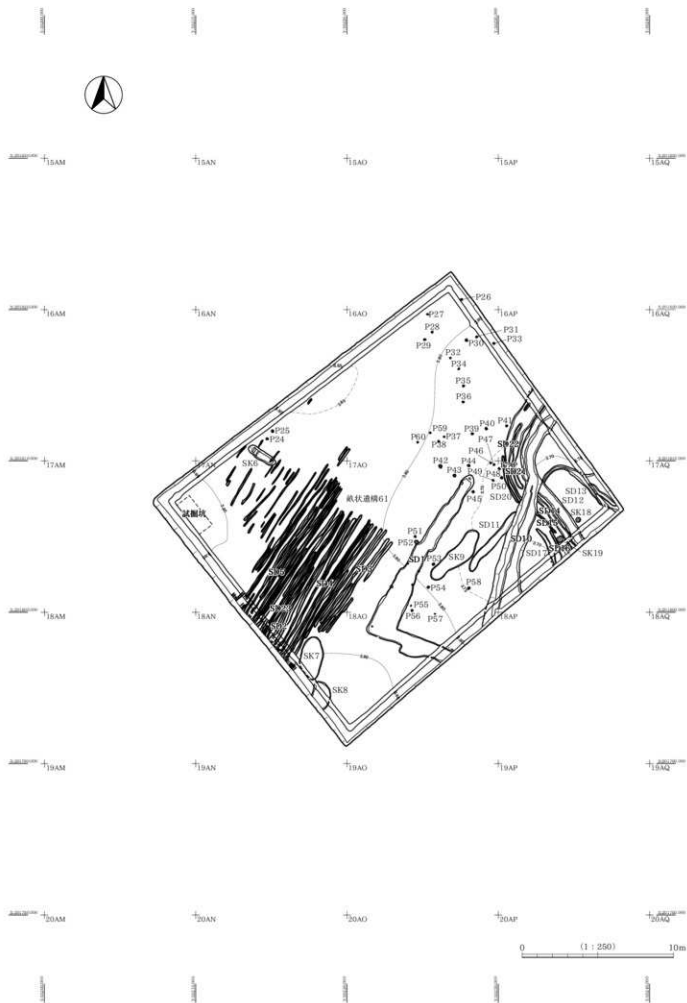


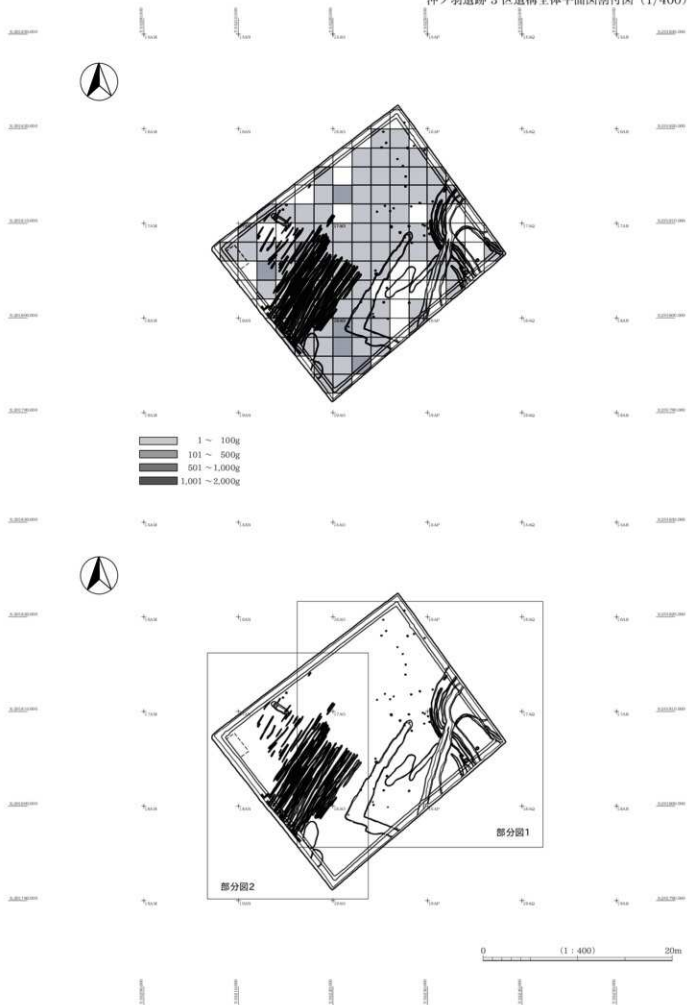
418 SD1

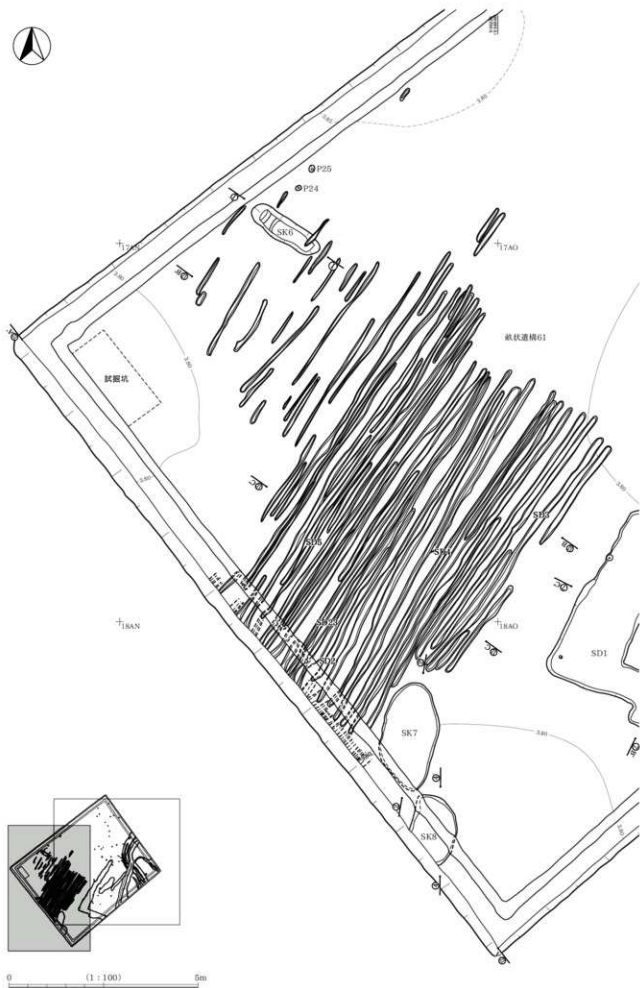
④B ④D
4.0m

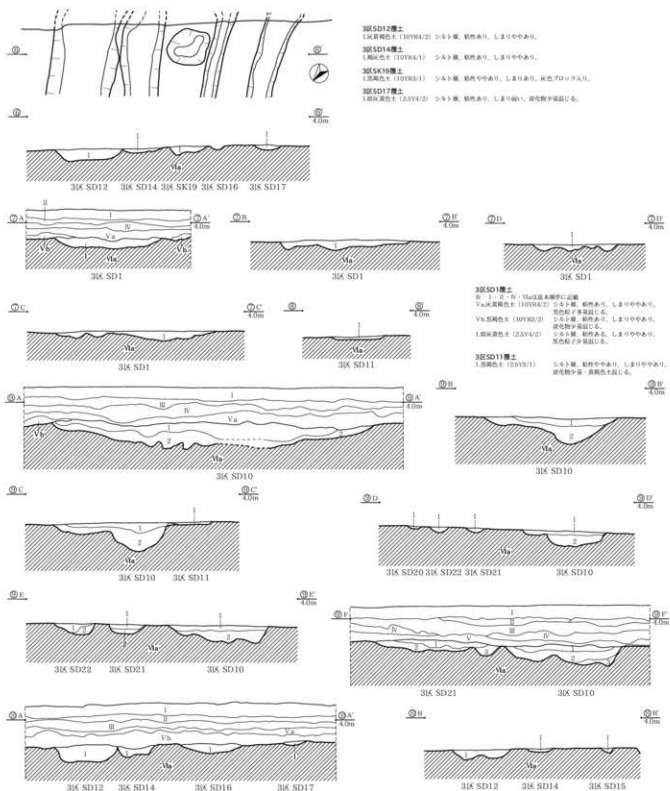


41K SD1









3区SD12層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまり中であり、
 2.褐色土 (10YR4/1) シルト層、粘性あり、しまり中であり、

3区SD14層土
 1.褐色土 (10YR4/1) シルト層、粘性あり、しまり中であり、

3区SK19層土
 1.褐色土 (10YR4/1) シルト層、粘性中であり、しまりあり、灰色ブロック入り、

3区SD17層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまりあり、炭化物少量混入、

3区SD1層土
 ① 1.灰 - 赤 / Vha 粘土層 礫層付付式層
 Va.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまり中であり、
 炭化物少量混入、
 ② シルト層、粘性あり、しまり中であり、
 炭化物少量混入、
 Va.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまり中であり、
 炭化物少量混入、
 ③ 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまり中であり、
 炭化物少量混入、

3区SD11層土
 1.褐色土 (10YR4/1) シルト層、粘性中であり、しまり中であり、
 炭化物少量 - 炭化物少量混入、

3区SD10層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまり中であり、炭化物少量混入、
 2.褐色土 (10YR4/1) シルト層、粘性あり、しまり中であり、
 3.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまり中であり、

3区SD20層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性中であり、しまりあり、

3区SD21層土
 1.灰 - 赤 / 礫層付付式層 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまりあり、炭化物少量混入、
 2.灰 - 赤 / 礫層付付式層 (10YR4/2) シルト層、粘性中であり、しまりあり、炭化物少量混入、
 3.灰黄褐色土 (10YR4/1) シルト層、粘性あり、しまり中であり、炭化物少量混入、

3区SD22層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまりあり、炭化物少量混入、
 2.褐色土 (10YR4/1) シルト層、粘性あり、しまり中であり、

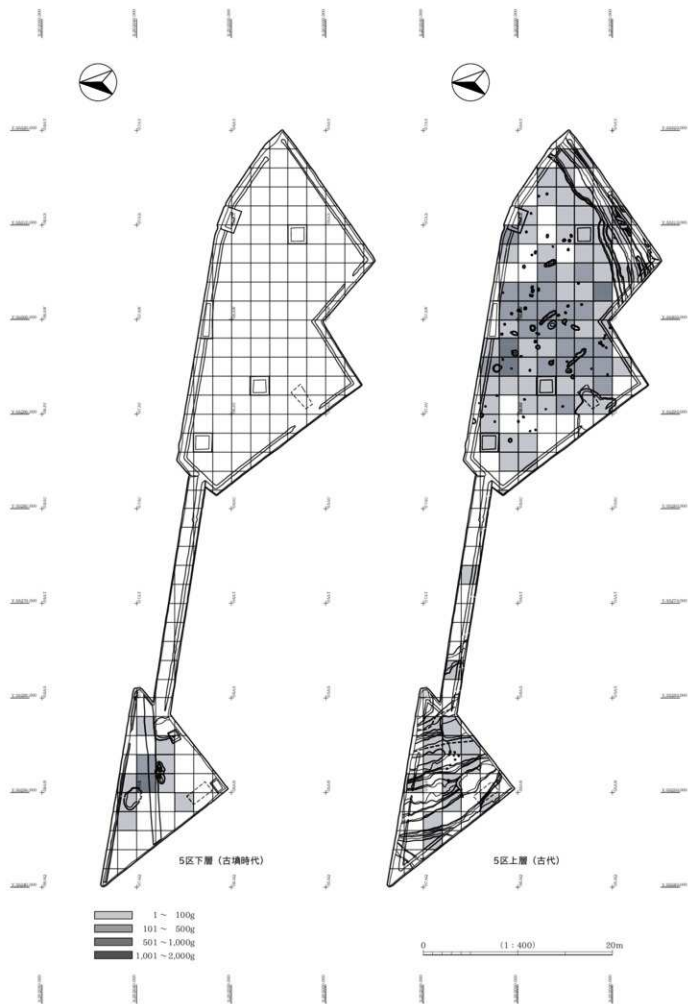
3区SD12層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまり中であり、

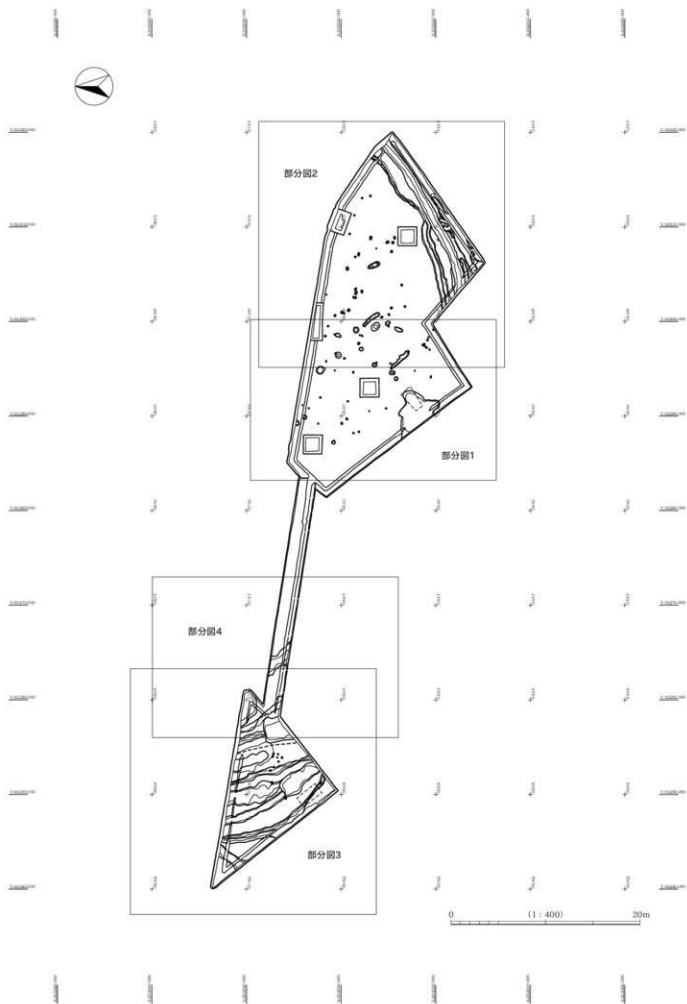
3区SD14層土
 1.褐色土 (10YR4/1) シルト層、粘性あり、しまり中であり、

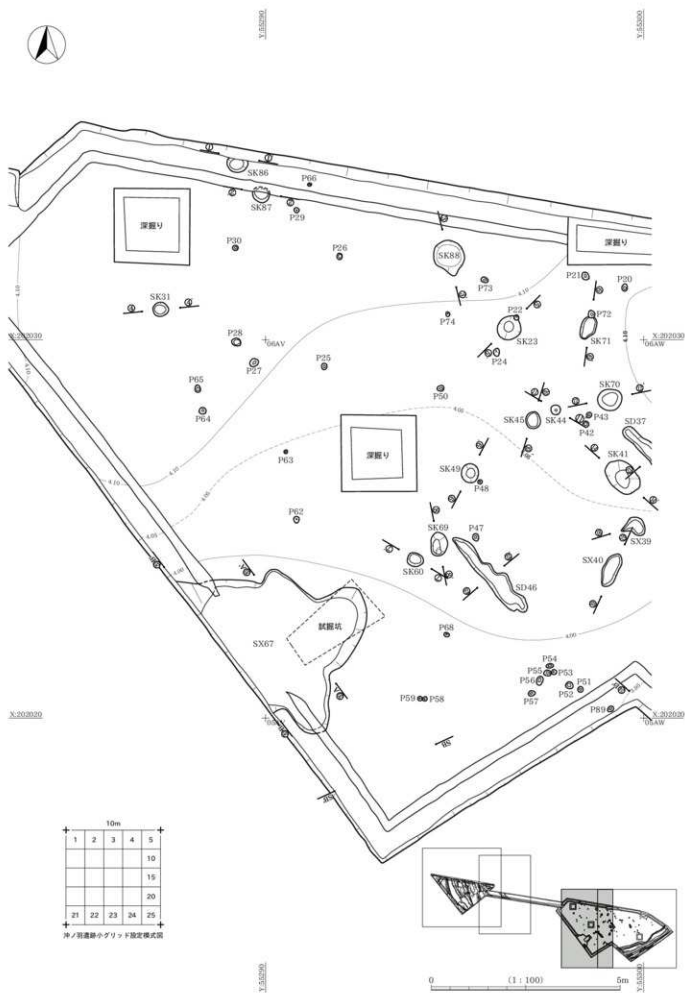
3区SD15層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまり中であり、

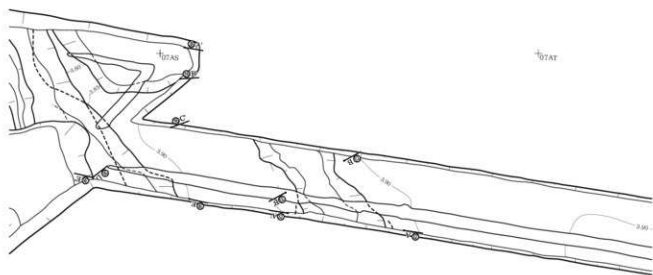
3区SD16層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまりあり、炭化物少量混入、

3区SD17層土
 1.灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層、粘性あり、しまりあり、炭化物少量混入、



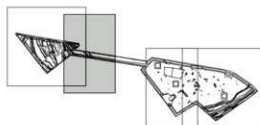




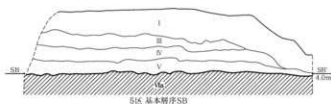
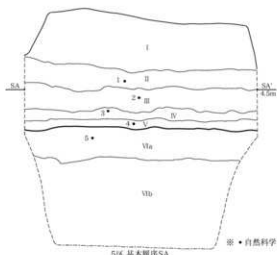


OGAS

OGAT



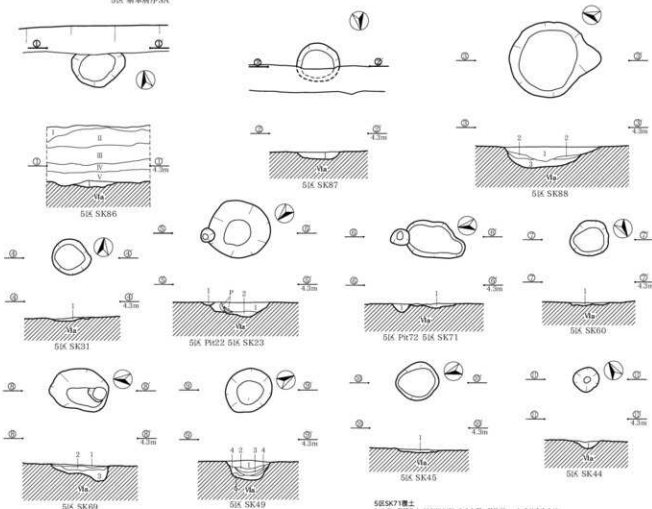
0 (1 : 100) 5m



5区基本層序

- | | | |
|------------------------|--------------------|---|
| I. 上層土 | 1. 黒色土 (10YR4/1) | シロト土、粘性弱く、しまりあり。 |
| II. 1. 灰褐色土 (7.5YR6/1) | 2. 灰褐色土 (10YR4/2) | シロト土、粘性中であり、しまりあり。主にプロット層に属する。 |
| III. 灰褐色土 (10YR4/2) | 4. 黒褐色土 (7.5YR4/2) | シロト土、粘性弱く、しまりあり。 |
| IV. 黒褐色土 (7.5YR4/2) | 5. 黒褐色土 (10YR3/2) | シロト土、粘性中であり、しまり中であり、褐色粒子混入する。 |
| V. 赤褐色土 (10YR5/2) | 6. 赤褐色土 (7.5YR5/2) | シロト土、粘性中であり、しまり中であり、褐色土と混在し、褐色土が少量混入する。 |
| Va. 地山 | | |
| Vb. 地山 | | |

※・自然科学分析（植物柱状体）サンプリング地点



5SK86層土

- 1~Vの層に記す5区基本層序に相当。
 1. 灰褐色土 (10YR4/2) シロト土、粘性弱く、しまり中であり、炭化物、褐色粒子混入。

5SK87層土

1. 灰褐色土 (10YR4/2) シロト土、粘性弱く、しまり中であり、炭化物少量混入。

5SK88層土

1. 灰褐色土 (10YR5/2) シロト土、粘性中であり、しまりあり、炭化物混入。
 2. 黒褐色土 (7.5YR3/2) シロト土、粘性中であり、しまり中であり、1.2層炭化物混入。
 3. 黒褐色土 (5YR1.2/1) シロト土、粘性中、しまりあり、炭化物混入。炭化物に土層の土が少量混入。

5SK43層土

1. 黒褐色土 (10YR3/2) シロト土、粘性弱く、しまり中であり、炭化物、粘土、土層混入。

5SK42層土

1. 黒褐色土 (5YR4/1) シロト土、粘性中であり、しまり中であり、木屑、粘土、炭化物混入。灰、河泥に混入なし。
 2. 灰褐色土 (7.5YR4/2) シロト土、粘性中、しまり弱く、褐色土、炭化物混入。

5EPit22層土

1. 黒褐色土 (7.5YR3/2) シロト土、粘性中であり、しまり中であり。

5SK71層土

1. 灰褐色土 (10YR5/2) シロト土、粘性弱く、しまり中であり。

5EPit72層土

1. 灰褐色土 (7.5YR5/2) シロト土、粘性中であり、炭化物混入。

5SK46層土

1. 灰褐色土 (10YR5/1) シロト土、粘性中であり、しまり中であり。

5SK46層土

1. 灰褐色土 (10YR5/2) シロト土、粘性弱く、しまり中であり。
 2. 灰褐色土 (7.5YR5/2) シロト土、粘性中であり、しまり中であり、炭化物混入。
 3. 黒褐色土 (10YR3/1) シロト土、粘性中であり、しまり中であり、炭化物混入。

5SK49層土

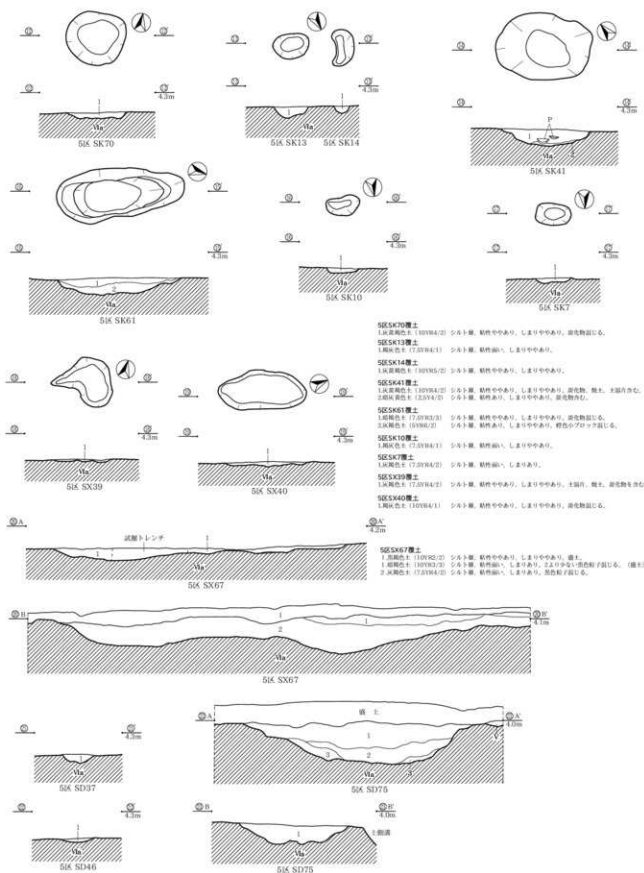
1. 灰褐色土 (10YR4/3) シロト土、粘性中であり、しまり中であり、炭化物、木屑混入。
 2. 黒褐色土 (7.5YR3/2) シロト土、粘性弱く、しまり中であり、炭化物少量混入。
 3. 灰褐色土 (10YR4/2) シロト土、粘性弱く、しまり中であり、炭化物混入。
 4. 黒褐色土 (7.5YR3/2) シロト土、粘性中であり、しまり中であり、炭化物混入。
 5. 黒褐色土 (10YR3/1) シロト土、粘性中であり、しまり中であり、炭化物少量混入。

5SK45層土

1. 黒褐色土 (10YR3/2) シロト土、粘性中であり、しまり中であり、炭化物混入。

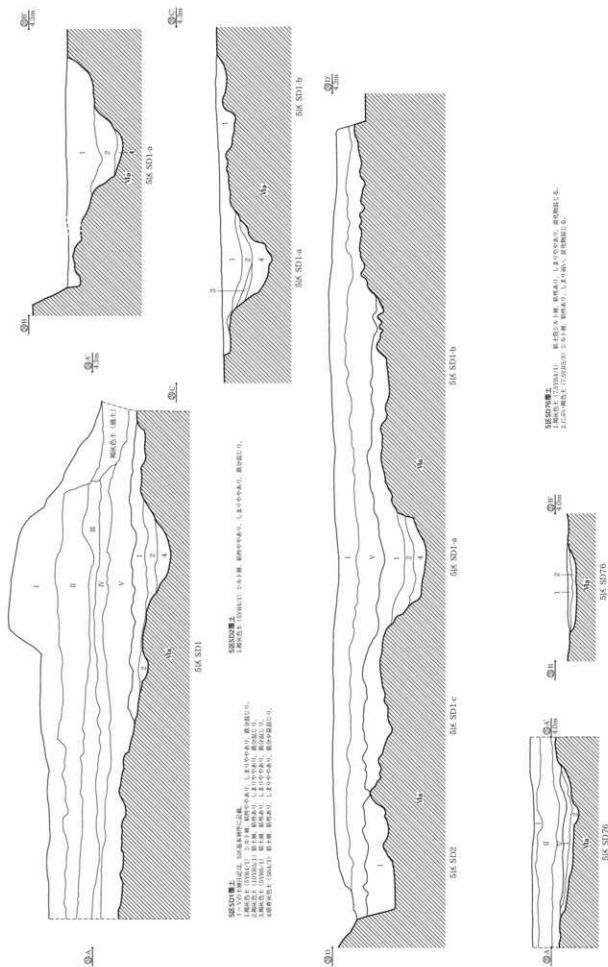
5SK44層土

1. 灰褐色土 (5YR4/1) シロト土、粘性弱く、しまりあり、炭化物混入。



5R SK70 遺土
 1.灰褐色土 (10YR6/2) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、炭化物散在。
5R SK13 遺土
 1.褐色土 (7.5YR6/3) シルト質、粘性弱、しまり中であり、
5R SK14 遺土
 1.灰褐色土 (10YR6/2) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、
5R SK41 遺土
 1.灰褐色土 (10YR6/2) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、炭化物、焼土、土器片散在。
 2.灰褐色土 (7.5YR6/2) シルト質、粘性あり、しまり中であり、炭化物散在。
5R SK61 遺土
 1.灰褐色土 (7.5YR6/3) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、炭化物散在。
 2.灰褐色土 (10YR6/2) シルト質、粘性あり、しまり中であり、褐色小ブロッコ散在。
5R SK10 遺土
 1.褐色土 (7.5YR6/3) シルト質、粘性弱、しまり中であり、
5R SK7 遺土
 1.灰褐色土 (10YR6/2) シルト質、粘性弱、しまり中であり、
5R SK39 遺土
 1.灰褐色土 (10YR6/2) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、土器片、焼土、炭化物を散在。
5R SK40 遺土
 1.褐色土 (7.5YR6/3) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、炭化物散在。
5R SK67 遺土
 1.灰褐色土 (10YR6/2) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、焼土。
 2.灰褐色土 (10YR6/3) シルト質、粘性弱、しまり中であり、炭化物散在。
 3.灰褐色土 (7.5YR6/2) シルト質、粘性あり、しまり中であり、褐色小ブロッコ散在。(焼土)
5R SK46 遺土
 1.褐色土 (7.5YR6/3) シルト質、粘性あり、しまり中であり、炭化物散在。

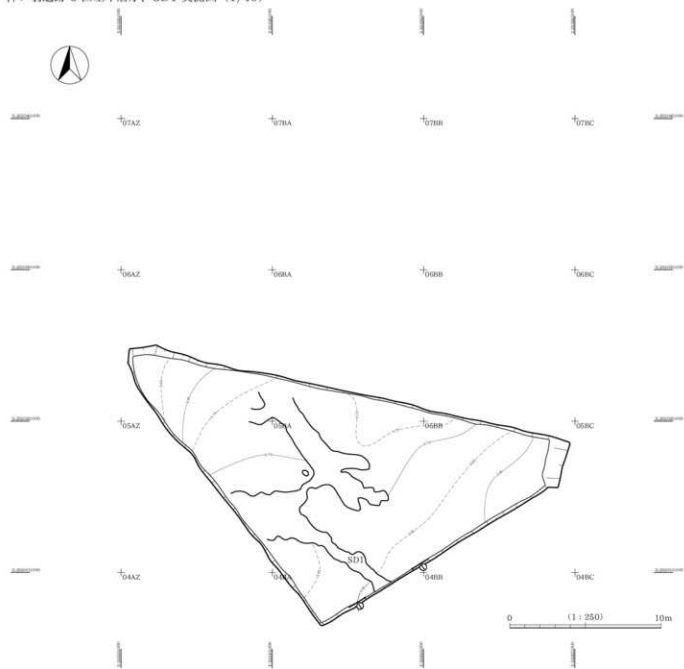
5R SD37 遺土
 1.灰褐色土 (10YR6/1) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、炭化物散在。
5R SD46 遺土
 1.灰褐色土 (7.5YR6/3) シルト質、粘性中であり、しまり中であり、
5R SD75 遺土
 Yの土層には5R基本層中に記載。
 1.褐色土 (7.5YR6/3) シルト質、粘性あり、しまり中であり、褐色土がまばらに散在、炭化物散在。
 2.褐色土 (7.5YR6/1) シルト質、粘性あり、しまり中であり、炭化物散在に散在、1層より深い。
 3.灰褐色土 (7.5YR6/1) 粘性シルト質、粘性中であり、しまり中であり、炭化物散在。



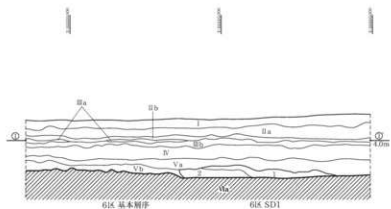
SD1の構造
 上層SD1は、SD1-a・SD1-b・SD1-c・SD1-e・SD1-f・SD1-g・SD1-hの各層からなり、その下にSD1-a・SD1-b・SD1-c・SD1-e・SD1-f・SD1-g・SD1-hの各層がある。

SD1-aの構造
 上層SD1-aは、SD1-a-1・SD1-a-2・SD1-a-3の各層からなり、その下にSD1-a-1・SD1-a-2・SD1-a-3の各層がある。

SD1-bの構造
 上層SD1-bは、SD1-b-1・SD1-b-2・SD1-b-3の各層からなり、その下にSD1-b-1・SD1-b-2・SD1-b-3の各層がある。



0 (1:250) 10m



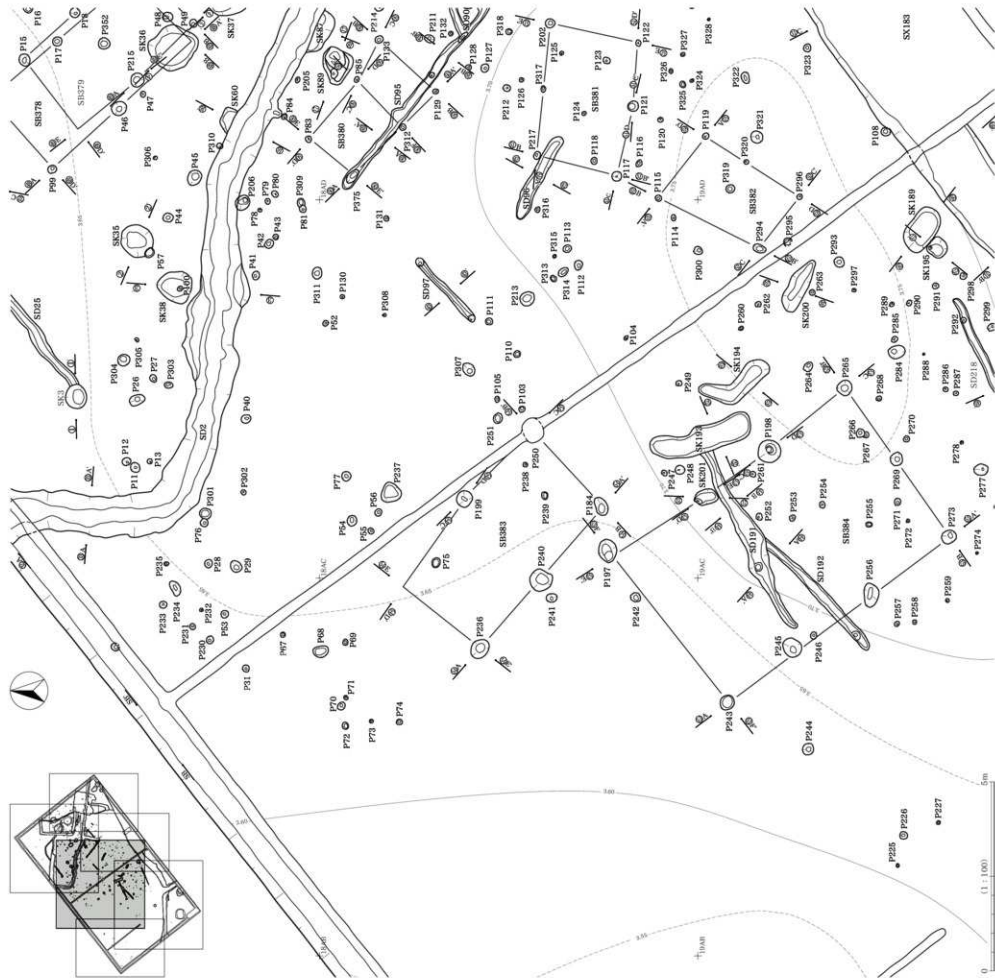
6区基本層序

- I. Ⅰa 黄褐色土 (10YR6/3) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質中中砂あり。
- Ⅰb 灰褐色土 (7.5YR5/2) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、褐色土まじりか入る。
- Ⅱa 黄褐色土 (7.5YR6/1) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、褐色土まじりか入る。炭化物が散在する。
- Ⅱb 黄褐色土 (7.5YR6/1) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、白土が混入している。
- Ⅲa 黄褐色土 (7.5YR6/1) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、炭褐色土が混入する。
- Ⅳ 灰褐色土 (7N4/0) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、褐色土まじりか入る。
- Va 灰褐色土 (7N6/0) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、褐色土まじりか入る。炭化物が散在する。
- Vb 灰褐色土 (7N4/0) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、褐色土まじりか入る。炭化物が散在する。
- Ⅵa. Ⅰc 灰褐色土 (10YR7/2) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、褐色土。

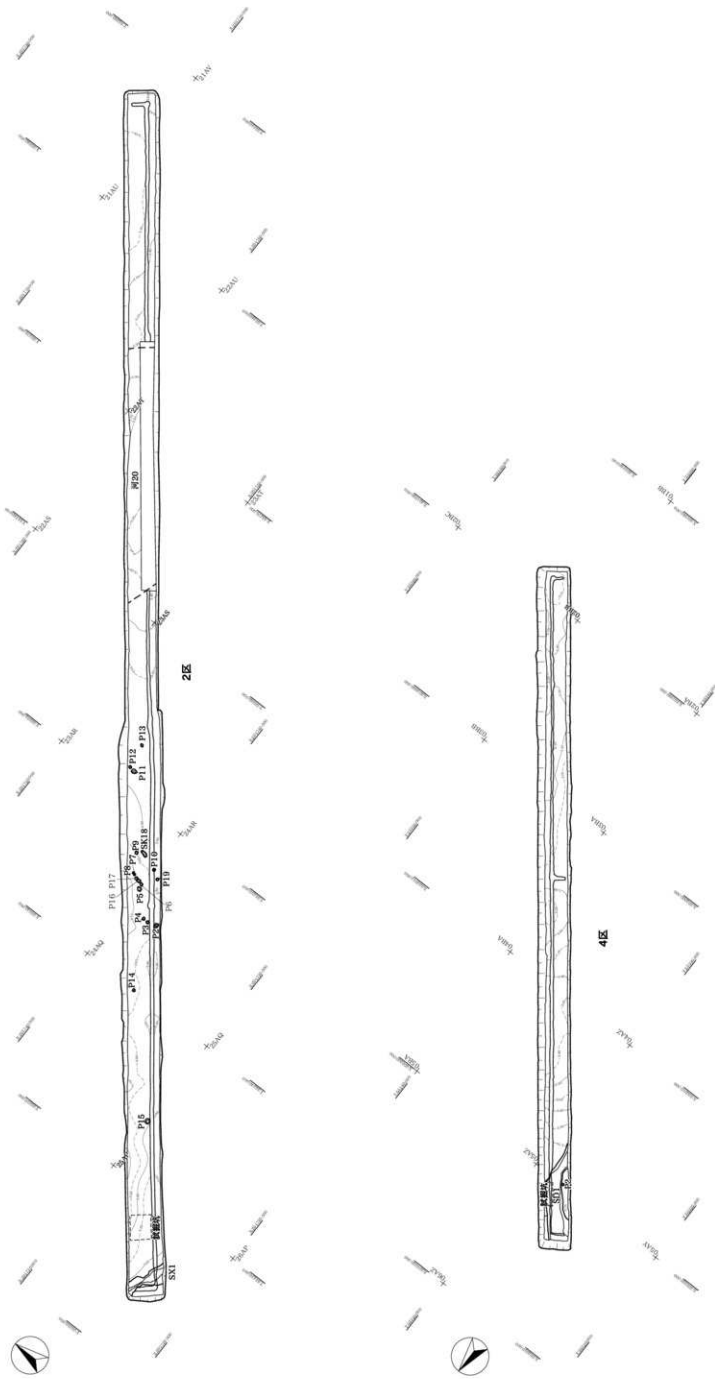
6区 SD1 層土

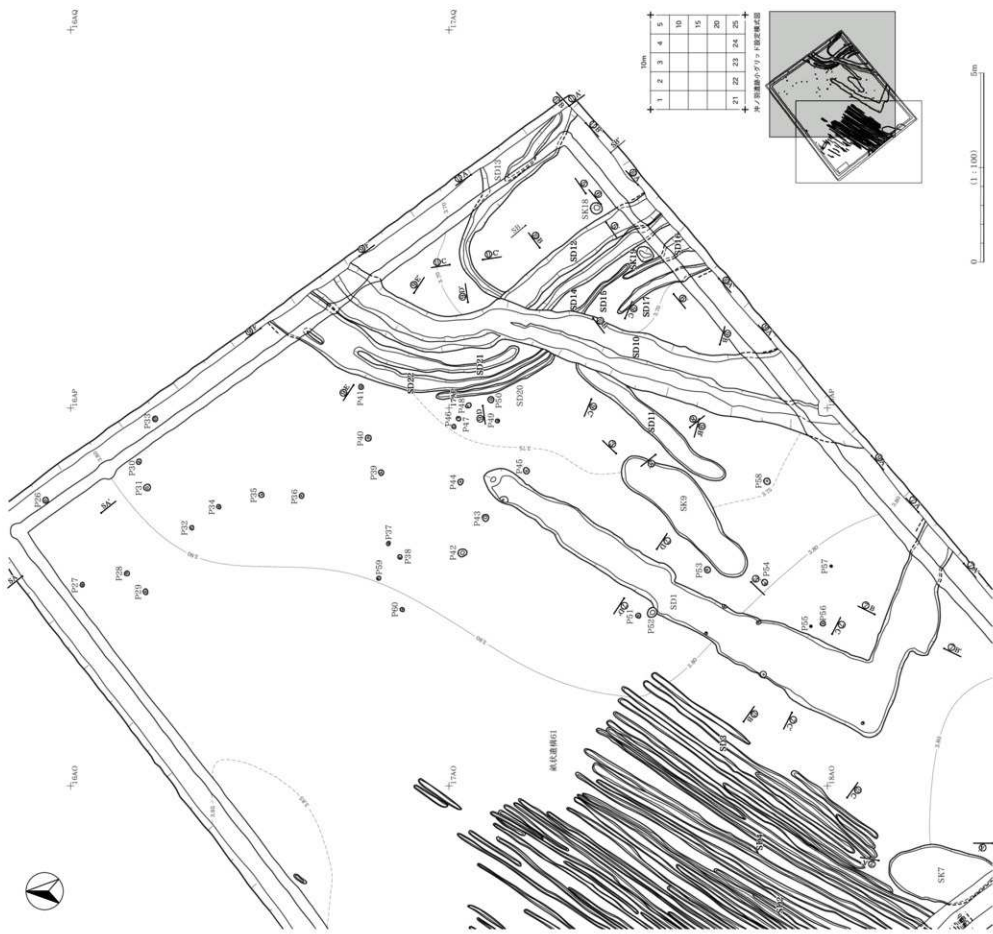
- Ⅰ 黄褐色土 (10YR6/3) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質中中砂あり。
- Ⅱ 黄褐色土 (7N3/0) 粘質少中砂層、土量中中砂あり、粘質あり、炭化物が散在する。

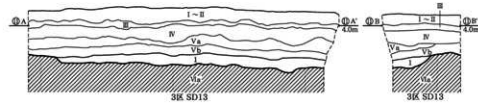
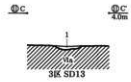
0 (1:40) 2m



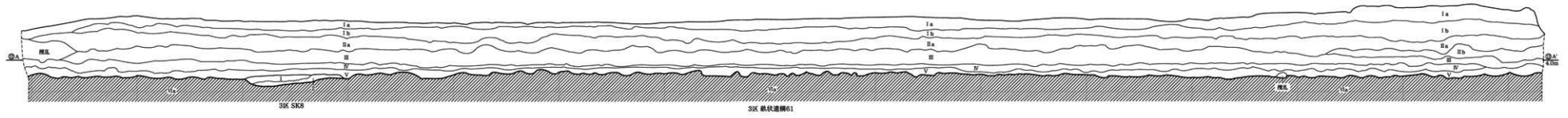




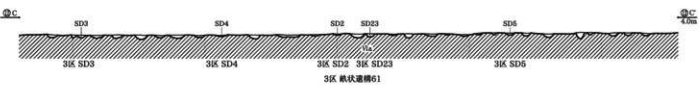
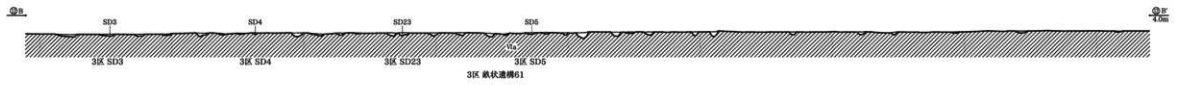


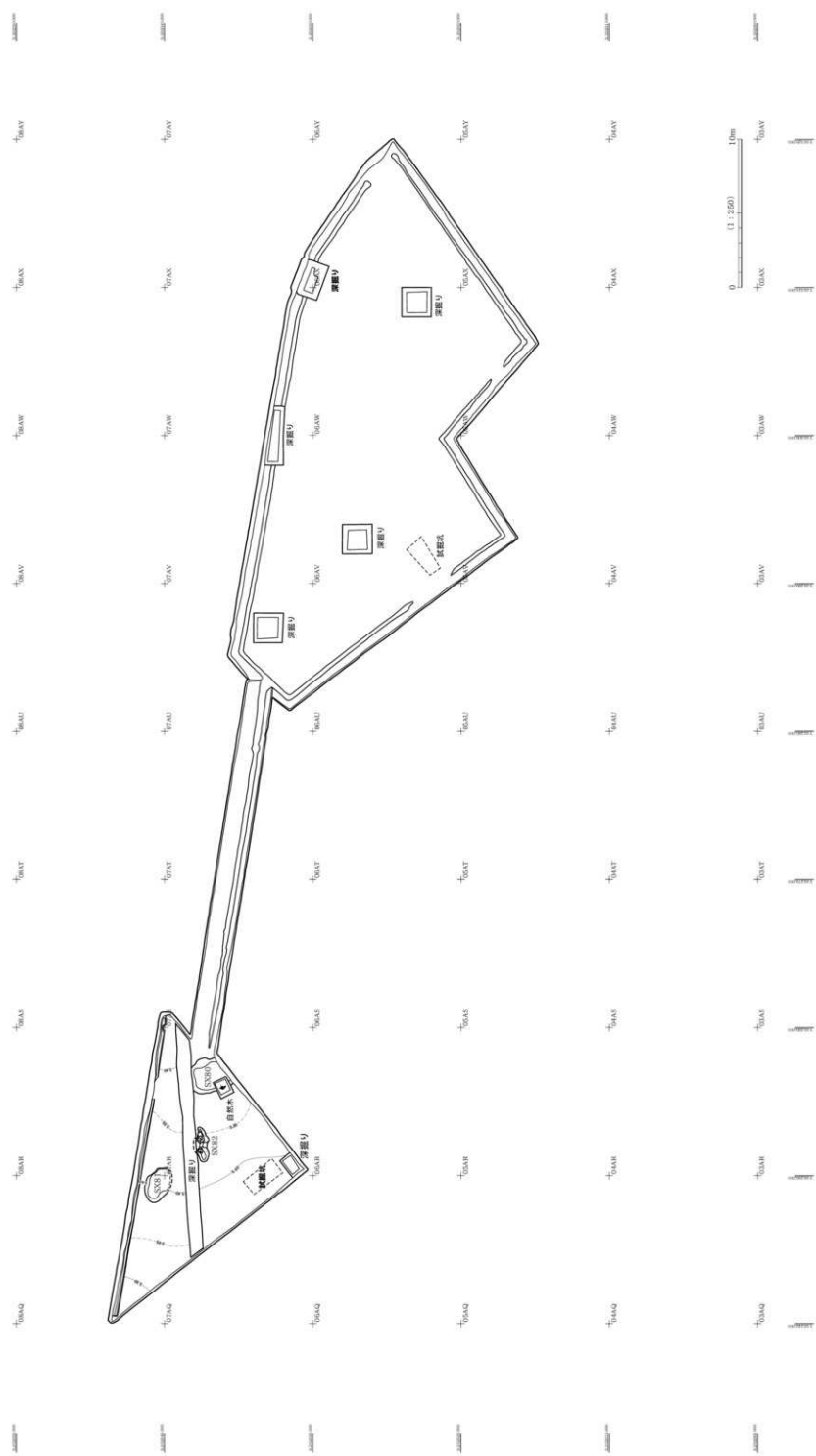


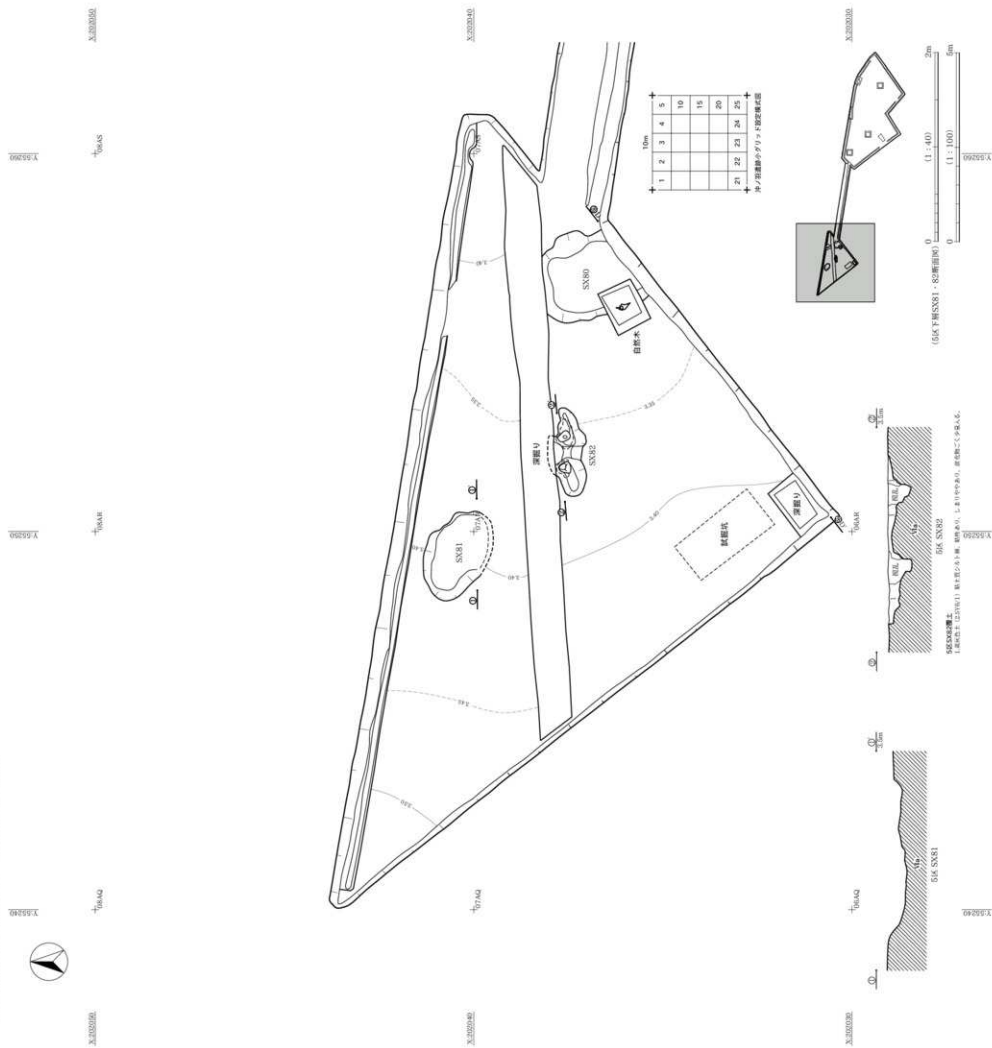
3区SD13遺構
 1. 表層土 (2.079/1) シルト層、粘粒あり、しまり中あり、炭粒散見。C。

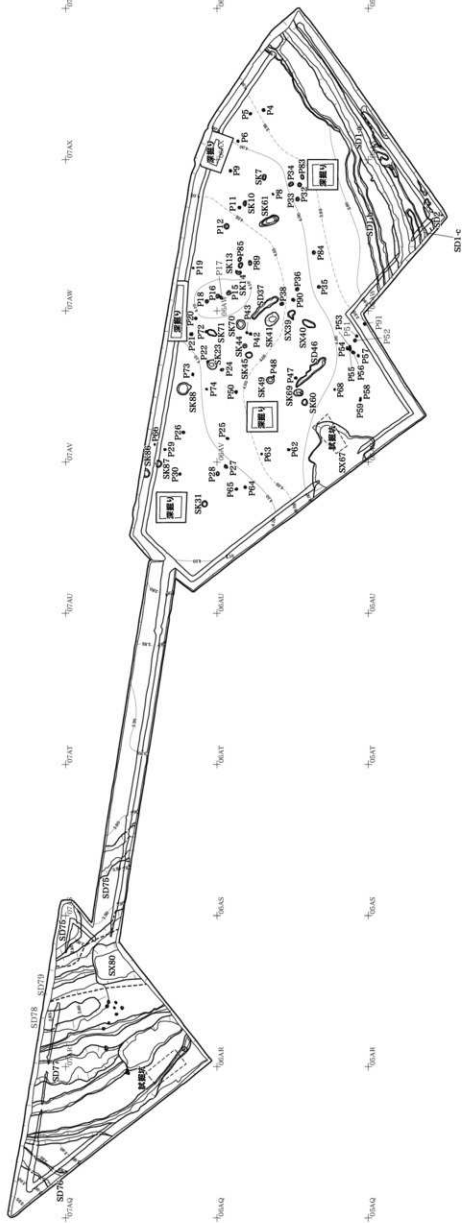


- 3区横状遺構基本層序**
- 1. 表層土 (2.079/1) シルト層、粘粒中あり、しまり弱。
 - 2. 土層土 (2.079/2) シルト層、粘粒中あり、しまり中あり。
 - 3. 土層土 (2.079/3) シルト層、粘粒あり、しまり中あり。
 - 4. 表層土 (2.079/4) シルト層、粘粒あり、しまり中あり、炭色ブロック散見。
 - 5. 表層土 (2.079/5) シルト層、粘粒あり、しまり中あり。
 - 6. 表層土 (2.079/6) シルト層、粘粒あり、しまり中あり、炭粒散見。
 - 7. 表層土 (2.079/7) シルト層、粘粒あり、しまり中あり、炭粒散見。
 - 8. 表層土 (2.079/8) シルト層、粘粒あり、しまり弱、土層土 (2.079/9) 炭色散見。

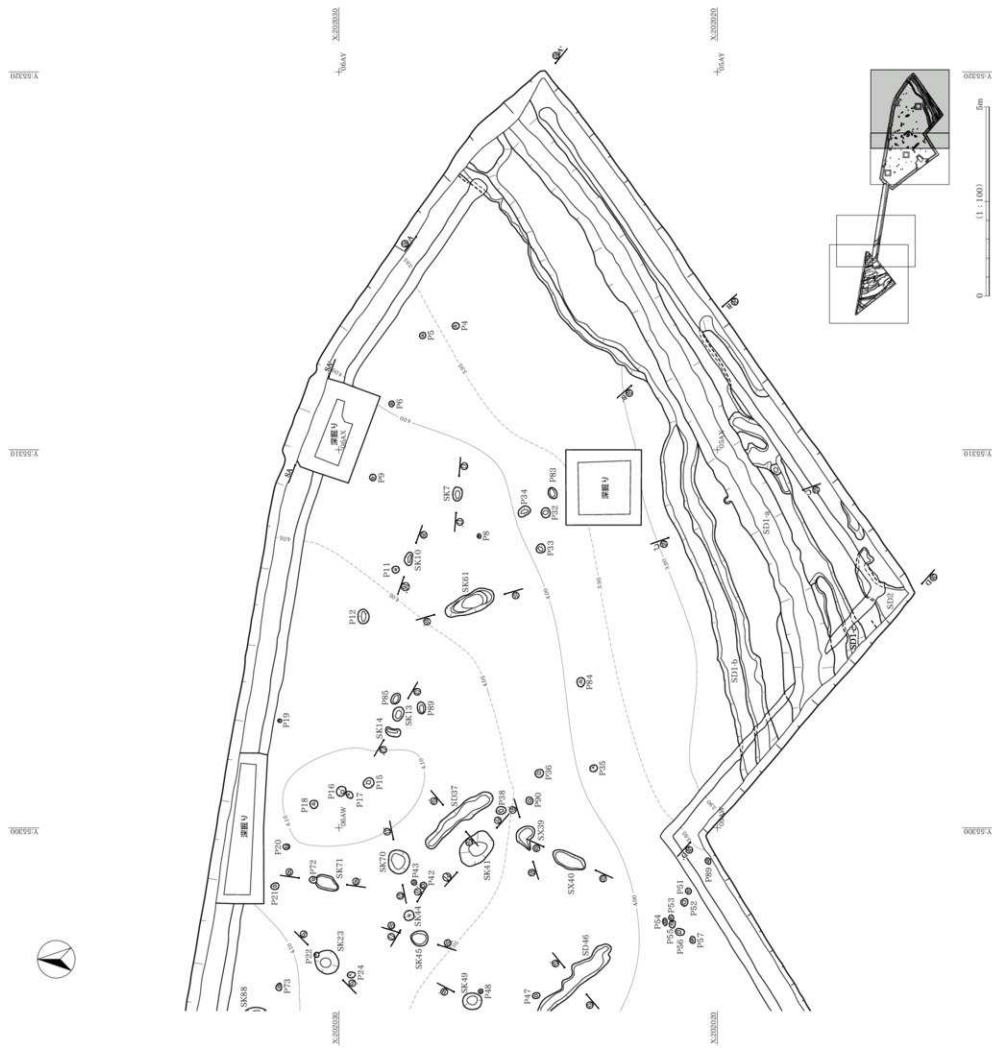


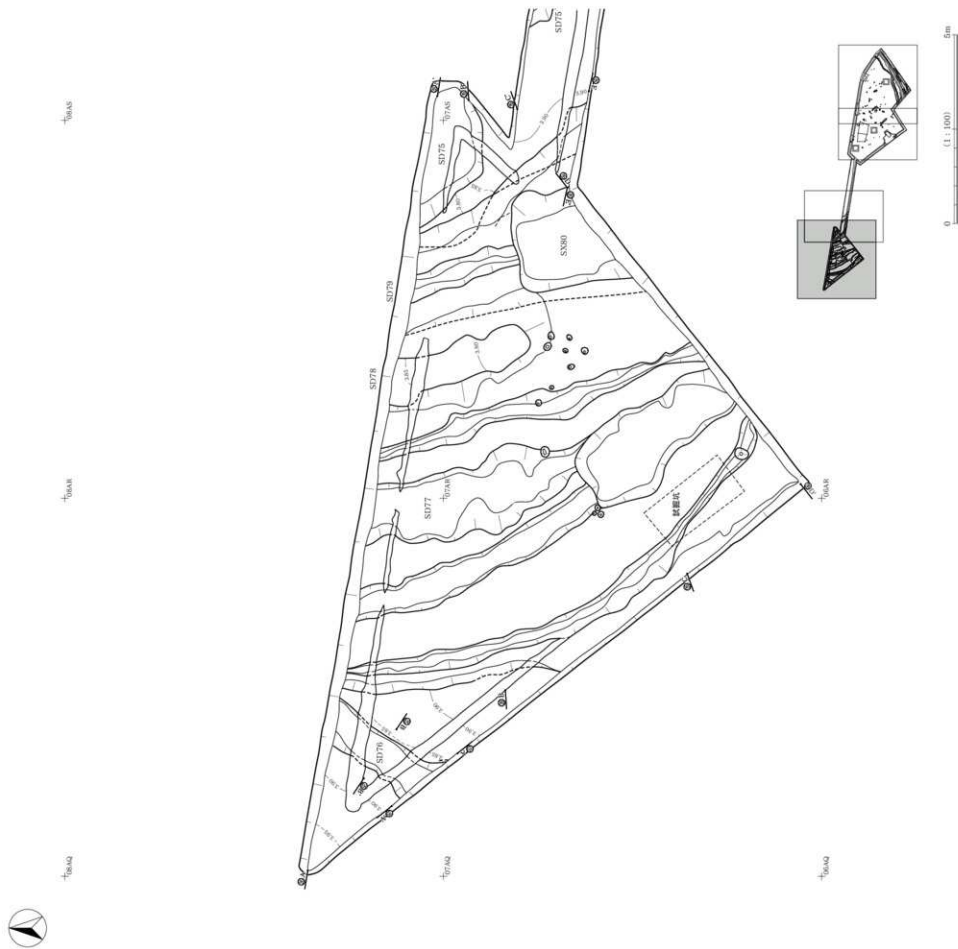






0 10m (1:250)

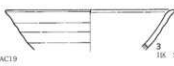




1区 SK3 (1)



1区 SK38 (2~4)



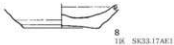
1区 SK37 (6)



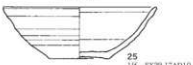
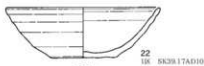
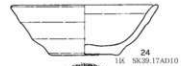
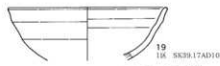
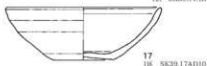
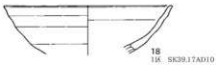
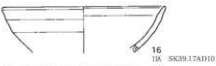
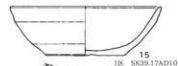
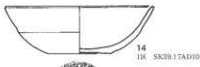
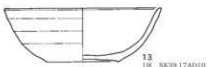
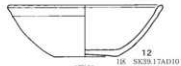
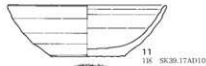
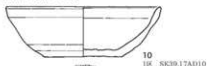
1区 SK36 (5)



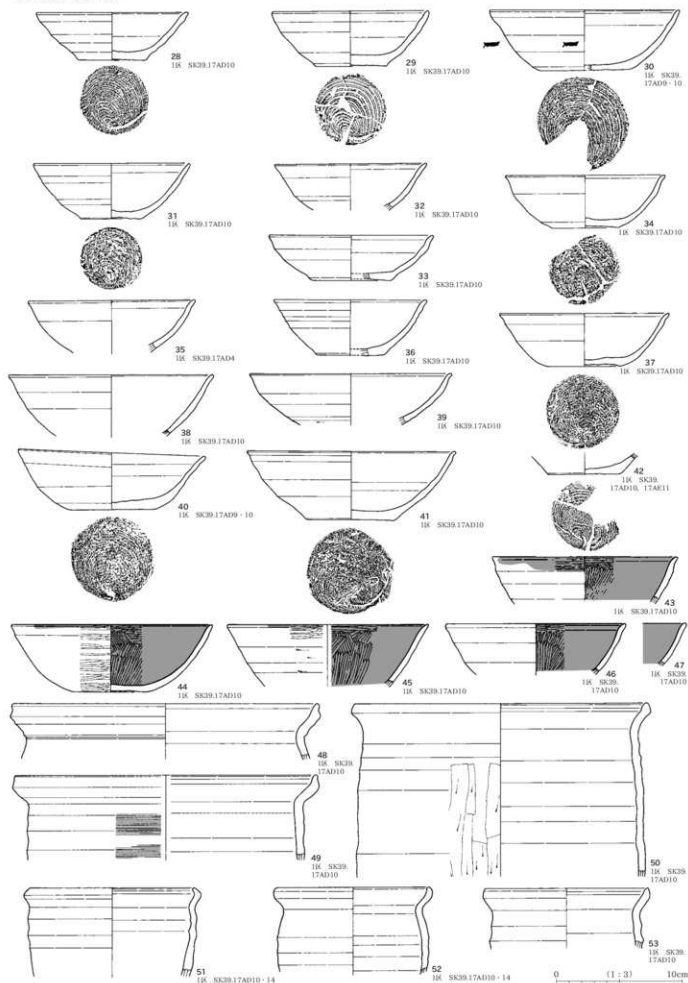
1区 SK33 (7~9)



1区 SK39 (10~27)



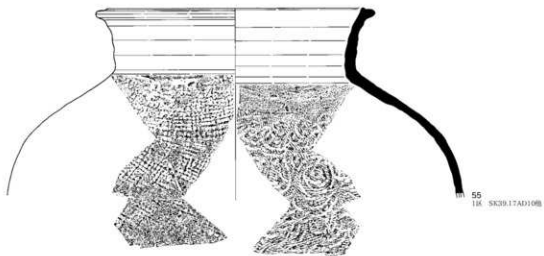
1区 SK39 (28~53)



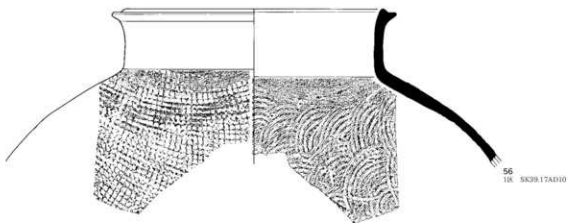
1区 SK39 (54~57)



54
1区 SK39.17AD10



55
1区 SK39.17AD109

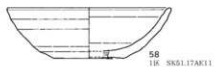


56
1区 SK39.17AD10



57
1区 SK39.17AD10

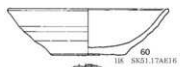
1区 SK51 (58~65)



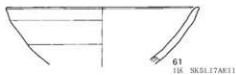
58
1区 SK51.17AE11



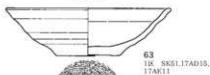
59
1区 SK51.17AD09,
17AE11



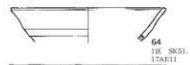
60
1区 SK51.17AE16



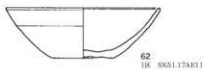
61
1区 SK51.17AE11



63
1区 SK51.17AD18,
17AE11



64
1区 SK51.
17AE11



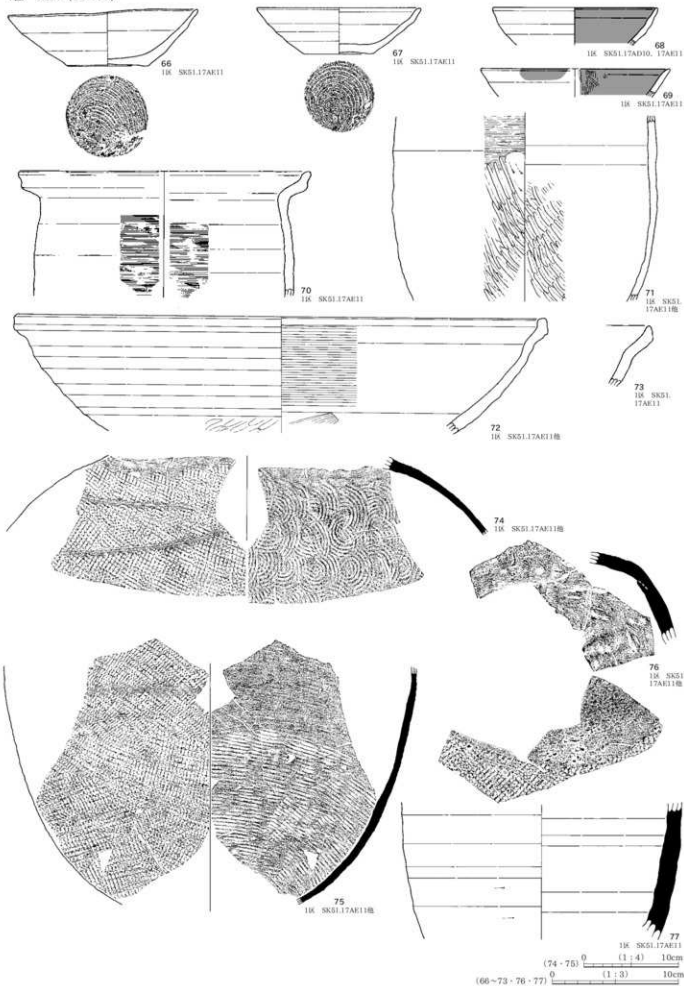
62
1区 SK51.17AE11



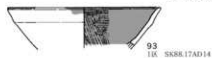
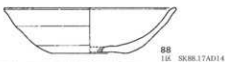
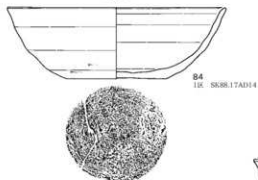
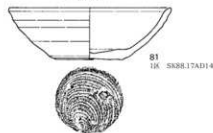
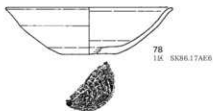
65
1区 SK51.
17AE11

0 (1:3) 10cm

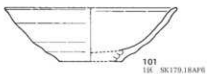
1区 SK51 (66~77)



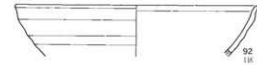
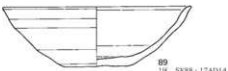
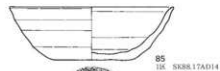
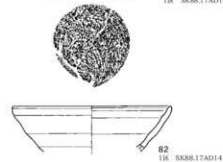
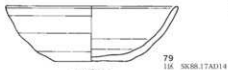
1区 SK86 (78)



1区 SK179 (101~105)



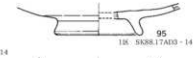
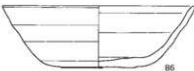
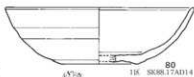
1区 SK88 (79~98)



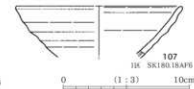
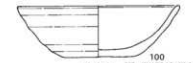
1区 SK107 (99)



1区 SK180 (106・107)



1区 SK182 (100)

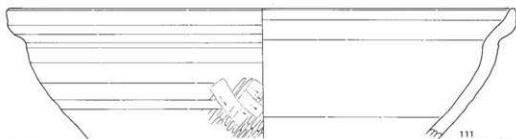
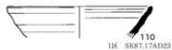
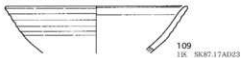


0 (1:3) 10cm

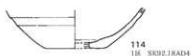
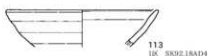
1区 SK89 (108)



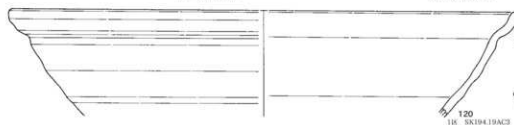
1区 SK87 (109~111)



1区 SK92 (112~117)



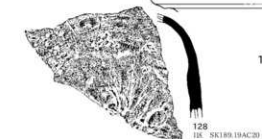
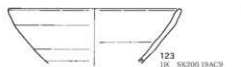
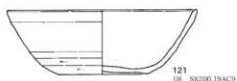
1区 SK194 (118~120)



1区 SK189 (124~128)



1区 SK200 (121~123)



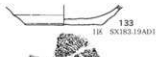
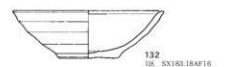
1区 SX106 (129)



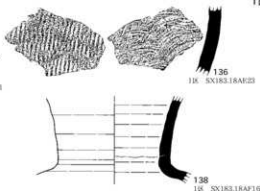
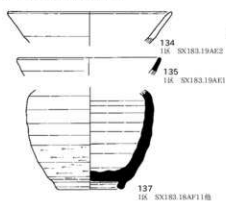
1区 SX161 (130)



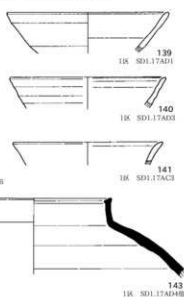
1区 SX183 (131~133)



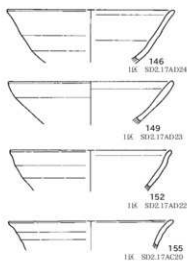
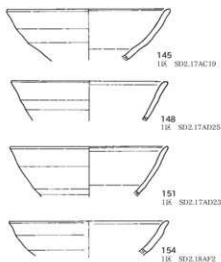
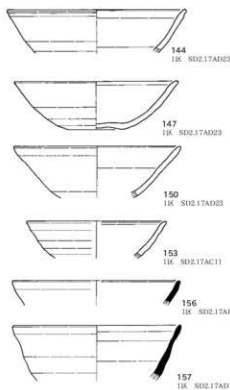
1 区 SX183 (134~138)



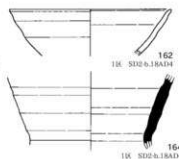
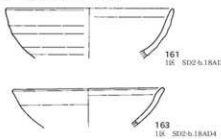
1 区 SD1 (139~143)



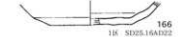
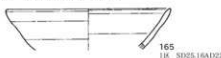
1 区 SD2 (144~160)



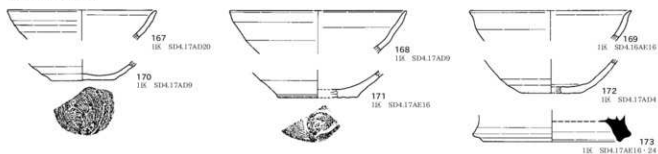
1 区 SD2-b (161~164)



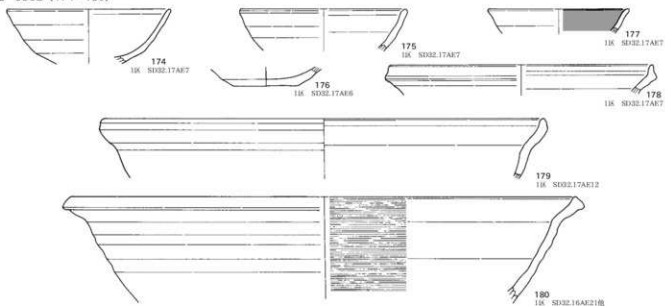
1 区 SD25 (165・166)



1区 SD4 (167~173)



1区 SD32 (174~180)



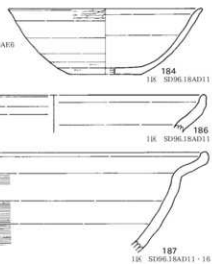
1区 SD181 (181)



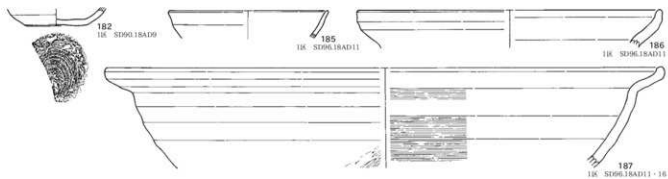
1区 SD109 (183)



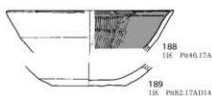
1区 SD96 (184~187)



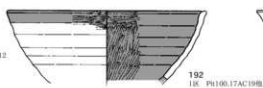
1区 SD90 (182)



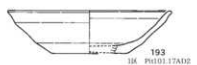
1区 Pit46 (188)・Pit82 (189)



1区 Pit100 (192)



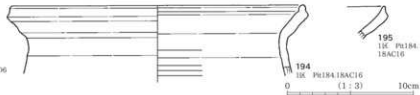
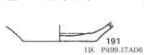
1区 Pit101 (193)・Pit184 (194・195)



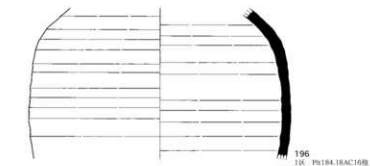
1区 Pit93 (190)



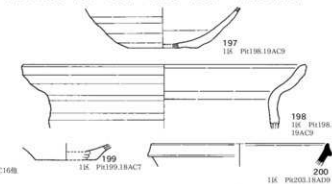
1区 Pit99 (191)



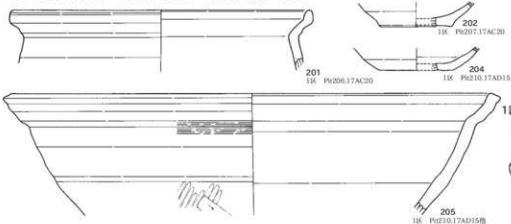
1区 Pit184 (196)



1区 Pit198 (197 · 198) · Pit199 (199) · Pit203 (200)



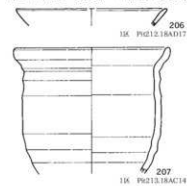
1区 Pit206 (201) · Pit207 (202) · Pit210 (203~205)



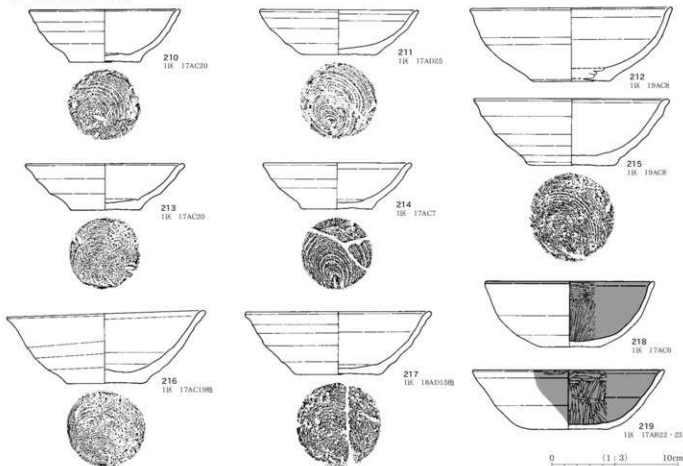
1区 Pit216 (208 · 209)



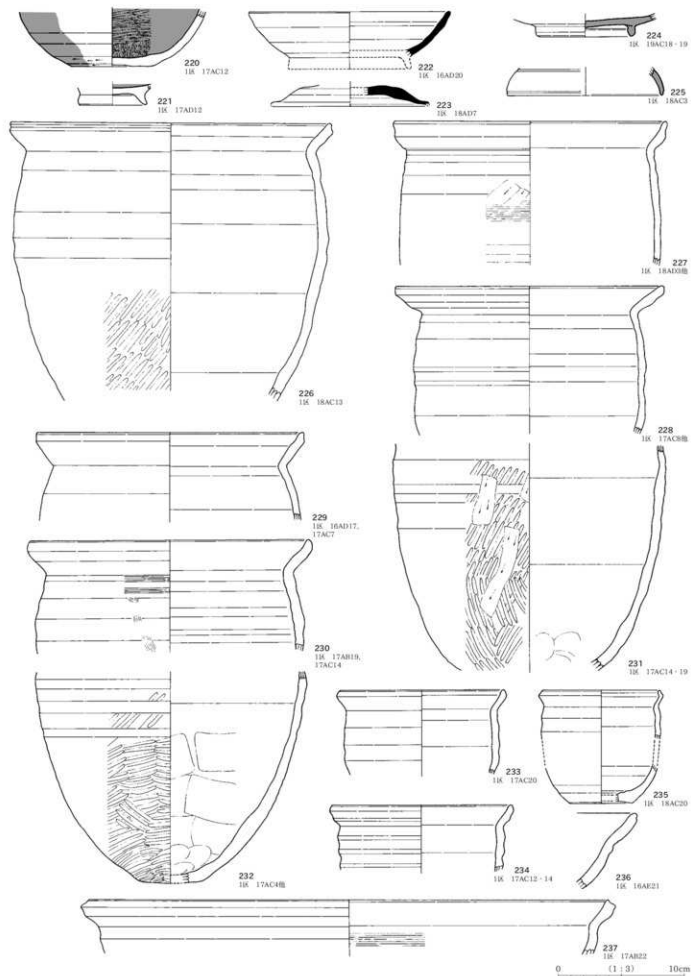
1区 Pit212 (206) · Pit213 (207)



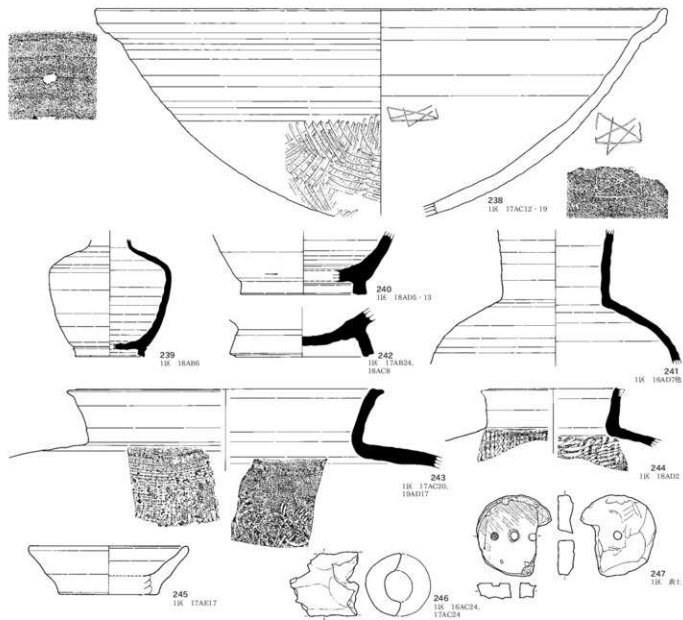
1区 包含層 (210~219)



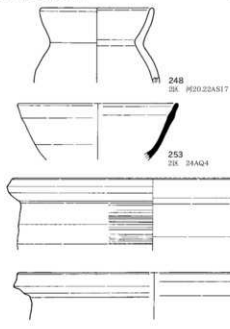
1区 包含層(220~237)



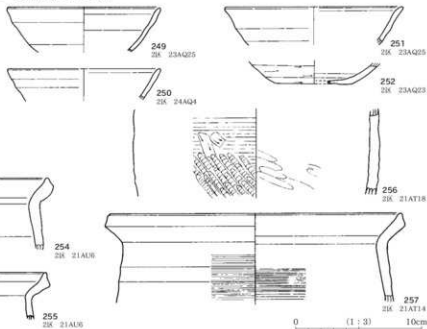
1区 包含層 (238~247)



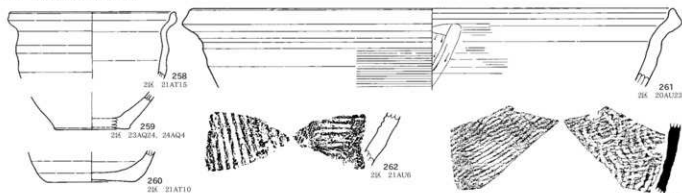
2区 河20 (248)



2区 包含層 (249~257)



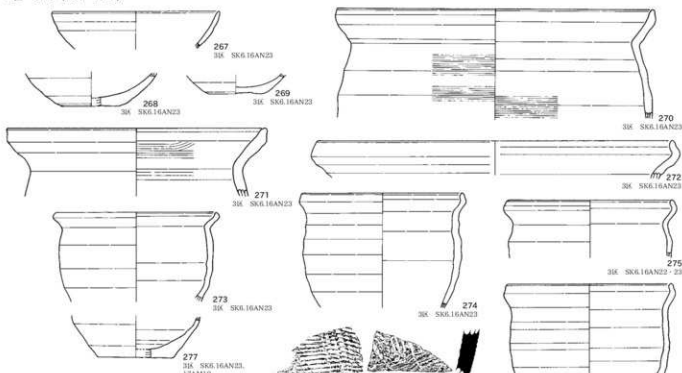
2区 包含層 (258~263)



4区 包含層 (264~266)



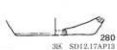
3区 SK6 (267~278)



3区 SK7 (279)



3区 SD12 (280)



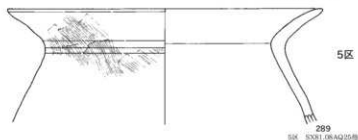
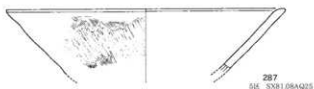
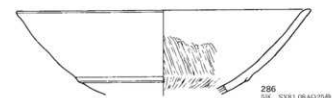
3区 SD13 (281)



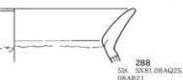
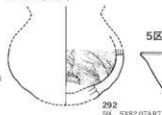
3区 包含層 (282~285)



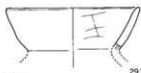
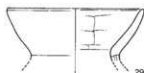
5区 SX81 (286~291)



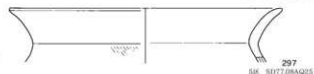
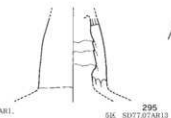
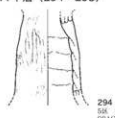
5区 SX82 (292)



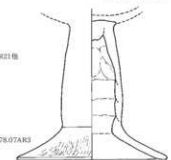
5区 SX80 (293)



5区 SD77下層 (294~298)



5区 SD78下層 (299~302)



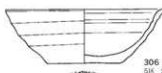
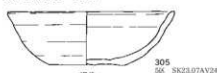
5区 SD79下層 (303)



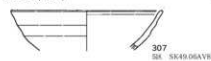
5区 包含層下層 (304)



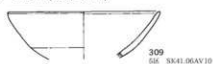
5区 SK23 (305・306)



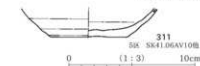
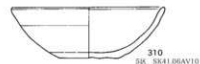
5区 SK49 (307)



5区 SK41 (309~311)

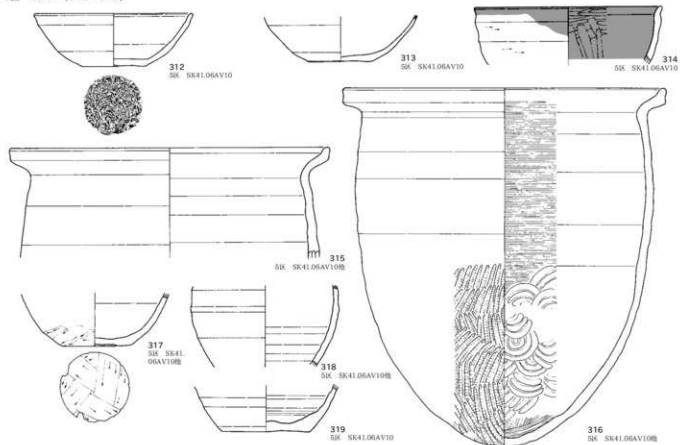


5区 SK45 (308)



0 (1:3) 10cm

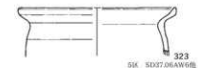
5区 SK41 (312~319)



5区 SK61 (320)



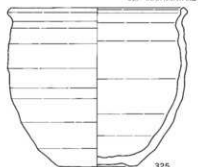
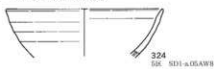
5区 SD37 (322・323)



5区 SX39 (321)



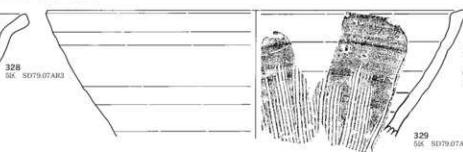
5区 SD1-a (324・325)



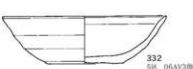
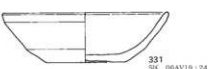
5区 SD1-b (326・327)



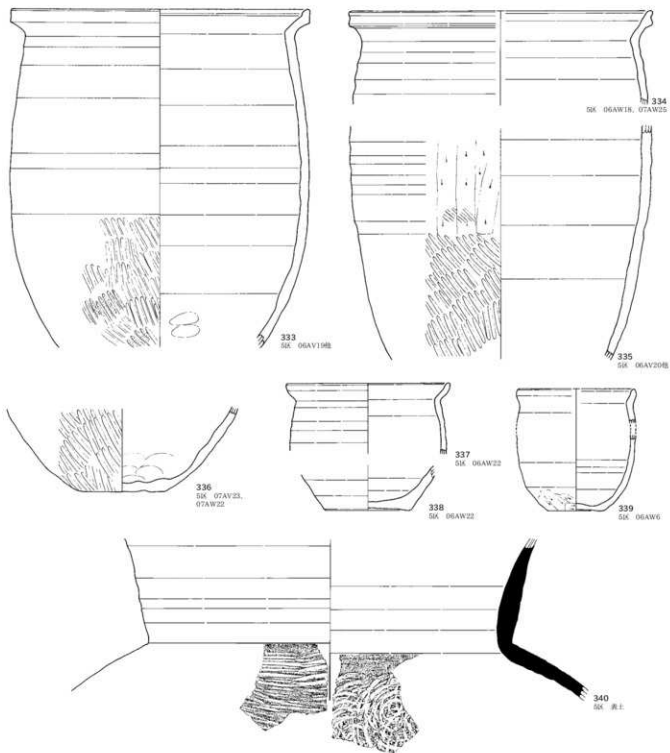
5区 SD79 (328・329)



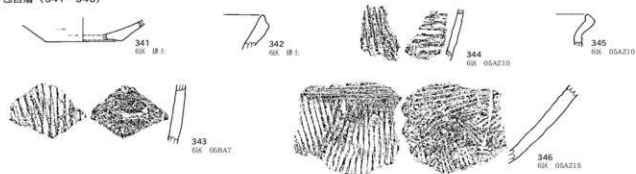
5区 包含層上層 (330~332)



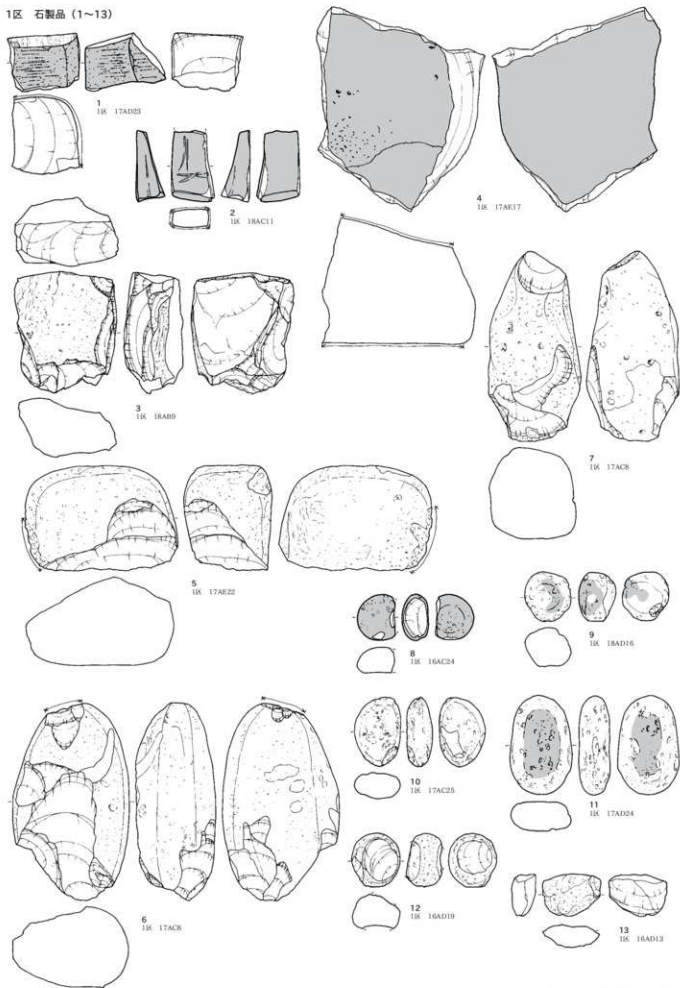
5区 包含层上层 (333~340)



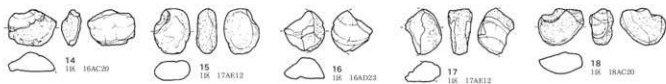
6区 包含层 (341~346)



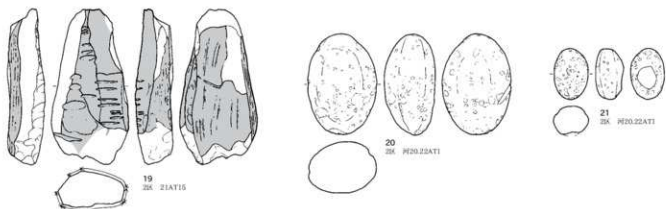
1区 石製品 (1~13)



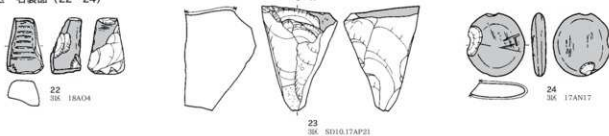
1区 石製品 (14~18)



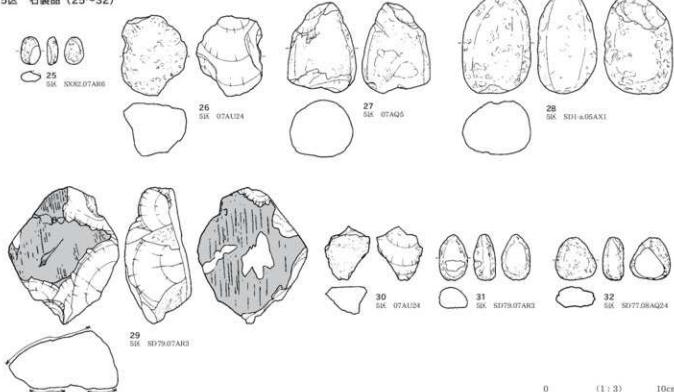
2区 石製品 (19~21)

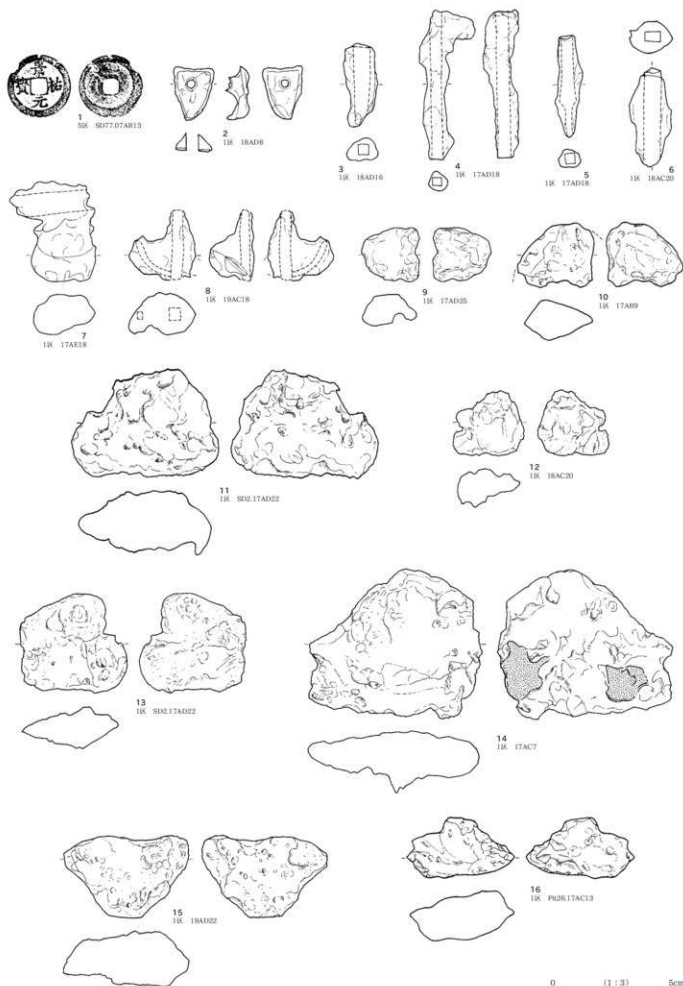


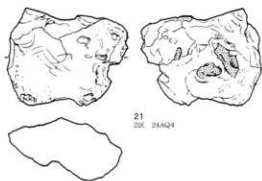
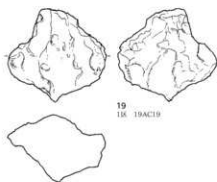
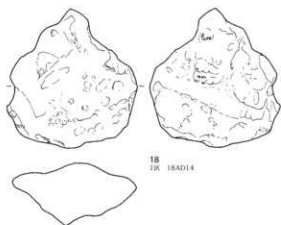
3区 石製品 (22~24)



5区 石製品 (25~32)







0 (1:3) 5cm





沖ノ羽道跡

能代川



空中写真 (北西→南東)



1区 空中写真 (全景)



3区 空中写真(北西→南東)



3区 空中写真(全景)



4・5区 空中写真(東→西)



4・5区 空中写真(全景)



1区基本層序 A



1区基本層序 B



1区 SK3 土層断面 (南→北)



1区 SK3 完掘状況 (南→北)



1区 SK35 土層断面 (南→北)



1区 SK35 完掘状況 (南→北)



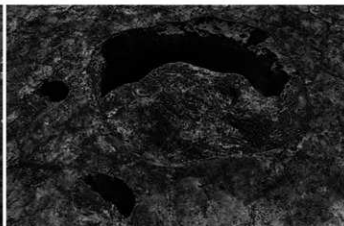
1区 SK38, SD2 土層断面 (東→西)



1区 SK38 完掘状況 (東→西)



1区 SK36 土層断面 (北東→南西)



1区 SK36 完掘状況 (北東→南西)



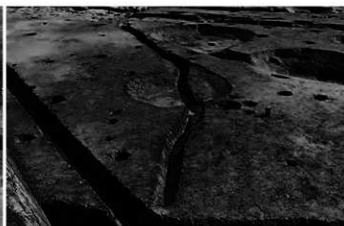
1区 SK37 土層断面 (北東→南西)



1区 SK37 完掘状況 (北東→南西)



1区 SK33, SD32 土層断面 (北→南)



1区 SK33, SD32 完掘状況 (北→南)



1区 SK39, SD4 土層断面 (南→北)



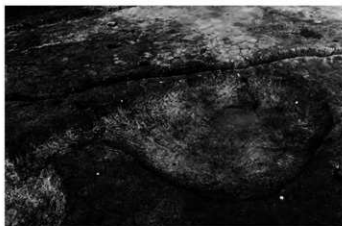
1区 SK39 完掘状況 (南→北)



1区 SK51 土層断面 (西→東)



1区 SK86 土層断面 (南西→北東)



1区 SK51・86 完掘状況 (西→東)



1区 SK88, SD4 土層断面 (南→北)



1区 SK88 完掘状況 (南→北)



1区 SK98・107, SX106, SD4 土層断面 (東→西)



1区 SK98・107, SX106, SD4 完掘状況 (東→西)



1区 SX161, SD2・4 土層断面 (西→東)



1区 SK161 完掘状況 (西→東)



1区 SK151 土層断面 (南→北)



1区 SK151 完掘状況 (南→北)



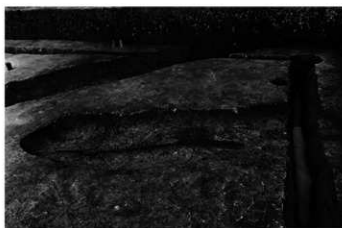
1区 SK182 土層断面 (南西→北東)



1区 SK182 完掘状況 (南西→北東)



1区 SK179・180 土層断面 (南西→北東)



1区 SK179・180 完掘状況 (南西→北東)



1区 SK60、SD2 土層断面 (南→北西)



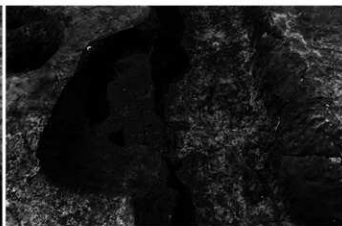
1区 SK60 完掘状況 (南東→北西)



1区 SK89 完掘状況 (南→北)



1区 SK87. SD2 土層断面 (南東→北西)



1区 SK87 完掘状況 (南東→北西)



1区 SK92. SD2 土層断面 (東→西)



1区 SK92 完掘状況 (東→西)



1区 SK150 土層断面 (南→北)



1区 SK150 完掘状況 (南→北)



1区 SK201 土層断面 (東→西)



1区 SK201 完掘状況 (東→西)



1区 SK193 土層断面 (北西→南東)



1区 SK193 完掘状況 (北西→南東)



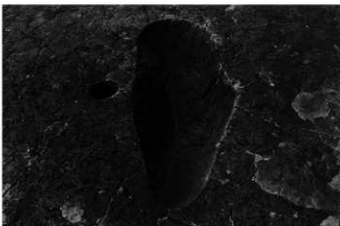
1区 SK194 土層断面 (南東→北西)



1区 SK194 完掘状況 (南東→北西)



1区 SK200 土層断面 (南東→北西)



1区 SK200 完掘状況 (南東→北西)



1区 SK185 土層断面 (南東→北西)



1区 SK185 完掘状況 (南東→北西)



1区 SK189 土層断面 (北東→南西)



1区 SK189 完掘状況 (北東→南西)



1区 SK195 土層断面 (南東→北西)



1区 SK195 完掘状況 (南東→北西)



1区 SK196 土層断面 (北東→南西)



1区 SK196 完掘状況 (北東→南西)



1区 SK188 土層断面 (北東→南西)



1区 SK188 完掘状況 (北東→南西)



1区 SX187 完掘状況 (北西→南東)



1区 SX183 土層断面 (南西→北東)



1区 SX183 完掘状況 (南西→北東)



1区 SD1・2 土層断面 (南東→北西)



1区 SD1 土層断面 (東→西)



1区 SD1 完掘状況 (東→西)



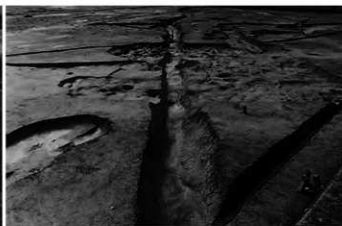
1区 SD2 土層断面 (南→北)



1区 SD2 土層断面 (東→西)



1区 SD2 土層断面 (西→東)



1区 SD2 完掘状況 (東→西)



1区 SD4 土層断面 (西→東)



1区 SD4 完掘状況 (北→南)



1区 SD181 土層断面 (南→北)



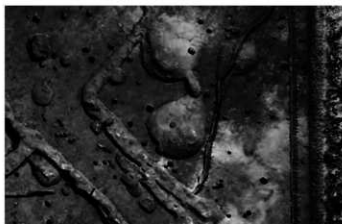
1区 SD181 完掘状況 (南→北)



1区 SD96 土層断面 (北西→南東)



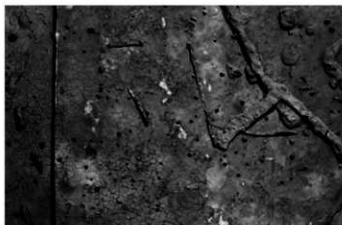
1区 SD96 完掘状況 (北西→南東)



1区 SB377 周辺完掘状況



1区 SB378・379 周辺完掘状況 (北西→南東)



1区 SB380・381・382 周辺完掘状況



1区 SB383・384 周辺完掘状況



1区完掘状況 (北東→南西)



1区完掘状況 (南東→北西)



2区 完掘状況 (南西→北東)



2区 基本層序 B



2区 基本層序 D



2区 SX1 土層断面 (北西→南東)



2区 SX1 完掘状況 (北西→南東)



2区 SK18 土層断面 (西→東)



2区 SK18 完掘状況 (西→東)



2区 河20 土層断面 (南→北)



2区 完掘状況 (北東→南西)



4区 基本層序 A



4区 基本層序 C



4区 SD1 土層断面 (南東→北西)



4区 SD1 完掘状況 (南東→北西)



4区 完掘状況 (北西→南東)



3区 基本層序 A



3区 基本層序 B



3区 SK6 土層断面 (北東→南西)



3区 SK6 完掘状況 (北東→南西)



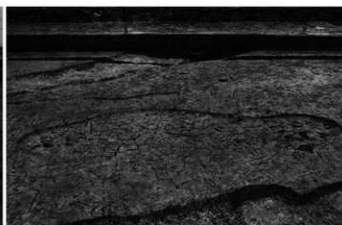
3区 SK7 土層断面 (東→西)



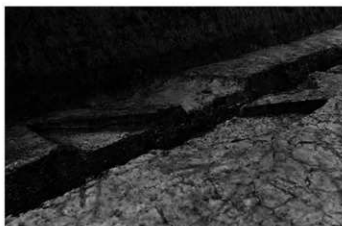
3区 SK7 完掘状況 (東→西)



3区 SK9 土層断面 (北西→南東)



3区 SK9 完掘状況 (北西→南東)



3区 SK8 土層断面 (東→西)



3区 SK8 完掘状況 (東→西)



3区 SK18 土層断面 (北西→南東)



3区 SK18 完掘状況 (北西→南東)



3区 SK19 土層断面 (北西→南東)



3区 SK19 完掘状況 (北西→南東)



3区 SD1 土層断面 (北西→南東)



3区 SD1 土層断面 (北東→南西)



3区 SD1 完掘状況 (南西→北東)



3区 SD10 土層断面 (北西→南東)



3区 SD10・11 土層断面 (北東→南西)



3区 SD10・11 完掘状況 (北東→南西)



3区 SD10・20・21・22 土層断面 (南→北)



3区 SD10・21 土層断面 (南西→北東)



3区 SD10・20・21・22 完掘状況 (南→北)



3区 SD12・14・15・17 土層断面 (北西→南東)



3区 SD12・14・15・17 完掘状況 (北西→南東)



3区 SD13 土層断面 (南西→北東)



3区 SD13 完掘状況 (西→東)



3区 SD10 他完掘状況 (南→北)



3区鉄状遺構 61 土層断面 (北東→南西)



3区鉄状遺構 61 完掘状況 (北東→南西)



3区完掘状況 (北東→南西)



3区完掘状況 (南西→北東)



5区基本層序 A



5区基本層序 B



5区下層 SX81 完掘状況 (南→北)



5区下層 SX82 土層断面 (南→北)



5区下层 SX81+82 完掘状況 (南東→北西)



5区下层 完掘状況 (南→北)



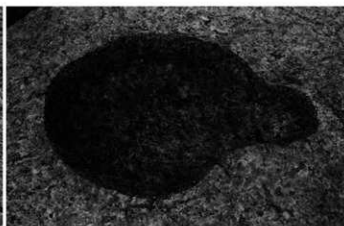
5区上层 SK86 土層断面 (南→北)



5区上层 SK87 完掘状況 (北→南)



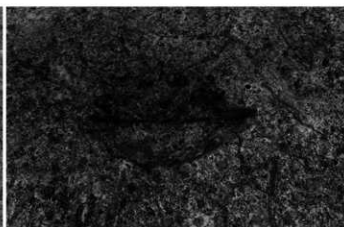
5区上层 SK88 土層断面 (西→東)



5区上层 SK88 完掘状況 (西→東)



5区上层 SK31 土層断面 (南→北)



5区上层 SK31 完掘状況 (南→北)



5区上層 SK23, Pit22 土層断面 (北西→南東)



5区上層 SK23, Pit22 完掘状況 (北西→南東)



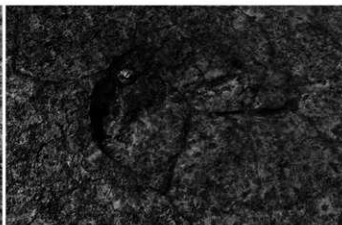
5区上層 SK71, Pit72 土層断面 (西→東)



5区上層 SK71, Pit72 完掘状況 (西→東)



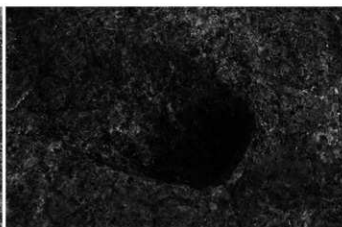
5区上層 SK60 土層断面 (北東→南西)



5区上層 SK60 完掘状況 (北東→南西)



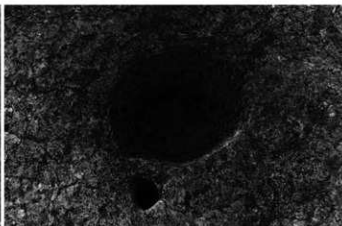
5区上層 SK69 土層断面 (西→東)



5区上層 SK69 完掘状況 (西→東)



5区上層 SK49 土層断面 (南東→北西)



5区上層 SK49 完掘状況 (南東→北西)



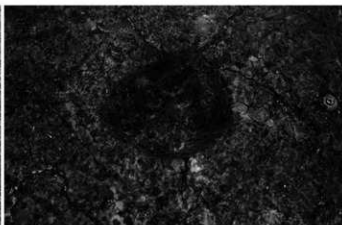
5区上層 SK45 土層断面 (西→東)



5区上層 SK45 完掘状況 (西→東)



5区上層 SK44 土層断面 (南西→北東)



5区上層 SK44 完掘状況 (南西→北東)



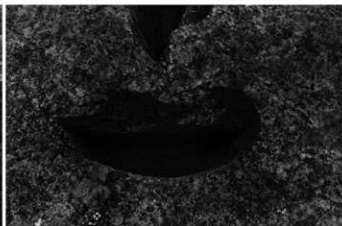
5区上層 SK70 土層断面 (南→北)



5区上層 SK70 完掘状況 (南→北)



5区上層 SK14 土層断面 (北西→南東)



5区上層 SK14 完掘状況 (北西→南東)



5区上層 SK13 土層断面 (北東→南西)



5区上層 SK13 完掘状況 (北東→南西)



5区上層 SK41 土層断面 (南西→北東)



5区上層 SK41 完掘状況 (南西→北東)



5区上層 SK61 土層断面 (北東→南西)



5区上層 SK61 完掘状況 (北東→南西)



5区上層 SK10 土層断面 (北→南)



5区上層 SK10 完掘状況 (北→南)



5区上層 SK7 土層断面 (北→南)



5区上層 SK7 完掘状況 (北→南)



5区上層 SX39 土層断面 (南東→北西)



5区上層 SX39 完掘状況 (南東→北西)



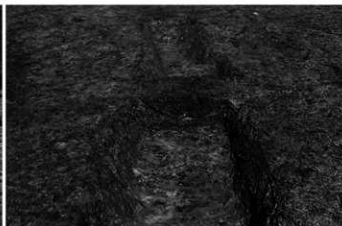
5区上層 SX40 土層断面 (東→西)



5区上層 SX40 完掘状況 (東→西)



5区上層 SX67 土層断面 (北東→南西)



5区上層 SD37 土層断面 (南東→北西)



5区上層 SD37 完掘状況 (南東→北西)



5区上層 SD46 土層断面 (南東→北西)



5区上層 SD46 完掘状況 (南東→北西)



5区上層 SD75 土層断面 (北→南)



5区上層 SD75 土層断面 (北西→南東)



5区上層 SD75 完掘状況 (北西→南東)



5区上層 SD1 土層断面 (北東→南西)



5区上層 SD1 土層断面 (南西→北東)



5区上層 SD1 完掘状況 (北東→南西)



5区上層 SD76 土層断面 (北東→南西)



5区上層 SD76 完掘状況 (北東→南西)



5区上層 SD78・79 土層断面 (南→北)



5区上層 SD76・77 土層断面 (南→北)



5区上層 SD78・79 土層断面 (南→北)



5区上層SD77土層断面(南→北)



5区上層SD77・78・79、下層SX80土層断面(北西→南東)



5区上層SD78・79、下層SX80完掘状況(南東→北西)



5区上層SD77完掘状況(南東→北西)



5区調査区東側完掘状況(東→西)



5区調査区西側完掘状況(西→東)



6区SD1土層断面(北西→南東)



6区全景(西→東)



神ノ羽遺跡出土土師器



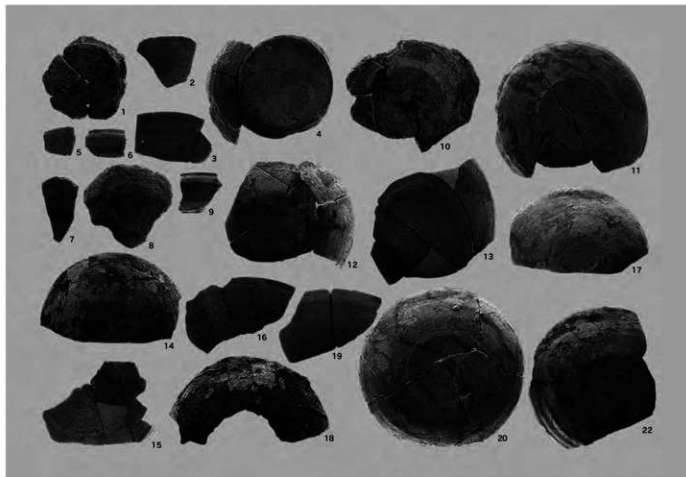
神ノ羽遺跡出土須恵器・灰軸陶器・緑軸陶器



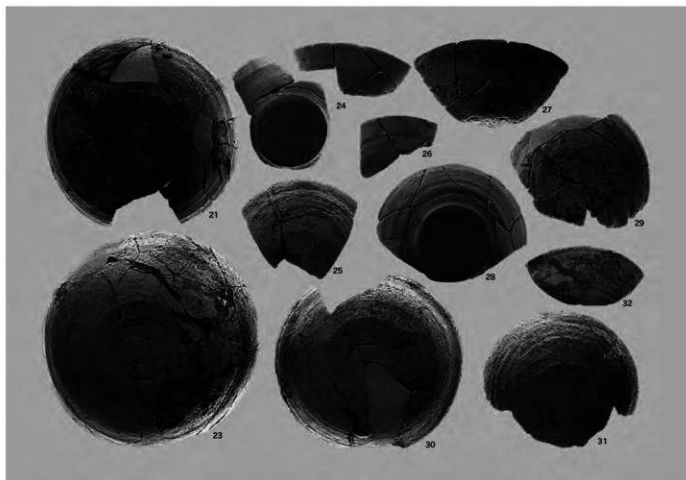
1区SK39(20・21・23・41)・SK51(59・67)・SK88(84~86・90)・5区SK23(306)・SK41(310・316)



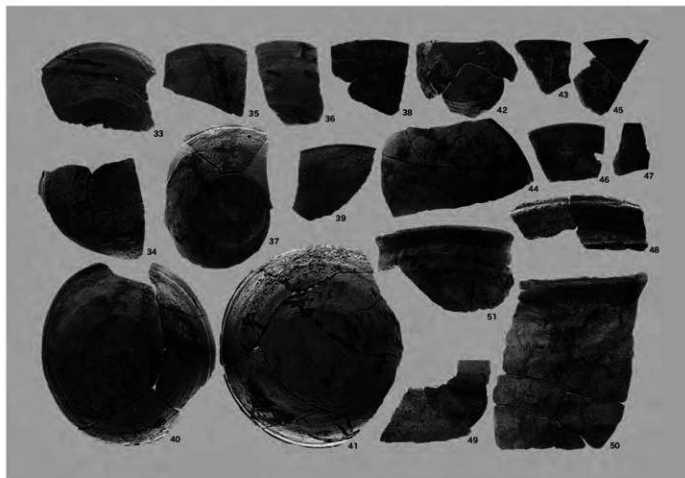
1区SK39(52)・SK87(111)・SX183(137)・Ph213(207)・包含層(238・239)・3区SK6(276)・5区SX81(286)
SD78下層(300)・SD1-a(325)・包含層上層(339)



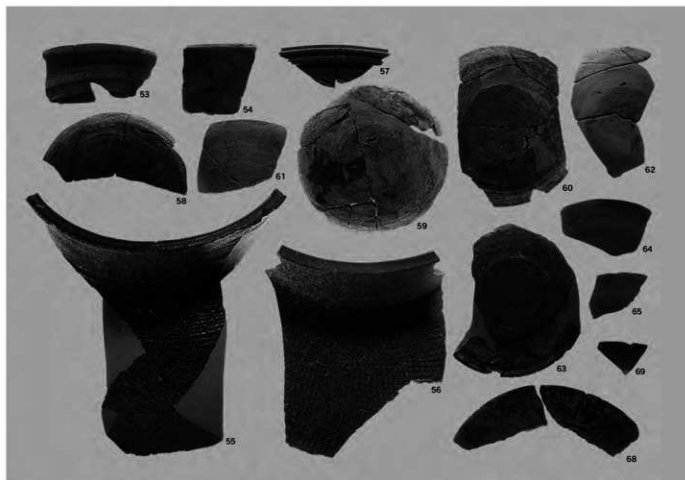
1区SK3(1) .SK38(2~4) .SK36(5) .SK37(6) .SK33(7~9) .SK39(10~20・22)



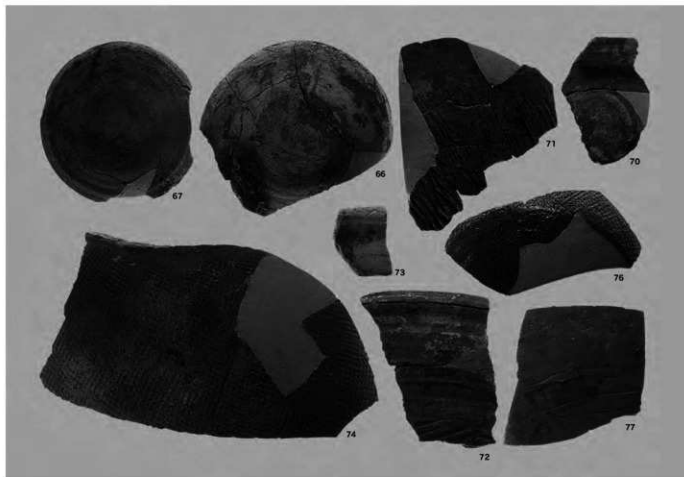
1区SK39(21・23~32)



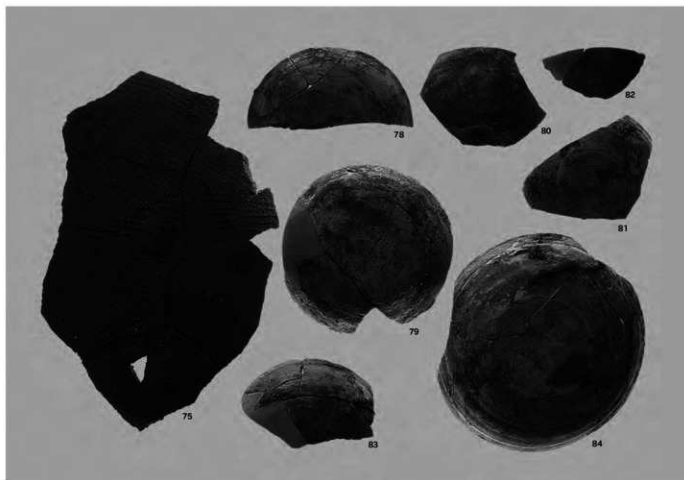
1区SK39(33~51)



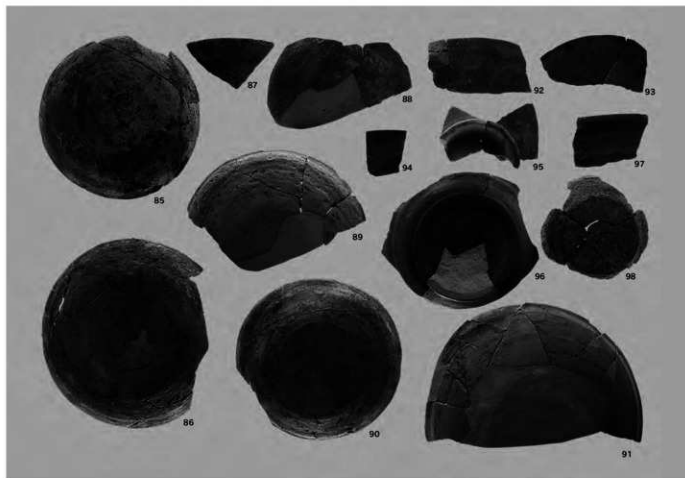
1区SK39(53~57) . SK51(58~65 · 68 · 69)



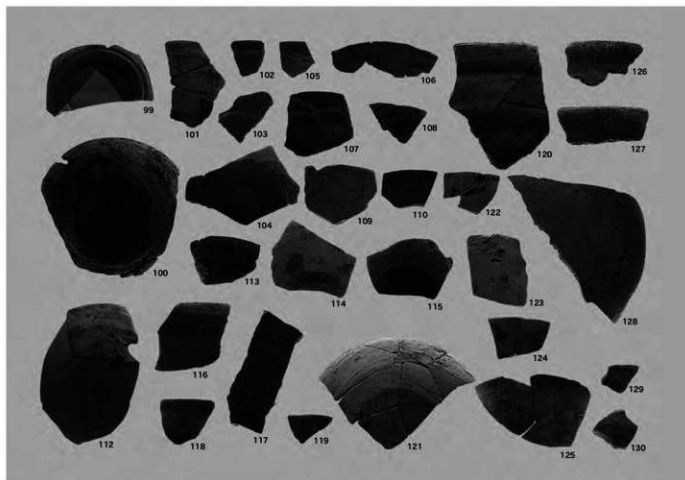
1区SK51(66・67・70~74・76・77)

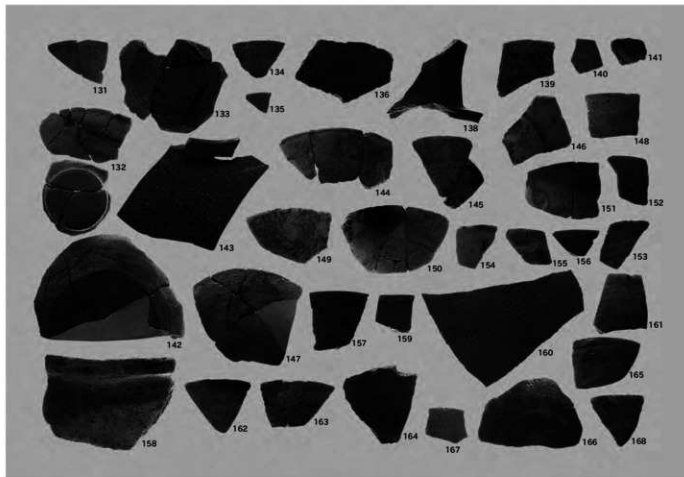


1区SK51(75)・SK86(78)・SK88(79~84)

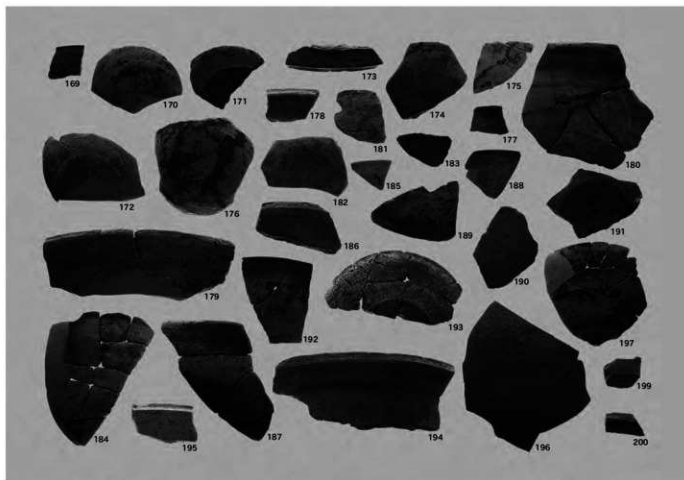


1区SK88(85~98)

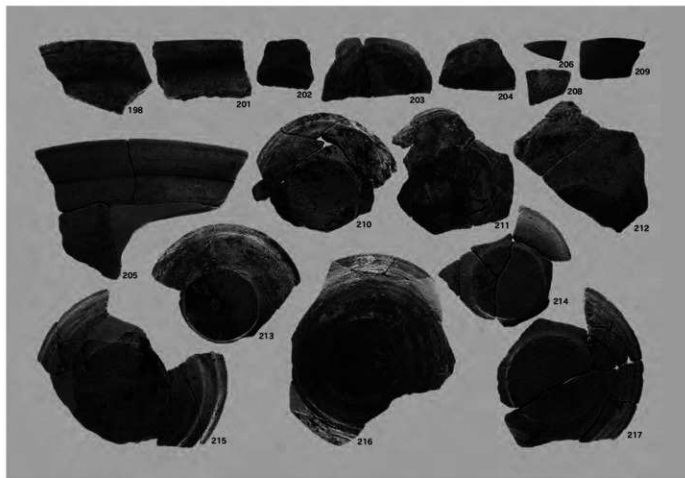
1区SK107(99) . SK182(100) . SK179(101~105) . SK180(106・107) . SK89(108) . SK87(109・110)
SK92(112~117) . SK194(118~120) . SK200(121~123) . SK189(124~128) . SX106(129) . SX161(130)



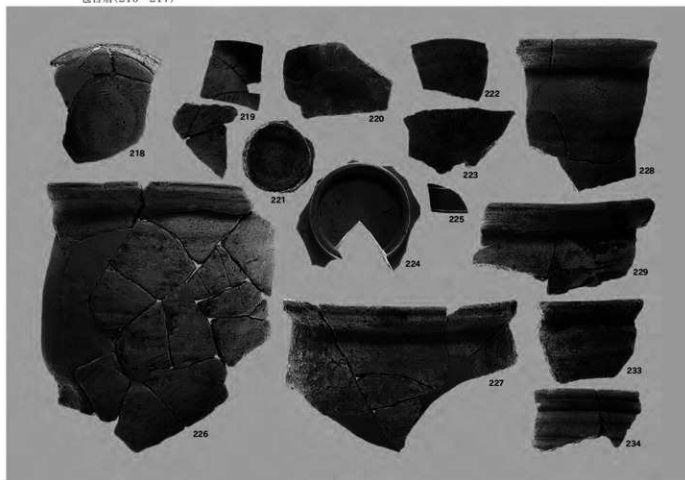
1K SX183(131~136・138) .SD1(139~143) .SD2(144~160) .SD2-b(161~164) .SD25(165・166) .SD4(167・168)



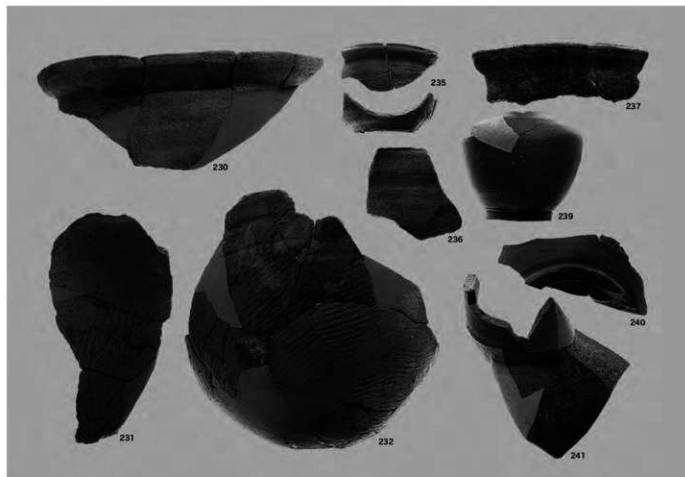
1E S D4(169~173) .SD32(174~180) .SD181(181) .SD90(182) .SD109(183) .SD96(184~187) .Pit46(188) .Pit82(189)
Pit93(190) .Pit99(191) .Pit100(192) .Pit101(193) .Pit184(194~196) .Pit198(197) .Pit199(199) .Pit203(200)



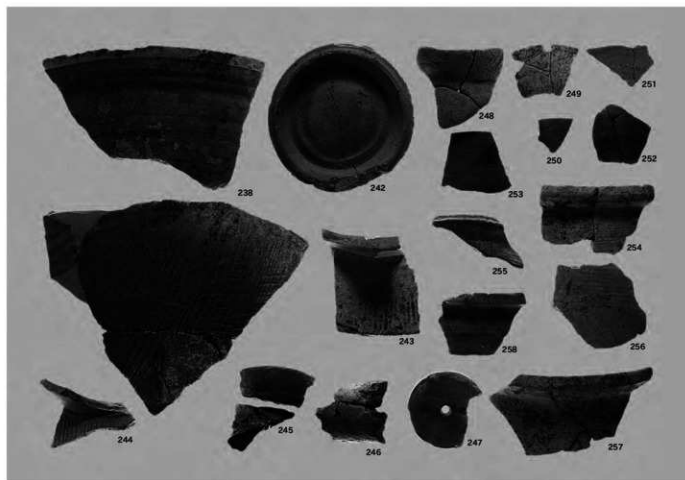
1区Pit198(198)・Pit206(201)・Pit207(202)・Pit210(203~205)・Pit212(206)・Pit216(208・209)
包含層(210~217)



1区包含層(218~229・233・234)



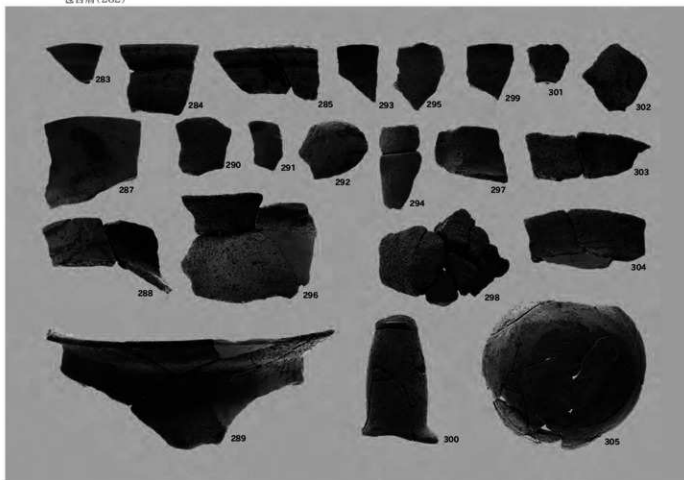
1区包含層(230~232・235~237・239~241)



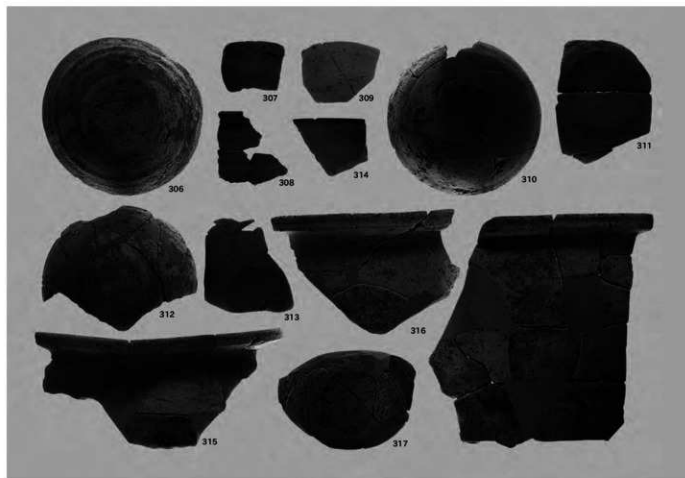
1区包含層(238・242~247)、2区河20(248)、包含層(249~258)



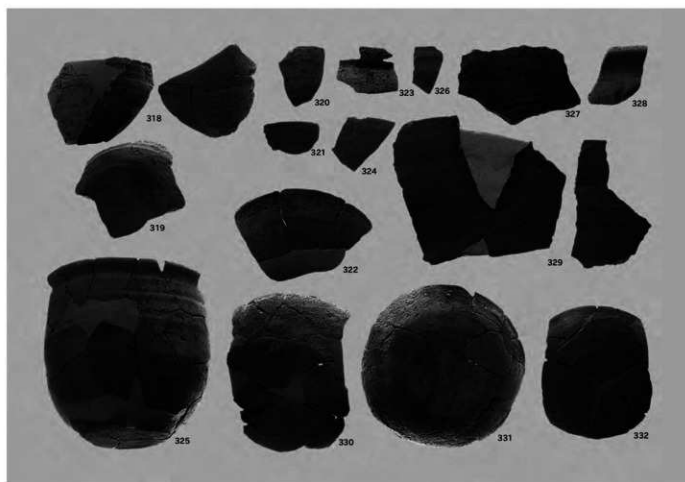
2区包含層(259~263) . 4区包含層(264~266) . 3区SK6(267~278) . SK7(279) . SD12(280) . SD13(281)
包含層(282)



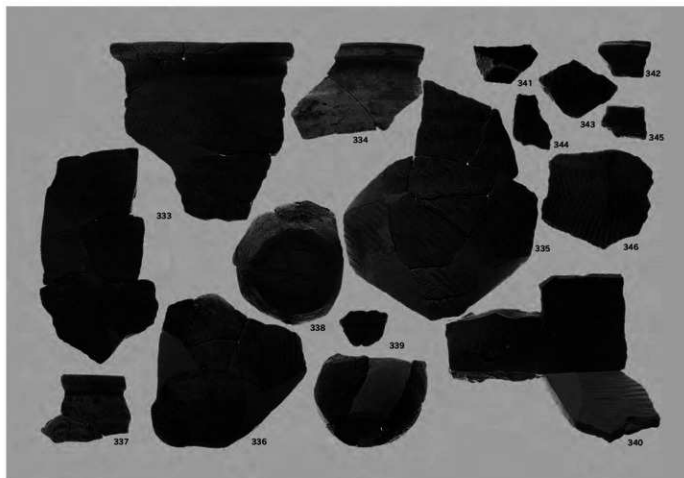
3区包含層(283~285) . 5区SX81(287~291) . SX82(292) . SX80(293) . SD77下層(294~298) . SD78下層(299~302)
SD79下層(303) . 包含層下層(304) . SK23(305)



5区SK23(306)・SK49(307)・SK45(308)・SK41(309~317)



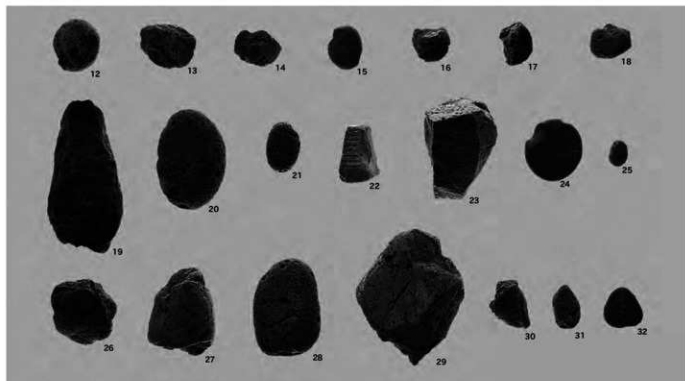
5区SK41(318・319)・SK61(320)・SX39(321)・SD37(322・323)・SD1-a(324・325)・SD1-b(326・327)・SD79(328・329)・包含層上層(330~332)



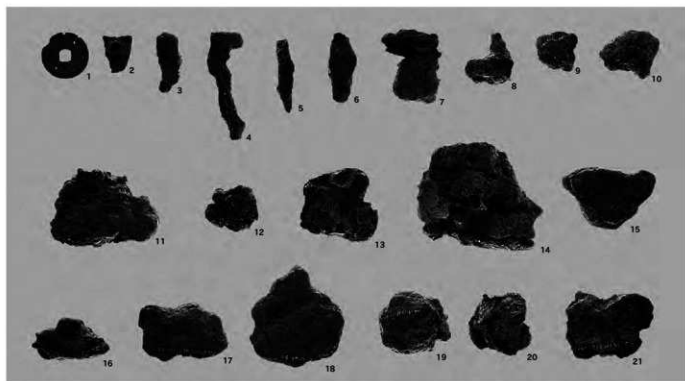
5区包含層上層(333~340)、6区包含層(341~346)



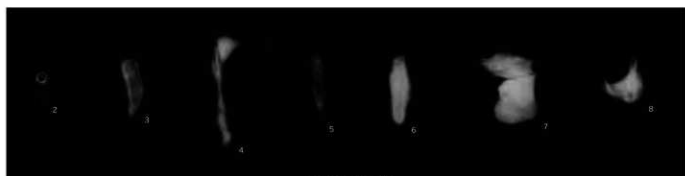
石製品(1)



石製品(2)



銭貨、金属製品、鍛冶関連遺物



金属製品X線写真

報告書抄録

ふりがな	おきのはいせきよん だいじゅうごじょうさ							
書名	沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査							
副書名	一県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書一							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	立木宏明・浮野慶子・八藤後智人・杉山真二・金原正子・金原 明							
編集機関	新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター							
所在地	〒950-3101 新潟県新潟市北区太郎代 2554 番地 TEL. 025-255-2006							
発行年月	西暦 2008 年 12 月 10 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
沖ノ羽遺跡	新潟県新潟市 秋葉区古田ノ内 大野 開 字山王浦 1051 番地他	151050	149	37° 49' 00"	139° 07' 33"	20040615 ～ 20041124	3355.275	圃場整備事業に伴う 本発掘調査
所収遺跡	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
沖ノ羽遺跡	集落遺跡	古墳時代中期 古代(9世紀後半) 中世(14世紀後半)		土坑・溝・性格 不明遺構・小土 坑・竪立柱建物 ・竪状遺構・旧 河道		須恵器・土師器・黒色土器 ・灰軸陶器・緑軸陶器・石 製品・銭貨・金属製品・鐵 冶関連遺物・土製品		
要 約	<p>沖ノ羽遺跡は新潟平野の南東に位置する新津丘陵に近く、東は阿賀野川、西は能代川に囲まれた微高地上に位置し、標高は約4.5mである。本発掘調査の結果、古代（9世紀後半～10世紀前半）と古墳時代の遺構・遺物が検出された。面的な調査区である1・3・5・6区と線的な調査を行った2・4区に分かれる。1区では旧河道近隣の自然堤防上に9世紀後半～10世紀前半の竪建柱建物・土坑・井戸・溝などを持つ集落跡の一部が検出された。古代の土器は土師器・須恵器などの食膳具・貯蔵具が定量出土し、従来の編年案に照らした位置付けを行った。緑軸陶器香か蓋・灰軸陶器有台皿などの特殊遺物も出土している。3区からは竪状遺構がまとまって確認され、古代の畑作の一端が確認された。また、自然科学分析の結果、アブラナ科などの栽培の可能性が考えられている。5区からは上層から古代の包含層と20cm程の間層を挟んで下層から古墳時代中期の包含層が確認された。この結果を含め、今回の調査では「古代のムラ」の実態が明らかになった。</p>							

沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査

一県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書一

2008 年 12 月 9 日印刷

2008 年 12 月 10 日発行

編 集 新潟市埋蔵文化財センター
〒950-3101 新潟県新潟市北区太郎代 2554 番地
TEL. 025 (255) 2006

発 行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟県新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1
TEL. 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社 第一印刷所
〒950-8724 新潟県新潟市中央区和合町 2 丁目 4 番 18 号
TEL. 025 (285) 7161



- 凡例
- 沖ノ羽遺跡範囲
 - 平成3・4年度(1991・1992)調査 Ⅱ地区下層遺構(古墳時代)
 - 平成3・4年度(1991・1992)調査 Ⅲ地区下層遺構(平安時代)
 - 平成17年度(2005)調査 下層(平安時代旧河道)
 - 平成18年度(2006)調査
 - 3・4区の一部と5~7区については調査範囲のみ掲載

附図 沖ノ羽遺跡発掘調査範囲図(1/2,000)